

令和5（2023）年度
中部環境パートナーシップオフィス運営業務
年間報告書

2024年3月

中部環境パートナーシップオフィス
（運営受託：一般社団法人環境創造研究センター）

年間報告書

目 次

業務概要	1
1 業務実施計画の作成	7
2 ESD/EPO 運営委員会の設置・開催	13
3 基本業務	17
(1) 情報の収集・蓄積・発信に関する業務	17
(2) 相談対応・対話の場づくり等	19
(3) 施設の維持・管理	34
4 協働取組の促進のための業務	37
(1) 地域ネットワークを活用した協働取組の推進（地域循環共生圏フォーラムの開催）	37
(2) 遠隔地の協働コーディネーターと連携した実践的取組	40
(3) 活動主体への活動の可視化支援とフィードバック（活動見える化プログラムの活用）	46
(4) 活動主体等への情報・意見交換会の実施	55
(5) ローカル SDGs/地域循環共生圏のためのグループワーキング	56
5 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務	59
(1) 地域プラットフォームの環境整備支援等業務	59
(2) 中間共有会	62
(3) ステークホルダーミーティング業務	64
(4) GEOC が主催する会議等への参加	65
(5) 事業化支援団体の活動の情報共有	65
(6) 卒業団体のフォローアップ調査	66
(7) 身近な自然資本活用に関する意見交換会の開催	68
(8) グリーン社会実現に向けたステークホルダー連携促進事業	72
6 中部地方 ESD 活動支援センター運営業務	83
(1) 中部地方 ESD 活動支援センターの運営・推進	83
(2) ESD 活動に関するネットワークの構築	84
(3) 全国センターとの連携協力の推進等	89
(4) 自然資産等の活用による ESD 促進（ESD ダイアログの開催）	91
(5) 域内外の多様な主体の連携促進、交流機会の提供	95
(6) 「中部版 ESD ワークブック」の作成	104
(7) ESD 推進のための教育現場等の実態把握と連携強化	113
(8) 地域循環共生圏への協力、全国センターとの連携協力	121
7 ESD/EPO の行事を通じた行動の変容の把握	123
(1) 代表的な行事後の行動変容の把握	123
(2) 地域循環共生圏及びローカル SDGs 実践状況等の評価	127
8 関係主体との連携及び協働に関する業務	147
(1) 中部地方環境事務所との情報共有及び意見交換	147
(2) 全国ネットワークの活用及び連携の確保・強化	150
9 外部資金を活用した事業	151
10 第6期業務実施概要報告書／今後に向けて	155

本報告書の集計データ等について

- ※ 本報告書は2024年3月17日までの業務を3月18日時点でとりまとめ、作成した。
- ※ 掲載した令和5（2023）年度の年間合計の集計データ等はすべて、2023年4月1日から2024年3月17日までのデータの集計結果となっている。

業務概要

(ア) 業務の目的

持続可能な社会を構築する上で、国民、民間団体等が行う環境保全活動並びにその促進のための環境保全の意欲の増進及び環境教育が重要であることに加え、これらの取組を効果的に進める上で協働取組が重要となる。

「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」（以下「環境教育等促進法」という。）第19条において、「国は、国民、民間団体等が行う環境保全等を効果的に推進するため、情報提供や助言、交流機会の提供等を行う拠点としての機能を担う体制の整備に努めること」とされており、同法第7条で定める国の方針（以下「促進法基本方針」という。）により、環境省においては、協働取組を構築・促進するための中核的な担い手として「環境パートナーシップオフィス（以下「EPO」という。）」を全国に設置し、事業を実施しているところである。

また、持続可能な社会の創り手を育成するESDの推進のため、文部科学省と環境省が共同で全国ESD活動支援センター（以下「全国センター」という。）と8つの地方ESD活動支援センター（以下「地方ESDセンター」という。）を設置し、第2期ESD国内実施計画に基づくESDの全国的な展開、支援体制の充実等を図るとともに、気候変動を切り口としたESDの取組も進めていくところである。

本業務は、中部地方EPOが環境教育等促進法の規定する国の役割を果たすため、また地方ESDセンターが第2期国内実施計画等を踏まえた役割を果たすため、全国のEPOと地球環境パートナーシッププラザ（以下「GEOC」という。）のネットワーク（以下「EPOネットワーク」という。）を活用するとともに、中部地方の事情を踏まえて各種事業等を企画し、それを実施することにより、市民、NPO/NGO、行政、企業等、社会を構成する様々な主体による協働・連携の取組を広げ、効果的・効率的に環境保全活動、多種多様な環境施策への協力及びESD活動等を活性化させることを目的に実施した。

また、「第5次環境基本計画」（平成30年4月閣議決定）において提唱された、環境・経済・社会の統合的向上を図る「地域循環共生圏」の考え方及び「地域課題を解決し、地域の魅力と質を向上させる地方創生に資する脱炭素」をキーメッセージとして発信している「地域脱炭素ロードマップ」（令和3年6月国・地方脱炭素実現会議決定）の考えに基づき、各地域が自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合う取組を推進し、持続可能な地域づくりを通じて、環境で地方を元気にしていくとともに、持続可能な社会を構築するための創造に取り組むことを目的に実施した。

(イ) 業務の内容

様々な主体による協働・連携の取組を通じた環境保全活動等を活性化するため、市民、NPO/NGO、行政、企業、金融機関等との連携を確保しながら、①環境教育等促進法の拠点としての推進、②環境教育・SDGs/ESDの推進、③地域循環共生圏の創造の推進について、各種業務を行った。また、これらの活動状況等について、Web等を通じて広く発信した。

具体的な事業内容については、次項（2）の運営協議会等において業務実施計画の検討を行った上で、地方環境事務所と協議して決定した。また、当該業務実施報告は、EPO中部のホームページにおいて公表している。

(ウ) 実施業務

第6期（令和3年～5年度まで）EPO 中部においては、以下の点に留意した。

- ① 地域循環共生圏づくりや SDGs 推進の支援にあたり、細やかな個別対応と、他の取組支援等への汎用化
- ② 独自または外部団体の指標ツールを活用するなどして、地域 SDGs 評価機能を構築
- ③ 多様なステークホルダーとの協働のためハブ機能を強化

(1) 業務実施計画（案）の作成

- ・ 事業目標・事業計画、及び業務実施計画の作成・公表
- ・ 定量的な達成目標（インプット・アウトプット）の設定

(2) 運営協議会等の設置・開催

- ・ 「ESD/EPO 運営会議」の設置・開催（オンライン、2 回程度）
- ・ 委員委嘱手続、連絡調整、会場手配・設営、当日の進行、議事録作成、旅費及び謝金の支払い等の事務手続

(3) 基本業務

①情報の収集・蓄積・発信に関する業務

- ア. ホームページの更新及び維持管理（月 2 回程度）
- イ. 収集・整理・蓄積した情報の発信（月 1 回程度）
- ウ. リーフレット等を活用した情報発信

②相談対応・対話の場作り等

- ア. 照会・相談対応、対応状況・内容の記録「相談対応票」（様式自由）の作成
- イ. 対話の体制の構築（地域会合への参加・情報収集、講師依頼への対応）
- ウ. 定例報告（業務日報、施設の運営・利用状況、相談対応票、EPO 中部が関わる審議会・委員会・検討会・会議等一覧（他の団体が主体のもの）等の翌月当初報告）

③施設の維持・管理

- ア. オフィスの防火・防災管理及び開錠・施錠管理
- イ. オフィス内の清掃作業含めた施設・設備の維持管理
- ウ. オフィス運営及び業務実施に必要な機材・消耗品等の確保

(4) 協働取組の促進のための業務

- ①地域ネットワークを活用した協働取組の推進（フォーラム開催：1 回、3 時間、30 名程度）
- ②遠隔地（北陸・信越）の協働コーディネーターと連携した実践的取組の実施（1 事例、2 回程度、各 2 時間程度、30 名程度）
- ③活動主体への活動の可視化支援とフィードバック（2 事例に「活動見える化プログラム」活用）
- ④活動主体等への情報・意見交換会の実施（協働コーディネーターによる情報・意見交換会：1 回、2 時間程度、10 名程度）
- ⑤ローカル SDGs／地域循環共生圏のためのグループワーキング（1 回、3 時間程度、20 名程度）

(5) 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務

①地域プラットフォームの環境整備支援等業務

- ・ 伴走支援（月 1 回以上の採択団体との連絡）、地域循環共生圏づくりに資する情報提供等
- ・ 年度当初に活動（継続）団体の事業目標及び年間計画などについてヒアリング、及びヒアリング結果と支援計画等を GEOC へ提出
- ・ 活動団体採択にかかわる意見照会への対応、制度設計への助言

②中間共有会の開催（管区内（ブロック）別で 1 回程度、2 日程度）

③地域循環共生圏プラットフォームステークホルダーミーティング業務

- ・ 環境整備団体の活動を推進するためのステークホルダーミーティングの後方支援

④GEOC が主催する会議等への参加

- ・ キックオフミーティング（1 回、都内、2 日程度、6 月）
- ・ 作業部会（2 回程度、1 回当たり 3 時間程度、都内）
- ・ 共有会（1 回、3 時間程度、オンライン）
- ・ 共生圏 PF 事業形成会議（1 回、3 時間程度、オンライン）
- ・ 成果共有会及びネットワークングイベント（1 回、都内、2 日程度、3 月）

⑤事業化支援団体の活動の情報共有（事業化支援団体の打合せに年 3 回程度参加）

⑥卒業団体のフォローアップ調査

- ・ 卒業団体のオンラインヒアリングの実施（1 件程度）と GEOC への報告

⑦身近な自然資本の活用に関する意見交換会の開催（年 2 回、30 名程度）

⑧グリーン社会実現に向けたステークホルダー連携促進事業

- ア． 情報交換会やワークショップ等の開催のための支援及び開催運営業務（4 回程度）
- イ． GEOC 開催事業検討会議への参加（1 回程度、3 時間程度）

(6) 地方 ESD 活動支援センター業務

①中部 ESD センターの運営・推進（第 6 期「中部地域 ESD 推進計画」に基づいた施策展開）

②ESD 活動に関するネットワークの構築

ア． ESD 推進ネットワーク地域フォーラムの開催（1 回、半日程度）

- ・ ポスターの電子媒体及び紙媒体での制作、主たるステークホルダーへの送付
- イ． SDGs 学生サミットの開催（オンライン併設、1 回、半日程度、20 名程度）
- ・ 第 5 期作成ツールを活用

ウ． 地域 ESD 拠点等の ESD 活動の支援

- ・ 地域 ESD 拠点等との間で情報共有やイベント協力等の連携、ESD 活動の支援
- ・ ESD 実践者等への情報発信や調整等
- ・ 地域 ESD 拠点の登録手続における全国センターへの情報提供等

③全国 ESD センターとの連携協力の推進等

- ・ 地域 ESD 拠点への年次アンケートの実施支援、全国センター及び各地方 ESD 活動支援センター間での情報交換、情報共有、下記会議への出席
- ・ 作業部会（オンライン、2 回程度、各半日）
- ・ 全国・地方連絡会（オンライン、2 回程度、各半日）
- ・ ESD 推進ネットワーク全国フォーラム（オンライン、1 回、1 日）

④自然資産等の活用による ESD 促進

- ・ 「自然資産を活かした地域・人づくり ESD ダイアログ」の開催（1 回、2 時間程度）
- ・ ジオパーク、世界遺産、世界農業遺産等の自然環境地域の中から選定し、国立公園等と関連づけた内容とする

- ⑤域内外の多様な主体の連携促進、交流の機会の提供
 - ア. 活動計画の作成（テーマ設定、中核実践者・講師等の選定）
 - イ. ノウハウの共有と推進に関する方策の検討
 - ウ. 交流者の参加募集
 - エ. 学び合いの実施：「学び合いの場」（2回）、「SDGs 社会教育研究会 WG」（3回）
 - オ. 実践活動
 - カ. 報告：全国フォーラムでの活動結果の報告
- ⑥「中部版 ESD ワークブック」の公表
- ⑦SDGs へ向けた ESD 推進のための教育現場等の実態把握と連携強化
 - ア. 専門家への包括的ヒアリング（2時間程度、1回、大学教授級1名）
 - イ. 教育部局、教育委員会、現場の教員等へのヒアリング（2時間、2回程度）
 - ウ. 中小企業の経営者等を対象としたヒアリング（2回程度）
- ⑧全国センターとの連携協力の推進等
 - ・第五次環境基本計画において提唱された「地域循環共生圏」を実現する人づくりに考慮し、全国センターと連携協力する

(7) ESD/EPO の行事を通じた行動の変容の把握

- ①行動変容の把握：代表的な主催行事後、参加コアメンバーへの簡易的ヒアリング（電話、メール等）を行い、今年度成果（行動の変容）を取りまとめる（6事例程度）
- ②地域循環共生圏及びローカル SDGs の実践状況等の評価
 - ・地域 SDGs 評価メニュー、プログラム等の情報収集
 - ・評価の試行的実践（2事例程度）

(8) 関係主体との連携及び協働に関する業務

- ①中部地方環境事務所との協働による円滑な運営の確保、密接な情報共有及び意見交換
 - ア. 事務所担当官と業務の責任者による定期的な打合せ（月1回程度）、日々の業務についての月次報告（様式自由）の作成・提出
 - イ. 外部評価委員会に必要な資料の作成等、第6期運営3か年の達成状況の自己評価
 - ウ. 中部地方環境事務所との連携による白書を読む会の企画協力（1回、3時間程度）、周知協力、当日の運営サポートなど
 - エ. 全国ユース環境活動発表大会への参画（1回程度、半日）、審査委員の選定・報告
 - オ. 記者発表を希望する行事がある場合に必要な資料等の作成と事務所担当官への相談
- ②全国の地方 EPO・GEOC・ESD 活動支援センター（全国・地方）のネットワークの活用及び連携
 - ア. 全国事業に関わる業務：パートナーシップタスクフォース（1回）、全国 EPO 連絡会議（3回、都内2回、地方1回）への出席、及び関連会合への出席
 - イ. 地方 EPO ネットワークとの情報交換会：GEOC 主催・持続可能な地域づくりのための情報交換会に参加（1回、都内、2時間程度）

(9) 外部資金を活用した事業

(10) 成果物の提出

- ①四半期報告書の作成・提出
- ②第6期概要報告書の作成・提出
- ③年間報告書、及び概要版の作成・提出

(エ) 業務の実施概要 (2024年3月18日時点)

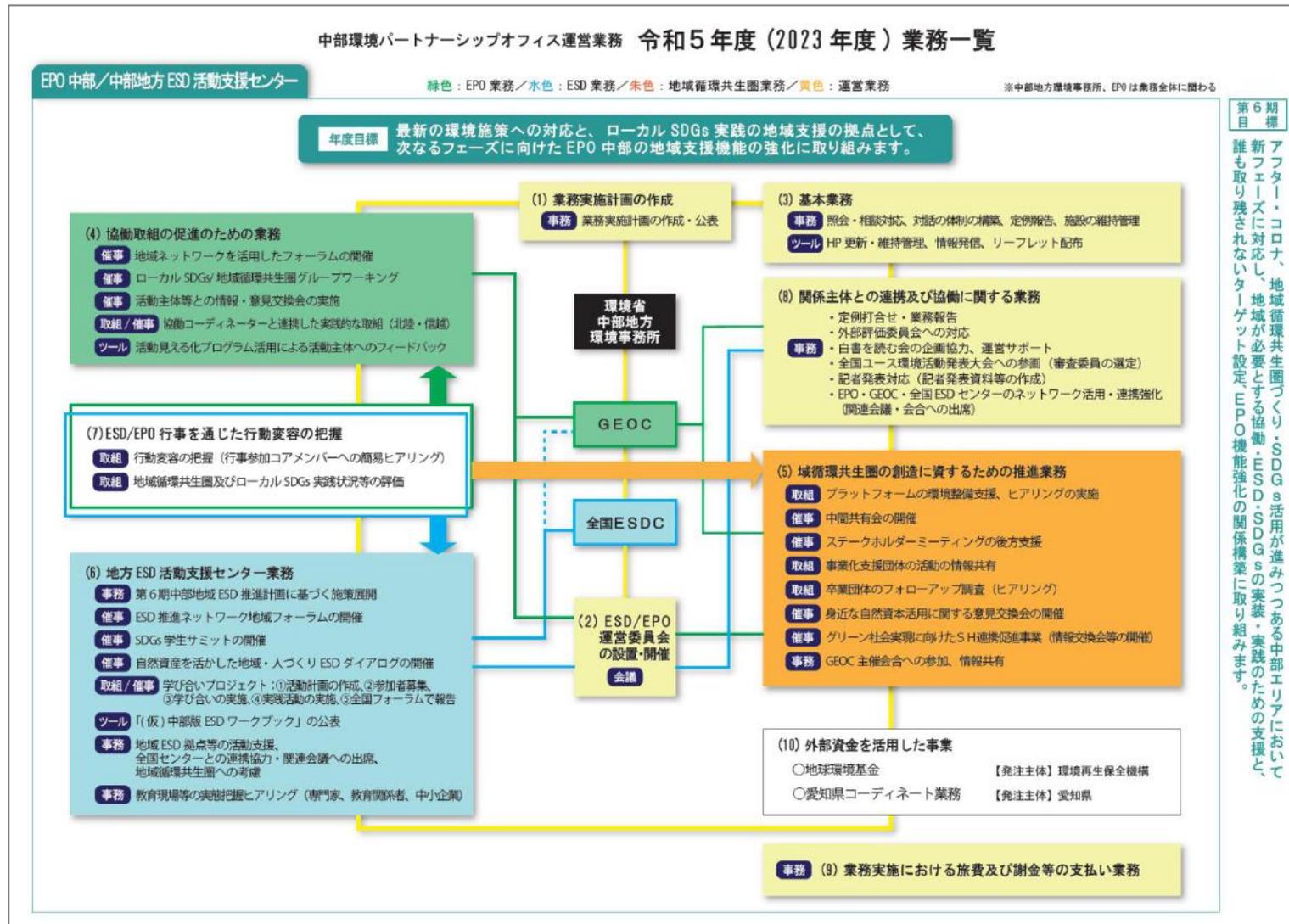
業務項目		実施・開催等の進行状況				
1	業務実施計画の作成	業務実施計画、達成目標の作成・公表	作成済み	→第1回運営委員会に諮問 ウェブサイト掲載		
2	運営会議	ESD/EPO運営委員会の設置・開催【オンライン、2回】	第1回:6/19実施 議事録公開	第2回:2/6実施 議事録公開		
3	基本業務	3-1	ホームページ(EPO/ESD)の更新・維持管理	適宜実施	アクセス数(PV数):EPO:28,179件/ESD:11,249件	
		3-2	収集・整理・蓄積した情報の発信(メールマガジン配信、月1回)	毎月1回以上メルマガ発行		
		3-3	リーフレットの配布	約500部をイベント等で配布・配架	在庫がなくなり、2024年3月に300部増刷	
		3-4	照会・相談対応、対話の体制の構築、施設の維持管理	適宜実施	相談対応38事例/照会・相談対応等の延べ件数239件/電話・メール対応161件/講師招聘24件/業務打合せ:116件	
		3-5	定例報告	月次報告書の提出	来館利用件数:77件/来館者数:150人 事業実施日数:計249日	
4	協働取組の促進のための業務	4-1	地域ネットワークを活用したフォーラム開催【1回(3時間)】	2/16に地域循環共生圏フォーラムを三重県四日市市で開催		
		4-2	北信越の協働コーディネーターとの連携による実践的な取組【2回(各2時間)】	長野県NPOセンター(協働コーディネーター山室氏)と連携	1/13長野市でワールドカフェ実施	2/4長野市芋井地区でローカルSDGsイベント実施
		4-3	活動主体へのフィードバック(活動の見える化プログラムの活用)【2事例】	①長野県NPOセンターの取組チャートを作成、フィードバック	②PF丹南の取組チャートを作成、フィードバック	
		4-4	活動主体等との情報・意見交換会【1回(2時間)】	9/1に協働コーディネーター情報交換会を愛知県名古屋市で実施		
		4-5	ローカルSDGs/地域循環共生圏グループワーキング【1回(3時間)】	11/6にローカルSDGs/地域循環共生圏セミナーを愛知県名古屋市で実施		
5	地域循環共生圏の創造推進業務	5-1	プラットフォーム(PF2団体)支援:ヒアリング、月1回以上の連絡等	PF丹南:4/26にヒアリング実施	PF大町:4/27にヒアリング実施	
		5-2	PF2団体のステークホルダーミーティング開催の後方支援	PF丹南:2/1にミーティング実施支援	PF大町:2/19オンラインイベントのミーティング実施支援	
		5-3	中間報告会【1回(2日間)】	11/9-10に福井県丹南エリアで実施		
		5-4	事業化支援団体の活動の情報共有	①オンライン打合せに同席:5/18、7/11、9/13	②現地打合せに同席:8/28	
		5-5	環境省・GEOC主催会合への参加:キックオフM、作業部会【2回】、共有会、事業形成会議、成果共有会	キックオフM:6/7-8参加/共有会5/16出席	作業部会:①8/4、②2/9予定/事業形成会議:12/8出席	成果共有会:3/7-8 ※EPO中部は3/7出席
		5-6	卒業団体のフォローアップ調査:ヒアリング【1件】	12/15にPF小布施(一般社団法人スマート・テロワール協会)をヒアリング →ヒアリング結果をGEOCへ提出		
		5-7	身近な自然資本の活用に関する意見交換会【2回】	①信州の森フォーラムを12/19開催	②企業の生物多様性勉強会を1/26開催	
		5-8	SH連携促進事業【4回】	①鳥羽会合1/16、②中部カンファレンス2/13、③奥三河会合2/14参加・提案、④知多勉強会3/11実施済み		
		5-9	GEOC主催事業検討会議【1回】への参加	2/29会議に出席		

業務項目		実施・開催等の進行状況				
6	中部地方ESD活動支援センター運営業務	6-1	第6期ESD推進計画に基づく施策	ESD推進計画(昨年度作成)を基に、適宜実施		
	6-2	地域ESD拠点等の活動支援	適宜実施			
	6-3	ESD推進ネットワーク地域フォーラムの開催【1回(半日)】、ポスター作成	9/21にハイブリッド方式(会場:愛知県名古屋)で地域ESD拠点登録団体の会合として実施			
	6-4	SDGs学生サミット【1回(半日)】、チェックリスト等の活用	SDGs活動に取り組む6大学の学生チーム、SDGs未来都市3自治体が登壇する会合を2/10開催			
	6-5	自然資源を活用した地域・人づくりESDダイアログ【1回(2時間)】	11/18-19に長野県伊那市(南アルプスジオパーク)で中部のジオパーク関係者が集う会合を実施			
	6-6-1	交流機会提供:ア)活動計画の作成、イ)ノウハウ共有、ウ)交流者の参加募集	ア)活動計画を作成して社会教育WGに諮問して確定	イ)ノウハウ共有:6-10作業部会に参加・議論	ウ)チラシを作成して広報展開	
	6-6-2	エ)学び合いの実施;学び合いの場【2回】、SDGs社会教育WG【3回】、オ)実践活動、カ)全国フォーラム結果報告	エ)学び合いの場:8/29、9/4開催、研究会:6/14、10/24、11/24実施	オ)実践活動:11/25に愛知県常滑市で実践セミナーを開催	カ)12/9全国フォーラムに参加し、実施結果を報告	
	6-7	「(仮)中部版ESDワークブック」の作成・公表	6-6-2④で協議・検討しつつ作成、完成	印刷、ウェブサイト公開		
	6-8	教育現場の実態把握と連携強化:専門家【1名(2時間)】/教育関係者【2回(各2時間)】/中小企業経営者【2回】	専門家:金沢大学・加藤先生に6/15ヒアリング実施	教育関係者:①高山工業高10/28、②飯田女子高12/1ヒアリング実施	中小企業:①ALSO6/28/②おとうふ石川17/25ヒアリング実施	
	6-9	全国センターとの連携協力(地域循環共生圏への考慮)	適宜実施			
6-10	全国ESDセンターとの連携:作業部会【2回】、全国連絡会【2回】、全国フォーラム【1回】に出席・参加	作業部会:①6/21出席、②11/15出席	全国連絡会:①5/31出席、②1/24出席	全国フォーラム:12/9登壇・参加		
7	行動変容の把握	7-1	行動変容の把握:行事参加者へのヒアリング(3月中旬までに)【6事例】	①SH連携:鳥羽会合、②長野ワールドカフェ、③地域循環共生圏フォーラムin北勢、④ESDダイアログ、⑤実践セミナー、⑥社会教育WGの関係者をヒアリング		
	7-2	SDGs実践状況等の評価【試行2事例】	①長野県NPOセンターの活動評価を作成・フィードバック	②PF丹南の活動評価を作成・フィードバック		
8	関係主体との連携及び協働に関する業務	8-1	事務所担当官と業務の責任者として定期的な打合せ、日々の業務を毎月報告	月1回以上の定例打合せを計13回実施		
	8-2	外部評価委員会への対応	業務報告資料、自己評価シートを作成し、中部地方環境事務所へ提出			
	8-3	白書を読む会の企画、広報、運営サポート協力【1回(3時間)】	7/1開催・白書を読む会を企画・広報展開・運営を実施			
	8-4	全国ユース中部大会に参画【1回】、審査委員の選定	審査委員の選定:杉浦委員を推薦	中部大会:12/10出席		
	8-5	記者発表等報道対応	12/19開催・信州の森・里山フォーラムについて中部地方環境事務所から長野県政記者クラブへリリース			
	8-6	GEOC主催PSTF会合【1回】/全国EPO連絡会議【3回】/情報交換会【1回】への参加・出席	PSTF会合:8/4出席	全国連絡会:①5/30、②10/18-19、③1/23-24出席	情報交換会:12/22出席	
9	業務実施における旅費及び謝金等の支払い業務	適宜実施				
10	外部資金を活用した事業:地球環境基金/愛知県環境学習コーディネイト業務	地球環境基金:10/31説明会実施	相談8件・コーディネイト7件実施			
	成果物の提出:第1~3四半期報告書、第6期概要報告書、年間報告書(及び概要版)	四半期報告書:①7/14、②10/20、③1/26提出済み	第6期概要報告書:12/22提出済み	年間報告書:3/29納品		

1 業務実施計画の作成

ア 作成した令和5年度業務実施計画

①業務概要



②業務スケジュール

			2023年度業務スケジュール案													
仕様書業務項目	業務内容	担当	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
1	業務実施計画の作成	原、富田	作成		運営委員会への提示	修正	公開									
2	運営会議	清本、原、富田、小松	資料作成、開催準備・調整		運営委員会1開催	開催結果とりまとめ					資料作成、開催準備・調整		運営委員会2開催	開催結果とりまとめ→公開		
3	3-1	ホームページ(EPO/ESD)の更新・維持管理	富田、小松	月2回以上の更新を適宜実施												
	3-2	収集・整理・蓄積した情報の発信(メールマガジン配信、月1回)	小松	月1回以上の配信を適宜実施												
	3-3	リーフレットの配布	富田、小松	イベント等で配布												
	3-4	例会・相談対応、対話の体制の構築、施設の維持管理	清本、原、富田、小松	適宜実施し、記録及び報告												
	3-5	定例報告	富田、小松	毎月月初めに報告資料を累計・作成、提出												
4	4-1	地域ネットワークを活用したフォーラム開催【1回(3時間)】	清本、富田	各連携主体にヒアリング ↓ 企画案等を作成	運営委員会に諮る	関係地域・団体との調整、企画・準備		フォーラム開催								
	4-2	北信越の協働コーディネーターとの連携による実践的な取組【2回(各2時間)】	清本、原			連携する協働コーディネーターとの調整		フォーラム開催	バック	関係地域・団体との調整・準備	フォーラム開催					
	4-3	活動主体へのフィードバック(活動の見える化プログラムの活用)【2事例】	原			ヒアリング	見える化チャート作成	フィードバック	WEBへの公開作業							
	4-4	活動主体等との情報・意見交換会【1回(2時間)】	清本、富田			協働コーディネーターとの調整	意見交換会開催									
	4-5	ローカルSDGs/地域循環共生圏グループワーキング【1回(3時間)】	清本、富田			企画案作成	関係者との調整、準備	ワーキング開催								
5	5-1	プラットフォーム(PF2団体)支援:ヒアリング、月1回以上の連絡等	富田	各PFにヒアリング実施	とりまとめ報告	各団体のサポート計画(スケジュール・意向等)に応じて適宜支援					次年度展開の打合せ					
	5-2	PF2団体のステークホルダーミーティング開催の後方支援	富田	実施方法等についてPFと調整		PF2団体それぞれで意見交換会開催										
	5-3	中間報告会【1回(2日間)】	清本、富田	実施日・場所・方法等について関係者と調整		企画案作成	準備	中間報告会の開催								
	5-4	事業化支援団体の活動の情報共有	清本、富田	必要に応じて適宜参加、情報共有												
	5-5	環境省・GEOC主催会合への参加:キックオフM、作業部会【2回】、共有会、事業形成会議、成果共有会	清本、富田	適宜参加												
	5-6	卒業団体のフォローアップ調査:ヒアリング【1件】	富田	運営委員会に諮る		依頼	ヒアリング実施	結果とりまとめ								
	5-7	身近な自然資本の活用に関する意見交換会【2回】	清本、富田	関係主体へのヒアリング・調整等		関係者との協議・調整	企画案作成	準備	意見交換会①の開催	準備	意見交換会②の開催					
	5-8	SH連携促進事業【4回】	清本、富田	各会合の関係者との協議・調整/企画案作成		準備	会合①	会合②	会合③	会合④						
	5-9	GEOC主催事業検討会議【1回】への参加	清本、富田	適宜参加												

全業務の実施結果のとりまとめ/年間報告書の提出

2023年度業務スケジュール案

仕業業務項目	業務内容	担当	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
6 中部地方 ESD活動 支援セン ター運営 業務	6-1 第6期ESD推進計画に基づく施策	原	第6期中部地域ESD推進計画に基づき適宜実施											
	6-2 地域ESD拠点等の活動支援	原、小松	適宜対応											
	6-3 ESD推進ネットワーク地域フォーラムの開催【1回(半日)】、ポスター作成	清本、原、小松	企画案作成			関係機関との調整・準備		フォーラム開催						
	6-4 SDGs学生サミット【1回(半日)】、チェックリスト等の活用	清本、原、小松	企画案作成			関係機関との調整・準備					学生サミット開催			
	6-5 自然資源を活用した地域・人づくりESDダイアログ【1回(2時間)】	清本、原、小松	企画案作成			ジオパーク関係者との調整・準備				ESDダイアログ開催				
	6-6-1 交流機会提供：活動計画の作成、交流者の参加募集、全国フォーラム結果報告	原、小松	①活動計画の作成		運営委員会に諮る	②参加募集					⑤全国フォーラム報告			
	6-6-2 学び合いの実施：学び合いの場【2回】、SDGs社会教育WG【3回】、実践活動	清本、原、小松	関係者との調整		④WG 1		準備	③学び合い 1・2		④WG 2	⑤実践活動	④WG 3		
	6-7 「(仮)中部版ESDワークブック」の作成・公表	原				ワークブック原稿の内容、活用・公開方法の検討		検討			原稿作成	ワークブック公開		
	6-8 教育現場の実態把握と連携強化：専門家【1名(2時間)】/教育関係者【2回(各2時間)】/中小企業経営者【2回】	清本、原				業務関係者の専門家・教育関係者・中小企業等へのヒアリング実施						とりまとめ		
	6-9 全国センターとの連携協力(地域循環共生圏への考慮)	清本、原	適宜実施											
6-10 全国ESDセンターとの連携：作業部会【2回】、全国連絡会【2回】、全国フォーラム【1回】に出席・参加	清本、原	適宜出席・参加												
7 行動変容の把握	7-1 行動変容の把握：行事参加者へのヒアリング(3月中旬までに)【6事例】	清本、原、富田										業務の連携・協力者6団体へのヒアリング、結果とりまとめ		運営委員会2に報告
	7-2 SDGs実践状況等の評価【試行2事例】	原		計画案作成	運営会議1に諮る	2事例で試行的に実施				指標物語チャート作成	WEBへの公開作業			
8 関係主体との連携及び協働に関する業務	8-1 事務所担当官と業務の責任者として定期的な打合せ、日々の業務を毎月報告	清本、原、富田、小松	適宜実施(月1回以上の打合せ、月次報告)											
	8-2 外部評価委員会への対応	原、富田									資料作成等の対応		外部評価委員会	
	8-3 白書を読む会の企画、広報、運営サポート協力【1回(3時間)】	富田	主催者との調整、協力事項確認		主催者側のスケジュール等に応じて適宜実施				白書を読む会開催					
	8-4 全国ユース中部大会に参画【1回】、審査委員の選定	清本					審査委員の推薦					中部大会に参画		
	8-5 記者発表等報道対応	原、富田	適宜実施											
	8-6 GEOC主催PSTF会合【1回】/全国EPO連絡会議【3回】/情報交換会【1回】への参加・出席	清本、富田	適宜参加・出席等対応											
9 業務実施における旅費及び謝金等の支払い業務	小松、小栗	適宜実施												
10 外部資金を活用した事業：地球環境基金/愛知県環境学習コーディネーター業務	清本、小栗、小松、服部	環境再生保全機構、愛知県環境学習プラザと連携して適宜実施												
成果物の提出：第1～3四半期報告書、第6期概要報告書、年間報告書(及び概要版)	原、富田、小松				第1四半期報告書提出				第2四半期報告書提出		第6期概要報告書提出	第3四半期報告書提出	年間報告書提出	

全業務の実施結果のとりまとめ/年間報告書の提出

③定量的な達成目標（インプット・アウトプット）の設定

EPO中部令和5年度事業アウトプット目標等一覧										
仕組業務項目	業務内容(イベント・オンライン活用・併用)	担当	外部関係者との役割	インプット(仕組、計画書)			アウトプット(指標)		アウトカム	
				催事、情報発信	調査、研究、作成、支援	コンテンツ等、情報の発信、記録	数値・システム・知見など	参加者(数)、対象者(数)など	アウトカム指標(アウトプット評価に追加)	アウトカム(予想される成果)
1	業務実施計画の作成	業務実施計画、達成目標の作成・公表	原、富田	・外部有識者：必要に応じて助言	・令和5年度の業務実施計画の作成 ・アウトプット、アウトカム目標、指標の検討	・令和5年度業務実施計画書 ・令和5年度アウトプット・アウトカム目標一覧表	・参加者(数)、対象者(数)など	・担当官、運営委員会等関係者による年度EPO+SDGs計画として内容の十分な認知 ・各指標による評価の実地と説明による、担当官、運営委員等の理解 ・業務に活用された運営委員による有用な意見(議事録) ・業務に運営委員の積極的な参加を得た知見の活用(業務記録)	・令和5年度業務実行計画として事業推進の内容の見え方 ・それぞれの業務についてのアウトプット、アウトカム評価可能性確保	
2	運営会議	ESD/EPO運営委員会の設置・開催【オンライン、2回】	清本、原、富田、小松	・外部有識者：運営委員として議論参加、助言	・ESD/EPO中部運営会議(2回オンライン開催) ・8名程度の運営委員(6~3組編)で構成 ・年1回以上、委員の情報(役職、所属)に変更がないか確認 ・運営委員に業務参加を促すための進捗状況情報も適宜提供	・会議資料、議事録	・各回7名以上の参加	・運営委員より有用な意見をいただく業務への積極的な参加を得ることによる効果的な活動を展開への寄与		
3	3-1	ホームページ(EPO/ESD)の更新・維持管理	富田、小松	・専門業者：相談(管理)問い合わせ等	・HPの更新	・HPのページ更新(月2回以上)	・ページビュー数(昨年度同水準以上)	・更新されたHPに対するご意見(運営委員会委員ご意見など) ・情報発信頻度の維持、拡大 ・コンテンツに対するご意見(運営委員会委員ご意見など)	・HPによるEPO、ESDGの認知の拡大 ・好感度の向上	
	3-2	収集・整理・蓄積した情報の発信(メールマガジン配信、月1回)	小松		・メールマガジンの作成・発行 ・SNSによる情報発信	・メールマガジン(月1回以上) ・SNS記事	・配信回数(昨年度同水準以上)	・好意度の向上、掲載情報利用の拡大		
	3-3	リーフレットの配布	富田、小松	・印刷：外注(必用に応じ)	・リーフレットの配布(印刷は必要に応じ)	・リーフレット(必用に応じて情報更新A4フルカラー・必要部数)	・配布数(昨年度同水準以上)	・リーフレットによるEPO+SDGsの認知の拡大と好感度の向上		
	3-4	照会・相談対応、対話の体制の構築、施策の維持管理	清本、原、富田、小松	・外部の様々な活動団体、活動等参加先	・相談・照会対応と助言、実施内容の記録 ・各種協議会や地域活動等への参加と情報収集、マッチング支援や助言 ・ニーズに応じた講師等派遣 ・(地団体主体の)審議会、委員会、検討会、会議等の参加 ・業務日報等の関連文書の作成と報告	・相談対応票 ・協議会、地域活動、支援等の参加記録 ・講師派遣の記録 ・(地団体主体の)審議会、委員会、検討会、会議等の関係人数 ・業務日報等の文書	・良好な施設空間環境の維持 ・紹介・相談件数 ・資料取集数、参加件数 ・講師等派遣回数、対象人数 ・審議会、委員会、検討会、会議等の関係人数	・全体件数の増加、助言に対する実施への貢献 ・記録件数の増加 ・講師派遣件数、対象人数の増加 ・参加する審議会、委員会、検討会、会議等の情報収集、関係主体への事務所担当官の状況把握と理解による全体業務の円滑な運営	・紹介・相談による環境保全活動等への貢献 ・関連する情報の集積、連携・協働体制の構築、ノウハウの蓄積の推進 ・各種の審議会、委員会、検討会、会議等の情報収集、関係主体への事務所担当官の状況把握と理解による全体業務の円滑な運営	
	3-5	定例報告	富田、小松		・フォーラム(オンライン可、1回、3時間、30名程度)	・開催記録	・参加者30名程度	・参加者の意識(アンケート)、ご意見や感想(ヒヤリング、アンケート)	・参加した関係者の意識向上、認知の拡大、知見の増加	
4	4-1	地域ネットワークを活用したフォーラム開催【1回(3時間)】	清本、富田	・協働コーディネーター、地域関係者との連携	・フォーラム(オンライン可、1回、3時間、30名程度)	・開催記録	・参加者各30名程度 ・参加支援団体等との連携協働実績	・参加した関係者の意識向上、認知の拡大、知見の増加		
	4-2	北信越の協働コーディネーターとの連携による実践的な取組【各2時間】	清本、原	・協働コーディネーター、地域関係者との連携	・実践的な取組(必用に応じてオンライン、2回程度、各2時間程度、30名程度)	・開催記録	・参加者各10名程度	・参加者の意識(アンケート)、ご意見や感想(ヒヤリング、アンケート)	・参加した関係者の意識向上、認知の拡大、知見の増加	
	4-3	活動主体へのファードバック(活動の見え方化プログラムの活用)【2事例】	原	・協働コーディネーター、地域関係者との連携	・活動内容のヒヤリングと活動見える化プログラムの分析	・分析策(2事例) ・分析チャート(2事例)	・参加者の意識、見解	・分析対象主体と関係者の感想、意見	・分析対象主体の取組推進とSDGs貢献の意識の認識の向上	
	4-4	活動主体等との情報・意見交換会【1回(2時間)】	清本、富田	・協働コーディネーターとの連携	・情報・意見交換会(1回、2時間程度、10名程度、状況に応じてオンライン開催)	・開催記録	・参加者各20名程度、手簿者1名参加	・参加者の意識(アンケート)、ご意見や感想(ヒヤリング、アンケート)	・参加した関係者の意識向上、認知の拡大、知見の増加	
	4-5	ローカルSDGs/地域循環共生圏グループワーク【1回(3時間)】	清本、富田	・NPO、基礎自治体、事業者等	・グループワーク(1回、3時間程度、20名程度、講師1名(大学教授)、状況に応じてオンライン開催可)	・開催記録	・参加者各20名程度、手簿者1名参加	・参加者の意識(アンケート)、ご意見や感想(ヒヤリング、アンケート)	・参加した関係者の意識向上、認知の拡大、知見の増加	
5	5-1	プラットフォーム(PF2団体)支援:ヒヤリング、月1回以上の連絡等	富田	・採択団体、過年度採択団体、取組関係者、GEOC	・伴走支援(月1回以上の採択団体との電話やオンライン会議等による連絡、関係者との調整支援、会議室等にかかる助言、人材育成の支援、採択団体がマナラ作成を通じて行う課題整理・協働取組の年次進捗の支援、事業発展のプロセス支援などを実施)の提供 ・登録団体や過年度の採択団体への地域循環共生圏づくりに資する情報提供(活動(継続)団体の事業目標及び年間計画など伴走支援に必要な事項のヒヤリングと計画修正支援、ヒヤリング結果及び全体支援策支援計画等のGEOCへの提出)	・伴走支援の記録(各団体月1回以上) ・登録団体の事業目標及び年間計画等ヒヤリング結果 ・全体支援策支援計画等(GEOC提出)	・環境整備のプロセスにかかる支援(2団体) ・各団体との連絡調整(月1回以上)	・各団体の構成員、担当官、専門家等の関係者のご意見や感想	・各団体の取組意識、取組行動の深化 ・地域循環共生圏の取組に対する適切な伴走支援方法とその効果についての知見の蓄積	
	5-2	PF2団体のステークホルダーミーティング開催の後方支援	富田	・採択団体、取組関係者、GEOC	・各活動団体が行う環境整備を推進するためのステークホルダーミーティングの後方支援	・開催結果を取りまとめGEOCへの報告	・開催記録	・ステークホルダーミーティング開催実績	・参加者の意識、ご意見や感想(アンケート、ヒヤリング)	・地域循環共生圏の取組理解の深化、出口戦略への最適化
	5-3	中間報告会【1回(2日間)】	清本、富田	・採択団体、過年度採択団体、取組関係者、GEOC	・事業化支援団体の打ち合わせに年3回程度参加(原則オンライン開催、日程は全国事務局で指定、1回は現地開催)	・中間共有会(1回程度、2日程程度)	・中間共有会開催記録	・各団体同士の情報共有	・関係者のご意見	・採択団体との情報共有によるネットワーク形成、活動意識の深化
	5-4	事業化支援団体の活動の情報共有	富田	・採択団体、登録団体、過年度採択団体、取組関係者、本省、GEOC	・事業化支援団体の打ち合わせに年3回程度参加(原則オンライン開催、日程は全国事務局で指定、1回は現地開催)	・全国事務局の求めに応じた制度設計への協力	・各団体同士の情報共有	・各会合への職員参加	・関係者のご意見	・採択団体との情報共有によるネットワーク形成、活動意識の深化
	5-5	環境省・GEOC主催会合への参加、キックオフ、作業部会【2回】、共有会、事業形成会議、成果共有会	清本、富田	・採択団体、登録団体、過年度採択団体、取組関係者、本省、GEOC	・GEOCが主催するキックオフミーティング(1回、都内、2日程、6月)、作業部会(2回程度、1回当たり3時間程度、都内)、共有会(1回、3時間程度、オンライン)、共生圏中継事業形成会議(1回、3時間程度、オンラインを想定)、成果共有会及びネットワーキングイベント(1回、都内、2日程、3月)	・GEOCが主催するキックオフミーティング(1回、都内、2日程、6月)、作業部会(2回程度、1回当たり3時間程度、都内)、共有会(1回、3時間程度、オンライン)、共生圏中継事業形成会議(1回、3時間程度、オンラインを想定)、成果共有会及びネットワーキングイベント(1回、都内、2日程、3月)	・参加による情報共有 ・資料作成等支援と意見交換	・各会合への職員参加	・関係者のご意見	・採択団体との情報共有によるネットワーク形成、活動意識の深化
	5-6	卒業団体のフォローアップ調査:ヒヤリング【1件】	富田	・中部EPO管内卒業団体、GEOC	・その後の取組の進捗の把握について、卒業団体のオンラインヒヤリング(1件程度)	・GEOCへのヒヤリング報告書	・GEOCへのヒヤリング報告書	・GEOC等関係者のご意見	・PF事業の効果の共有	
	5-7	身近な自然資本の活用に関する意見交換会【2回】	清本、富田	・地域の自治体、企業、金融機関	・身近な自然資本を活用した地域づくりに関する意見交換会の実施、2回程度、30名程度	・身近な自然資本を活用した地域づくりに関する意見交換会実施報告書	・参加者30名程度(2回)	・参加者の意識、ご意見や感想(アンケート、ヒヤリング)	・身近な自然資本を活用した地域づくりに関する意見交換結果の共有、ネットワークの構築	
	5-8	SH連携促進事業【4回】	清本、富田	・各省地方支部、経済団体、自治体、金融機関等	・情報交換会やワークショップ等の開催のための支援及び開催運営(4回程度、2時間程度)	・GEOCが開催する事業検討会議への参加(都内(オンライン併用)、1回程度、3時間程度)	・情報交換会やワークショップ等開催記録(4回)	・参加者20名程度(4回)	・参加者の意識、ご意見や感想(アンケート、ヒヤリング)	・地域循環共生圏の創出促進のための情報の共有、ネットワークの形成
	5-9	GEOC主催事業検討会議【1回】への参加	清本、富田	・GEOC、関係者	・GEOCが開催する事業検討会議への参加(都内(オンライン併用)、1回程度、3時間程度)	・GEOCが開催する事業検討会議への参加(都内(オンライン併用)、1回程度、3時間程度)	・職員参加(1回)	・職員のご感想、知見	・地域循環共生圏の創出促進のための情報の共有、ネットワークの形成	

EPO中部令和5年度事業アウトプット目標等一覧

仕様業務項目	業務内容(イベント・オンライン活用・併用)	担当	外部関係者とその役割	インプット(仕掛書・計画書)			アウトプット(指標)		アウトカム		備考	
				催事、情報発信	調査、研究、作成、支援	コンテンツ等、情報の発信、記録	設備・システム・知見など	参加者(数)、対象者(数)など	アウトカム指標(アウトプット評価に追加)	アウトカム(予想される成果)		
6	6-1	第6期ESD推進計画に基づく施策	原	・ESD関係者		・相談対応、情報発信(基本業務)・6-2～6-10各事業でのネットワーク構築		・3基本業務、6-2～6-10のアウトプットを含む	・第6期ESD推進計画推進の評価、ESD関係者のネットワーク構築と知見の蓄積			
	6-2	地域ESD拠点等の活動支援	原、小松	・地域ESD拠点関係者	・地域ESD拠点情報交流、ESD拠点登録支援			・ESD拠点登録数 ・3基本業務に含む	・ESD拠点関係者の意見や感想(ヒヤリング)	・中部地方のESDネットワークの拡大		
	6-3	ESD推進ネットワーク地域フォーラムの開催【1回(半日)】、ポスター作成	清本、原、小松	・地域ESD拠点関係者	・ESD推進ネットワーク地域フォーラム開催【1回】	・地域フォーラム開催記録			・ESD拠点関係者の意見や感想(アンケート等)	・地域におけるESD活動の展開やニーズ、普及・啓発の効果的な手法等について参加者同士の共有		
	6-4	SDGs学生サミット【1回(半日)】、チェックリスト等の活用	清本、原、小松	・中部地方大学研究室、地方自治体等	・ESD/SDGs推進ネットワーク地域フォーラム中部学生サミット【1回(半日)】(オンライン)	・活動分析へのSDGsチェックリストの概念活用	・開催記録	・サミット参加30名程度	・参加者の意図等(アンケート)、ご意見や感想(ヒヤリング、アンケート)	・参加した関係者の意図向上、認知の拡大、知見の増加		
	6-5	自然資源を活用した地域・人づくりESDダイアログ【1回(2時間)】	清本、原、小松	・ジオパーク等、環境省地域資源(自然公園等) ・専門家等のゲスト：講演、質疑提供、講義	・「自然資源を活かした地域・人づくりESDダイアログ」の開催【1回】(半日程度)		・ダイアログ開催記録	・参加者20名程度 ・専門家1名(大学准教授)	・参加者の意図(アンケート)、ご意見や感想(ヒヤリング、アンケート)	・参加した関係者の意図向上、認知の拡大、知見の増加		
	6-6	交流機会提供、活動計画の作成、交流者の参加募集、全国フォーラム結果報告	原、小松	・全国ESD活動支援センター、地域ESD活動支援センター、地域ESD拠点								
	6-6-2	学び合いの実施:学び合いの場【2回】、SDGs社会教育WG【3回】、実践活動	清本、原、小松	・全国ESD活動支援センター、地域ESD活動支援センター、地域ESD拠点	・学び合いの場【2回】(オンライン) ・SDGs社会教育WG【3回】 ・実践活動【1回】			・学び合いの場【2回(各1.5時間)】のべ20名 ・SDGs社会教育WG【3回(各2.5時間)】有識者と実務者計4人 ・実践活動【1回(2時間)】20名	・参加者の意図(アンケート)、ご意見や感想(ヒヤリング、アンケート)	・実績のある社会人ESDの情報共有による「ローカルSDGs」のためのESDの社会実装」への貢献		
	6-7	「(仮)中部版ESDワークブック」の作成・公表	原	・有識者によるWG	・SDGs社会教育WG:有識者によるWGディスカッション(6-6-2)	・ワークブック作成のための調査、情報収集 ・実践的な冊子「(仮)中部版ESDワークブック」の作成公表	・現場から学ぶ!SDGs人材育成ワークブック(試行版)を元にした実践的な冊子「(仮)中部版ESDワークブック」コンテンツ	・関連する事例、知見	・ワークブックについての運営委員など関係者のご意見	・ワークブックの活用による社会ESDの促進		
	6-8	教育現場の実態把握と連携強化:専門家【1名(2時間)】/教育関係者【2回(各2時間)】/中小企業経営者【2回】	清本、原	・SDGs、ESDIに詳しい専門家 ・SDGs推進のある教育関係者 ・教育関係者、教育委員会、現場の教員		・専門家への包括的ヒヤリング(オンライン、2時間程度、1回、大学教授級1名想定) ・SDGs推進のあるヒヤリング(オンライン、2時間程度、2回程度) ・経営者等へのヒヤリング(2回程度)	・ヒヤリング結果		・ヒヤリング対象の感想 ・運営委員等の外部評価	・有識者知見の入手 ・ESD/SDGs専門領域との連携強化		
	6-9	全国センターとの連携協力(地域循環共生圏への考慮)	清本、原	・全国ESD活動支援センター、地域ESD活動支援センター		・ESDの考え方をベースに、「地域循環共生圏」の人づくりのための域資源を促進し活用 ・活動状況調査等に対する情報・資料の提供等の協力対応	・関係する情報、資料			・ESD全国センター等ネットワークとの連携		
6-10	全国ESDセンターとの連携、作業部会【2回】、全国連絡会【2回】、全国フォーラム【1回】出席・参加	清本、原	・全国ESD活動支援センター、地域ESD活動支援センター		・全国ESD活動支援センター、地域ESD活動支援センター ・ESD推進ネットワーク全国フォーラム(オンライン、1回、1日)	・参加による記録等の情報共有	・各会合への職員参加	・中部ESD活動支援センター活動に反映させるべき知見	・ESD全国センター等ネットワークや施策動向の把握			
7	7-1	行動実容の把握:行事参加者へのヒヤリング(3月中旬までに)【6事例】	清本、原、富田	・4か6の関係者		・行動実容のためのコメントに対する簡易的ヒヤリング(電話、メール等)	・行動実容のためのコメントに対する簡易的ヒヤリング結果	・行動実容のためのアンケートに対する簡易的ヒヤリング(6事例)	・ヒヤリング結果の分析と解釈	・地域循環共生圏構築行動など持続可能な社会に貢献する行動実容		
	7-2	SDGs実践状況等の評価【試行2事例】	原	・関係する専門家等		・地域SDGs評価メニュー、プログラム等の情報収集と活用 ・月次報告書の作成	・地域SDGs評価メニュー、プログラム等の活用実績		・地域SDGs評価メニュー、プログラム等の活用効果に関する専門家意見 ・関係者の意見			
8	8-1	事務局担当官と業務の責任者として定期的な打合せ、日々の業務を毎月報告	清本、原、富田、小松		・定期的打合せ(月1回以上)		・月次報告書					
	8-2	外部評価委員会への対応	原、富田		・中部地方環境事務所開催会議への出席、資料作成対応 ・第6期運営の3か年の達成状況の自己評価 ・自費を挟む企画、広報、運営サポート協力【1回(3時間)】	・外部評価委員会対応資料 ・第6期運営の3か年の達成状況の自己評価 ・自費を挟む企画運営サポート	・関係者の意見	・関係者の意見	・中部地方環境事務所との協働による円滑な運営 ・EPO中部ESDCに対する適正な評価			
	8-3	白書を読む:金の企画、広報、運営サポート協力【1回(3時間)】	富田									
	8-4	全国ユース大会に参画【1回】、審査委員の選定	清本		・全国ユース大会への参画、審査委員選定			・選定審査委員	・関係者の意見	・中部地方環境事務所との協働による円滑な運営		
	8-5	記者発表等報道対応	原、富田		・プレスリリース資料の作成、実施(必用に応じて)			・プレスリリース(必用に応じて)	・関係者の意見	・EPO中部の認知度の向上		
8-6	GEOC主催PSTF会合【1回】/全国EPO連絡会【3回】/情報交換会【1回】への参加・出席	清本、原、富田	・GEOC:全国EPO連絡会開催 ・協働取組の効果最大化に関する検討を行うパートナーシップタスクフォース(1回、開催場所はGEOCを想定)、全国EPO連絡会(都内2回、地方1回、ハイブリッド開催を想定)への参加、これらの進行管理連絡調整会議への必要に応じて参加 ・持続可能な地域づくりのための情報交換会に参加する。(1回、都内)オンライン				・EPOネットワーク、全国情勢の情報	・各会合への職員参加	・EPO中部に反映させるべき知見	・GEOC、EPOネットワークや施策動向の把握		
9	業務実施における旅費及び借金等の支払い業務	小松、小栗					・支払い記録 ・成果報告書		・会計部署の承認 ・ネットワーク形成	・適正な支出の明確化 ・EPO中部活動への貢献		
10	外部資金を活用した事業:地球環境基金・愛知県環境学習コーディネート業務	清本、小栗、小松、原										
成果物の提出:第1～3回中期報告書、第6期最終報告書、年間報告書(及び概算版)		原、富田、小松			・報告書の作成							

イ 業務実施計画の公表

- 作成した令和5年度業務実施計画については、ESD/EPO 運営委員会（第1回会議）に諮ったうえで、EPO 中部ウェブサイトに掲載、公開した。
- 中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイトについても、EPO 中部ウェブサイトへの直リンク見出し記事を掲載した。

【EPO 中部ウェブサイト】

各期事業計画と各年度の業務実施計画

■ 今期・第6期（2021～2023年度）の計画

2023年度（令和5年度） 業務実施計画	▶PDFファイルで閲覧
2022年度（令和4年度） 業務実施計画	▶PDFファイルで閲覧
2021年度（令和3年度） 業務実施計画	▶PDFファイルで閲覧
第6期3カ年度の事業計画	▶PDFファイルで閲覧

■ 第5期（2018～2020年度）の計画

2020年度 業務実施計画等	▶PDFファイルで閲覧
2019年度 業務実施計画等	▶PDFファイルで閲覧
第5期3カ年度の事業計画と2018年度業務実施計画	▶PDFファイルで閲覧

■ 第4期以前の計画

平成29年度 業務実施計画	▶PDFファイルで閲覧
平成28年度 業務実施計画	▶PDFファイルで閲覧

【中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイト】

センター概要・お知らせ

2023.06.16 お知らせ
中部地方ESD活動支援センターの2023年度業務実施計画
2023年度（令和5年度）の当センター及びEPO中部の業務実施計画を掲載しました。
（※EPO中部ウェブサイトへリンク）

当センターについて

- センター概要
- アクセス・開館時間
- お知らせ
- ESD/EPO運営委員会
- 事業報告
- SDGsチェックリスト
- SDGsワークショップ
- イベント&ニュース
- 表彰・アワード
- 取材レポート

2 ESD/EPO 運営委員会の設置・開催

ア 委員について

- 運営委員は、令和3年度に選定した次表の9名の委員に対し、継続して令和5年度の委員としての委嘱確認を行った。

【委員名簿】

No.	分野等	地域	氏名	所属先	役職
1	学識者／ESD	東海	伊藤 恭彦	名古屋市立大学	副学長
2	学識者／学校教育	北陸	加藤 隆弘	金沢大学大学院教職実践研究科	准教授
3	学識者／地域整備計画	東海	加藤 義人	岐阜大学工学部	客員教授
4	協働コーディネーター	北陸	塚 勇人	一般社団法人環境市民プラットフォームとやま(PECとやま)	常務理事／事務局長
5	企業／福祉	東海	杉浦 真理子	株式会社アクト	代表取締役
6	NPO／地域づくり	東海	田辺 友也	認定NPO法人まちづくりスポット	専務理事
7	自治体	東海	濱田 一多朗	尾鷲市政策調整課	調整監(SEAモデル事業推進担当)
8	企業／環境学習	北陸	水上 聡子	アルマス・バイオコスモス研究所	代表
9	学識者／自然生態系	信州	水谷 瑞希	信州大学教育学部 附属志賀自然教育研究施設	助教

イ 会議の実施

(ア) 第1回会議

①日時

- 2023年6月16日(金) 13:00～16:00

②開催方法

- オンライン会議 (Webex ミーティング)



③出席者

- 運営委員：8名出席 ※加藤隆弘委員が所用により欠席
- 中部地方環境事務所環境対策課：縄野課長補佐
- 事務局 (EPO 中部)：福井理事長、清本事務局長、原、富田、小松

④議事次第

1. ご挨拶 環境省中部地方環境事務所
2. 本委員会設置要領について (変更なし)
3. 令和5 (2023) 年度の EPO 中部運営業務の実実施計画について
4. EPO 業務について
 - (1) EPO 業務事務局案の説明
 - (2) 意見交換
5. ESD 業務について

- (1) ESD 業務事務局案の説明
- (2) 意見交換
- 6. その他／第2回委員会の日程調整等
- 7. 閉会

⑤会議資料

- 資料1：ESD/EPO 運営委員会設置要領
- 資料2：令和5（2023）年度業務実施計画
- 資料3：EPO 業務事務局説明資料
- 資料4：ESD 業務事務局説明資料
- 参考資料1：多様な主体の連携促進、交流機会提供 令和5年度活動計画

（イ）第2回会議

①日時

- 2024年2月6日（火）12：00～15：00

②開催方法

- オンライン（Webex ミーティング）



③出席者

- 運営委員：9名 ※加藤隆弘委員が所用のため14時で退席。
- 環境省中部地方環境事務所環境対策課：曾山課長、縄野課長補佐
- 事務局（EPO 中部）：福井理事長、清本、原、富田、小松

④議事次第

1. ご挨拶 環境省中部地方環境事務所
2. ESD 業務について
 - (1) ESD 業務実施報告資料の説明
 - (2) 意見交換
3. EPO 業務について
 - (1) EPO 業務実施報告資料の説明
 - (2) 意見交換
4. 閉会

⑤会議資料

- 資料1：EPO 業務実施報告資料
- 資料2：ESD 業務実施報告資料
- 参考資料1：ESD ワークブック
- 参考資料2：水谷委員の事前の質問と提言
- 参考資料3：学び合いプロジェクト可視化マトリクス
- 参考資料4：ESD・気候変動教育の推進について
- 参考資料5：第2期 ESD 国内実施計画（概要）

ウ 会議実施結果（議事概要）の公開

- 第1回及び第2回運営委員会の終了後に、会議の議事概要を作成し、各委員に確認した上で、EPO 中部ウェブサイトにて公開した。（中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイトにも EPO 中部ウェブサイトへの直リンク見出しを掲載した。）

【EPO 中部ウェブサイト】

運営委員会の設置

EPO中部は、多様なステークホルダー及び有識者で構成される運営委員会を年2回開催し、ESD/EPO業務についての検討、協議、評価を行っています。

また、運営委員が提案する協働取組や、各地域で実施すべき協働取組を、EPO中部の機能を使って実施するスキームとなっています。

※第5期（2020年度）までは「EPO中部運営会議」「中部地方ESD活動支援センター企画運営会議」をそれぞれ設置していました。

2021年度（令和3年度）ESD/EPO運営委員（氏名五十音順、敬称略）

- 伊藤 恭彦（名古屋市立大学 副学長）【委員長】
- 加藤 隆弘（金沢大学大学院教職実践研究科 准教授）
- 加藤 義人（岐阜大学工学部 客員教授）
- 堺 勇人（一般社団法人環境市民プラットフォームとやま 常務理事/事務局長）
- 杉浦 真理子（株式会社アクト 代表取締役）
- 田辺 友也（認定NPO法人まちづくりスポット 専務理事）
- 瀧田 一多朗（尾鷲市政策調整課 調整監(SEAモデル事業推進担当)）
- 水上 聡子（アルマス・バイオコスモス研究所 代表）
- 水谷 瑞希（信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設 助教）

規約

[第6期 ESD/EPO運営委員会設置要領](#)

第5期（2020年度/令和2年度）以前の規約

議事録

第6期

- 【2023（令和5）年度】
- [2023年度（令和5年度）第2回ESD/EPO運営委員会議事録](#)
- [2023年度（令和5年度）第1回ESD/EPO運営委員会議事録](#)
- 【2022（令和4）年度】
- [2022年度（令和4年度）第2回ESD/EPO運営委員会議事録](#)
- [2022年度（令和4年度）第1回ESD/EPO運営委員会議事録](#)

エ 運営委員との業務における連携（主催イベントへの登壇・参画等）

- 運営委員との連携・協力して開催した主催イベント・会合等は下記の通りである。

項目	主催イベント・会合／実施業務	関係した運営委員
EPO 主催 イベント	9月1日開催 EPO 中部・協働コーディネーター情報交換会	堺委員が協働コーディネーターとして 出席
地域循環共 生圏づくりへ の支援	11月9日開催 中部ブロック中間共有会	加藤義人委員、水上委員が出席
ESD センター 主催イベント	9月21日開催 ESD 推進ネットワーク中部地域フォーラム	加藤隆弘委員が登壇、堺委員が地 域 ESD 拠点登録団体として参加、水 谷委員がコメンテーターとして参加
	11月18-19日開催 ジオパークを活用した ESD ダイアログ	水谷委員が登壇
	2月10日開催 SDGs 学生サミット	伊藤委員長が登壇、堺委員・田辺委 員・水上委員がファシリテーター登壇
ESD 学び合い プロジェクト	8月29日開催・学び合いの場① 9月4日開催・学び合いの場② 11月25日開催・実践活動（実践セミナー） SDGs 社会教育ワーキング（全3回）	堺委員、水上委員が登壇・運営、そ の他企画・開催協力
	「ESD ワークブック」の作成（SDGs 社会教育 ワーキングでの検討）	堺委員、水上委員がワーキング委員 として参画

3 基本業務

(1) 情報の収集・蓄積・発信に関する業務

ア ホームページの更新及び維持管理

(ア) 更新・維持管理状況

- EPO 中部では、環境保全、協働の推進、ESD、SDGs 等に関わる情報を収集・整理・蓄積し、行政機関の動き、公募・助成金情報、イベント情報等の発信を行っている。
- 収集した情報は、EPO 中部及び中部地方ESD活動支援センターの各ウェブサイトにおいて、次表の通り、記事の投稿・掲載・更新を行った。

【EPO 中部 (<http://www.epo-chubu.jp>) 更新実施表】

月	更新回数・計	更新コンテンツ						
		EPO 中部のお知らせ	皆さんのお知らせ	スタッフのあれこれ	EPO 中部とは	EPO 中部がお手伝い	お役立ちツール	その他(メルマガ掲載等)
4月	79	4	71	1	0	1	1	1
5月	70	2	64	1	0	1	1	1
6月	51	3	44	1	1	0	0	2
7月	57	3	52	1	0	0	0	1
8月	36	2	32	1	0	0	0	1
9月	60	5	53	1	0	0	0	1
10月	50	2	46	1	0	0	0	1
11月	45	4	38	1	0	0	0	2
12月	34	5	27	0	0	0	0	2
1月	43	7	32	2	0	0	0	2
2月	56	1	53	1	0	0	0	1
3月	25	2	20	0	1	0	1	1
計	606	40	532	11	2	2	3	16

【中部地方ESD活動支援センター (<http://chubu.esdcenter.jp>) 更新実施表】

月	更新回数・計	更新コンテンツ						
		センター概要	事業報告	イベント&ニュース	取材レポート	コンテンツ紹介	地域ESD拠点トピック	その他
4月	33	0	0	26	0	5	1	1
5月	45	0	0	41	0	3	1	0
6月	29	1	0	25	0	2	0	1
7月	19	0	0	18	0	0	0	1
8月	17	0	0	15	0	0	0	1
9月	28	0	0	25	0	0	3	0
10月	16	1	0	14	0	0	1	0
11月	24	0	0	22	0	1	1	0
12月	24	0	0	20	0	0	1	3
1月	23	0	0	19	0	0	2	2
2月	18	0	0	13	0	0	4	1
3月	9	0	2	5	0	0	1	1
計	285	2	2	244	0	11	15	11

※ いずれも「3月」の数値は3月18日時点で集計を行った。

(イ) ウェブサイトのアクセス数（ページビュー数）

【EPO 中部ウェブサイト】

※ 2020 年度に実施した EPO 中部ウェブサイトのリニューアルの際に、アクセス数の照会元を Google アナリティクスに移行した。（従来の照会元であるサーバー会社によるアクセスレポートが特殊なシステムでページビュー数を集計していたため、一般的なページビュー数を把握できる Google アナリティクス参照に変更した。）

照会元	Google アナリティクス			参考)サーバー会社のアクセスレポート※				
年度	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	
4月	2,440	2,133	3,310	24,015	66,930	59,319	19,311	32,869
5月	2,374	2,197	2,965	16,148	56,664	30,280	18,382	37,951
6月	2,942	1,983	3,574	21,314	61,297	29,150	20,060	27,827
7月	2,324	2,125	2,579	29,566	52,720	34,314	18,763	19,752
8月	1,808	2,387	2,203	25,428	43,742	38,479	17,688	25,807
9月	1,752	1,883	1,923	24,902	43,419	72,087	14,795	34,714
10月	2,029	2,413	4,015	34,750	42,768	75,127	16,176	24,051
11月	2,474	2,873	2,791	48,487	38,630	102,551	16,289	18,034
12月	2,745	2,852	2,271	45,615	35,352	182,209	31,808	23,287
1月	3,077	3,911	2,132	65,535	23,878	107,374	39,694	31,568
2月	3,114	3,075	2,800	65,552	14,677	61,384	21,378	35,860
3月	1,100	3,302	1,622	74,440	21,593	67,883	44,972	23,308
計	28,179	31,134	32,185	475,752	501,670	860,157	279,316	335,028

【中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイト】

照会元	Google アナリティクス						
年度	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017
4月	938	1,057	1,115	1,165	618	595	未開設
5月	997	1,030	1,368	648	828	857	未開設
6月	890	1,026	1,324	1,620	955	1,301	未開設
7月	1,184	1,025	1,272	1,164	832	795	684
8月	1,326	1,331	811	827	1,111	1,144	298
9月	1,149	963	872	797	1,232	818	295
10月	902	775	1,463	1,179	1,192	904	366
11月	997	949	1,240	950	1,064	1,085	325
12月	606	761	1,302	1,420	1,139	879	287
1月	724	623	1,052	1,183	841	841	362
2月	1,034	861	1,025	1,080	1,181	641	1,343
3月	502	337	731	1,099	1,258	752	897
計	11,249	10,948	13,575	13,132	12,251	10,612	4,857

※ いずれも「3月」の数値は3月18日時点のデータで集計を行った。

イ メールマガジンの作成及び発行

- 収集した公募・助成金情報、イベント情報等を整理し、毎月第 2 火曜日発行のメールマガジンに掲載し、次の通り、定期配信を行った。
- なお、発行済みメールマガジンのバックナンバーは、EPO 中部ウェブサイトに掲載しており、閲覧が可能である。<https://www.epo-chubu.jp/mail-magazine>

月	号	発行日	発行部数	記事数・計	掲載記事数				
					冒頭部※	イベント 関連	ツール・コン テンツ	助成金・ 表彰等	その他
4月	166号	4/11	748	24	1	7	5	7	4
5月	167号	5/9	750	30	0	13	5	8	4
6月	168号	6/13	753	36	4	12	3	14	3
7月	169号	7/11	763	30	1	13	2	12	2
8月	170号	8/8	757	35	2	13	0	16	4
9月	171号	9/12	758	31	2	12	3	13	1
10月	172号	10/10	754	31	5	15	2	9	0
11月	173号	11/14	752	29	5	10	2	12	0
12月	174号	12/12	752	31	4	12	3	12	0
1月	175号	1/9	746	24	4	11	2	6	1
2月	176号	2/13	744	27	5	15	1	6	0
3月	177号	3/12	721	25	6	7	2	8	2
計				353	39	140	30	123	21

※「冒頭部」の記事は、中部地方環境事務所及びEPO中部の主催イベント等のお知らせ記事となっている。

ウ リーフレットの配布

- 年度当初に在庫としてあった約 200 部の EPO 中部／中部地方 ESD 活動支援センターのリーフレットを、業務関係者との顔合せ、講師等として招聘されたイベント・会合、ブース出展、相談・照会対等の際に配布したほか、EPO 中部オフィスへの来館者用に配架を行った。（※リーフレットは 2021 年度作成原稿を引き続き使用。）
- 2023 年 8 月に在庫がなくなったことから 300 部を増刷し、さらに 2024 年 2 月末までに在庫が全てなくなり、今年度内に計約 500 部を配布した。また、2024 年 3 月にも 300 部増刷した。

(2) 相談対応・対話の場づくり等

- EPO 中部もしくは中部地方 ESD 活動支援センターへの相談に対し、面談打合せや資料・情報収集、マッチング作業、連絡・調整などの対応を行った。その照会・相談等の案件数は、次表の通りである。

※ 以降の「3月」の件数は、いずれも 3月 18日時点で集計を行った数値である。

【照会・相談・打合せ対応件数】

区分	ア 照会・相談対応						イ 対話の体制の構築		ア+イ 対応件数 総計
	① 相談に対し支援対 応等を行った案件の事 例件数※ ₁	照会・相談対応等の延 べ件数 (左記①案件事例への対 応延べ件数も含む)	※ ₂			③ メール・電話に よる相談(広報依頼 等) 延べ件数※ ₂	(ア) 会議・セミナー等 地域活動への招聘	(イ) その他打合せや地 域主体との意見交換等	
			来館件数 延べ件数	② 相談・照会、 資料配架依頼等	会議利用				
4月	7	22	11	6	5	11	1	7	30
5月	2	17	5	4	1	12	1	14	32
6月	5	16	6	4	2	10	4	10	30
7月	6	22	10	6	4	12	2	12	36
8月	5	31	12	7	5	19	1	12	44
9月	1	18	7	3	4	11	1	9	28
10月	1	26	7	3	4	19	1	11	38
11月	0	20	3	1	2	17	3	5	28
12月	3	25	7	2	5	18	2	10	37
1月	2	15	2	1	1	13	3	14	32
2月	4	22	7	1	6	15	4	10	36
3月	2	5	1	0	1	4	1	0	6
計	38	239	78	38	40	161	24	116	379

※1) 事例件数:最初の連絡から対応終了までの(その間の連絡・打合せ等を含めた)案件ごとにカウントした数となっている。

※2) 延べ件数:同じ案件・用件での来館、メール・電話等であっても、個別に回数をカウントした数となっている。

ア 照会・相談対応

①相談に対し(広報協力以外の)支援対応等を行った案件

- 相談に対して支援対応等を行った案件数・事例数は下記の通りである。

【相談件数の合計、相談方法別件数】

	相談件数・計	相談方法			
		電話	メール	来所	その他
4月	7	3	3	1	0
5月	2	1	0	0	1
6月	5	1	2	1	1
7月	6	1	1	1	3
8月	5	1	1	1	2
9月	1	0	0	1	0
10月	1	0	1	0	0
11月	0	0	0	0	0
12月	3	1	0	1	1
1月	2	0	1	0	1
2月	4	2	1	1	0
3月	2	0	2	0	0
計	38	10	12	7	9

【相談主体別の相談件数】

	相談主体の分類											
	学校・教育機関	大学関係	自治体	その他行政機関	企業	業界団体等	NPO・NGO	協同組合	メディア	その他事業主体	独立行政法人等	その他
4月	0	1	2	1	1	0	2	0	0	0	0	0
5月	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
7月	0	2	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1
8月	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	1
9月	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
10月	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
11月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0
1月	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2	0	0
3月	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0
計	1	5	9	1	7	0	5	0	0	6	0	4

【相談に対し EPO が行った支援内容の件数】

	EPO による支援内容分類									
	SDGs の概説・事例紹介等	講師等人材紹介	教材・ツールの紹介・提供等	環境省事業・EPO 業務の問合せ回答	その他情報の提供	ESD・授業等教育関係の個別対応	イベント・会合ほか事業の企画運営	後援等名義使用	その他	
4月	0	2	0	1	0	1	0	1	2	
5月	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
6月	2	0	1	1	0	1	0	0	0	
7月	1	1	0	0	3	0	1	0	0	
8月	0	1	0	1	0	1	1	0	1	
9月	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
10月	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
11月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
12月	0	0	0	0	0	1	1	0	1	
1月	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
2月	0	0	1	0	2	0	0	0	1	
3月	0	1	0	0	1	0	0	0	0	
計	5	5	2	3	6	5	4	1	7	

【具体の相談内容と EPO による対応内容】

No.	受付日	相談者	相談内容	対応内容	事後報告
1	4月3日	自治体	・座談会に登壇してほしい。	・職員派遣を前提に内容検討のため来所説明を当方より依頼。 ・4/5に来所、内容を協議。6/11PM開催の講座のうち前半座談会への登壇了承。 ・5/11オンライン打合せを実施 ・6/11座談会実施	参加者へのメッセージの依頼があり、300字の原稿を送付した。
2	4月10日	企業	・PF事業の新聞記事作成にあたり、中部の事例について情報交換したい。	・4/10に電話で依頼があり、後日に担当者と日程調整の連絡のやり取りを行った。 ・4/18に意見・情報交換を実施。先方から、作成する新聞記事の掲載紙(2024年2月から4回連載予定)等について教えていただき、EPOからはPF小布施、PF七尾についての取組内容、経緯、担当者・連絡先等に関わる情報提供と、関連資料の提供等を行った。	—
3	4月18日	自治体	・5/31シンポのコーディネーター登壇について打合せしたい。	・4/19来所、他の登壇者等の内容について共有打合せ。 ・5/29当日の進行の打合せ。	—
4	4月18日	大学関係	・7/12に大学院の授業でローカルSDGsの話題提供をしてほしい。	・依頼を了承。詳細は別途打合せ。	—
5	4月20日	NPO・NGO	・複数の地域ESD拠点が共催するイベントの後援依頼をしたいので教えてほしい。	・全国センターの窓口と申請方法についてメール連絡。	—
6	4月21日	その他行政機関	・例年行っている愛知県ユネスコスクール支援会議の委員にお願いしたい。	・対応を了承、委員として参加 ・日程調整の結果6/9に開催決定	—
7	4月24日	NPO・NGO	・昨年度も実施した高校生のインターン受け入れについての依頼。	・4/24に電話で依頼があり、同日にメールで依頼書が送付されてきた。中部地方環境事務所に確認のうえ、受入可能と回答。 ・5/24先方が来館して打合せを行い、実施要項等について協議・確認を行い、受入日程(計4日間)を設定した。 ・7月に受け入れ学生が決定したとの連絡あり。 ・学生たちは、 8/21:一日目にオリエンテーション実施。 8/23:二日目にアサヒ飲料主催のSDGsフォーラムに参加し、取材レポートを作成。 8/29:三日目に学び合い②を聴講、感想レポートを作成。 8/30:四日目にEPOにて内勤し、二日目、三日目のレポート記事を作成。	—
8	5月8日	企業	・SDGsフォーラムへの出展依頼。	・5/8に電話、メールで依頼あり。 ・5/15に来館して打合せ。ブース出展にあわせて、弁論大会講評も追加依頼あり。 ・5/29正式に出展申込を申請。 ・8/23イベント当日、ブース出展、弁論大会講評に対応。高校生インターンによるほかの学生ブース取材等も実施。	—
9	5月25日	自治体	・SDGs評価についての意見交換	・先方からの借用資料の返却に合わせ、意見交換。SDGs指標物語について説明。 ・名古屋市のSDGs事業で、チェックリストや見える化Pを用いて分析を行っているとのことで高評価をいただく。	・ツールの活用事例について共有を希望した結果、様々な事例を受領。 ・公開可との言を頂く。

No.	受付日	相談者	相談内容	対応内容	事後報告
10	6月1日	企業	・企業から、新入社員研修でのSDGs講座等についての実施支援の依頼相談があった。	・3月末にEPO九州を介して紹介があり、先方とオンライン打合せを実施。6/28予定の新入社員研修でのSDGs理解支援の依頼があった。 ・6/11に改めてメール連絡があり、EPOへ来訪されての打合せを設定。 ・6/12打合せの結果、チェックリストを用いた講座を開催することで調整。 ・6/28SDGs講座実施	—
11	6月15日	その他	・全国地球温暖化防止活動推進センター主催の中部ブロック会議でEPO中部の紹介をしてほしい。	・7/7開催のブロック会議の対応を了承。	—
12	6月18日	大学関係	・四日市市での気候変動の講演講師を引き受けていただけないかの依頼あり。	・対応を了承。10/24、11/4を候補日として先方と調整。 ・日程調整がつかず、今回は断念。	—
13	6月22日	その他	・温暖化防止連絡会議で気候変動教育の話題提供をしてほしい。	・対応を了承。	—
14	6月28日	企業	・新入社員研修に使えるSDGsカードゲームはないか。	・金沢工業大学のカードゲーム、無料ダウンロード版を紹介した。	—
15	7月7日	NPO・NGO	・脱炭素チャレンジカップの応募団体を紹介してほしい。	・長野県適応センターのプロジェクトで行った辰野高校の探求学習の事例を紹介した。	—
16	7月10日	その他	・気候変動フォーラムの企画を手伝ってほしい。	・愛知県気候変動適応センターとのコラボレーションフォーラムについて企画を提案。 ・2024年1月11日開催決定。 ・7/26に適応センターとの打合せに参加。ディスカッションのコーディネーター役を行うことを了承。 ・8/23名古屋大学坪木先生訪問、企画内容説明。	—
17	7月16日	大学関係	・EPO中部の取組について紹介してほしい。意見交換をオンラインでお願いしたい。	・対応を了承8/8にオンラインミーティングを設定。 ・オンラインミーティングにて、情報提供、意見交換。	—
18	7月12日	大学関係	・松本大学健康首都会議の環境セッションの企画を手伝って貰えないか。	・里山ウェルネスの事例を紹介し、連絡を仲立ちした。	—
19	7月18日	自治体	・脱炭素の施策検討について相談に乗ってほしい。	・必要に応じて来所いただき情報交換を行うこととした。	—
20	7月26日	企業	・SDGsの取組をなにをやったらよいか相談したい。	・8月1日午後に来所、面談の予定をセット。 ・リース業がシェアリングエコノミーであり、SDGs実現の優位性ポテンシャルがあることを中心に意見交換。 ・企業向けSDGs取組サービスを展開している一般社団法人中部SDGsセンターを紹介。	—
21	8月4日	その他事業主体	・11-12月開催のシルバーカレッジで都市に関わる環境問題についての講演、ワークショップの企画を手伝ってほしい。	・名大名誉教授とEPOスタッフが組んで講演とワークショップ対応する内容で企画を進めることで、先方に提案。 ・8/30先方と電話打合せ、日程調整を進める。 ・日程調整の結果12/8に実施決定。	—

No.	受付日	相談者	相談内容	対応内容	事後報告
22	8月8日	学校・教育機関	・昨年度も実施したSDGs授業の依頼。	・対応を了承、詳細は別途協議。 ・実施日は11/27に決定 ・10/31内容についてオンライン打合せ、プログラムは前年度と同様とするが、クイズは少し高度なものにすることとする。	—
23	8月9日	その他事業主体	・次年度PF事業に応募したいため、情報収集、意見交換などの対応を依頼したい。	・PF事業は今年度でいったん終了するが、後継事業が検討されている旨を情報提供。 ・三重県内での資源循環系テーマでの取組での応募を想定されており、自治体等の具体のSHとも連携済みであるとのこと。 ・相談者がEPO中部・協働コーディネーターであるため、9/1協働コーディネーター情報交換会の場でも中部事務所との意見交換が可能であることをお伝えした。	—
24	8月13日	その他	・令和5年度北陸ESD推進連絡協議会の委員の就任を要請された。	・中部地方ESDC担当が対応。 ・年3回のオンライン会議に出席予定。	—
25	8月31日	NPO・NGO	・地域循環共生圏をテーマにした勉強会を開催したいため、講師を依頼したい。	・8/31に来館して相談があり、関連資料・情報を提供のうえ、EPOスタッフ登壇でお引き受けをした。後日に詳細が決まりしだい、改めて連絡いただけるとのこと。 ・9/19にシンポジウムの開催日(10/28)、チラシ案等が届き、打合せの設定依頼があった。 ・9/22打合せを実施。 ・9/25プロフィール提出依頼あり。 ・9/27登壇骨子の提出の依頼あり。 ・10/23登壇者打合せを実施。 ・10/28シンポジウムに登壇し、地域循環共生圏について概説。 ・11/6質問状への回答依頼の電話・メール。	・10/30に御礼の電話があり、参加者数は少なかったものの、参加者の反応が非常に好評であったとお知らせをいただいた。 ・11/4問答集の回答例作成を依頼され、作成のうえ送付。
26	9月19日	企業	・環境活動への参加を検討しており、企業による参画が可能な活動を紹介してほしい。	・9/19にメールで依頼があり、10/5に詳細についての打合せを設定。 ・10/5来館。愛知県内で協働できるNPO等の活動紹介の依頼、相談をうける。「なごや環境大学」の冊子、NPO出展環境イベント等の関連資料を提供し、まずは気になった活動・団体のイベントにいくつか参加し、その中から社員数十名で参加できそうな活動、及び協働できそうなNPOを探すことを薦めた。また企業のCSR等においてSDGsを標榜する上での注意点などについて意見交換・情報提供を行った。	—
27	10月11日	NPO・NGO	・名古屋市立高針台中学校1年生向け講座講師役を依頼したい	・1学年を7つに分けてSDGsに関する専門家の話を聞くという企画内容で、その一つの行政の部分を担当してほしいとのこと。 ・講師派遣を了承、10/30に来所打合せ。SDGsを身近にする内容のクイズとワークショップを実施することとする。	・11/28講座実施。31人参加。 ・12/6こどもたちのお礼と感想文をメールで受領。
28	12月5日	自治体	・市町村の職員向けに環境学習の推進に関する講座を実施したい。講演とワークショップをお願いできないか。	・対応を了承。日時は2月1日13:30～17:00で調整。 ・協働連携をいかに進めるかをテーマで講演とWSを実施する。 ・作成中のESDワークブックの内容活用を「実施」。	—
29	12月7日	自治体	・1/20開催の学倫IIA(長野県飯田市)のセッションに、中部大学、松本大学と連携している事例発表に参加してほしい。	・対応を了承。連携研究実践事例の内容を共有。 ・12/27実施要領とチラシ受領 ・1/10関係者と当日進行等の内容をオンラインで打合せ ・1/20学輪IIA公開セッションに参加、発表。	—

No.	受付日	相談者	相談内容	対応内容	事後報告
30	12月13日	その他事業主体	・オンラインの公開セミナーでSDGsやESDについて講演を依頼したい。	・対応を了承。12/14にオンラインで打合せ。 ・実施日時は3/117:00～17:30で調整。 ・2/28事前打合せ ・子どもの保護者、教育関係者、一般市民を想定した30分の講演を実施。	—
31	1月12日	自治体	・SDGsまちづくり事業について2月9日(金)成果報告会でEPOのSDGs分析表と使いたい。作成する案について助言いただけませんか。	・対応を了承。分析表作成案送付を待機。 ・1/15に分析チャート案を受領、使い方について特に問題なく、事例として用いたいと返信。 ・事例として用いることに了解いただいた。 ・1/30電話・メールでSDGsまちづくり推進事業報告会のチラシをメール送付いただき、後援名義使用と広報協力の依頼があった。→EPOのwebサイト、Facebook、Instagramに記事を投稿。	・事例として第2回運営委員会参考資料として添付。 ・2/9成果報告会にオンライン参加、活動見える化プログラムの活用報告視聴
32	1月20日	大学関係	・学生が動物園をフィールドとしたSDGsの取組を企画したいがよいアイデアはないか。	・北海道ESDCが気候変動教育を動物で企画する取組をしているので関連情報をヒヤリングする旨回答。 ・1/24ESDC連絡会で北海道C担当にヒヤリング。 ・1/29事例資料を受領。事例資料を提供と同時にオンラインで説明およびアドバイス。	—
33	2月6日	企業	・県の環境学習ポータルサイトへの登録活動・団体を増やしたいため、協力いただきたい。	・2/6来所して業務打合せを行った際に相談あり。 ・対象県内の活動者等へ案内すること、広報協力を行うことなどを回答。	—
34	2月10日	その他事業主体	・越前市立の小学校でESD活動を行っているが、発表の場がないか。	・北陸ESD推進コンソーシアムのHP情報をメールで提供。交流会等もあるので連絡をとってみることを提案。	—
35	2月13日	自治体	・R6年度SDGsまちづくり事業のプロポーザル委員をお願いできないか。	・対応を了承。4月下旬～5月に審査を行うスケジュールで打合せを進める。	—
36	2月21日	その他事業主体	・ESDワークブックをメンバーに配布したいがもらえないか。	・取り急ぎ研究会メンバーに10部ずつ送ることで対応。	—
37	3月6日	自治体	・市の環境審議会の委員へのEPO職員による就任は可能か。	・3/6にメールで連絡あり。引き受け可能であるが、次年度のEPO運営受託に係る企画競争が行われているタイミングであるため、可否についての回答を保留したい旨を返信した。受託等の確定後に再連絡することになった。	—
38	3月11日	その他事業主体	・名古屋市の会員企業からボランティア活動をしたいとの要望があったため、受け入れてくれそうな団体を紹介いただきたい。	・3/11メールで依頼があり、翌3/12に藤前干潟クリーンアップ大作成などの該当するイベント、団体、ボランティア情報提供サイトなどを返信した。	—

②来館による相談・照会、資料配架依頼等

月	件数	相談・問合せ内容
4月	6件	<ul style="list-style-type: none"> ・気候危機をテーマにした座談会への登壇依頼 ・環境省・GEOC との情報交換 ・東北 EPO との情報交換 ・PF 事業関係者との意見交換 ・5/31 シンポジウムのコーディネーター登壇について打合せ ・情報収集
5月	4件	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体の方から後任紹介の挨拶等 ・企業から SDGs フォーラム開催（出展）に関する相談 ・高校生インターン受入の打合せ ・自治体とシンポジウム進行について打合せ
6月	4件	<ul style="list-style-type: none"> ・企業の SDGs 研修について相談 ・同時解決事業採択団体の方と情報交換 ・情報収集 ・挨拶立寄（国立研究開発法人の方）
7月	6件	<ul style="list-style-type: none"> ・JCCCA の方に EPO 紹介、意見交換 ・情報収集（2件） ・自治体から温暖化に関する相談 ・防火対象物定期点検・防災管理点検 ・EPO 中部前任担当者立寄り
8月	7件	<ul style="list-style-type: none"> ・企業から SDGs に関する相談 ・情報収集 ・NPO と高校生インターン受入れの打合せと書類確認 ・高校生インターンシップ受入（2件） ・事務所のインターン大学生の訪問、EPO 紹介等 ・地域循環共生圏についての相談
9月	3件	<ul style="list-style-type: none"> ・新次長によるご挨拶 ・セブン財団と地方 EPO との意見交換 ・情報収集
10月	3件	<ul style="list-style-type: none"> ・企業から環境維持・保全活動に関する相談 ・新次長によるご挨拶 ・NPO から中学校での SDGs 関連授業に関する相談
11月	1件	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集
12月	2件	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体から環境学習に関する研修について相談 ・資料・情報収集
1月	1件	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集
2月	1件	<ul style="list-style-type: none"> ・元協働コーディネーターがご挨拶に立ち寄り
3月	0件	
計	38件	

③メール・電話による相談、問合せ、広報依頼等

月	件数	相談・問合せ内容
4月	11件	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体から気候危機講座の座談会登壇者（職員派遣）について相談のメール ・自治体から環境イベント実行委員会への出席依頼に関する電話及びメール ・教育機関の方から前受託団体スタッフについて問合せの電話 ・NPO 法人から森林ボランティアの募集にかかる広報協力依頼のメール ・PF 事業事例の新聞記事掲載にあたっての情報交換の依頼の電話 ・塾から揖斐川に関する教材（前受託団体作成）について問合せの電話 ・自治体から後援依頼の電話及びメール ・学生から環境関係のフリーペーパー配架依頼についてのメール ・大学から学生団体提案事業にかかるクラウドファンディングについて広報協力依頼のメール ・自治体からユネスコスクール支援事業についての電話 ・NPO 法人から高校生インターン受入について問合せの電話及びメール
5月	12件	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO 法人から助成事業第三者活動評価の依頼に関する問合せのメール ・自治体から環境課題を解決する研究生の募集について広報依頼のメール ・自治体から講座募集の広報協力依頼のメール

月	件数	相談・問合せ内容
		<ul style="list-style-type: none"> ・企業から SDGs イベント開催（出展）に関する協力依頼の電話 ・他 EPO から広報協力依頼のメール ・自治体から SDGs 関連事業についての電話 ・銀行から環境関連基金について団体募集の広報協力依頼のメール ・企業からフォーラム出展申込書類送付のメール ・自治体から生物多様性関連事業についてパンフ設置依頼の電話 ・他 EPO から業務について質問の電話（2件） ・自治体からシンポジウムに関する電話
6月	10件	<ul style="list-style-type: none"> ・企業から SDGs 研修のメール依頼 ・自治体から環境イベント一覧及びカーボンオフセット/温暖化関連の貸出資材について問合せの電話 ・NPO 法人から高校生インターンシップ実施要項についてのメール ・公益社団法人から環境関係の講座及び研修についてメールマガジン掲載依頼のメール ・企業から EPO 訪問について確認の電話 ・他 EPO から支援団体と中部地方高校との連携相談にかかる問合せのメール ・同時解決事業採択団体から来訪について問合せのメール ・企業からフォーラムにかかる広報協力依頼のメール ・主催行事について空席確認の電話 ・企業から出展イベントに関わる問合せの電話
7月	12件	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO 法人から高校生インターン応募者についての電話 ・一般社団法人から催事関係者への連絡調整依頼のメール ・インターンシップの高校生から確認の電話 ・公益社団法人から助成金事業の広報協力依頼のメール ・他地方 EPO から報告書について問合せの電話 ・企業から生物多様性関連事業について広報協力依頼のメール ・GEOC からセブン財団 EPO 訪問についての日程調整連絡 ・SDGs 関連フォーラム出展に関するメール ・公益財団法人からリサイクル活動イベントについてメルマガ掲載依頼のメール ・NPO 法人から助成事業について広報協力依頼のメール ・企業から SDGs 関連事業・連携について相談の電話 ・自治体から生物多様性関連事業等について、web 掲載依頼のメール
8月	19件	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO 法人から web 掲載画像について差替依頼のメール ・企業から SDGs イベント出展に関する資料送付のメール ・一般社団法人から環境省補助事業について周知依頼のメール ・インターン（高校生）からレポート提出に関するメール ・企業から出展する SDGs イベントについて追加広報素材の提供 ・企業からイベント参加者の撮影承諾にかかるメール ・協働コーディネーターが PF 事業について問合せの電話 ・PF 団体からイベントの広報協力依頼のメール ・インターン高校生からレポート提出に関するメール ・企業からイベント登壇者に関する問合せの電話 ・NPO からインターンシップ巡回について連絡のメール ・企業から出展イベント経費にかかる連絡のメール ・PF 七尾から中間共有会についての問合せ電話 ・研究機関から気候変動関連教材の提供と情報提供のメール ・他地方 EPO から依頼事項への対応に対する御礼の電話 ・EPO 訪問についての問合せ電話 ・温暖化についての手紙送付先の問合せ電話 ・ゴミ処理についての問合せ電話 ・PF 七尾から別件取組での後援依頼のメール
9月	11件	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO から EPO 利用の問合せの電話 ・観光事業者から PF 郡上の現状についての問合せの電話 ・環境カウンセラーから講演依頼のメール ・ESD 拠点から催事申込について問合せのメール ・環境カウンセラーから講師依頼に関するメール ・企業から環境維持・保全活動の紹介依頼メール ・他 ESD センターから主催イベントの問合せメール ・主催イベント登壇者からの連絡対応 ・自治体から web 掲載に関する問合せ ・自治体から web 掲載依頼のメール

月	件数	相談・問合せ内容
		・ NPO から EPO 利用予約時間変更の依頼電話
10 月	19 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般社団法人から食品ロス関連イベント広報協力依頼の電話 ・ 環境カウンセラーから登壇依頼シンポジウムのチラシ原稿確認に関するメール、電話 ・ 地域団体から地域循環共生圏 PF の登録制度について問合せの電話 ・ 自治体から主催セミナーについて問合せの電話 ・ 関東 EPO から PF 事業化支援についての問合せ電話 ・ EPO 中国から島根県人材の紹介電話 ・ NPO から中学校での SDGs 授業の依頼電話・メール ・ 関東 EPO から PF 事業化支援についての問合せ電話 ・ 地球環境基金説明会についての問合せ電話 ・ NPO から講師登壇依頼シンポジウムの事前打合せの日程調整メール ・ 環境カウンセラーから依頼している講演に関する件で確認の電話 ・ チラシ配架依頼の電話 ・ 高校から SDGs 関連授業の打合せにかかる電話 ・ 国立研究開発法人から気候変動に係る普及啓発教育ツールについて感想・意見照会のメール ・ 協働コーディネーターから地域循環共生圏催事についての問合せ電話 ・ 環境カウンセラーから依頼講演資料についての問合せ電話 ・ 自治体から掲載ページ修正（チラシ差替）依頼のメール ・ 主催催事について申込者から確認の電話 ・ NPO からシンポジウム登壇の御礼の電話
11 月	17 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境カウンセラーから依頼講演に対する質問対応の依頼電話 ・ 自治体から主催催事について内容確認の電話 ・ 地球環境基金申請に関する電話 ・ 企業から EPO 業務・施設利用等について問合せのメール ・ 自治体から主催催事に関する問合せ等の電話（3 件） ・ 企業から活動内容に関する問合せのメール ・ ESD ダイアログについて参加申込者から問合せ ・ 協働コーディネーターから他コーディネーター連絡先に関する問合せの電話 ・ 行政機関から催事に関する問合せの電話 ・ 公益財団法人から環境助成に関するお知らせのメール ・ 自治体から環境活動催事について広報協力の電話 ・ 教育機関から web サイトのリンク可否等に関する照会のメール ・ 一般の方からクマ出没に関する行政機関の問合せ先についての電話 ・ 行政から環境学習に関する研修について相談の電話 ・ 行政から環境教育の研修について日程調整の電話
12 月	18 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ PF 事業活動団体の関係者から事業についての問合せ電話 ・ 自治体から広報協力依頼のメール ・ 自治体から広報協力依頼の電話 ・ 公益社団法人から助成金募集期間延長について広報協力依頼のメール ・ 塾から SDGs や環境教育をテーマにした講演依頼の電話 ・ 合同会社から講演打合せに関するメール ・ セミナー申込者から参加方法について問合せの電話 ・ セミナー申込者から参加案内、アーカイブ視聴について問合せのメール（6 件） ・ セミナー参加者から忘れ物について問合せのメール ・ 主催セミナーについてアーカイブ録音について問合せのメール ・ 自治体から講師依頼に関する電話 ・ 他の地方 EPO から業務について問合せの電話 ・ ESD 拠点団体催事について広報依頼のメール
1 月	13 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境カウンセラーから地域循環共生圏について問合せのメール ・ 自治体から SDGs 評価分析表の使用にかかる問合せのメール ・ 主催催事（参加申込/配布資料/配信状況等）に関する問合せの電話とメール（8 件） ・ 協働コーディネーターから来年度事業について相談の電話 ・ 催事参加者から受講証明書発行依頼のメール ・ 自治体から催事後援依頼、広報協力依頼のメール
2 月	15 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国連機関から SDGs 関連催事の広報協力依頼のメール ・ プロパンガスのガスの抜き方の問合せ電話 ・ 一般社団から地域循環共生圏事業についての問合せ電話 ・ 一般の方から催事申込に関する電話及びメール（3 件） ・ 自治体から催事申込に関する問合せの電話及びメール（4 件） ・ ESD 拠点からレポート発刊についてのお知らせ

月	件数	相談・問合せ内容
		<ul style="list-style-type: none"> ・自治体から登壇謝金関係書類について問合せの電話 ・NPO 法人から助成事業の情報提供及び広報協力依頼の電話とメール ・教育関係者から SDGs 関連書籍に関する広報のメール ・自治体から事業終了に伴う web 掲載ページの削除依頼についてメール
3月	4件	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体から環境審議会委員就任の依頼に関するメール (2件) ・NPO から助成プロジェクトの周知協力依頼のメール ・公益社団法人からボランティア活動受入先について相談のメール
計	161件	

イ 対話の体制の構築

(ア) 会議・セミナー等地域活動への招聘

- EPO 中部／中部地方 ESD 活動支援センターが自治体・団体等から招聘された会議等は次表の通りである。
- 会議出席のほか、講師としての登壇など、関係主体の依頼に対し適宜対応した。
- これらの会議等への出席を通じて、地域での協働体制の構築及びノウハウの蓄積を行った。なお、開催地域については事務所担当官に報告し、調整を行った。

県区分	開催日	依頼主体等	依頼事業の名称	依頼／対応内容	方法	謝金	
1	愛知	4月14日	名古屋市環境局環境企画部環境企画課	「環境デーなごや」実行委員会	委員	対面	あり
2	愛知	5月31日	名古屋市上下水道局	第11回木曾三川流域連携シンポジウム	パネルディスカッションコーディネーター	対面	あり
3	愛知	6月3日	公益財団法人名古屋産業科学研究所	あいち環境塾	講師	対面	あり
4	愛知	6月9日	愛知県教育委員会	愛知県ユネスコスクール支援会議	委員	対面	あり
5	愛知	6月11日	愛知県生涯学習センター	生涯学習あいち県民講座『どうする？気候危機』	座談会出席	対面	なし
6	愛知	6月28日	ALSO	新入社員SDGs研修	講師、WSファシリテーター	対面	なし
7	愛知	7月7日	全国地球温暖化防止活動センター	令和5年度第1回中部ブロック会議	話題提供講師	その他	なし
8	愛知	7月27日	愛知県地球温暖化防止活動推進センター	地球温暖化対策調整会議	話題提供講師	対面	なし
9	愛知	8月23日	アサヒ飲料株式会社中部北陸本部	SDGs 将来世代創造フォーラム 2023	ブース出展	その他	なし
10	長野	9月2日	信州 ESD 推進コンソーシアム	令和5年度信州 ESD コンソーシアム通常総会	委員	オンライン	なし
11	岐阜	10月28日	岐阜環境カウンセラー協会、たじみ環境フェア実行委員会	地域循環共生圏入門シンポジウム	講師	対面	なし
12	石川	11月13日	北陸 ESD 推進コンソーシアム	第2回北陸 ESD 推進連絡協議会	委員	オンライン	なし
13	愛知	11月27日	誠信高等学校	LT 授業	講師	対面	あり
14	愛知	11月28日	名古屋市立高針台中学校	「SDGs」講座	講師	対面	あり
15	石川	12月2日	北陸 ESD 推進コンソーシアム	2023 年度北陸ユネスコスクール実践交流会	冒頭あいさつ	オンライン	なし
16	愛知	12月8日	愛知県社会福祉協議会	あいちシルバーカレッジ専門コース、環境を考える	講師、WSファシリテーター	対面	あり
17	愛知	1月11日	愛知県地球温暖化防止活動推進センター	気候危機対策交流フォーラム	トークセッションコーディネーター	対面	なし
18	愛知	1月15日	愛知県教育委員会	愛知県ユネスコスクール支援会議	委員	対面	あり
19	長野	1月20日	飯田市企画課大学誘致連携推進室	飯田学 大学公開セッション	報告者	対面	なし
20	愛知	2月9日	名古屋市環境局環境企画課	名古屋市 SDGs まちづくり報告会	視聴参加	オンライン	なし
21	愛知	2月14日	愛知県勤業活動推進課	環境学習市町村職員向け研修	講師、ファシリテーター	対面	あり
22	愛知	2月15日	中部圏 SDGs 広域プラットフォーム	中部圏 SDGs 広域プラットフォーム公開セミナー	現地参加	対面	なし
23	福井	2月24日	坂井市	坂井市まちづくりカレッジ最終回	オンライン参加	オンライン	なし
24	愛知	3月1日	みらい人材ゼミナール合同会社	「SDGsと環境教育を学ぶ」講演会	講師	オンライン	なし

(イ) そのほか打合せや地域主体との意見交換会等の実施

- 業務関係者との打合せ協議は次表の通り実施した。
- また、セミナー・フォーラム等の主催行事を実施する際には、関係自治体や関係団体等を訪問し、意見交換・情報交換を行ったほか、必要に応じ相談対応等も行った。

	県区分	実施日	打合せ主体(担当組織・部署)	方法	実施内容
1	愛知	4月5日	愛知県生涯学習センター	面談	座談会への登壇依頼内容についての打合せ
2	中部	4月7日	中部大学:杉田先生、松本大学:田開先生	面談	ローカルSDGs指標のESD活用の意見交換
3	中部	4月11日	SDGs社会教育研究会WGメンバー	オンライン	今年度の学び合いP構想の共有、第1回研究会開催打合せ
4	愛知	4月19日	名古屋市上下水道局	面談	シンポジウム(5/31)ディスカッションコーディネートの打合せ
5	中部	4月24日	武蔵野大学:白井先生	オンライン	学び合いPオンラインセミナー登壇依頼
6	福井	4月26日	PF丹南(ローカルSDクリエーション)、中部REO	面談	PF事業の打合せ/ヒアリング
7	長野	4月27日	PF大町(荒山林業)、中部REO	面談	PF事業の打合せ/ヒアリング
8	長野	5月10日	PF大町(荒山林業)、アドバイザー委員・長谷川先生	オンライン	大学生のPF事業活動への参加の打合せ
9	愛知	5月10日	中部ESD拠点協議会(RCE)	面談	実践セミナー協力依頼打合せ
10	愛知	5月11日	愛知県生涯学習センター	オンライン	6/11座談会の打合せ
11	長野	5月12日	水谷運営委員	面談	ESDダイアログの打合せ
12	長野	5月12日	長野NPOセンター	面談	信州協働業務の打合せ
13	長野	5月12日	伊那市	面談	ESDダイアログの打合せ
14	愛知	5月15日	アサヒ飲料	面談	展示会出展等の打合せ
15	愛知	5月16日	東海学園大学、中部REO	オンライン	白書を読む会の打合せ
16	石川	5月18日	PF七尾(ななおSDGsスイッチ)	オンライン	PF事業(事業化支援)打合せ
17	愛知	5月24日	NPOアスクネット	面談	高校生インターンシップ受入についての打合せ
18	愛知	5月25日	名古屋環境局環境企画課	面談	SDGs評価についての意見交換
19	愛知	5月26日	中部ESD拠点協議会(RCE)	面談	実践セミナー内容打合せ
20	20	5月29日	東海学園大学、中部REO	オンライン	白書を読む会の打合せ
21	21	5月29日	名古屋市上下水道局	面談	シンポジウム(5/31)ディスカッション進行の打合せ
22	中部	6月1日	SDGs社会教育研究会WGメンバー	オンライン	第1回研究会のワークショップに向けた打合せ
23	愛知	6月2日	名古屋市立大学:伊藤先生、中部REO	オンライン	ESD/EPO運営委員会①座長打合せ
24	愛知	6月5日	RCE中部	面談	実践セミナー打合せ
25	長野	6月13日	里山ウェルネス研究会	面談	同時解決事業のその後の活動について情報共有
26	富山	6月15日	PEOとやま	面談	地域循環共生圏イベント開催可能性の意見交換
27	石川	6月15日	金沢大学加藤先生	面談	ESDヒアリング
28	愛知	6月19日	東海学園大学、中部REO	面談	白書を読む会の会場打合せ
29	愛知	6月23日	RCE中部	面談	実践セミナー打合せ
30	愛知	6月28日	ALSO(物流会社)	面談	ESD・SDGsヒアリング
31	愛知	6月30日	東海学園大学、中部REO	面談	白書を読む会の打合せ、会場準備
32	長野	7月7日	伊那市観光課	オンライン	ESDダイアログ打合せ
33	石川	7月11日	PF七尾(ななおSDGsスイッチ)	オンライン	PF事業(事業化支援)打合せ
34	長野	7月13日	飯田市環境課、企画課、松本大学田開研	面談	ESDダイアログ活動報告登壇依頼、調整
35	福井	7月13日	PF丹南(ローカルSDクリエーション)、中部REO	面談	PF事業の打合せ
36	愛知	7月14日	RCE中部	面談	実践セミナー打合せ
37	愛知	7月18日	岩倉市	面談	温暖化対策の施策に関する情報交換
38	愛知	7月25日	おとうふ工房いしかわ	面談	SDGs・ESDに関するヒアリング
39	愛知	7月26日	農林水産省東海農政局	面談	実践セミナー登壇依頼、打合せ
40	愛知	7月26日	愛知県気候変動適応センター	面談	気候変動フォーラム内容打合せ
41	岐阜	7月26日	岐阜県立高山工業高等学校	オンライン	ヒアリングの依頼
42	愛知	7月28日	鬼崎漁業協同組合	面談	実践セミナー登壇依頼、打合せ
43	愛知	7月28日	愛知県水産試験場(漁業生産研究所)	面談	実践セミナー登壇依頼、打合せ
44	中部	8月3日	中部地方環境事務所自然環境担当官	面談	自然資源活用業務:愛知会合の打合せ
45	その他	8月8日	専修大学	オンライン	EPO中部の取組紹介、意見交換
46	愛知	8月9日	NPOアスクネット	面談	高校生インターンシップ受入生徒についての打合せ
47	その他	8月18日	中部地方環境事務所	面談	自然資本活用:信州会合の打合せ
48	愛知	8月21日	南山高校女子部の生徒2名	面談	インターン内容のオリエンテーション
49	その他	8月22日	PF七尾(ななおSDGsスイッチ)、PF八女	オンライン	PF八女のSHミーティングにオブザーバー参加
50	愛知	8月23日	名古屋大学坪木研究室	面談	愛知県地球温暖化防止センター気候変動フォーラムの打合せ
51	その他	8月27日	日本環境教育学会	面談	学術大会参加(発表)
52	石川	8月28日	PF七尾(ななおSDGsスイッチ)、環境省地域政策課、MURC	面談	PF事業(事業化支援)打合せ
53	その他	8月29日	中部地方環境事務所のインターン大学生	面談	EPOの紹介
54	愛知	8月30日	南山高校女子部の生徒2名	その他	高校生インターンの内勤対応
55	中部	8月31日	中部地方環境事務所脱炭素担当官	オンライン	SH連携業務:愛知建設会合の打合せ
56	福井	9月1日	PF丹南(ローカルSDクリエーション)	面談	PF事業、中間共有会の打合せ
57	愛知	9月6日	RCE中部	面談	実践セミナー打合せ
58	中部	9月6日	ESDフォーラム登壇者	オンライン	ESDフォーラム事前打合せ
59	石川	9月13日	PF七尾(ななおSDGsスイッチ)、環境省地域政策課、MURC	オンライン	PF事業(事業化支援)打合せ
60	愛知	9月19日	北名古屋市環境課	面談	廃棄物広報政策意見交換

	県区分	実施日	打合せ主体(担当組織・部署)	方法	実施内容
61	愛知	9月20日	RCE 中部	面談	実践セミナー打合せ
62	岐阜	9月22日	岐阜環境カウンセラー協議会	オンライン	地域循環共生圏入門シンポジウムの打合せ
63	その他	9月25日	セブンイレブン財団、GEOC、中部 REO	面談	ご挨拶、顔合せ
64	福井	9月26日	有識者会議委員の現地視察	その他	有識者会議委員・飯盛先生による PF 丹南の視察
65	福井	10月2日	PF 丹南(ローカル SD クリエーション)	オンライン	PF 事業、中間共有会の打合せ
66	長野	10月5日	PF 大町(荒山林業)、中部 REO	オンライン	PF 事業、中間共有会の打合せ
67	石川	10月26日	PF 七尾(ななお SDGs スイッチ)、環境省地域政策課、MURC	面談	PF 事業(事業化支援)打合せ
68	岐阜	10月27日	美濃加茂市環境課	面談	SDGs未来都市学生サミット登壇依頼
69	富山	10月27日	南砺市エコビレッジ推進課	面談	SDGs未来都市学生サミット登壇依頼
70	岐阜	10月28日	高山工業高校	面談	教職員ESDヒアリング
71	愛知	10月30日	アスクネット	面談	SDGs授業打合せ
72	愛知	10月31日	誠信高校	オンライン	SDGs授業打合せ
73	長野	10月31日	里山ウェルネス研究会、中部 REO	オンライン	自然資本活用:信州の森会合の登壇者打合せ
74	その他	10月31日	(株)トビムシ、中部 REO	オンライン	自然資本活用:信州の森会合の登壇者打合せ
75	愛知	10月31日	EPOC、中部 REO	オンライン	自然資本活用:企画打合せ
76	その他	11月1日	東急リゾート&ステイ(株)、中部 REO	オンライン	自然資本活用:信州の森会合の登壇者打合せ
77	長野	11月7日	伊那市南アルプスジオパーク協議会事務局	オンライン	ESD ダイアログの打合せ
78	三重	11月20日	ネクストステップ研究会(協働コーディネーター・寺田氏)	面談	地域循環共生圏フォーラム企画の打合せ
79	三重	11月20日	鳥羽市環境課、観光商工課、鳥羽市温泉振興会、伊勢志摩保護官事務所、中部 REO	面談	SH 連携:鳥羽会合の企画打合せ
80	愛知	11月22日	RCE 中部	面談	実践セミナー運営打合せ
81	長野	12月1日	飯田女子高校	面談	教職員ESDヒアリング
82	長野	12月1日	上田市政策企画課	面談	学生サミット登壇依頼
83	愛知	12月5日	愛知県環境活動推進課	面談	ワークショップ依頼の打合せ
84	三重	12月6日	ネクストステップ研究会(協働コーディネーター・寺田氏)	面談	地域循環共生圏フォーラム企画の打合せ
85	中部	12月11日	中部地方環境事務所脱炭素担当官	オンライン	SH 連携:北陸脱炭素セミナー打合せ
86	中部	12月13日	中部地方環境事務所資源循環担当官	面談	SH 連携:サーキュラーエコノミーフォーラム打合せ
87	愛知	12月14日	みらい人材ゼミナール	オンライン	講師派遣に関する打合せ
88	福井	12月15日	PF 丹南(ローカル SD クリエーション)	オンライン	PF 事業 SH ミーティングの打合せ
89	中部	12月26日	中部地方環境事務所脱炭素担当官、福井銀行	オンライン	SH 連携:北陸脱炭素セミナーの会場打合せ
90	中部	12月28日	学生サミットファシリテーター	オンライン	学生サミットディスカッション進行方法打合せ
91	中部	1月5日	学生サミットファシリテーター	オンライン	学生サミットディスカッション進行方法打合せ
92	長野	1月10日	飯田学 大学公開セッション関係者	オンライン	飯田学 大学公開セッション進行打合せ
93	愛知	1月11日	学生サミット参加グループ(中部大学)	オンライン	学生サミット事前会合
94	愛知	1月12日	半田市環境課(知多半島5市5町脱炭素勉強会事務局)、中部地方環境事務所	面談	SH 連携:知多の地域交通×脱炭素勉強会の打合せ
95	三重	1月15日	アマタ(株)、近畿環境事務所、中部事務所	オンライン	地域循環共生圏フォーラム in 北勢の登壇打合せ
96	三重	1月17日	三重県地球温暖化対策課、ネクストステップ研究会	面談	地域循環共生圏フォーラム in 北勢の参加協力依頼打合せ
97	三重	1月17日	四日市市環境政策課、ネクストステップ研究会	面談	地域循環共生圏フォーラム in 北勢の参加協力依頼打合せ
98	三重	1月17日	桑名市グリーン資産創造課、ネクストステップ研究会	面談	地域循環共生圏フォーラム in 北勢の参加協力依頼打合せ
99	その他	1月18日	名古屋市立大学:伊藤先生	オンライン	ESD/EPO 運営委員会②座長打合せ
100	その他	1月18日	学生サミット参加グループ(静岡大学)	オンライン	学生サミット事前会合
101	岐阜	1月19日	学生サミット参加グループ(岐阜大学)	オンライン	学生サミット事前会合
102	中部	1月26日	中部地方環境事務所	面談	SH 連携:中部カンファレンスの打合せ
103	長野	1月29日	学生サミット参加グループ(松本大学)	オンライン	学生サミット事前会合
104	長野	1月30日	学生サミット参加グループ(あいちサステイナ研究所)	オンライン	学生サミット事前会合
105	石川	2月1日	学生サミット参加グループ(金沢星稜大学)	オンライン	学生サミット事前会合
106	その他	2月2日	名古屋銀行協会、中部地方環境事務所	面談	中部カンファレンスの会場確認
107	その他	2月9日	ESD推進ネットワーク	オンライン	環境教育推進法基本方針二かかかるディスカッション
108	長野	2月20日	伊那市観光課エコパーク・ジオパーク推進係	オンライン	ESDダイアログにかかかる行動変容ヒアリング
109	愛知	2月21日	知多乗合(株)、半田市環境課、中部地方環境事務所	面談	SH連携:知多勉強会の登壇者打合せ
110	愛知	2月21日	中部ESD拠点協議会(RCE)	面談	ESDダイアログにかかかる行動変容ヒアリング
111	福井	2月21日	アルマス・バイオコスモス研究所	オンライン	ESDダイアログにかかかる行動変容ヒアリング
112	富山	2月21日	PECとやま	オンライン	ESDダイアログにかかかる行動変容ヒアリング

	県区分	実施日	打合せ主体(担当組織・部署)	方法	実施内容
113	その他	2月22日	地域循環共生圏事業応募3団体、ComodoLabo、中部地方環境事務所	オンライン	次年度地域循環共生圏事業への応募3団体それぞれのヒアリング
114	愛知	2月26日	大同大学・樋口先生、半田市環境課、中部地方環境事務所	面談	SH連携:知多勉強会の登壇者打合せ
115	その他	2月26日	地域循環共生圏事業応募1団体、ComodoLabo、中部地方環境事務所	オンライン	次年度地域循環共生圏事業への応募3団体それぞれのヒアリング
116	愛知	2月28日	みらい人材ゼミナール	面談	3/1講演の事前打合せ

ウ 定例報告

- 前項に整理した EPO 運營業務に関わる業務日報、施設の運営・利用状況、相談対応票、EPO 中部が関わった審議会・委員会・検討会・会議等（他団体主催のもの）について、月次で報告資料を作成、提出を行っている。
- EPO 中部施設の今年度の開館状況、来館件数とメール・電話による問合せ件数等は、次の通りであった。

【施設の運用状況・使用状況等】

	業務実施 日数・計 (日)	開館日数・ 計(日)	来館者数・計(人)		来館件数・計		メール・電話による問 合せ件数(件)		スタッフ体制・計	
			日平均 (人/日)	日平均 (人/日)	日平均 (件/日)	日平均 (人/日)				
4月	20	20	18	0.9	11	0.6	11	0.6	62	3.1
5月	21	20	8	0.4	5	0.3	12	0.6	63	3.0
6月	24	22	8	0.4	6	0.3	10	0.5	70	2.9
7月	21	20	21	1.1	10	0.5	12	0.6	58	2.8
8月	18	18	22	1.2	12	0.7	19	0.9	56	3.1
9月	23	20	14	0.7	7	0.4	11	0.6	71	3.1
10月	22	21	18	0.9	7	0.3	19	0.9	66	3.0
11月	23	20	4	0.2	3	0.2	17	0.9	82	3.6
12月	21	18	14	0.8	6	0.3	18	1.0	60	2.9
1月	21	19	3	0.2	2	0.1	13	0.7	68	3.2
2月	24	19	19	1.0	7	0.4	15	0.8	71	3.0
3月	11	11	1	0.1	1	0.1	4	0.4	35	3.2
計	249	228	150	0.7	77	0.3	161	0.7	762	3.3

【（参考）前年度・2022年度の実績】

	業務実施 日数・計 (日)	開館日数・ 計(日)	来館者数・計(人)		来館件数・計		メール・電話による問 合せ件数(件)		スタッフ体制・計	
			日平均 (人/日)	日平均 (人/日)	日平均 (件/日)	日平均 (人/日)				
4月	21	21	17	0.8	11	0.5	15	0.8	64	3.0
5月	22	19	4	0.2	4	0.2	19	1.0	68	3.1
6月	23	22	12	0.5	8	0.4	19	0.9	73	3.2
7月	23	20	15	0.8	10	0.5	12	0.6	69	3.0
8月	21	18	9	0.5	6	0.3	5	0.3	59	2.8
9月	25	20	4	0.2	2	0.1	19	1.0	65	2.6
10月	20	20	11	0.6	6	0.3	11	0.6	63	3.2
11月	26	20	5	0.3	4	0.2	16	0.8	82	3.2
12月	21	18	17	0.9	8	0.4	16	0.9	61	2.9
1月	22	20	22	1.1	8	0.4	22	1.2	72	3.3
2月	23	20	18	0.9	8	0.4	13	0.7	66	2.9
3月	25	22	8	0.4	6	0.3	39	1.8	74	3.0
計	272	240	142	0.6	81	0.3	206	0.9	816	3.4

(3) 施設の維持・管理

ア オフィスの防火・防災管理及び解錠・施錠管理

- 防火・防災管理については、消防法に則り、EPO 中部の常勤スタッフが 2018 年度に「防火・防災管理者」講習を受講した上で消防計画書等を作成、管轄消防署への届出を行った。
- また、2023 年度（2018 年度の防火・防災管理者講習から 5 年度目）は、防火・防災管理再講習を受講する必要がある年度であったため、2023 年 5 月に名古屋市の防火・防災管理再講習を同スタッフが受講し、防火・防災管理者を継続して務めることになった。
- ビル内全テナントを対象にした防火・防災検査が 7 月 18 日に実施され、ビル管理会社を通して、中部地方環境事務所による記名済みの検査結果書類を 8 月 25 日付で消防署へ提出し、受理された。
- 11 月 17 日に入居ビルの総合防災訓練が実施され、EPO 中部スタッフ 2 名が参加した。
- 日常的な防火・防災対応として、身のまわりの防火・防災に関わるチェックを、定期的に（週 2 回程度）実施しているほか、関係書類等を「防火管理台帳」で保管している。
- また、各種要届出書類等については、中部地方環境事務所へも提示・確認を行っている。

【防火・防災管理点検結果報告書】

<p>別記様式第1 防火対象物点検結果報告書 令和 5 年 8 月 25 日</p> <p>名古屋市中消防署長 殿 管理権原者 住 所 名古屋市中区三の丸2-5-2 中部地方環境事務所 氏 名 総務課長 中島 靖史 電話番号 052-955-2130</p> <p>下記のとおり防火対象物の点検を実施したので、消防法第8条の2の2第1項の規定に基づき報告します。</p> <p>記</p> <table border="1"> <tr> <td>所在地</td> <td colspan="3">名古屋市中区錦二丁目4番3号</td> </tr> <tr> <td>名称</td> <td colspan="3">錦パークビル</td> </tr> <tr> <td>防火対象物の階数</td> <td colspan="3">4階</td> </tr> <tr> <td>重複権原の場合に管理権原に属する部分の名称</td> <td colspan="3">環境省中部環境パートナーシップオフィス</td> </tr> <tr> <td>用途第1</td> <td>事務所</td> <td colspan="2">令別表第一（15項）</td> </tr> <tr> <td>構造・規模</td> <td>耐火造 地上</td> <td>22階 地下</td> <td>4階</td> </tr> <tr> <td></td> <td>床面積</td> <td>3,335.78㎡</td> <td>延べ面積 27,227.54㎡</td> </tr> <tr> <td>点検実施日</td> <td>令和 5 年 7 月 18 日</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>消防法施行規則第4条の2の6第2項の適用</td> <td><input type="checkbox"/> 第1号</td> <td><input type="checkbox"/> 第2号</td> <td><input type="checkbox"/> 第3号</td> </tr> <tr> <td>住所</td> <td colspan="3">名古屋市中区錦二丁目90番地 電話番号 052-589-3249</td> </tr> <tr> <td>点検者</td> <td>氏名</td> <td colspan="2">渡邊 岳成 (能美防災株式会社 中部支社)</td> </tr> <tr> <td>免状</td> <td>講習機関名</td> <td>免状交付年月日</td> <td>免状交付番号</td> </tr> <tr> <td></td> <td>能美防災株式会社</td> <td>平成 30 年 12 月 4 日</td> <td>第 441600203 号</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>有効期限</td> <td>令和 6 年 3 月 31 日</td> </tr> <tr> <td></td> <td>交付欄 #2</td> <td>経過欄 #2</td> <td>備考 #2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>済中予第 号 和 - 5.8.25 名古屋市中消防署長 収受</td> <td>届出第 号 和 - 5.8.25 中消防署長</td> <td></td> </tr> </table> <p>備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。2 ※1欄は、複数権原の場合にあっては管理権原に属する部分の情報を記入すること。3 消防法施行規則第4条の2の6第2項の適用は、適用される規定がある場合、該当する規定の□にレ点を記入すること。4 ※2欄は、記入しないこと。</p>	所在地	名古屋市中区錦二丁目4番3号			名称	錦パークビル			防火対象物の階数	4階			重複権原の場合に管理権原に属する部分の名称	環境省中部環境パートナーシップオフィス			用途第1	事務所	令別表第一（15項）		構造・規模	耐火造 地上	22階 地下	4階		床面積	3,335.78㎡	延べ面積 27,227.54㎡	点検実施日	令和 5 年 7 月 18 日			消防法施行規則第4条の2の6第2項の適用	<input type="checkbox"/> 第1号	<input type="checkbox"/> 第2号	<input type="checkbox"/> 第3号	住所	名古屋市中区錦二丁目90番地 電話番号 052-589-3249			点検者	氏名	渡邊 岳成 (能美防災株式会社 中部支社)		免状	講習機関名	免状交付年月日	免状交付番号		能美防災株式会社	平成 30 年 12 月 4 日	第 441600203 号			有効期限	令和 6 年 3 月 31 日		交付欄 #2	経過欄 #2	備考 #2		済中予第 号 和 - 5.8.25 名古屋市中消防署長 収受	届出第 号 和 - 5.8.25 中消防署長		<p>別記様式第1 防災管理点検結果報告書 令和 5 年 8 月 25 日</p> <p>名古屋市中消防署長 殿 管理権原者 住 所 名古屋市中区三の丸2-5-2 中部地方環境事務所 氏 名 総務課長 中島 靖史 電話番号 052-955-2130</p> <p>下記のとおり防災管理対象物の点検を実施したので、消防法第3条第1項において準用する同法第8条の2の2第1項の規定に基づき報告します。</p> <p>記</p> <table border="1"> <tr> <td>所在地</td> <td colspan="3">名古屋市中区錦二丁目4番3号</td> </tr> <tr> <td>名称</td> <td colspan="3">錦パークビル</td> </tr> <tr> <td>防火対象物の階数</td> <td colspan="3">4階</td> </tr> <tr> <td>重複権原の場合に管理権原に属する部分の名称</td> <td colspan="3">環境省中部環境パートナーシップオフィス</td> </tr> <tr> <td>用途第1</td> <td>事務所</td> <td colspan="2">令別表第一 15項</td> </tr> <tr> <td>構造・規模</td> <td>耐火造 地上</td> <td>22階 地下</td> <td>4階 PH 2階</td> </tr> <tr> <td></td> <td>床面積</td> <td>3,335.78㎡</td> <td>延べ面積 27,227.54㎡</td> </tr> <tr> <td>点検実施日</td> <td>令和 5 年 7 月 18 日</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>住所</td> <td colspan="3">名古屋市中区錦二丁目90番地 電話番号 052-589-3249</td> </tr> <tr> <td>点検者</td> <td>氏名</td> <td colspan="2">渡邊 岳成 (能美防災株式会社 中部支社)</td> </tr> <tr> <td>免状</td> <td>講習機関名</td> <td>免状交付年月日</td> <td>免状交付番号</td> </tr> <tr> <td></td> <td>能美防災株式会社</td> <td>令和 1 年 5 月 14 日</td> <td>第 642101532 号</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>有効期限</td> <td>令和 6 年 3 月 31 日</td> </tr> <tr> <td></td> <td>交付欄 #2</td> <td>経過欄 #2</td> <td>備考 #2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>済中予第 号 和 - 5.8.25 名古屋市中消防署長 収受</td> <td>届出第 号 和 - 5.8.25 中消防署長</td> <td></td> </tr> </table> <p>備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。2 ※1欄は、複数権原の場合にあっては管理権原に属する部分の情報を記入すること。3 ※2欄は、記入しないこと。</p>	所在地	名古屋市中区錦二丁目4番3号			名称	錦パークビル			防火対象物の階数	4階			重複権原の場合に管理権原に属する部分の名称	環境省中部環境パートナーシップオフィス			用途第1	事務所	令別表第一 15項		構造・規模	耐火造 地上	22階 地下	4階 PH 2階		床面積	3,335.78㎡	延べ面積 27,227.54㎡	点検実施日	令和 5 年 7 月 18 日			住所	名古屋市中区錦二丁目90番地 電話番号 052-589-3249			点検者	氏名	渡邊 岳成 (能美防災株式会社 中部支社)		免状	講習機関名	免状交付年月日	免状交付番号		能美防災株式会社	令和 1 年 5 月 14 日	第 642101532 号			有効期限	令和 6 年 3 月 31 日		交付欄 #2	経過欄 #2	備考 #2		済中予第 号 和 - 5.8.25 名古屋市中消防署長 収受	届出第 号 和 - 5.8.25 中消防署長	
所在地	名古屋市中区錦二丁目4番3号																																																																																																																												
名称	錦パークビル																																																																																																																												
防火対象物の階数	4階																																																																																																																												
重複権原の場合に管理権原に属する部分の名称	環境省中部環境パートナーシップオフィス																																																																																																																												
用途第1	事務所	令別表第一（15項）																																																																																																																											
構造・規模	耐火造 地上	22階 地下	4階																																																																																																																										
	床面積	3,335.78㎡	延べ面積 27,227.54㎡																																																																																																																										
点検実施日	令和 5 年 7 月 18 日																																																																																																																												
消防法施行規則第4条の2の6第2項の適用	<input type="checkbox"/> 第1号	<input type="checkbox"/> 第2号	<input type="checkbox"/> 第3号																																																																																																																										
住所	名古屋市中区錦二丁目90番地 電話番号 052-589-3249																																																																																																																												
点検者	氏名	渡邊 岳成 (能美防災株式会社 中部支社)																																																																																																																											
免状	講習機関名	免状交付年月日	免状交付番号																																																																																																																										
	能美防災株式会社	平成 30 年 12 月 4 日	第 441600203 号																																																																																																																										
		有効期限	令和 6 年 3 月 31 日																																																																																																																										
	交付欄 #2	経過欄 #2	備考 #2																																																																																																																										
	済中予第 号 和 - 5.8.25 名古屋市中消防署長 収受	届出第 号 和 - 5.8.25 中消防署長																																																																																																																											
所在地	名古屋市中区錦二丁目4番3号																																																																																																																												
名称	錦パークビル																																																																																																																												
防火対象物の階数	4階																																																																																																																												
重複権原の場合に管理権原に属する部分の名称	環境省中部環境パートナーシップオフィス																																																																																																																												
用途第1	事務所	令別表第一 15項																																																																																																																											
構造・規模	耐火造 地上	22階 地下	4階 PH 2階																																																																																																																										
	床面積	3,335.78㎡	延べ面積 27,227.54㎡																																																																																																																										
点検実施日	令和 5 年 7 月 18 日																																																																																																																												
住所	名古屋市中区錦二丁目90番地 電話番号 052-589-3249																																																																																																																												
点検者	氏名	渡邊 岳成 (能美防災株式会社 中部支社)																																																																																																																											
免状	講習機関名	免状交付年月日	免状交付番号																																																																																																																										
	能美防災株式会社	令和 1 年 5 月 14 日	第 642101532 号																																																																																																																										
		有効期限	令和 6 年 3 月 31 日																																																																																																																										
	交付欄 #2	経過欄 #2	備考 #2																																																																																																																										
	済中予第 号 和 - 5.8.25 名古屋市中消防署長 収受	届出第 号 和 - 5.8.25 中消防署長																																																																																																																											

イ 施設・設備の維持管理

- 来館者が快適に利用できるよう、オフィス内を常に整頓・整理し、施設・設備の維持管理を行った。

ウ オフィスの運営

- オフィスの運営及び業務実施に必要な機材・消耗品等を揃え、その使用料の支払、EPO 中部及び中部地方 ESD センターの HP・メールアドレス・固定 IP の維持管理費用の支払等、維持管理に必要な事務を適宜実施している。
- なお、EPO 中部ウェブサイト、中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイト及びメールアドレス等において利用してきたレンタルサーバー会社、ドメイン管理会社が、2024 年 3 月でサービスを終了することに伴い、2023 年 12 月末にサーバー移行作業、ドメイン移管作業等を行った。

4 協働取組の促進のための業務

(1) 地域ネットワークを活用した協働取組の推進（地域循環共生圏フォーラムの開催）

①イベント名

- 地域循環共生圏フォーラム in HOKUSEI「北勢エリアで“循環”の輪を広げよう！」

②日時

- 2024年2月16日（金）13：30～16：30

③会場

- 四日市市地場産業振興センター じばさん 5階・大研修室（三重県四日市市）

④主催等

- 主催：環境省中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）
- 共催：一般社団法人ネクストステップ研究会

⑤参加者

- 61名（参加者53、登壇者4、事務局4）

⑥プログラム

第1部

○ごあいさつ／地域循環共生圏について

環境省中部地方環境事務所

○講演

「資源循環をきっかけとした互助共助のコミュニティづくり」

アマタ株式会社 地域デザイングループ 地域デザインチーム チームマネージャー

福田 栄二 氏

○地域の取組紹介①

「農業と食とコミュニティの地域循環」

うつべ農園株式会社 会長 上 麻理 氏

○地域の取組紹介②

「市場課題と地域循環を目指して」

北勢公設卸売市場株式会社 業務課長 石黒 誠 氏

○地域の取組紹介③

「家庭から作る小さな循環をつなぐ」

一般社団法人ネクストステップ研究会 代表 寺田 卓二 氏

第2部

○ワークショップ／グループディスカッション

「北勢エリアでつながる“循環”の輪のさらなる拡がりをめざして」

ファシリテーター：EPO 中部

○終わりにあたり

一般社団法人ネクストステップ研究会 福島 典子 氏



⑦開催案内チラシ

地域循環共生圏フォーラム in HOKUSEI

参加無料

北勢エリアで “循環”の輪を広げよう!

三重北勢でもはじまっています!
ゴミも地域課題もいらないものにするのではなく、地域の資源・資本にする取組を、いま少しずつですが進めています。
家庭の中の小さな資源循環を、地域の大きな資源循環の輪へ、みなさんと一緒につなげていきましょう。

2024年2月16日(金) 13:30~16:30

会場：四日市市地場産業振興センター
じばさん 5階・大研修室

会場ウェブサイト：<https://yokkaichi-shinko.com/jibasan/access.html>

四日市市安島1-3 →
近畿四日市駅から徒歩5分



プログラム

第1部 【ごあいさつ】	
地域循環共生圏について	環境省中部地方環境事務所
【講演】	
資源循環をきっかけとした互助共助のコミュニティづくり	
アマタ株式会社 地域デザイングループ 地域デザインチーム チームマネージャー 福田 栄二 氏	
【地域の取組紹介】	
1. 農業と食とコミュニティの地域循環	うつべ農園 会長 上 麻理 氏
2. 市場課題と地域循環を目指して	北勢公設卸売市場株式会社 業務課長 石黒 誠 氏
3. 家庭から作る小さな循環をつなぐ	
	一般社団法人ネクストステップ研究会 代表 寺田 卓二 氏
第2部 【ワークショップ】	
北勢エリアでつながる“循環”の輪のさらなる拡がりをめざして	ファシリテーター：EPO中部
終わりにあたり	一般社団法人ネクストステップ研究会

お申し込みはこちらから!

● **参加申込フォーム**
<https://forms.gle/44qBwXsYCa22ZR526>



● **EPO中部ウェブサイト** から申し込みできます。
<https://www.epo-chubu.jp>





Environmental
Partnership Office Chubu
EPO中部
環境省中部環境パートナーシップオフィス

主 催：環境省中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)
共 催：一般社団法人ネクストステップ研究会

(2) 遠隔地の協働コーディネーターと連携した実践的取組

(※連携した長野県 NPO センターの実施報告書を掲載。)

ア 業務の背景

長野県は平成 30 年 6 月から「SDGs 未来都市」として、SDGs の達成に向けた主な取組をまとめた計画を策定、実行している。令和 5 年度からの新たな 5 年計画では、災害の激甚化や急激な人口減少による担い手不足などの課題を乗り越え「確かな暮らしを守り、信州から豊かな社会を創る」を目指している。これまでに、全国に先駆けて SDGs 推進企業登録制度や信州環境カレッジを立ち上げるなど SDGs に向けアクションする主体の育成等に取り組み、その成果も見えてきている。

引き続き豊かな社会を築く礎として、暮らしを支える「社会的共通資本」を多様な関係者とともに維持・発展させていくとされており、一般市民（地域住民）、企業、NPO、行政などがその垣根を越えて「持続可能な社会・地域づくり」のプレイヤーやコーディネーターになってもらうために、地域における協働取組を促進することが必要になっている。

そのため本年度は、「食育と農による持続可能な地域づくりを考える」と「地域の課題解決と関係人口の創出を考える」をテーマに、2つのワークショップを実施した。

イ ワークショップ1：食育と農による持続可能な地域づくりを考える ワールドカフェ

(ア) 実施概要

①目的

食育活動や農作業体験の提供など「食」と「農」に関連して取り組んでいる団体や個人、農業者、消費者に幅広く参加を呼びかけ、食と農をめぐる抱えている課題や日頃の思いをワールドカフェ形式で参加者が自由に話し合い、課題解決と持続可能な地域づくりに向けた新たな「つながり・共創」を生み出して、信州における協働の取組を促進する機会とする。

②実施日時

2024 年 1 月 13 日（土）10：00～14：00

③実施場所

長野市ふれあい福祉センター（長野県長野市）

④参加者

16 人

⑤協力団体

NPO 法人食育体験教室・コラボ
信州ひらがな料理普及隊 旬食の会



【開催案内チラシ】



食と農、環境は一体。いのちはつながっている。
想いを持つ仲間もつながろう！

食育と農による 持続可能な地域づくりを考える ワールドカフェ

参加無料・募集 40 名
(先着順)

◇日 時 2024 年 1 月 13 日(土)10:00~14:00
途中で昼食休憩をはさみます。持ち寄りは大歓迎！
おすすめのお料理や一品をご提供くださると、とてもうれしいです

◇場 所 長野市ふれあい福祉センター 4階 和室ほか
4の3会議室と料理実習室も使います (長野市大字鶴賀緑町 1714-5)

思いや困りごとなどをお持ちください

食と農をめぐる抱えている課題や思いを、参加者で自由に話し合い、課題解決と持続可能な地域づくりに向けた新たな「つながり・共創」を生み出せたらステキだなと考えています

・なんでも植上がりて困る

・子どもたちの健康と食を守りたい

・自給率が低い日本の食が心配

・耕作放棄地が増え地域が荒れている

・有機学校給食を実現したい

・食品ロスがもったいない

・食と農の将来、地球環境も心配…



写真提供: 吉田口助

無理はお願いませんが、当日お持ちくださるとうれしいもの

1. 食と農への思い、困りごと、課題や話題など
2. みなさんの取組を知らせるチラシやパンフレットなどあれば
3. お昼やおやつにおすすめのお料理や品物など無償でご提供くださるもの

参加のお申し込みは、
二次元コード先の Google フォーム⇒

または電話で、お名前と連絡先の電話番号をご連絡ください。
電話 026-269-0015 (長野県 NPO センター)
<https://forms.glc/T6eelVbU6W4ncYdt9>



【主催】環境省中部環境パートナーシップオフィス/EPO 中部
特定非営利活動法人 長野県 NPO センター
〒381-0034 長野県長野市大字高田 1029-1
電話 026-269-0015 FAX026-269-0016
メール info@npo-nagano.org

お問い合わせ
ご連絡先

【協力】NPO 法人食育体験教室・コラボ/信州ひらがな料理普及隊 旬食の会



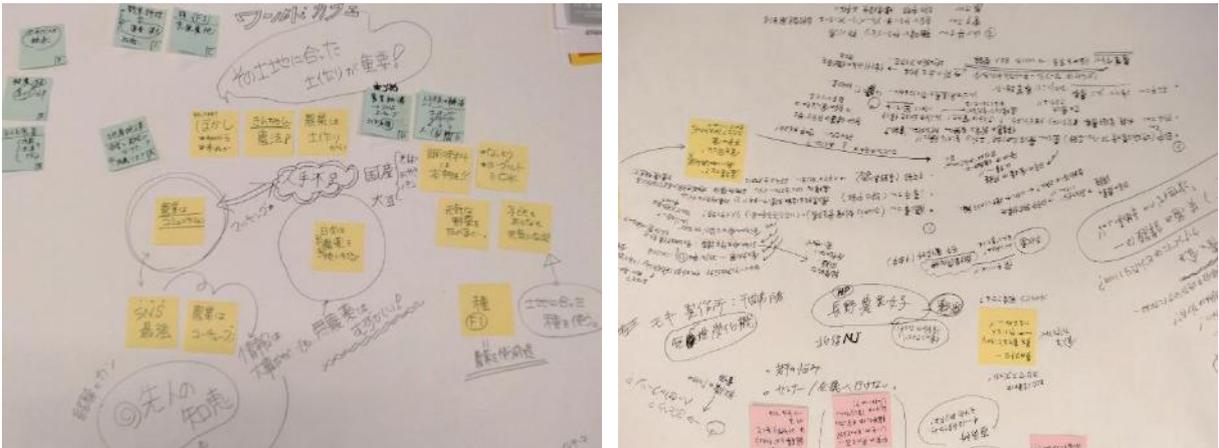
(イ) 実施内容

参加者を4テーブルに分けて、最初のセッションで「自己紹介と食・農の課題や思い」を自由に話し合った。席を変えた2回目のセッションでは「いっしょに考えたい課題や困りごと」をテーマに、「みんなで取り組むなら、これ」という「推し」を決め、3回目のセッションで、推しを実現するためのアイデアと妄想を出しあった。

話の中からは、「つくる人と食べる人をつなげよう」、「長野の食はおいしい。もっと身近で手に入るような仕組みにしよう」など、新たな協働につながるアイデアが出された。



昼食は、参加者が持ち寄ってくださった料理（おやきやニラせんべい、おこわ、煮豆、煮物、漬物、りんごなど）を囲んで、日頃の取組や催しなどを紹介しあった。



(ウ) 参加者の感想

「初めて会う方々と和気あいあいとコミュニケーションができ、とても素晴らしい話し合いだった」「いろいろな人の意見などを聞くことができ、とても勉強になった」「楽しく食と農について話し合うことができた」など、テーマも場の雰囲気も大変好評だった。

また、「若者・学生や男性も交えて語り合いたい」との要望があった。

ウ ワークショップ2：「草刈りバスターズ」は地域のやっかいごとを刈り払えたか！？

(ア) 実施概要

①目的

急激な人口減少が進む中山間地において、豊かな暮らしを維持するための新たな担い手創出の実践として、長野市芋井地区で取り組んでいる「草刈りバスターズ養成事業」などの事例を学び合い、地域の課題解決と関係人口の創出を考える取組の波及を考える機会とする。

②実施日時

2024年2月4日（日）14：00～16：30

③実施場所

長野市ふれあい福祉センター（長野県長野市）

④参加者

18人

⑤事例発表

芋井地区住民自治協議会
長沼ワーク・ライフ組合

(イ) 実施内容

芋井地区住民自治協議会が取り組んでいる「草刈りバスターズ養成事業」と、長沼ワーク・ライフ組合が取り組んでいる「草刈りで地域のつながりを作る」取組事例を聞き、2つのグループに分かれて最初に「地域にある『やっかいごと』と課題」などを自由に出し合った。

出された課題を、解決のため1番に必要なと思われる「資金」「設備」「人手」「制度」などに区分けし、特に人手や人材確保に関して具体的な解決策を探ったところ、地域住民を巻き込んだ楽しいイベントを企画して参加意識を高める工夫や、モニターを募集した体験ツアーで地域外から人を集めるアイデアなどが出された。



【開催案内チラシ】

Environmental Partnership Office Chubu
EPO中部 環境省 中部環境パートナーシップオフィス

EPO 中部「信州地域における協働取組の促進のためのワークショップ」



「草刈りバスターズ」は 地域のやっかいごとを 刈り払えたか!?



◇日 時 2024年2月4日(日)14:00~16:30

◇場 所 長野市ふれあい福祉センター 5階ホール

○参加無料

○要事前申し込み
(先着40名)



人口減少と高齢化が進む中山間地域を維持していくことは難しい。「SDGs未来都市」である長野県がめざしている「確かな暮らしを守り、信州から豊かな社会を創る」ために必要なことはなんでしょうか？

長野市芋井地域の「草刈りバスターズ」など、地域の取組を聞きながら、いっしょに「持続可能な社会・地域づくり」を考えましょう。



取組を聞いて
あれこれ質問して
みんなで考える
ワークショップ



参加のお申し込みは、
二次元コード先の Google フォーム⇒

または電話か FAX(裏面)で、お名前と
連絡先の電話番号をご連絡ください。
電話 026-269-0015(長野県 NPO センター)
月~金曜日 9:00~18:00



さまざまな悩みを抱える中山間地の自治会や
地域おこし協力隊、社会貢献を実践・考えている
企業、市民団体や NPO などをはじめ、地域のみ
なさんもぜひお誘いあつてご参加ください。

【主催】環境省中部環境パートナーシップオフィス/EPO 中部
特定非営利活動法人 長野県 NPO センター
〒381-0034 長野県長野市大字高田 1029-1
電話 026-269-0015 FAX026-269-0016
メール info@npo-nagano.org

<協力>いもいりビングらぼ(芋井地区住民自治協議会)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



エ 事後調査の実施

①ワークショップ1：食育と農による持続可能な地域づくりを考えるワールドカフェ

ワークショップ「食育と農による持続可能な地域づくりを考えるワールドカフェ」に参加した NPO 法人食育体験教室・コラボの関係者から後日聞いたところ、食育活動に関して子どもたちといっしょにできそうなアイデアに刺激を受けて、次年度の取組を検討しはじめたこと。また、ワークショップで知り合った方といっしょに「みそ仕込みイベント」を考えているとのことで、他の参加者とも連絡を取り合って協働を進めたいとのことだった。

また、他の参加者から、地域にある遊休農地の耕作者を探しているとの情報提供があったので SNS で拡散した。引き続き、情報を共有することで関係者をつなぎ合わせ、協働の取組を促進していきたい。

②ワークショップ2：「草刈りバスターズ」は地域のやっかいごとを刈り払えたか！？

ワークショップ「草刈りバスターズは地域のやっかいごとを刈り払えたか」で事例を発表した芋井地区住民自治協議会の担当者に後日聞いたところ、「できる人が、できることを、できる範囲でやる」という長沼ワーク・ライフ組合の考えを参考に、地域内での協働を改めて考えるとともに、地域外から人を集めるモニター体験ツアーの具体化を検討しはじめたとのことだった。

また、ワークショップの様子を地元のケーブルテレビで見たという地域住民から声を掛けられ関心が高まっていること、ワークショップを SNS で知ったという県外者から問い合わせがあり「草刈りバスターズ」の関連資料を提供したとのことだった。

草刈りバスターズが地域内外から注目される取り組みであることを改めて認識し、引き続き地域の課題解決と関係人口の創出を促進していきたい。

オ 情報共有

2つのワークショップの概要は、長野県 NPO センターで「SDGs コネクト信州 NEWS」にまとめてホームページに掲載した。

<https://sdgsconnect2030.com/news/>

また、草刈りバスターズに関しては、長野県 NPO センターが運営するナガノの課題と NPO をつなぐポータルサイト「ナガクル」へイベント取材「『草刈りバスターズ』でも地域のやっかいごとを刈り払うのは大変だ!？」として掲載した。

<https://nagacle.net/topics-9901/>

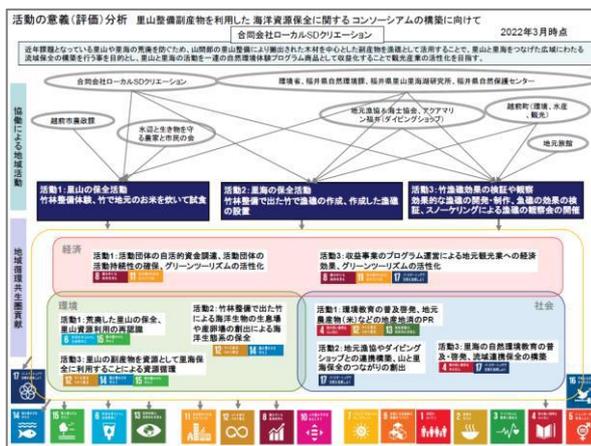
(3) 活動主体への活動の可視化支援とフィードバック（活動見える化プログラムの活用）

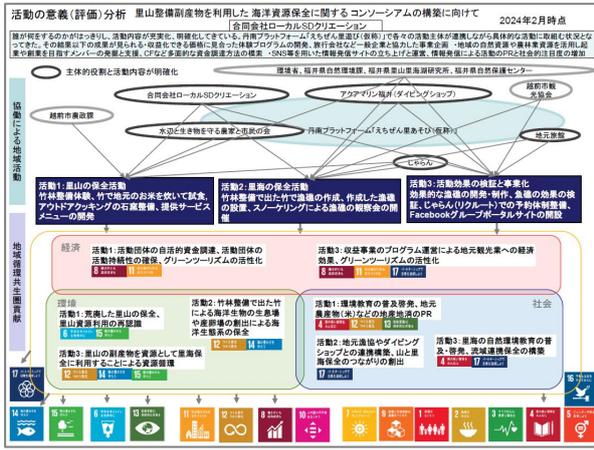
- 地域の活動における地域循環共生圏・SDGs への貢献を可視化する「活動見える化プログラム」を、EPO 中部運営業務に関わる2事例（2地域）の活動を対象にチャート図を作成し、各取組主体へのフィードバックを行った。
- 具体的なフィードバックとしては、活動計画当初にもくろみも含めて作成した「活動見える化プログラム」の分析結果を基に、現状の活動状況をヒアリングし、修正版という形で現時点の「活動見える化プログラム」の分析を行い活動主体に提示した。当初の分析結果で活動計画を構造的に理解するとともに、現状の分析結果と比較することにより、どのように活動内容が深化発展したかを関係者が共有することが可能となる。
- これらの分析とフィードバックの過程の中で、活動主体はチャートを用いたプレゼン資料の作成や連携方法の模索などに活用してもらうとともに、現時点の分析結果をもとにこれまでの成果を確認しつつ自身の立ち位置を確認してもらうことができた。

ア PF 丹南：ローカル SD クリエーションによる「里山整備副産物を利用した海洋資源保全に関するコンソーシアムの構築」（福井県丹南エリア）

- 地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業の環境整備採択団体である合同会社ローカル SD クリエーションへのヒアリングを行い、「里山整備副産物を利用した海洋資源保全に関するコンソーシアムの構築」の活動の見える化プログラムのチャート図を作成した。
- 令和3年度に作成したチャートと比較し、ローカル SD クリエーションにフィードバックを行った。

①分析表





活動内容

活動No	活動1	活動2	活動3
名称	里山の保全活動	里海の保全活動	活動効果の検証と事業化
対象課題	モリソウチク林の拡大による里山の荒廃	里海の水産資源の生息場の減少	竹の漁獲としての効果の検証体験プログラムの開発
活動内容	竹林整備体験、竹で地元のお米を炊いて試食、アウトドアアクッキングの石窯整備、提供サービスメニューの開発	竹林整備で出た竹で漁獲の作成、作成した漁獲物の販売、スノーケリングによる漁獲の観察会の開催	効果的な漁獲物の開発・制作、漁獲物の効果の検証、じゃらん(リクルート)での予約体制整備、Facebookグループ化によるサイト開設
予想活動成果	荒廃した竹林の環境向上、自然環境教育の普及・啓発、竹の利用価値の再認識、収益プログラムとしての運用	海洋生物の生息場や産卵場の創出、自然環境教育の普及・啓発、竹の利用価値の再認識	里山資源のワイズユース、水産資源の増加、流域連携保全の構築、収益事業としての運用、観光産業の活性化

協働ステークホルダー

活動1	活動2	活動3
里山の保全活動	里海の保全活動	活動効果の検証と事業化
環境系 福井県自然環境課、福井県里山海湖研究所、福井県自然保護センター	越前市観光協会	越前市観光協会
経済系 越前市農政課	アクアマリン福井(ダイビングショップ)	地元旅館
社会系 水辺と生き物を守る農家と市民の会、越前市エコレッジ交流センター		じゃらん
丹南プラットフォーム「えちぜん産直(仮称)」		

分析表

活動1 里山の保全活動

【環境への貢献】	【社会への貢献】	【経済への貢献】
荒廃した里山の保全、里山資源利用の再認識	環境教育の普及・啓発、地元産物(米)などの地産地消のPR	活動団体の持続的資金調達、活動団体の活動持続性の確保、グリーンツーリズムの活性化

【環境への貢献】

【社会への貢献】

【経済への貢献】

分析表

活動2 里海の保全活動

【環境への貢献】	【社会への貢献】	【経済への貢献】
竹林整備で出た竹による海洋生物の生息場や産卵場の創出による海洋生態系の保全	環境教育の普及・啓発、地元産物(米)などの地産地消のPR	活動団体の持続的資金調達、活動団体の活動持続性の確保、グリーンツーリズムの活性化

【環境への貢献】

【社会への貢献】

【経済への貢献】

分析表

活動3 竹漁獲効果の検証や観察

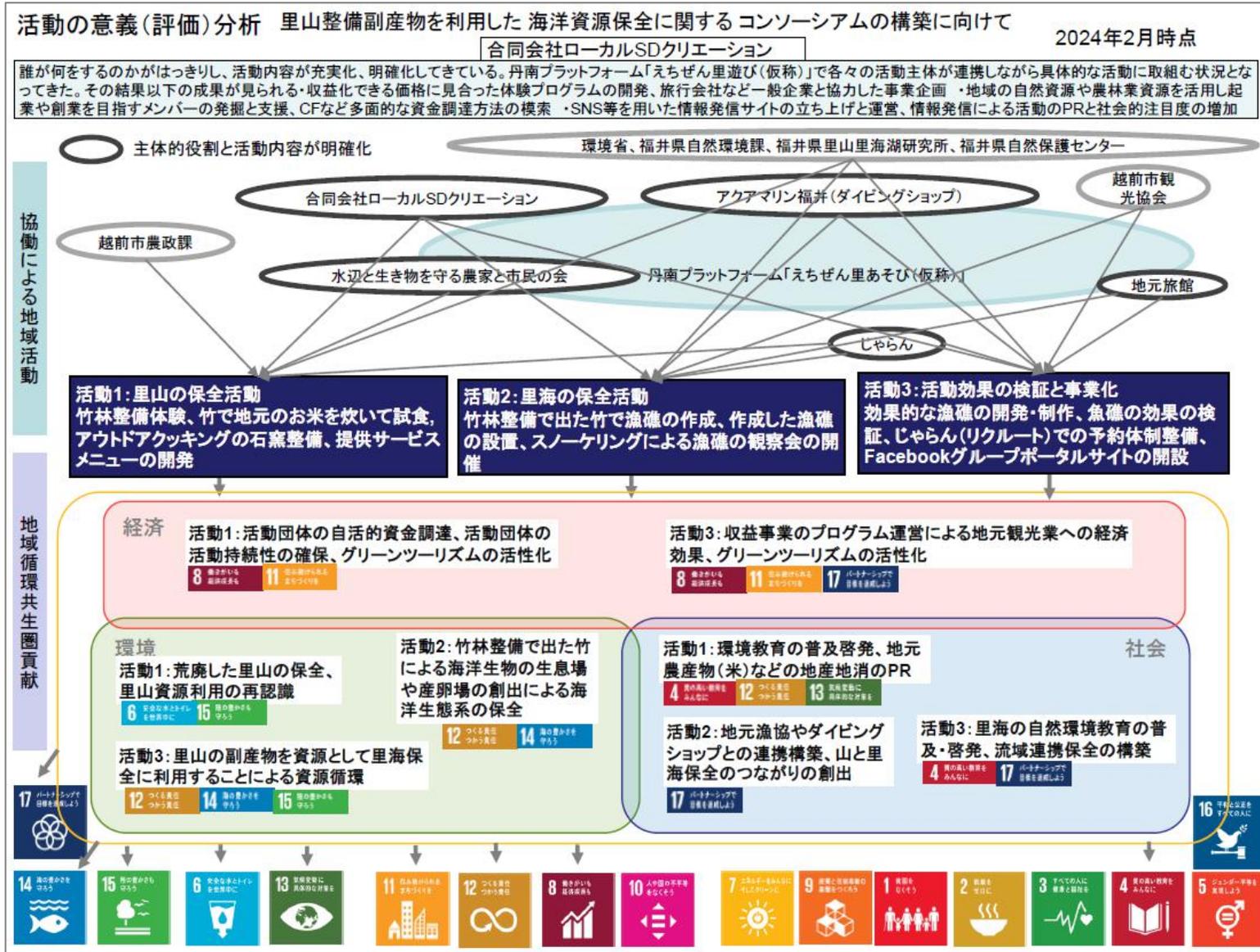
【環境への貢献】	【社会への貢献】	【経済への貢献】
竹の漁獲効果の検証や観察	環境教育の普及・啓発、地元産物(米)などの地産地消のPR	活動団体の持続的資金調達、活動団体の活動持続性の確保、グリーンツーリズムの活性化

【環境への貢献】

【社会への貢献】

【経済への貢献】

②活動見える化チャート



イ 長野県 NPO センター等による「いもいリビングらぼの活動」(長野県長野市芋井地区集落)

- 芋井地区住民自治協議会及び長野県 NPO センターへのヒアリングを行い、「いもいリビングらぼの活動」の活動の見える化プログラムのチャート図を作成した。
- 令和 4 年度に作成したチャートと比較し、長野県 NPO センターにフィードバックを行った。

①分析表

見える化プログラム分析 評価指標の抽出とSDGs指標物語

いもいリビングらぼの活動
分析221013⇒240205
対象団体：長野県NPOセンター

221013時点：鍵となった出来事、きっかけ(活動推進のわけ)

全国各地において、市民活動や自治会活動の中心は、これまで高齢の方や主婦の方が担ってきまされた。しかし、少子高齢化や地域人口の減少、生活スタイルの多様化など地域をとりまく環境が大きく変化し、地域活動のあり方も変化が求められています。そんな変化に柔軟に対応するため、長野市芋井地区では、住民だけでなく芋井地区で事業活動を行う団体や大学生など幅広い参加者を募り、これまでの自治会活動とは別に、多様な視点で持続可能な地域を探る場として「いもいリビングらぼ」を立ち上げました。

240205時点：2023年度の活動状況

これまでの自治会活動とは別に、多様な視点で持続可能な地域を探る場として立ち上げた「いもいリビングらぼ」の活動により、当初計画した①再エネ活用、②車列りバスターズに加えて、③移動居酒屋、④地域情報の発信、プロジェクトが立ち上がり、取組が広がっています。当初プロジェクトの実験を進めた結果、特に②車列りバスターズについては賛成講座や車列りの実績が進み、事業化への展望が見えつつある。

活動の意義(評価)分析

いもいリビングらぼの活動
2022年10月時点

この活動を通じて、市民活動や自治会活動の中心は、これまで高齢の方や主婦の方が担ってきまされた。しかし、少子高齢化や地域人口の減少、生活スタイルの多様化など地域をとりまく環境が大きく変化し、地域活動のあり方も変化が求められています。そんな変化に柔軟に対応するため、長野市芋井地区では、住民だけでなく芋井地区で事業活動を行う団体や大学生など幅広い参加者を募り、これまでの自治会活動とは別に、多様な視点で持続可能な地域を探る場として「いもいリビングらぼ」を立ち上げました。

協働による地域活動

地域課題の解決と社会課題の解決

SDGs 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17

活動の意義(評価)分析

いもいリビングらぼの活動
2024年2月時点

これまでの自治会活動とは別に、多様な視点で持続可能な地域を探る場として立ち上げた「いもいリビングらぼ」の活動により、当初計画した①再エネ活用、②車列りバスターズに加えて、③移動居酒屋、④地域情報の発信、プロジェクトが立ち上がり、取組が広がっています。当初プロジェクトの実験を進めた結果、特に②車列りバスターズについては賛成講座や車列りの実績が進み、事業化への展望が見えつつある。

協働による地域活動

地域課題の解決と社会課題の解決

SDGs 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17

活動内容 2024年2月時点

名称	活動1	活動2	活動3	活動4	活動5
情報共有の場、学びの場の設置	情報共有の場、学びの場の設置	実験の場の設置①再エネ活用	実験の場の設置②車列りバスターズ	実験の場の設置③移動居酒屋	実験の場の設置④地域情報の発信
対象課題	行政サービスの地域運営で、自分たちの地域のエネルギーに頼る生活スタイル(自転車)の活用を促す。自分たちが住み続けたい地域としたい地域を自分ごととして関わる仲間を増やす。	家庭での化石燃料由来のエネルギーに頼る生活スタイル(自転車)の活用を促す。自分たちが住み続けたい地域としたい地域を自分ごととして関わる仲間を増やす。	人口減少や高齢化がもたらす交流の場としての不足や、自分たちが住み続けたい地域としたい地域を自分ごととして関わる仲間を増やす。	交流の場の一つとして、移動居酒屋事業を展開する実験プロジェクトの推進	地域の良さを内外問わずに発信し、地域活性化を図る。地域活性化を図る。
活動内容	参加者の声掛け、お互いを知るワークショップ、持続可能な芋井地区に関する講座の開催	持続可能な地域づくりにつながるオファグリッド再エネ活用の実験的プロジェクトの推進	持続可能な地域づくりにつながる車列りバスターズ再エネ活用の実験的プロジェクトの推進	交流の場の一つとして、移動居酒屋事業を展開する実験プロジェクトの推進	地域の良さを内外問わずに発信し、地域活性化を図る。地域活性化を図る。
予想活動成果	関係人口の増加と人的ネットワークの構築、参加者の資力の向上、共有「我がこと」化、実験プロジェクトの提案	導入可能なオファグリッド再エネシステム構築、設置実験、効果及び導入可能性評価、活用実績	車列りネットワークシステムの構築と実験的プロジェクトの推進	移動居酒屋での交流促進による地域のつながりの維持、経済効果の顕出	情報発信手法の開発、地域資産情報・活動情報の発信

協働ステークホルダー

活動1	活動2	活動3	活動4	活動5
情報共有の場、学びの場の設置	実験の場の設置①再エネ活用	実験の場の設置②車列りバスターズ	実験の場の設置③移動居酒屋	実験の場の設置④地域情報の発信
長野県NPOセンター 芋井地区住民自治協議会 芋井地区住民自治協議会各部会 (区長部会、福祉部会、教育部会、振興部会)、長野市芋井支部(キッチンナカズミ(キッチンナカズミ)、地域おこし協力隊、DENSO(アプリ開発、実験)	長野県環境環境保全協会、長野市環境保全温帯化対策課、松本高原観光協会	芋井地区広瀬各区分会、キッチンナカズミ(キッチンナカズミ)、企業ボラティアグループ(日本たばこ、第一生命、アサヒ飲料、ポーラ、パナソニック)	地域おこし協力隊	DENSO(アプリ開発、実験)

分析表

活動1 情報共有の場、学びの場の設置

【環境への貢献】 【社会への貢献】 【経済への貢献】

SDGs 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17

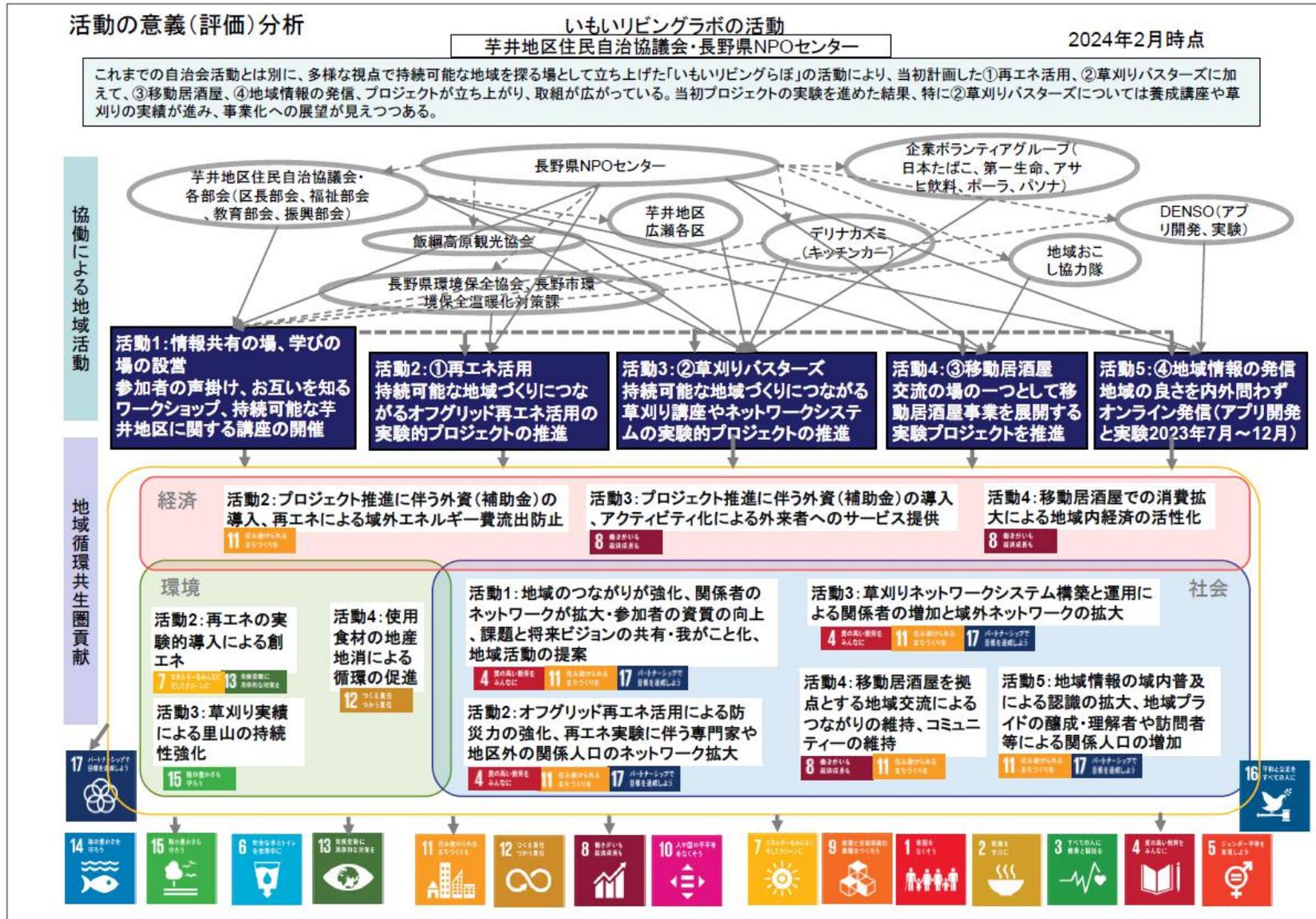
分析表	対象課題	活動2 実験の場の設置① 再エネ活用
【環境への貢献】	【社会への貢献】	【経済への貢献】
再エネの実験的導入による創エネ	防災がらみ再エネ活用による防災力の強化、再エネ実験に伴う専門家や地区外の関係人口のネットワーク拡大	プロジェクト推進に伴う外資(補助金)の導入、再エネによる域外エネルギー買戻し防止
7		

分析表	対象課題	活動3 実験の場の設置② 草刈りバスターズ
【環境への貢献】	【社会への貢献】	【経済への貢献】
草刈り実働による里山の持続性強化	草刈りネットワーク構築と運用による関係者の増加と域外ネットワークの拡大	プロジェクト推進に伴う外資(補助金)の導入による関係者の増加とアクティビティ化による外資者へのサービス提供
8		

分析表	対象課題	活動4 実験の場の設置③ 移動居酒屋
【環境への貢献】	【社会への貢献】	【経済への貢献】
採用食材の地元産地消による循環の促進	移動居酒屋を通じた地域交流によるつながりの維持、コミュニティの維持	移動居酒屋での消費拡大による地域内経済の活性化
9		

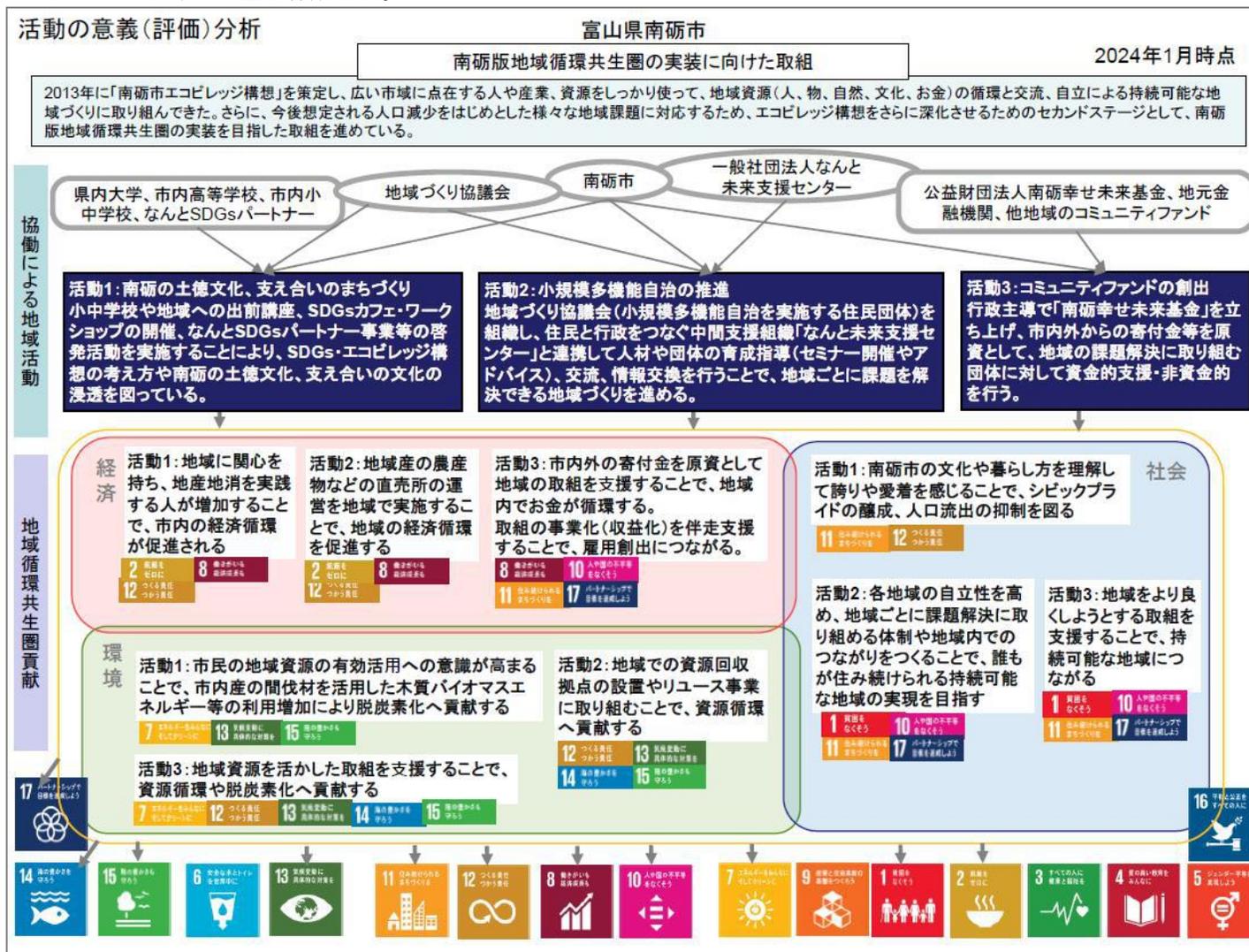
分析表	対象課題	活動5 実験の場の設置④ 地域情報の発信
【環境への貢献】	【社会への貢献】	【経済への貢献】
地域情報の域内普及による認知の拡大、地域プライドの醸成	認知の拡大、地域プライドの醸成による関係人口の増加	地域情報発信による関係者の増加
10		

②活動見える化チャート



ウ その他の事例

- 2事例のほか、SDGs 学生サミットに登壇した3自治体（富山県南砺市、長野県上田市、岐阜県美濃加茂市）のSDGs 未来都市としての取組についても活動見える化プログラムのチャート図を作成した。



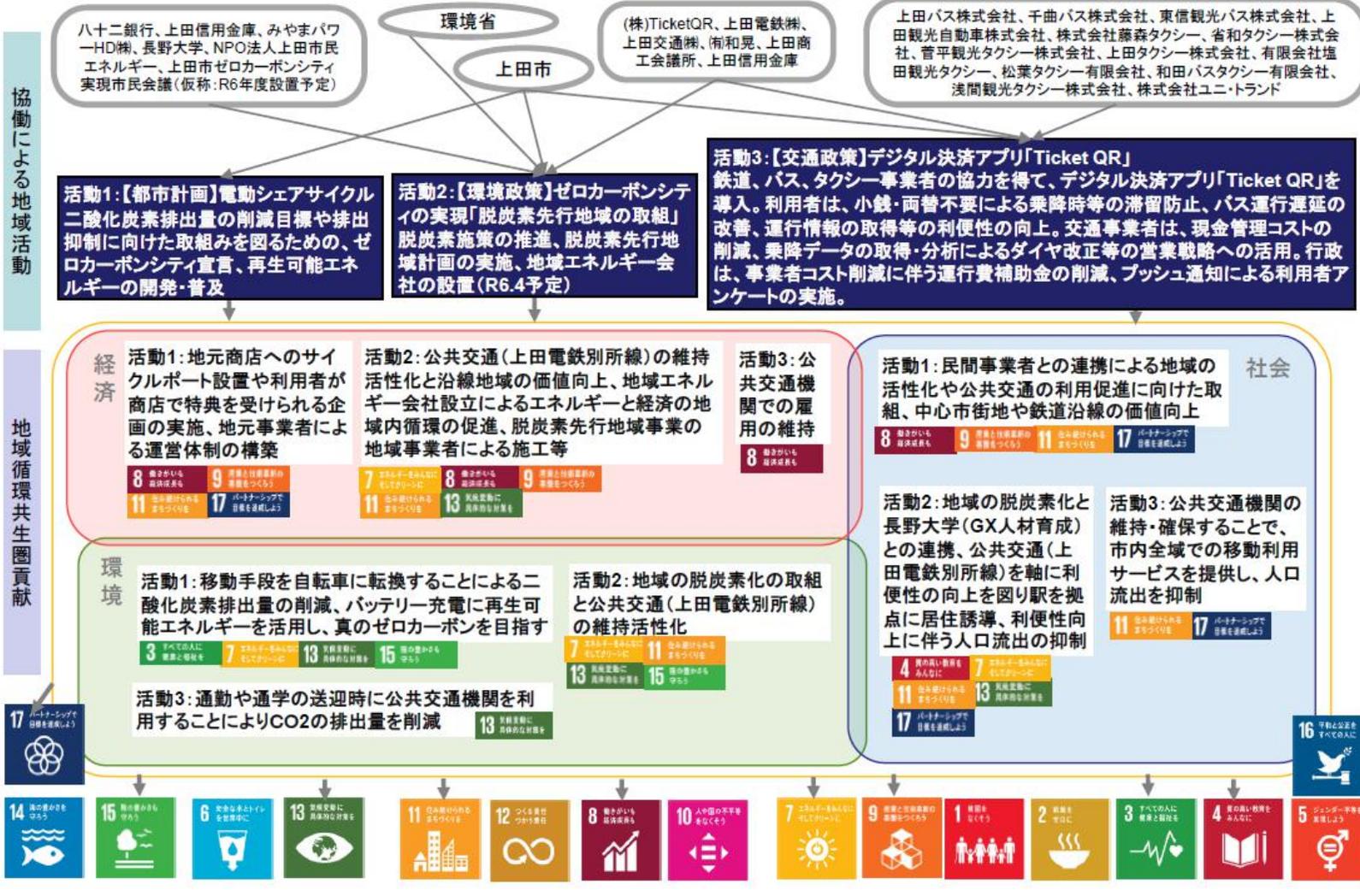
活動の意義(評価)分析

長野県上田市

ひと笑顔あふれ 輝く未来につながる健幸都市

2024年1月時点

課題としては自然減・社会減による人口減少や少子高齢社会の進展により、中心市街地の空洞化等が進んでおり、これらに対応するため「コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり」や「スマートシティ化」の推進により、市民が幸福を感じられる社会の形成を図ることで「健幸都市うさだ」の実現を目指すこととした。



活動の意義(評価)分析

岐阜県美濃加茂市

新たな価値を生み出す里山 リ・デザイン「ローカルSDGsみのかも」

2024年1月時点

一年を通して穏やかな過ごしやすい気候にあり、豊富な里山資源に恵まれている。また、中部地方の経済拠点である名古屋から車で一時間弱とアクセスも良い。工場誘致に成功し、人口は1960年以降増加傾向を続けてきたが、今後は減少を迎えると予測されており、市の財政負担削減と施策効果の最大化を図る仕組みをつくるのが課題である。市民や民間企業から地域の社会課題を集め、官民の取組による社会課題解決型ビジネスを創出し、地域循環共生圏＝「ローカルSDGsみのかも」の実現を目指す。



(4) 活動主体等への情報・意見交換会の実施

①会議名

- EPO 中部・協働コーディネーター情報交換会

②日時

- 2023 年 9 月 1 日（金） 13：30～16：00

③会場

- ウィンクあいち 9 階・会議室 905 （愛知県名古屋市）

④出席者

- 11 名（協働コーディネーター 6 名、中部地方環境事務所 2 名、事務局 3 名）

茶木 勝	株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ 代表取締役 白萩地域山村活性化協議会、純国産メンマプロジェクトリーダー
堺 勇人	一般社団法人環境市民プラットフォームとやま（PEC とやま）常務理事/ 事務局長
中里 茂	環境カウンセラー
三田村 佳政	合同会社ローカルSDクリエイション 社長
中寫 阿児	NPO 法人 WAC おばま 理事、NPO 法人若狭くらしに水舎 代表理事
寺田 卓二	一般社団法人ネクストステップ研究会 代表
曾山 信雄	環境省中部地方環境事務所 環境対策課長
縄野 正衡	環境省中部地方環境事務所 環境対策課長補佐
清本 三郎	事務局 EPO 中部統括
原 理史	EPO 中部・中部地方 ESD 活動支援センター
富田 夏子	事務局

⑤協議項目

- 自己紹介と近況報告
- 話題提供 1：環境省から：情報提供・情報共有等
- 話題提供 2：協働コーディネーターから：環境省事業、EPO 中部との連携業務等の紹介
- 話題提供 3：EPO 中部から：「見える化プログラム」「SDGs 指標物語」の紹介
- 質疑応答と意見交換



(5) ローカル SDGs/地域循環共生圏のためのグループワーキング

① イベント名

- 自治体職員向けローカル SDGs/地域循環共生圏セミナー「ローカル SDGs の指標と達成度評価～活用可能なサイト/ツールの紹介とトライアル（試してみましよう！）～」

② 日時

- 2023年11月6日（月）13:30～16:30

③ 会場

- ウィンクあいち12階・会議室1201（愛知県名古屋市）

④ 主催等

- 主催：環境省 中部環境パートナーシップオフィス

⑤ 参加者

- 19名（参加者12名、登壇者2名、中部地方環境事務所2名、事務局3名）

⑥ プログラム

- ごあいさつ、情報提供
- EPO 中部の紹介と本日の趣旨について
- 基調講演「ローカル SDGs の策定とその達成に向けたアクションを誘発するオンラインプラットフォーム」
法政大学デザイン工学部教授 川久保 俊 氏
- 話題提供「自治体 SDGs モニタリングツールと達成度評価(2015-2022)」
国際連合地域開発センター研究員 浦上 奈々 氏
- 事例を見える化「EPO 中部による「SDGs 指標物語」と「活動見える化プログラム」」
EPO 中部 原 理史
- 共有ディスカッション
（SDGs の活用、実践における課題感、今回紹介サイト/ツールの活用アイデア）
進行：EPO 中部 原 理史
- 講評
国際連合地域開発センター研究員 浦上 奈々 氏
法政大学デザイン工学部教授 川久保 俊 氏



自治体職員向けローカルSDGs / 地域循環共生圏セミナー

ローカルSDGsの指標と

達成度評価

～活用可能なサイト/ツールの紹介と
トライアル（試してみましよう！）～

日時: 11月6日(月)13:30～16:30

会場: ウィンクあいち 12階・会議室1201

(名古屋市中村区名駅4丁目4-38 / 名古屋駅から徒歩5分 / <https://www.winc-aichi.jp/access>)

対象 自治体職員 **定員** 50人 (参加無料)

参加方法 参加申込フォーム: 下記URLから
<https://forms.gle/vsLFMuaGZ7noPsF79>

- ・ 右のQRコードからも申込可能です。
- ・ ウェブサイト(※「EPO中部」で検索)からも申込できます。



第1部

- ・ ごあいさつ、情報提供
—— 環境省中部地方環境事務所環境対策課
- ・ EPO中部の紹介と本日の趣旨について
—— EPO中部
- ・ [基調講演] ローカルSDGsの策定とその達成に向けた
アクションを誘発するオンラインプラットフォーム
自分の地域で試してみる
・ ローカルSDGsプラットフォーム <https://local-sdgs.jp>
・ プラットフォームクローバー <https://platform-clover.net>
—— 法政大学デザイン工学部教授 川久保 俊 氏
- ・ [話題提供] 自治体SDGsモニタリングツールと達成度評価(2015-2022)
自分の地域で試してみる
・ 自治体SDGsモニタリング達成度ダッシュボード
https://chubu-sdgs-platform.jp/information_dissemination/
—— 国際連合地域開発センター研究員 浦上 奈々 氏
- ・ [事例を見る化] EPO中部による「SDGs指標物語」と「活動見える化プログラム」
—— EPO中部 原 理史

第2部

- ・ 共有ディスカッション(SDGsの活用・実践における課題感、今回紹介サイト/ツールの活用アイデア)、川久保先生による講評 など

自分の地域で試してみる → ご参加の際、ノートPCやタブレットなどをご持参されますと、講師の解説を聞きながら、実際にサイト/ツールをお試しいただけます。

主催: 環境省 中部環境パートナーシップオフィス (EPO中部)

5 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務

(1) 地域プラットフォームの環境整備支援等業務

ア プラットフォーム団体への伴走支援等

- 地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業の採択団体（中部ブロックは2団体）に対し、環境整備のプロセスに関わる伴走支援（月1回以上の採択団体との接触）を次の通り行った。

	PF 丹南:ローカル SD クリエーション【継続】	PF 大町:荒山林業【継続】
4月	<ul style="list-style-type: none"> ● 4/26 打合せヒアリングを実施。 ● 環境共生学会誌に「SDGs 指標物語」の試行事例としてPF 丹南掲載の件を連絡。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 4/19 地域政策課の調整により、PF 大町と MIT とのオンライン意見交換を実施。途中まで EPO も傍聴。 ● 4/27 打合せヒアリングを実施。
5月	<ul style="list-style-type: none"> ● 5/8 に関係団体による酒米づくりイベントの広報協力の電話依頼。 ● 中間共有会の PF 丹南での実施について日程調整。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 5/2 大学生の地域づくり参加についての連絡あり(PF 事業アドバイザー委員からの依頼)。 ● 5/10 に大学生訪問等についてのオンライン打合せ。 ● 5 月末頃、採択団体の名称変更方法について確認・連絡等の遣り取りあり。
■6/7-8 キックオフミーティング		
6月	<ul style="list-style-type: none"> ● 中間共有会に関する段取り・進め方、今後の活動(イベント)予定確認等の連絡。 ● 6/20 次回打合せの日程調整連絡。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 6/7 キックオフにて、7/8-9 開催・Life on the Lake 夏のほとりの広報協力の連絡あり。Facebook での広報展開協力を実施。 ● 大学生訪問の実施内容等の連絡調整。
7月	<ul style="list-style-type: none"> ● 7/13 打合せ(SHミーティング、中間共有会、中部事務所による情報提供、意見交換等)を実施。中間共有会の視察箇所・方法等について地域側で検討。 ● SHミーティングを12/11-15 日実施予定で調整。 	(7/8-9 Life on the Lake 夏のほとり開催) <ul style="list-style-type: none"> ● 7/13 水循環事業担当課との 7/18 意見交換実施の連絡あり。あわせて市対応についての相談あり。 ● 7/18 市総務部(水循環事業担当部署)との意見交換の報告の電話あり。
8月	<ul style="list-style-type: none"> ● 8/9 里山里海体験プログラムのモニターツアーの参加募集の広報協力依頼のメール連絡。WEB サイト、SNSにて掲載協力。 ● 中間共有会、SH ミーティングについての打合せ設定連絡。 	(8/1-3 大学生の大町訪問) <ul style="list-style-type: none"> ● 大学生ゼミ合宿が8/16 付の地元新聞に記事掲載のメール連絡。
9月	<ul style="list-style-type: none"> ● 9/1 中間共有会についての打合せ。エクスカーション訪問先を協議。 ● 市への呼びかけ、エクスカーション訪問先について電話・メール打合せ。 ● 9/26 飯盛先生、全国事務局による視察に EPO も同行。 ● 白山地区 SH 用の Facebook グループの試行版(非公開)を EPO 側で開設。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 打合せの設定依頼を連絡。 ● 9/21 市との連携展開についての団体側イメージについて連絡。
10月	<ul style="list-style-type: none"> ● 10/2 オンライン打合せ。中間共有会エクスカーション、SH ミーティング、今後の活動等について情報共有。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 10/5 オンライン打合せ。 ● 10/9 共有会出席者リストの送付。
11月	<ul style="list-style-type: none"> ● エクスカーション訪問先についての調整連絡。 ● 発表用資料についての連絡対応 	<ul style="list-style-type: none"> ● 発表用資料についての連絡対応。
	■11/9-10 中間共有会	
12月	<ul style="list-style-type: none"> ● 白山地区SH用の Facebook グループの公開版を EPO が開設。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地球環境基金の申請についての相談対応。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ● 12/15SHミーティングの打合せ。内容・時期・役割分担等について協議。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 12/22 電話で SH ミーティング実施について確認連絡。(団体名変更、成果報告会のブース進行役について質問あり。)

	PF 丹南:ローカル SD クリエーション【継続】	PF 大町:荒山林業【継続】
1月	<ul style="list-style-type: none"> 1/9 電話で 2/1 に SH ミーティングを実施で日程調整の連絡あり。講師役の相談あり(中部事務所へも相談)。震災被害の有無等も確認。 1/29SH ミーティングの準備について確認の電話連絡。開催についてメール配信依頼。チラシを受け取り、SNS 掲載。 	(Life on the Lake1/14 開催) <ul style="list-style-type: none"> SH ミーティング実施について電話・メール連絡。
2月	<ul style="list-style-type: none"> 2/1SH ミーティング開催。模造紙、付箋、カラーペン等を EPO で準備。 終了後、今後の展開について相談・確認。 	<ul style="list-style-type: none"> 長野県休眠預金事業の暮らす room's 主催「長野県の森を語ろう！それぞれの地域の森を取り巻く情報交換」への登壇・共催を SH ミーティングに位置づけたいとのメール連絡あり。 SH ミーティングとしての開催の留意点について確認の電話・メールでの遣り取り。
3月	■3/7-8 成果共有会	

イ 年度当初時ヒアリング

①実施概要

- 環境整備 2 団体を対象に、事業着手時ヒアリングを実施した。

活動団体名	実施日/場所	ヒアリング項目
ローカルSDクリエーション(PF丹南) 【継続】 (福井県丹南地区)	2022年4月26日/ 福井市地域交流プラザ 研修室(福井県福井市)	Q.:本事業を通じて、形成するプラットフォームのイメージとは? Q.:今年度の取り掛かり、何をどこまでやるか?(事業のタネのアイデア) Q.:今年度のイベント等の予定(※ステークホルダーミーティング含む)
荒山林業(PF大町) 【継続】 (長野県大町市)	2023年4月27日/ 長野県大町合同庁舎(長野県大町市)	Q.:事業を進める上での課題とそれを解決するための方策などは? Q.:事業を進めるにあたっての協力者・ステークホルダーは?

②調査対象(ヒアリング出席者・同席者)

ローカルSDクリエーション(PF丹南)	合同会社 SD ローカルクリエーション 三田村佳政氏
荒山林業(PF大町)	荒山林業 荒山あゆみ氏、荒山雄大氏 株式会社山川草木 香山由人氏 北アルプス地域振興局林務課 高野毅氏 ほか、委託先:やまとわ など4名

③ヒアリング結果(ヒアリングシートの作成)

- ヒアリング実施後、所定のヒアリングシート(GEOC 提示のフォーマット)に聴取内容を整理、記入し、中部地方環境事務所と共有のうえ、GEOC に提出した。

ウ 採択団体の支援計画の作成・提出

- ヒアリングシートの作成にあわせて、各プラットフォーム団体(継続団体も含む)の支援計画シート「環境整備フォローシート」(いずれも GEOC 提示のフォーマット)を作成し、中部地方環境事務所と共有のうえ、GEOC に提出した。

【作成した支援計画シート（環境整備フォローシート）の一部】PF 丹南

R5 環境で地域を元気にする 地域連携共生圏プラットフォーム構築事業 環境整備活動団体

環境整備支援：年間計画

担当EPO	EPO中部	団体概要	PF丹南：合同会社ローカルSDクリエイション 福井県越前市を中心とする丹南エリアにおいて、提供団体が中心となって、業山整備副産物を利用した海洋資源保全に関するコンソーシアムの構築を目指す。											
記入者	栗田夏子													
記入日	2023.05.01													

●活動団体のイベントスケジュール 予定を灰色で記入してください。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R5 1月	2月	3月
全体行事			キックオフ									成果発表会
1) 中間共有会										丹南にて中間共有会(予定)		
2) エコツアー実証イベント		竹島漁づくりイベント		シムナーケリングイベント		海洋ゴミ活用イベント					森カフェ、アウトドアクッキングイベント等	
3) SHの会合等					SH会合(アイディア出し)					SHEーディング		
4) その他	※SHによるエコツアー先遣地視察(時期未定)											

意見交換会、WSなどの予定列を適宜追加してください。

【作成した支援計画シート（環境整備フォローシート）の一部】PF 大町

R5 環境で地域を元気にする 地域連携共生圏プラットフォーム構築事業 環境整備活動団体

環境整備支援：年間計画

担当EPO	EPO中部	団体概要	PF大町：荒山林業 長野県大町市の林業家を中心に集めたPFで、地元木材活用のための製材・乾燥施設づくり、地域資源である森と湖を活用した地域づくり（on the lakeプロジェクト）に取り組んでいる。											
記入者	栗田夏子													
記入日	2023.05.01													

●活動団体のイベントスケジュール 予定を灰色で記入してください。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R5 1月	2月	3月
全体行事			キックオフ									成果発表会
1) 中間共有会										中間共有会(予定)		
2) 地域材活用の取組		高森市の広葉樹コンシエルジュとの勉強会			長草草の森林フォーラム、丹草会への協力(未定)			製材マルシェ			関係者へのインプット(視察等)(時期未定)	
3) on the lake プロジェクト			【リゾ】学びの場/WS①		【ライブ】視察暮らし体験イベント①			【ライブ】視察暮らし体験イベント②				【リゾ】学びの場②も実施予定あり
4) ステークホルダーミーティング		※上記3)のリゾ on the lake、または、ライブ on the lakeとの併催を予定										

意見交換会、WSなどの予定列を適宜追加してください。

(2) 中間共有会

①会議名

- 地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業 中部ブロック中間共有会

②日時

- 中間共有会：2023年11月9日（木）13：15～16：15
- エクスカーション（視察）：2023年11月10日（金）8：30～15：00

③会場

■中間共有会

- 開催会場：市民プラザたけふ 3階・多目的室1（福井県越前市）

■エクスカーション

- 視察地（福井県丹南エリア）：しらやまいこい館/コウノトリ PR館、坂口地区、農家レストラン 白山さんち、越前マリンサービス、道の駅 越前たけふ

④出席者

- 24名

氏名	所属先	1日目 共有会	2日目 視察	備考
三田村 佳政	合同会社ローカル SD クリエーション	参加	参加	PF 丹南
野村 みゆき	越前市さかのくち活性化協議会 越前市エコビレッジ交流センター	参加	-	PF 丹南
前田 利博	しらやま振興会事務局長	参加	-	PF 丹南
小池 幸弘	越前市環境農林部環境政策課	参加	-	
谷口 尚謙	越前市環境農林部農政課	参加	-	
山田 幸平	越前市環境農林部環境政策課	参加	-	
高野 翔平	越前市環境農林部農政課	参加	-	
荒山 あゆみ	荒山林業	参加	参加	PF 大町
荒山 雄大	荒山林業	参加	参加	PF 大町
帯川 恵輔	荒山林業	参加	参加	PF 大町
入口 翔	ななお SDGs スイッチ/のど共栄信用金庫	参加	参加	先輩団体:PF 七尾
加藤 義人	岐阜大学 客員教授	参加	-	ESD/EPO(中部)運営委員
水上 聡子	アルマス・バイオコスモス研究所代表	参加	-	ESD/EPO(中部)運営委員
清間 笑奈	環境省大臣官房地域政策課	参加	参加	
深津 英里	環境省大臣官房地域政策課	参加	参加	
野村 拓	環境省大臣官房地域政策課	参加	参加	
曾山 信雄	環境省中部地方環境事務所環境対策課	参加	参加	
縄野 正衡	環境省中部地方環境事務所環境対策課	参加	参加	
小森 清志	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株)	参加	参加	
江口 健介	地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)	参加	参加	
鈴木 良壽	地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)	参加	参加	
清本 三郎	EPO 中部	参加	参加	
原 理史	EPO 中部	参加	参加	
富田 夏子	EPO 中部	参加	参加	



⑤ プログラム

地域循環共生圏づくりPF構築事業 **中間共有会（中部ブロック会合）** の開催

- **日時** 2023年11月9日（木）13:15～16:15
- **会場** 市民プラザたけふ 3階・多目的室1
 - 福井県越前市府中1-11-2（JR武生駅に隣接）
 - Googleマップ：<https://goo.gl/maps/7VP7uNGB54q5iht68>
- **実施内容（プログラム）予定**
 1. ごあいさつ
 2. 環境整備活動団体の取組発表（30分=15分×2団体）
 - ①【PF丹南】合同会社ローカルSDクリエーション
 - ②【PF大町】荒山林業
 3. 先輩団体による取組状況と環境整備活動団体へのエール（15分×1団体）

【PF七尾】ななおSDGsスイッチ 入口 翔氏（のと共栄信用金庫業務企画部兼総合戦略部次長、七尾青年会議所副理事長）
 4. ディスカッション
 - ◆ 講評・感想など
 - ・ 岐阜大学工学部客員教授 加藤義人氏 ※ESD/EPO運営委員会（中部）の委員
 - ・ アルマス・バイオコスモス研究所代表 水上聡子氏 ※ESD/EPO運営委員会（中部）の委員

（※途中、「休憩＆交流タイム」を挟む予定です。）
 5. 事務局からの連絡／閉会

1

⑥ 11月10日実施・PF丹南（ローカルSDクリエーション）のガイドによる視察の様子





(3) ステークホルダーミーティング業務

- PF 丹南はステークホルダーミーティングを2月1日にワークショップ方式で実施し、EPO 中部はワークショップ用のツール、シート（模造紙）等の準備支援を行った。また、当日参加し、参加者の意見・アイデアを模造紙上で整理、図示化するなどの支援を行った。
- PF 大町は2月19日に、暮らす room's 主催、on the lake（荒山林業）共催によるオンラインイベント『長野県の森を語ろう！それぞれの地域の森を取り巻く情報交換』を開催し、これをステークホルダーミーティングとして位置づけた。



活動団体名	実施日/場所・方法	EPOが実施した支援等
ローカルSDクリエイション（PF丹南）	2024年2月1日/ 白山さんち （福井県越前市）	<ul style="list-style-type: none"> ● ディスカッション用の模造紙、カラーペン、付箋等のワークショップツールの準備 ● 当日にオブザーバー参加、ディスカッションで出てきた意見・アイデアの整理・まとめ
荒山林業（PF大町）	2024年2月19日/ オンライン	<ul style="list-style-type: none"> ● 共催及びステークホルダーミーティング実施にあたっての留意事項などを協議・連絡 ● 当日にオブザーバー参加

(4) GEOC が主催する会議等への参加

- 環境省、GEOC が主催する地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業関連の会議・会合等について、下記の会合等に出席した。
- キックオフミーティング及び成果報告会では活動団体による資料準備での作成内容の解説、作成後の確認等の支援を実施したほか、当日の意見交換／ポスターセッションでは、ファシリテーターとしてディスカッションの進行等を行った。

会合	開催日	会場/開催方法	実施内容等
キックオフミーティング	6月7日～8日	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域循環共生圏プラットフォーム構築事業の概要説明 ● 事業の進め方(事業スケジュールと事務局について) ● 講話:先輩地域より:富士市、一般社団法人 Reborn Art Festival ● 継続団体(計11団体)の発表/個別ディスカッションタイム ● 新規採択団体(計10団体)の発表/個別ディスカッションタイム ● 全体振り返り
作業部会	第1回 9月11日	会場:GEOC	<ul style="list-style-type: none"> ● R5 年度環境整備活動団体の進捗共有 ● 上記に基づく、アクションサイクルモデルに対する環境整備活動団体からのフィードバック整理、地域事例の蓄積 ● 上記に基づく、環境整備支援ノウハウの相互参照、蓄積
	第2回 2月9日	会場:GEOC	<ul style="list-style-type: none"> ● 【議題1】共生圏 PF 事業全体の振り返り ● 【議題2】R5 環境整備支援の現状共有 ● 【議題3-1】地域循環共生圏づくりにおける中間支援ポイント抽出 ● 【議題3-2】地域循環共生圏づくりにおける中間支援ポイント抽出
共有会	5月16日	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> ● 令和5年度年間予定について ● ヒアリング・支援計画の共有 ● 6/7-8 キックオフ企画について ● その他情報共有(Platform Clover について)
PF 事業形成会議	12月8日	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> ● 【議題1】共生圏 PF 事業全体の進捗状況について ● 【議題2】共生圏 PF 後継事業について ● 【議題3】R5 年度末の予定について
成果共有会	3月7日～8日	会場:TKP 新橋カンファレンスセンター	<ul style="list-style-type: none"> ● 各団体による成果発表、ポスターセッション ● ネットワーキングイベント

(5) 事業化支援団体の活動の情報共有

- 今年度の中部エリアでは、なお SDGs スイッチが事業化支援に採択された。
- 下記の関連会議・打合せに同席し、事業化支援団体の活動内容、及び全国事務局等による支援内容・方法等についての情報収集を行った。

	実施日	場所・方法	実施事項
1	5月18日	オンライン傍聴	<ul style="list-style-type: none"> ● 昨年度事業の振り返り(特に課題面) ● 今年度事業で特に注力したい点・実施体制の確認
2	7月11日	オンライン傍聴	<ul style="list-style-type: none"> ● SDGs 未来都市の選定に関する共有 ● 今後の進め方
3	8月28日	リアル出席 会場: のと共栄信用金庫	<ul style="list-style-type: none"> ● なお SDGs スイッチの昨年度までの取組について ● なお SDGs サポートパッケージ ● なお SDGs スイッチ 2023 年度事業(案)
4	9月13日	オンライン傍聴	<ul style="list-style-type: none"> ● マンダラ図について ● プラットフォームのコンセプト・ビジョンの検討状況 ● 事業内容の検討状況
	8月22日	(ハイブリッド開催) オンライン傍聴	<ul style="list-style-type: none"> ● 九州 PF 団体「八女が好き 8C! やめスマ研究所」のステークホルダーミーティングに、なお SDGs スイッチが登壇して取組紹介

(6) 卒業団体のフォローアップ調査

- 中部エリアの卒業団体の一つである「一般社団法人スマート・テロワール協会」を対象にしたフォローアップ調査を12月15日に実施し、その内容を取りまとめたヒアリング結果シートを作成し、全国事務局へ提出した。

【提出したヒアリング結果シート】

————— 【ヒアリングシート】 —————	
【実施日時】2023年12月15日	【記入者】EPO 中部 富田
【形態】オンライン	
【参加者】一般社団法人 スマート・テロワール協会 勝亦達夫（信州大学キャリア教育・サポートセンター講師）	
【団体の状況】	
<ul style="list-style-type: none"> ● 人づくりに関わる活動は今も動いている。チェーンソー講習や里山整備プロジェクトなどはPF事業終了後の現在も継続実施している。 ● SHが開催するイベントの情報などが勝亦氏のところに集約されることにより、ほかのSHにも情報共有される体制となりつつあり、SH同士のつながりも続いている。普段は個別に各々の活動に取り組んでいるSHであるが、PFといった形はないが、有機的なつながりは今も続いている。 	
【ヒアリング要旨】	
<ul style="list-style-type: none"> ■ PF事業前後での変化について <ul style="list-style-type: none"> ▪ 地域の将来像マンダラについては、正直、はじめは言われて作っただけだったが、ビジョンが明確化し、具体的に地域課題や取組主体、着地点などが見えてくると、地域として取り組んでいく上での突破口になってくれたように感じている。 ▪ 地域の取組を継続させる上で、地域の人たちが色々な意見やモチベーションを持つが、そういった地域の中にあるものを、さらに地域内へ伝播させる機能が重要と考えられるようになった。小布施の場合は「日本笑顔プロジェクト」を立ち上げた浄光寺という求心力のある拠点があった。PF事業に取り組む中で、市の政策への影響においても個別のアクションにおいても、地域内外両方に伝播させるベクトルをもった浄光寺のような存在が、重要な役割を果たすようになっていった。地域のネットワークは良質なコミュニティメディアとなり得るものであり、情報のインプットと地域内外への伝播を今後も大切にしていきたい。 ■ 成果物4点セットについて <ul style="list-style-type: none"> ▪ 数値は根拠として重要になる。ただ、「測り方」が大切であるし難しい。また、数字に囚われすぎることの良いことではない。地域の中でお金がどのように循環しているかについて、地域で共有し、加えて無関心層の意識変化にもつなげていくために、データを活用することも重要であると、PF事業の成果物を作成していく中で考えるようになった。 ▪ 特にマンダラについては常に検証し、バージョンの更新を続けた。今後はさらに、地域版のマンダラと広域エリア版のマンダラを統合させていくことにより、さらにバージョンアップしたマンダラ作成が可能になるのではと考えている。 ■ 継続できなかった活動について <ul style="list-style-type: none"> ▪ プロジェクトの中で、実現できなかった取組としてソーラーシェアリングがある。実現できなかった背景として、地域内での調整に時間を要したほか、再エネコストの上昇、連携していた再エネ会社が自社事業に専念しなくてはならない状況になったことなどがあげられる。 	

やはり地域の中で利益を得る主体を明確にした上で、自分たちが必要なものを自分たちの手で築いていくことが重要だと改めて考えた。

- 酒米づくりについても、今年は猛暑の影響で不作だった。「種の図書館プロジェクト」も関連するが、タネ・モミ不足なども阻害要因となっていた。一方で、地域の中に確保されていたタネにより、生産できるようになった農作物もあったと聞いており、地域のまとまりが地域づくりのカギになるのだと改めて感じた。

■ 今後取り組みたい／関心のあるテーマ等について

- PF事業の成果を、次の段階へとどのように活かしていくべきか考えている。林業や教育、流通・交通など、様々な分野に関わる地域課題を環境の側面から解決し、さらに地域経済もまわせる方法を考えていきたい。例えば、空家問題であれば、環境と建築を掛け合わせながら空家を再生・活用し、地域にお金もまわる仕組みができないかと考えているところである。

■ 環境省・事業事務局からの支援について

- PF事業に採択されていた間は、コロナにより、成果報告会等の関連会合の殆どがリアル開催されなかった。しかし、卒業団体となった後ではあるが、中間共有会などのリアル会合に参加させてもらうことができてよかった。
- 今後の卒業団体への支援として、そうした会合等への案内や、関連情報の提供などを期待したい。会合については、中間共有会のように東京開催ではなく、地方開催があるとありがたいと思った。卒業団体ではあるが、同じPF団体が集まる会合に参加して、他の団体の取組状況など、ぜひ有益な情報をインプットしていきたい。また、そうしたほかの地域／団体地域とのつながりを、今後も活かせるような支援を期待したい。

■ これからPF事業に取り組む団体等へのアドバイスとして

- この事業は、地域課題の解決を目指し、地域の中にあるもの・課題・やりたい人などを一つだけに絞って取り組んでいくものではなく、地域の中に様々にあるそれらのものをつないでいくことにより、新しいものが地域に生まれていく事業である。そんなことを、これから取り組まれる団体へはお伝えしたい。

* 複数頁になっても構いません。

(7) 身近な自然資本活用に関する意見交換会の開催

ア 信州の森・里山フォーラム「地域資源としての森林・里山の価値向上について考える」

①日時

- 2023年12月19日（火）13:30～16:00

②会場

- 長野市生涯学習センター 第1・第2学習室（長野県長野市）

③主催等

- 主催：環境省中部地方環境事務所・中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）
- 共催：林野庁中部森林管理局

④参加者

- 95名
 - 会場参加25名（登壇者、事務局含む）
 - オンライン：zoom接続43件、YouTubeライブ配信ユニーク視聴者数27件

⑤プログラム

○あいさつ

○情報提供

本フォーラムの趣旨について

「信州における森林経営、森林サービスの現状と今後の展開への期待について」

林野庁中部森林管理局

「森林の利活用と交流人口の増加を目指して」

長野県林務部 信州の木活用課

○取組紹介

「東急リゾートタウン蓼科のもりぐらし」

東急リゾート&ステイ株式会社 資産企画統括部 徳田 圭太 氏

「地域商社・機能会社をとおした森林価値を高める多角的な事業」

株式会社トビムシ 飯泉 浩二 氏

「森林・里山の課題の解決と新たな価値創出」

フォレストデザイン 代表 余頃 友康 氏

「循環型社会・脱炭素社会の実現に向けた“木”にかかわる新たなチャレンジ」

中部電力株式会社 経営戦略本部 地域インフラ事業推進室 川口 雅哉 氏

○ディスカッション「森林・里山の利活用と価値の向上について」

パネリスト：東急リゾート&ステイ株式会社 資産企画統括部 徳田 圭太 氏

株式会社トビムシ 飯泉 浩二 氏

フォレストデザイン 代表 余頃 友康 氏

中部電力株式会社 経営戦略本部 地域インフラ事業推進室 川口 雅哉 氏

林野庁中部森林管理局長 今泉 裕治 氏

長野県林務部信州の木活用課長 千代 登 氏

進行：環境省 中部地方環境事務所



⑥開催案内チラシ



信州の森・里山フォーラム

地域資源としての 森林・里山の価値向上について考える

2023年12月19日(火) 13:30~16:00

プログラム(予定) ※変更になることがあります。

<p>■ 情報提供</p> <p>■ 森づくり・里山保全等の取組紹介</p> <p>■ ディスカッション</p>	<p>本フォーラムの趣旨について 信州における森林経営、森林サービスの現状と今後の展開への期待について(仮) 森林の利活用と交流人口の増加を目指して</p> <p>東急リゾートタウン夢科の「もりぐらし」 東急リゾート&ステイ株式会社 資産企画統括部 徳田 圭太 氏 地域商社・機能会社をとおした森林価値を高める多角的な事業 株式会社トビムシ 飯泉 浩二 氏 森林・里山の課題の解決と新たな価値創出 フォレストデザイン 代表 余須 友康 氏 循環型社会・脱炭素社会の実現に向けた、「木」にかかわる新たなチャレンジ 中部電力株式会社 経営戦略本部 地域インフラ事業推進室 川口 雅哉 氏</p> <p>森林・里山の利活用と価値の向上について</p>	<p>環境省 中部地方環境事務所 長野県 中部森林管理局 長野県林務部 信州の木活用課</p> <p>進行：環境省 中部地方環境事務所</p>
----------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------

参加方法	申込方法
<p>参加方法は次の①②③のいずれかとなります。参加申込フォームの中で選択してください。</p> <p>① 会場参加 長野市生涯学習センター第1・第2学習室(トイゴウエスト3階) 長野市大字鎮興町前町1271番地3 / JR長野駅普光寺口より徒歩約10分 Googleマップ: https://maps.app.goo.gl/hyD8u2i1N69Y64oH9</p> <p>② ZOOM参加</p> <p>③ YouTube視聴</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>質問等をされたい方は、「① 会場参加」もしくは「② ZOOM参加」をぜひお選びください。</p> </div>	<p>● 参加申込フォームからお申し込みください。</p>  <p>参加申込フォーム: https://forms.gle/DadoxMBaZALd3deU9</p> <p>● EPO中部ウェブサイトからも申込できます。</p> <p>EPO 中部 <input type="button" value="検索"/></p>

主 催：環境省中部地方環境事務所・中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)
共 催：長野県中部森林管理局

イ 企業の生物多様性保全の取組についての勉強会

①日時

- 2024年1月26日（金）13:30～16:00

②会場

- 開催方法：ハイブリッド
 - オンライン：zoom
 - 会場：名古屋能楽堂 会議室（愛知県名古屋市）

③主催等

- 主催：中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）
- 後援：環境パートナーシップ・CLUB（EPOC）

④参加者

- 132名
 - 会場参加 41名（登壇者・関係者含む）
 - オンライン：zoom 参加 20件、YouTube ライブ配信ユニーク視聴者数 71件

⑤プログラム

- あいさつ
- 自然共生サイトの概要説明 環境省中部地方環境事務所
- 講演1「自然共生サイト申請のポイント」～都市近郊の緑地の研究から見た課題～
名城大学農学部 准教授 橋本 啓史 氏
- 講演2「人の手で維持されてきた自然環境を未来に残すには」～両生類の保全の現場から～
愛知教育大学理科教育講座 准教授 島田 知彦 氏
- 自然共生サイトの事例紹介
 - 「リコーえなの森」株式会社リコー
 - 「テクノ中部本店ビル屋上ビオトープ」株式会社テクノ中部
 - 「人間環境大学 岡崎キャンパス演習林」人間環境大学
 - 「トヨタの森」トヨタ自動車株式会社
 - 「ビオトープながおか」シヤチハタ株式会社
- 自然共生サイト認定企業とのグループディスカッション
- 質疑応答、講評
- 閉会のあいさつ



(8) グリーン社会実現に向けたステークホルダー連携促進事業

ア 環境へのアプローチを活かした鳥羽の観光創発ミーティング

①日時

- 2024年1月16日(火) 13:00~15:30

②会場

- 鳥羽商工会議所3階・かもめホール (三重県鳥羽市)

③主催等

- 主催：環境省 中部環境パートナーシップオフィス (EPO 中部)
- 共催：鳥羽市、鳥羽市温泉振興会

④出席者

- 33名 (観光事業関係者7名、登壇者9名、市関係者13名、事務局4名)

氏名	所属
大西 絵里奈	海女の愛ちゃんが湯く！メンバー
寺田 順三郎	株式会社戸田家
野口 あゆみ	伊勢志摩バリアフリーツアーセンター
中村 麻央	鳥羽市リサイクルパーク
岩崎 織江	鳥羽市商工会議所
濱口 尚紀	鳥羽市温泉振興会
濱岡 佐代美	鳥羽国際ホテル
谷口 優太	旅館「扇芳閣」
山下 正樹	鳥羽市温泉振興会
大野 愛子	海女・フォトグラファー
坂口 幸司	鳥羽シーサイドホテル株式会社
惣明 福德	伊勢志摩リゾートマネジメント株式会社
宍倉 秀明	株式会社戸田家
向井 隆広	The Earth
中村 孝	NPO とぼりサイクルネットワーク
吉川 勝也	鳥羽市温泉振興会
中村 欣一郎	鳥羽市
高浪 七重	鳥羽市観光商工課
村山 陽介	鳥羽市観光商工課
村田 直	鳥羽市観光商工課
北橋 亜由那	鳥羽市観光商工課
宮山 恵介	鳥羽市観光商工課
後藤 洸	鳥羽市観光商工課
上村 渡	鳥羽市環境課
中井 理江	鳥羽市環境課
伊藤 緋保	鳥羽市環境課
齋藤 猛	鳥羽市企画財政課
楠原 友喜	鳥羽市農林水産課

氏名	所属
岩尾 豊紀	鳥羽市農林水産課
縄野 正衡	中部地方環境事務所
清本 三郎	EPO 中部
原 理史	EPO 中部
富田 夏子	EPO 中部

⑤プログラム

○あいさつ

○講演「世界中の子育て家族から愛される宿が目指すサステナブルツーリズム」

扇芳閣 谷口 優太 氏

○話題提供「鳥羽市の取り組み～鳥羽の SDGs まなブック・ピリカ等の取り組み事例を紹介～」

鳥羽市長 中村 欣一郎 氏

○話題提供「鳥羽温泉郷の取り組み～海藻×環境×SDGs を紹介～」

鳥羽市温泉振興会 山下 正樹 氏

海女・フォトグラファー 大野 愛子 氏

○取組紹介 1：鳥羽シーサイドホテル株式会社 営業部長 坂口 幸司 氏

○取組紹介 2：伊勢志摩リゾートマネジメント株式会社 総支配人 惣明 福德 氏

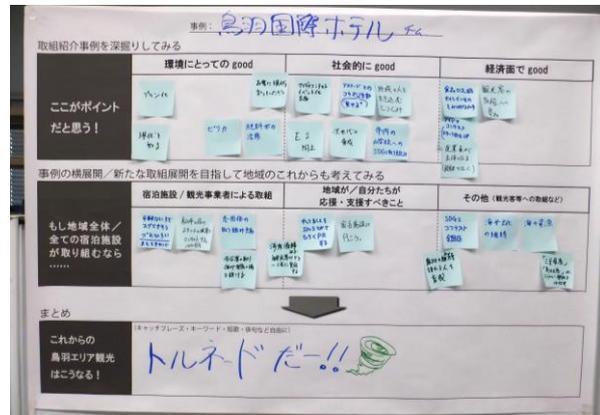
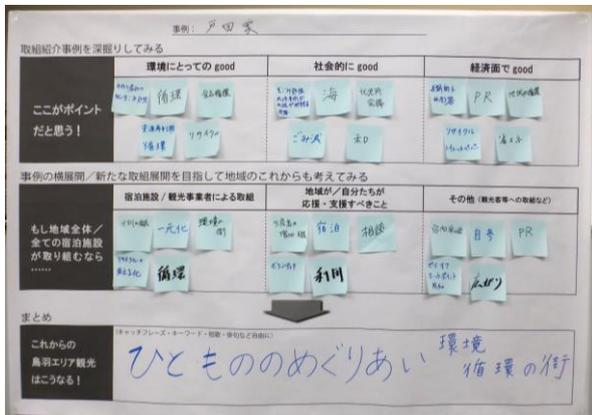
○取組紹介 3：株式会社戸田家 取締役執行役員 業務支配人 宍倉 秀明 氏

○取組紹介 4：The Earth 宿泊支配人兼業務マネージャー 向井 隆広 氏

○取組紹介 5：鳥羽市リサイクルパーク NPO とばりサイクルネットワーク 理事長 中村 孝 氏

○ワークショップ「鳥羽の環境にやさしい取組～これから私たちにできること～」

○講評 中部地方環境事務所



⑥開催案内資料



環境へのアプローチを活かした 鳥羽の観光創発ミーティング

開催案内

2024年1月16日(火)13時00分 開催



開催概要

日時
2024年1月16日(火) 13時00分～15時30分

会場
鳥羽商工会議所 3階・かめホール
(三重県鳥羽市大明寺町1-7)
<https://goo.gl/maps/ormvN5GtHaktWtL667>

主催等
主催：環境省 中部環境パートナーシップオフィス (EPO中部)
協力：鳥羽市、鳥羽市温泉振興会

開催の趣旨

三重県鳥羽市において、市や温泉振興会、観光事業者等が集い、鳥羽エリアのサステナブルツーリズムに関わるこれまでの取組やPRの手法等について、改めて振り返りを行い、情報共有を行う会合を実施します。

会合では、今後の鳥羽エリアにおけるサステナブルツーリズム、及び当地の代表的な観光資源《海》と《温泉》のワズユースやその活用によるまちづくりのあり方、方向性などについてのアイデアを出し合うなどして、今後、関係者間で取組が創発されていく場づくり・雰囲気づくりを目指します。

プログラム1/2

はじめに

- ごあいさつ
鳥羽市長 中村 欣一郎氏
鳥羽市温泉振興会会長 吉川 勝也 氏
- ごあいさつ/本日の趣旨
環境省 中部地方環境事務所

講演 (20分)

- 世界中の子育て家族から愛される宿を目指すサステナブルツーリズム
扇芳閣 谷口 優太 氏

話題提供 (10分×2)

- 鳥羽市の取り組み
～鳥羽のSDGsまなブック・ピカ等の取り組み事例を紹介～
鳥羽市長 中村 欣一郎 氏
- 鳥羽温泉郷の取り組み
～海藻×環境×SDGsを紹介～
鳥羽市温泉振興会 山下 正樹 氏
海女・フォトグラファー 大野 愛子 氏

プログラム2/2

取組紹介 (各8分)

- 取組紹介1
鳥羽シーサイドホテル様
- 取組紹介2
鳥羽国際ホテル様
- 取組紹介3
戸田家様

取組紹介4
ジ・アース様

取組紹介5
鳥羽市リサイクルパーク様

取組紹介事例ごとのグループ別ワークショップ (50分)

- 鳥羽の環境にやさしい取組
～これから私たちにできること～

参加方法

参加申込フォームから
<https://forms.gle/TNMxoSmEiaUDZbb48>



問合せ先/連絡先

環境省中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)
TEL: 052-218-8605 / E-mail: info@epo-chubu.jp
<https://www.epo-chubu.jp>

鳥羽市観光商工課
TEL: 0599-25-1157
メールフォーム:
https://www.city.toba.lg.jp/ce/ce-bin/ingaiyaku_053/yaesu.html

皆さまのご参加をお待ちしております。

イ 地球温暖化に関する中部カンファレンス「水素・アンモニア実装に向けた中長期展望」

①日時

- 2024年2月13日（火）13：30～16：20

②会場

- 名古屋銀行協会 201 会議室（愛知県名古屋市）

③主催

- 環境省中部地方環境事務所・中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）

④参加者

- 149 名
 - 会場参加 44 名（登壇者、事務局含む）
 - オンライン：webex 接続 105 件

⑤プログラム

○あいさつ

○国からの報告「最新、水素等の導入状況を知る」

環境省 地球環境局 地球温暖化対策事業室長

経済産業省 中部経済産業局 カーボンニュートラル推進室長

国土交通省 中部地方整備局 計画企画官

○自治体や企業からの報告「水素・アンモニア実装に向けた行動」

愛知県 水素社会実装推進室室長

日本郵船株式会社 燃料炭・アンモニアグループ長

株式会社 JERA 企画統括部 脱炭素推進室長

○フリーディスカッション「水素等社会へのロードマップ」

モデレーター：名古屋産業大学 伊藤 雅一 教授

パネリスト：環境省 地球環境局 地球温暖化対策事業室長

経済産業省 中部経済産業局 カーボンニュートラル推進室長

国土交通省 中部地方整備局 計画企画官

愛知県 水素社会実装推進室室長

日本郵船株式会社 燃料炭・アンモニアグループ長

株式会社 JERA 企画統括部 脱炭素推進室長

○閉会あいさつ



ウ 知多半島5市5町勉強会「地域交通×脱炭素について考える」

①日時

- 2024年3月11日（月）14:00～16:15

②会場

- 半田市市民交流プラザ ホール（愛知県半田市）

③主催・協力

- 主催：半田市（知多半島5市5町勉強会主催）、環境省中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）
- 協力：環境省中部地方環境事務所、三菱UFJ銀行

④参加者

- 36名（自治体職員23名、金融機関4名、登壇者・関係者4名、事務局5名）

所属	役職	氏名
常滑市 民生活部 生活環境課	主任	長田 遥
常滑市 民生活部 市民協働課	主任	伊藤 真敬
常滑市 企画部 企画課	主任	森 要平
東海市 生活環境課 ゼロカーボン戦略室	統括主任	久野 貴史
大府市 環境課	係長	植木 孝
大府市 環境課	主事	村下 澄
大府市 環境課	主事	相羽 耕貴
大府市 都市政策課	主任	浅岡 和俊
知多市 環境経済部環境政策課	課長補佐	小嶋 仁
知多市 環境経済部環境政策課	主事	石川 光孝
知多市 企画部企画情報課	課長補佐	中井 貴之
知多市 企画部市民協働課	統括主任	加藤 正樹
阿久比町 建設環境課	係長	米塚 利樹
阿久比町 防災交通課	係長	武田 啓介
東浦町 環境課	主事	加古 将人
南知多町 総務部 成長戦略室	主任主査	内田 健二
南知多町 厚生部 環境課	係長	家田 直政
美浜町 企画課	係長	村田 元樹
美浜町 環境課	係長	寺本 幸多良
武豊町 環境課	主事	水谷 恭祐
武豊町 防災交通課	主査	岩川 幸樹
半田市 市民経済部 環境課	主事	片山 高也
半田市 企画部 企画課	主事	柘宜田 孝美
三菱UFJ銀行 東海公務部 公務第二課	次長	加藤 理一
三菱UFJ銀行 半田支店	支店長	林 義人
三菱UFJ銀行 半田支店	次長	安部 良佑
三菱UFJ銀行 半田支店		本田 愛沙

所属		氏名
講師	日本福祉大学 教授	千頭 聡
講師	大同大学 准教授	樋口 恵一
(同行)	知多乗合株式会社 代表取締役	榊原 研二
講師	知多乗合株式会社 取締役 運輸営業部長	橋本 大輔
環境省	中部地方環境事務所 地域脱炭素創生室 室長補佐	国立 将光
環境省	中部地方環境事務所 地域脱炭素創生室 脱炭素地域づくり専門官	柴田 真志
事務局	EPO中部 統括	清本 三郎
事務局	EPO中部	原 理史
事務局	EPO中部	富田 夏子



エ 奥三河エリアの地域循環共生圏づくり

- 愛知県奥三河エリアで地域循環共生圏づくりに取り組む「奥三河エレトレ」（構成団体：したらワークス、JA愛知東、三河の山里コミュニティパワー、設楽町）が主催する2024年2月14日開催のローカルSDGs奥三河フォーラム『地域に経済を取り戻す』に出席し、奥三河エリアの地域循環共生圏づくりに関わる次年度（2024年度）以降の展開の提案資料として、次資料を作成し、中部地方環境事務所へ提出した。

奥三河エリアの地域循環共生圏づくり

次年度(2024年度)以降の展開についての 提案資料

2024年 2月
EPO中部

1

奥三河エリアについて

- 奥三河エリア:「新城市」「設楽町」「東栄町」「豊根村」の4市町。
- 愛知県の東北部に位置し、北は長野県に、東は静岡県に接している。

【奥三河エリアの地域概要】

愛知県webサイト・新城設楽振興事務所ページより抜粋

- 面積は約1,052km²(愛知県の20.4%)で、県内最高峰の茶臼山を始め奇岩が林立する鳳来寺山などの山々がそびえ、天竜奥三河国定公園、愛知高原国定公園など、四季折々に風光明媚な景勝地が多くある。
- 人口は約5万7千人(県人口の0.8%)で、若年層の流出、山間地での過疎化・高齢化が進行しており、地域社会の活力の低下などが懸念されています。
- 特産品は、お茶、柿、ぶどう、梅、しいたけ、じねんじょ、トマト、シクラメンなど。ニジマス、アマゴの養殖も行われている。清流のアユ、アマゴなどを目的に、溪流釣りシーズンには多くの遊漁者が訪れる。
- 「花祭」「田楽」をはじめとする多数の無形民俗文化財が保存・伝承されている。

【出典・引用】 上テキスト: <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shinshiroshitara/0000057600.html>

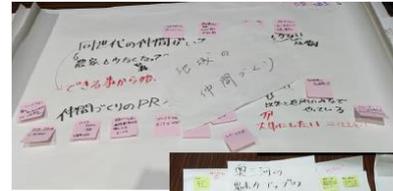
右2図: 奥三河観光ナビ: <https://www.okuminavi.jp/access/>



2

2024年2月14日開催・ローカルSDGs 奥三河フォーラム

- 奥三河で持続可能なまちづくり、地域エネルギー事業に取り組む主体や、地域課題解決・地域経済循環等に関心のある人を対象にしたフォーラムが2月14日愛知県設楽町で開催された。
- プログラム
 - ・ 開催挨拶「ローカルSDGs奥三河フォーラムの狙いと奥三河地域に対する期待」環境省中部地方環境事務所
 - ・ 発議講演「多者協働による地域課題解決と地域新電力の役割～豊田市山村地域のケース」MYパワー
 - ・ 主幹団体コメント:①設楽町企画ダム対策課、②したらワークス、③JA愛知東、④MYパワー
 - ・ ワークショップ「ともに考えまい!奥三河のこと」
 - ・ 総括と共同宣言:設楽町長



▼▼▼
多様なセクターによる協働の地域づくりのきっかけづくりを
目的に開催された

3

奥三河フォーラムで発議された地域課題

主幹団体／奥三河エレクトレ	設楽町から	人口減、担い手不足、移住対策、住民参加
	JA愛知東から	地域コミュニティの維持、遊休農地、助け合いの仕組みはあるが若者等のマンパワー不足、施設の維持管理
	したらワークスから	人材調達の難しさ、冬場の派遣先が少ない、マルチワーカーの求人確保、町外への展開、派遣先に魅力向上、移住者の住居確保、したらワークスの自主運営
	MYパワーから	地域の疲弊への対応、地域経済循環の確保、食・エネルギーの地産地消、「地域の人手とお金で」ローカルSDGs実現を
参加者から		人材育成:事業の裾野を拡げるために、一歩が踏み出せない人をどのように巻き込めばよいか
		地域の魅力アップの方法

4

次年度以降の展開ストーリー／4つの主題

展開ストーリー：4つの主題、或いは、4つのステップ

- ① 協働・・・ 住民参加が難しい、多様なセクターを巻き込みたい
 - 協働がなぜ重要なのか
- ② 共感・・・ データも重要、地域のためという正しさも重要
 - プラス、どう「共感」してもらうか？
- ③ 創発・・・ 地域ビジネス・事業等は生みたい
 - 地域課題＝地域ニーズがある、はじめの一步を協働で考える、次々生まれる
- ④ 未来像・・・ なりたい地域の未来像とその実現に向けて
 - 地域で未来像を共有する、地域に何が必要か・何が望まれているかを改めて明らかにしてみる

※ ④について：④を最初に考えるか、最後に考えるかは事務局のシナリオしたい。

- ・ 最初に考える⇒このプロジェクトで何を指すかある程度決まっている場合 など
- ・ 最後に考える⇒協働・共感・創発を体感し、熟度をあげて④で仕上げる など

5

提案：1～2年かけて計4回の会合実施

	ステップ	形式	テーマ／問いかけ	備考
第1回目	協働	勉強会	ローカルSDGs実践でなぜ「協働」が重要か？	・ 地域循環共生圏事業のアドバイザー等学識者による講演、PF事業採択団体による取組紹介など
第2回目	共有	視察	地域課題を実感・体感しているか？実践者・先進者の想い・熱意をわけてもらう	・ 地域課題に関わる場所・施設や先進的な取組者などを訪問するエクサカーションの実施など
第3回目	創発	勉強会	地域ビジネス、地域課題解決事業を自由に妄想・発想してみる	・ 地域課題、地域の厄介モノを地域資源に転換するアイデア出しワーキングの実施など
第4回目	未来像	ワーキング	なりたい地域の未来像を考える その実現に必要なことを考える	
	おひろめ	フォーラム	第1回～4回の成果をおひろめして地域で共有する	

※ 仲間づくりが難しい場合は、第4回目を第1回に行い、参加者（＝関心のある人）との関係構築からはじめることも考えられる。

6

オ GEOC が開催する事業検討会議への参加

- GEOC が開催する、ステークホルダー連携促進事業の事業検討会議に下記の通り出席し、実施状況・内容等についての情報共有と意見交換を行った。
- 出席にあたり、ステークホルダー連携促進事業の中部の実施内容を所定のシートに記入し、事前に GEOC へ提出した。

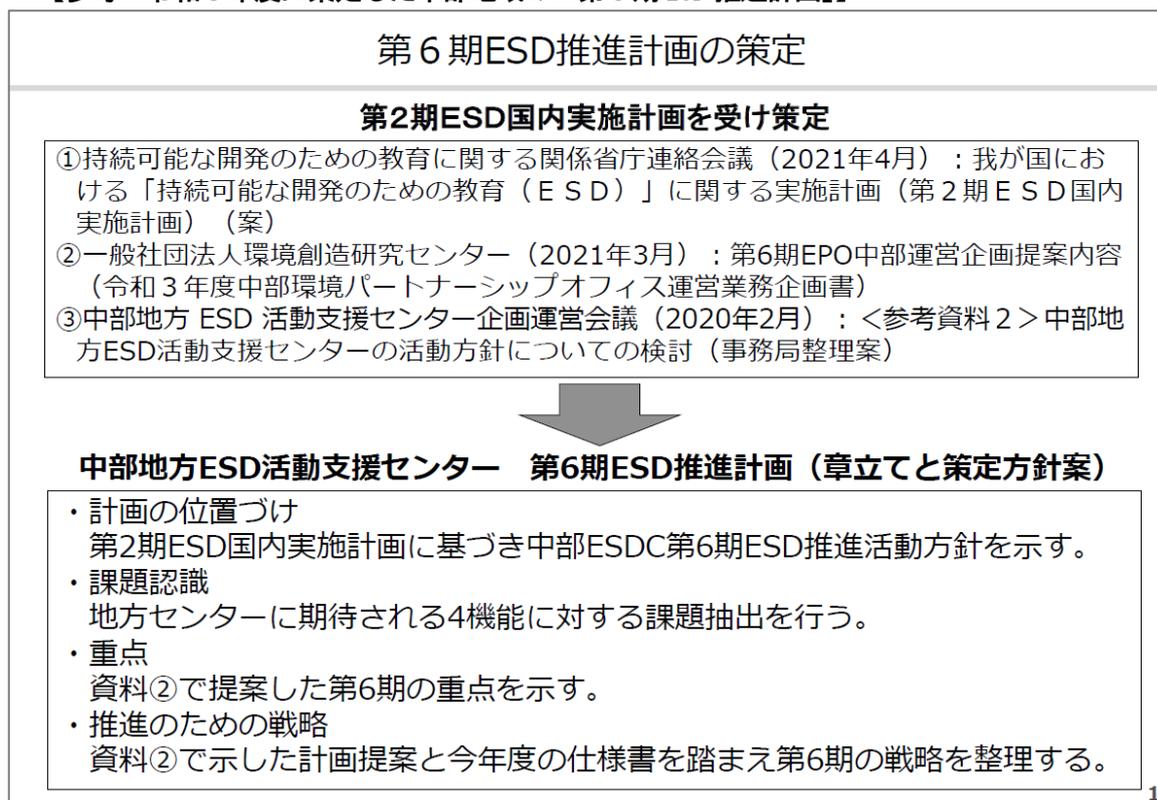
会合	開催日	会場	実施内容等
事業検討会議	2月29日	GEOC	<ul style="list-style-type: none">● 【議題1】今年度のSH連携促進事業の実施報告● 【議題2】来年度の実施イメージ検討

6 中部地方 ESD 活動支援センター運営業務

(1) 中部地方 ESD 活動支援センターの運営・推進

- 令和3年度に策定した中部地域の「第6期 ESD 推進計画」をもとに、中部地方 ESD 活動支援センターの業務内容等を検討し、ESD/EPO 運営委員会（第1回会議）に諮問のうえ、関係する委員からの開催地域、連携機関、協働方法等の助言を業務実施計画に反映した。
- この業務実施計画をもとに、今年度のセンター運営及び ESD 活動支援・推進に取り組んだ。

【参考：令和3年度に策定した中部地域の「第6期 ESD 推進計画」】



(2) ESD 活動に関するネットワークの構築

ア ESD 推進ネットワーク地域フォーラムの開催

①名称

- 中部地方 ESD 推進ネットワーク地域フォーラム 地域と学校をつなぐ ESD

②日時

- 2023 年 9 月 21 日（木）13：00～16：30

③開催方法（ハイブリッド）

- オンライン：zoom
- 会場：ウインクあいち 907 会議室（愛知県名古屋市）

④主催

- 中部地方 ESD 活動支援センター

⑤出席者

- 38 名（会場参加 17 名（登壇者、事務局含む）／zoom 参加 21 件）

⑥プログラム

- 挨拶 環境省中部地方環境事務所
- 基調講演「地域づくりと学校教育・今求められる地域の ESD」
金沢大学大学院教職実践研究科 准教授 加藤 隆弘 氏
- 話題提供「学校と地元が好きだから～地域と協働した学校教育づくり」
愛知県東浦町立緒川小学校 校長 鬼頭 学 氏、同校教諭 森 倫子 氏
- 話題提供「ESD・SDGs を学び合うコミュニティづくり」
北陸 ESD 推進コンソーシアム コーディネーター 池端 弘久 氏
- 地域 ESD 拠点登録団体による事例報告～地元で！大人と子どもの ESD
報告 1「子どもたちの ESD から SDGs まちづくりに」 ななお SDGs スイッチ 入口 翔 氏
報告 2「地域の自然資源を活かした学校の ESD」 勝山市(勝山市教育委員会) 廣田 大吾 氏
報告 3「循環型社会を担う企業から子どもたちへ」 加山興業株式会社 井上 智博 氏
- 交流ディスカッション
コーディネーター：
中部大学国際 ESD・SDGs センター准教授 中部 ESD 拠点協議会事務局長 古澤 礼太 氏
- ふりかえり交流・ESD 推進ネットワーク登壇者、ESD 拠点団体による意見交換
コーディネーター：
中部大学国際 ESD・SDGs センター准教授 中部 ESD 拠点協議会事務局長 古澤 礼太 氏



⑦ポスターの制作

- フォーラムのポスター／チラシを制作し、開催案内とともに、中部エリアの地域 ESD 拠点へ郵送及びメールで送付した。

【制作したポスター／チラシ】

中部地方ESD推進ネットワーク地域フォーラム

地域と学校をつなぐ ESD

2023年9月21日(木) 13:00～15:50

オンライン開催・参加無料

地域づくりは人づくりです。持続可能な地域づくりに、学校との連携は欠かせません。

学校と社会の連携による人づくりの場は、子どもたちだけでなく、大人たちにとっても大きな学びの場です。学びの場に関係する様々な主体が持続可能性教育ESDを意識して活動することで、より楽しく元気な地域づくりにつながります。

環境省と文部科学省が共同で取り組んでいるESD推進ネットワークでは、各地方のESD活動支援センター主催の交流連携事業を行っています。中部地方ESD活動支援センターでは、構成員の地域ESD拠点とともに、ESDネットワークの交流を深めるために「中部地方ESD推進ネットワーク地域フォーラム」を開催します。皆様のご参加をお待ちします。

プログラム

挨拶・趣旨説明

第1部

基調講演 「地域づくりと学校教育・今求められる地域のESD」
金沢大学大学院教職実践研究科准教授 加藤 隆弘 氏

話題提供 「学校と地元が好きだから～地域と協働した学校教育づくり」
愛知県東浦町立緒川小学校校長 鬼頭 学 氏
愛知県東浦町立緒川小学校教諭 森 倫子 氏

「ESD・SDGsを学び合うコミュニティづくり」
北陸ESD推進コンソーシアム コーディネーター 池端 弘久 氏

第2部

地域ESD拠点登録団体による事例報告 ～ 地元で！ 大人と子どものESD

報告 1 「子どもたちのESDからSDGsまちづくりに」 なのおSDGsスイッチ 入口 翔 氏

報告 2 「地域の自然資源を活かした学校のESD」 勝山市(勝山市教育委員会) 廣田 大吾 氏

報告 3 「循環型社会を担う企業から子どもたちへ」 加山興業株式会社 井上 智博 氏

交流ディスカッション コーディネーター：中部大学国際ESD・SDGsセンター准教授、中部ESD拠点事務局長 古澤 礼太 氏

申込方法

QRコードから申し込みサイトにアクセスしてください。

参加登録すると、@zoom.us または @chubuesdcenter.jp のアドレスから登録されたメールアドレス宛に招待メールが自動送信されます。

中部 ESD センター 検索

<https://us02wib.zoom.us/j/zoomingtagdof12020supq7e6d820d9c0u6w195W7a7nF45agp>

主催事務局 / 問合せ先 中部地方ESD活動支援センター(環境省EPO中部)
E-mail : office@chubuesdcenter.jp

中部地方ESD活動支援センター
Education for Sustainable Development

イ SDGs 学生サミットの開催

①イベント名

- SDGs 学生サミット

②日時

- 2024 年 2 月 10 日 (土) 13:00~17:30

③開催方法

- オンライン開催：zoom、YouTube 配信

④主催等

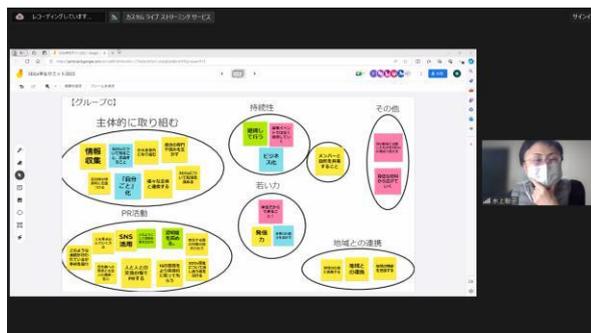
- 主催：中部地方 ESD 活動支援センター（環境省 EPO 中部）
- 協力：中部大学中部高等学術研究所、国際 GIS センター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点

⑤参加者

- 85 名
 - Zoom 参加（登壇）77 件（関係者・事務局含む）
 - YouTube ライブ配信視聴 8 件

⑥プログラム

- あいさつ 環境省中部地方環境事務所
名古屋市立大学 副学長 教授 伊藤 恭彦 氏
- 団体発表「若者にとっての SDGs～学習活動等の取組紹介や展望～」
中部地方に所在する大学等の学生・ユースグループ、6 団体
中部大学 ESD エコマネーチーム
岐阜大学 G-amet
松本大学
金沢星稜大学
静岡大学
あいちサスティナ研究所 チーム・サンゲツ
- 話題提供「地域の SDGs の取組～自治体の SDGs の取組について～」
中部地方の SDGs 未来都市に選定されている基礎自治体 3 市
富山県南砺市（2019 年度選定）
岐阜県美濃加茂市（2021 年度選定）
長野県上田市（2022 年選定）
- 「見える化プログラム」分析と「地域 SDGs データセット」 ※第 5 期作成ツール活用
- パネルディスカッション「ローカル SDGs 達成のためにすべきこと、できること！」
進行：原 理史（中部地方 ESD 活動支援センター）
総括：伊藤 恭彦 氏（名古屋市立大学副学長、ESD/EPO 中部運営委員会 座長）



⑦開催案内チラシ



SDGs 学生サミット

2024年2月10日(土)
13:00~17:30・オンライン

中部地方の学生・ユースグループ等が「若者にとってのローカルSDGs」をテーマにオンラインで取組を発表します。

発表団体 順不同

- ▶ 中部大学 ESDエコマネーチーム
- ▶ 岐阜大学 G-amet
- ▶ 松本大学
- ▶ 金沢星稜大学
- ▶ 静岡大学 (招待)
- ▶ あいちサスティナ研究所 チーム・サンゲツ (招待)

一般参加 申込不要

- ▶ 当日 YouTubeライブ配信を視聴できます。
- ▶ 視聴URLは webページに掲載します。



ハブとなる中部大学中部高等学術研究所
デジタルアースルーム

プログラム

- **第1部 団体発表**
若者にとってのSDGs～学習活動等の取組紹介や展望～
▶ 中部地方に所在する大学等の学生・ユースグループが、SDGsの取組・活動について発表を行います。
- **第2部 話題提供**
地域のSDGsの取組～自治体のSDGsの取組について～
▶ 中部地方のSDGs未来都市に選定されている基礎自治体の担当者から、施策や取組をご紹介します。
- 富山県南砺市 (2019年度選定)
- 岐阜県美濃加茂市 (2021年度選定)
- 長野県上田市 (2022年度選定)
- **第3部 パネルディスカッション**
ローカルSDGs達成のためにすべきこと、できること！
進行：原 理史 (中部地方ESD活動支援センター)
総括：伊藤 恭彦氏 (名古屋市立大学副学長、ESD/EPO運営委員会 座長)

Webページ ▶ 



主催 ▶ 中部地方ESD活動支援センター (環境省EPO中部)
協力 ▶ 中部大学中部高等学術研究所、国際GISセンター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点



中部地方ESD活動支援センター
Education for Sustainable Development

ウ 地域 ESD 拠点等の ESD 活動の支援

- 拠点登録済み団体が主催するイベント等について、中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイト等で下記の通り、広報協力を行った。

【中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイトに掲載した登録団体への広報協力記事】

地域ESD拠点トピック	地域ESD拠点トピック
<p>2024.02.20 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック いのちをつなぐ水と流域 地球市民対話プロジェクトを開催 開催日時：2024年3月2日（土）10：30～16：30 一般参加の申込締切：2月26日（月）まで</p>	<p>2023.07.25 地域ESD拠点トピック 『なごやSDGsスタンプラリー』を開催 開催期間：2023年8月1日（火）～8月31日（木）</p>
<p>2024.02.20 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック 『四日市の海でアサリを育てよう』を開催 開催日時：2024年3月9日（土）10：30～12：00 申込締切：2024年3月3日（日）【先着30名】</p>	<p>2023.07.21 地域ESD拠点トピック 愛知学院大学×中部大学×なごや環境大学「SDGs普及啓発教育プログラム」受講生募集 申込締切：2023年9月1日（金）</p>
<p>2024.02.08 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック 中部圏SDGs広域プラットフォーム公開セミナー「モニタリングと情報発信」シリーズ～SDGs後半戦における効果的な戦略～を開催 開催日時：2024年2月15日（木）15：00～17：00</p>	<p>2023.06.27 地域ESD拠点トピック 自然ふれあい講座「みんなで温暖化ウオッチ～セミのめけからを控せ！2023～」を開催 開催日程：2023年8月1日（火）～8月6日（日） 開催場所：長野県大町市・飯田市・伊那市・松本市・上田市・長野市</p>
<p>2024.02.01 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック 生物多様性とサブカルチャーの世界を開催 開催日時：2024年3月9日（土）14：00～16：00 申込締切：2024年3月4日（月）※先着300名</p>	<p>2023.05.02 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック SDGs折り紙プロジェクト from 富山を開催 ～あなたのまちから広島へ届けよう～ 開催日時：2023年5月12日（金）・13日（土）10：00～16：00</p>
<p>2024.01.31 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック 『愛知県西尾市「鳥羽の火祭り」は、なにが燃えている？』を開催 開催日時：2024年2月11日（日）14：40～19：00 申込締切：2024年2月8日（木）</p>	<p>2023.04.17 地域ESD拠点トピック SDGsオンラインセミナー「地域の企業から学ぶ脱炭素」を開催 開催日程：6/2、6/30、7/28、8/25（第1回～第4回） 申込締切：5/30、6/27、7/25、8/22</p>
<p>2023.12.01 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック 第2回SDGsリレートークを開催 開催日時：2023年12月13日（水）15：20～16：50</p>	
<p>2023.11.20 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック 第14回中部大学ESD・SDGs研究・活動発表会 開催日時：2023年11月29日（水）15：20～18：10</p>	
<p>2023.10.02 地域ESD拠点トピック 2023年度（第8期）中部サステナ政策塾 塾生を募集 開催時期：2023年10月～2024年2月（全4回） 応募締切：2023年10月15日（日）</p>	
<p>2023.09.28 地域ESD拠点トピック 講座「衣食住からSDGs～日本の伝統編～」を開催 衣食住から日本の伝統的なテーマをピックアップしSDGsとの関わりを学ぶ講座です。 開催日程：10月7日・10月21日・12月2日（全3回）</p>	
<p>2023.09.28 地域ESD拠点トピック 記念講演会「カーボンニュートラルと地域循環共生圏」を開催 開催日時：2023年10月11日（水）15：15～16：45 入場無料・事前予約制</p>	
<p>2023.09.28 地域ESD拠点トピック 四日市の海でアサリを育てようを開催 開催日時：2023年10月28日（土）10：00～12：00 応募締切：2023年10月14日（土）</p>	

(3) 全国センターとの連携協力の推進等

(ア) 全国センターによる年次アンケートの実施支援

- 2023年4月に、全国センターが地域ESD拠点を対象に年次アンケートを実施するにあたり、適宜、中部エリアの地域ESD拠点団体に対し、協力依頼等を行った。

(イ) 地域ESD拠点登録審査への協力

- 今年度、中部エリアにおいて、新たな地域ESD拠点登録の申請は発生しなかった（2024年3月現在、20団体が登録）。

(ウ) 後援申請対応

- 中部地方ESD活動支援センターの後援名義使用について、下記の事務局から全国センターに申請があり、全国センターからの照会対応を行った。

申請主体	承認日	申請行事		
		名称	開催日	場所/方法
名古屋市環境局環境企画課	4月25日	SDGs まちづくり推進事業	2023年5月2日～ 2024年3月31日	各地域等
一般社団法人環境市民プラットフォームとやま(PECとやま)	4月27日	体験型ワークショップ 「気候変動と水のめぐり」	2023年6月10日	大学(富山県射水市内)
一般社団法人 実践倫理宏正会 富山地区	6月28日	エシックスライツ 2023	2023年11月19日	富山産業展示館 (テクノホール)
公益財団法人 こども教育支援財団※	7月21日	第15回 環境教育ポスターコンクール	2023年8月22日～ 2024年3月31日	国内公共施設等
公益財団法人日本極地研究振興会※	8月2日	南極・北極 SDGs 探究学習 コンテスト	2023年8月21日～ 2024年1月31日	オンライン
ESD・国際化ふじのくにコンソーシアム 静岡大学 教育学部※	11月2日	令和5年度 文部科学省ユネスコ活動費補助金 SDGs 達成の担い手育成(ESD)推 進事業「社会教育・学校教育融合型 のESDを主眼としたカリキュラム パッケージの開発」成果報告会	2024年1月20日	北九州市タカミヤ環 境ミュージアム/対 面・オンライン併用
東北地方ESD活動支援センター※	11月9日	東北ESD/SDGsフォーラム2023～ SDGs達成に向けた 東北の今と未来～	2023年12月16日	仙台国際センター /対面・オンライン 併用
北陸ESD推進コンソーシアム	11月27日	2023年度 北陸ユネスコスクール交流会	2023年12月2日	オンライン
信州ESDコンソーシアム	11月28日	令和5年度 信州ESD/SDGs 成果発表&交流会	2024年2月2日～ 2月3日	オンライン
北陸ESD推進コンソーシアム	12月18日	2023年度石川県SDGs・ESD児童 生徒学習活動交流会	2024年1月20日	オンライン
北陸ESD推進コンソーシアム	1月9日	2023年度北陸ESD推進 コンソーシアム成果報告会	2024年2月10日	金沢勤労者プラザ +オンライン

※：全ての地方センターに後援申請があった催事

(エ) 全国センター主催会議等への出席、資料提供等

- 全国 ESD センターから招聘された全ての会議等へ出席し、資料提供などを行った。

会合	回/開催日	実施内容
作業部会	第1回 6月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度の各センターの気候変動教育事業をチャートにおとし、戦略やねらい(社会的インパクト)を共有すること ・ 拠点アンケートのうち気候変動教育の例を抽出して共有すること
	第2回 11月15日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学び合いプロジェクト全体の目標確認 2. 各地方センターの学び合いプロジェクトの共有 3. 気候変動を軸とした ESD 実践事例ヒアリングについて 4. 「ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2023」について
全国・地方 連絡会	第1回 5月31日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【議題1】ESD 関連施策の最新動向、環境関連人材育成施策の最新動向 ・ 【議題2】共有: 全国センターの事業について ・ 【議題3】共有: 各センターの事業予定について ・ 【議題4】気候変動教育に関する共有・議論
	第2回 1月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【議題1】2024 年度 ESD 関連施策の方向性について ・ 【議題2】学び合いプロジェクト報告と気候変動教育の実施状況 ・ 【議題3】2024 年度 ESD 活動支援センター・ESD 推進ネットワークの活動
全国 フォーラム	12月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基調報告: 文部科学省「ESD の推進に向けた文部科学省の取組について」 ・ 基調報告: 環境省「環境施策及び環境教育・ESD の最新動向について」 ・ セッション「気候変動を切り口とした ESD の意義とひろがり」
企画運営 委員会	第1回 6月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開会挨拶・委員紹介 ・ ESD 活動支援センター2023 年度事業について ・ 2022 年度地域 ESD 活動推進拠点アンケート結果
	第2回 2月27日	<ol style="list-style-type: none"> 1. ESD 活動支援センターの本年度主要事業について(報告) 2. 気候変動を切り口とした ESD の今後の進め方について(2025 年度迄の方針) 3. 2024 年度 ESD 活動支援センターの活動について
全国ネット ワーク団体意 見交換会	9月13日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 【話題提供】国内外の ESD・気候変動教育の動向 2. 【話題提供】日本環境教育学会「気候変動教育プロジェクト」について 3. 【話題提供】中小企業を対象とした研修教材の紹介 4. 総括コメント 5. 「ESD 推進ネットワーク全国フォーラム」の案内

(4) 自然資産等の活用によるESD促進（ESDダイアログの開催）

① イベント名

- 南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク ESDダイアログ 2023
～自然を活用する人づくり～

② 日時

- 1日目 ESDダイアログ：2023年11月18日（土）13：30～16：30
- 2日目 エクスカーション：2023年11月19日（日）8：30～14：40

③ 会場

- 1日目：伊那市生涯学習センター 5階 研修室（長野県伊那市）
- 2日目視察地：南アルプス（中央構造線エリア）ジオパークの見学

④ 主催等

- 主催：中部地方ESD活動支援センター（環境省EPO中部）
- 共催：南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク協議会（飯田市、伊那市、大鹿村）

⑤ 参加者

- 1日目：41名（一般参加15名、登壇者・関係者・事務局26名）
- 2日目：19名（一般参加6名、関係者・事務局13名）

⑥ プログラム

1日目 ESDダイアログ

○あいさつ

環境省中部地方環境事務所 課長補佐 縄野 正衡

南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク協議会副会長／大鹿村教育長 田本 忍 氏

○第一部 基調講演

「国立公園とジオパーク ～自然の保全と活用の今」

環境省伊那自然保護官事務所 石橋 岳志 氏

「自然資本を活かした地域創生とESD」

信州大学教育学部 助教 水谷 瑞希 氏

○第二部 活動報告

「地域で“食、”を支える 過疎地の小規模校の挑戦」

伊那市立長谷中学校 2年生のみなさん

「遠山郷エコジオパークフィールドスタディ」

松本大学 専任講師 田開 寛太郎 氏、田開研究室所属 工藤 太陽 氏

「南アルプスの大鹿歌舞伎」

大鹿村教育委員会 佐合 礼文 氏

○第三部 中部地方ジオパークの紹介（4ジオパーク）～パネルディスカッション

パネリスト：一般社団法人立山黒部ジオパーク協会 専門員 森内 裕之 氏

白山手取川ジオパーク推進協議会 日比野 剛 氏

恐竜溪谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会 町 澄秋 氏

南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク協議会 小澤 恵理 氏

環境省伊那自然保護官事務所 石橋 岳志

コメンテーター：信州大学教育学部 助教 水谷 瑞希 氏
 コーディネーター：中部地方 ESD 活動支援センター 原 理史

2日目 エクスカーション

○南アルプス（中央構造線エリア）ジオパークサイトの見学



⑦2日目エクスカーション

2日目 エクスカーション 南アルプス(中央構造線エリア)ジオパークサイトの見学 11月19日(日) 8:30~14:40

マイクロバスで移動。自家用車の利用も可能です。

《 行程 》

- 8:30 ○ 伊那市駅前 【集合 / 出発】
- 市場神社舞台 大鹿歌舞伎の舞台を見学
- 中央構造線河合鞍部 中央構造線の断層鞍部と断層丘陵を観察
- 中尾上部 地藏峠方面の断層が侵食された谷と大西山崩壊地を遠望
- 大西公園 昼食* (天候によっては交流センター) * お弁当を美費にてご提供します。
- 大鹿村中央構造線博物館... 岩石園 露頭剥ぎ取り標本 1万分の1地形地質模型
- 14:40 ○ 伊那市駅前 【解散】



⑧開催案内チラシ



南アルプス(中央構造線エリア)ジオパーク ESDダイアログ 2023

～ 自然を活用する人づくり ～

2023年11月18日(土)～19日(日) @ 南アルプス(中央構造線エリア)ジオパーク

悠久の地球を体感できるジオパーク。生物と文化の多様性を育む大地を通じてESD;持続可能性教育を自然の基(もと)から考えるダイアログ(対話の場)を開催します。

様々なESD学習活動に携わる皆様はもちろん、自然やSDGsにご興味のある方、参加をお待ちしています。

1日目 ESDダイアログ

日時 11月18日(土) 13:30-16:30
会場 伊那市生涯学習センター 5階 研修室
長野県伊那市荒井3500番地1

2日目 エクスカーション

南アルプス(中央構造線エリア)ジオパークの見学
日時 11月19日(日) 8:30-14:40
出発/解散 JR伊那市駅前

〈ESDダイアログのプログラム及びエクスカーションの行程は、裏面をご覧ください〉

参加申込方法

申込方法 参加申込フォームからお申し込みください。
<https://forms.gle/vbepcQnLbcimsw1CA>
ウェブサイトからも申込できます。
※ 1日目または2日目のみの参加も可能です。
申込締切：11月7日(火)必着

参加費 参加は無料です。
※ 宿泊は各自で手配願います。
※ 2日目の昼食は実費となります。

お問合せ 中部地方ESD活動支援センター(環境省EPO中部)
E-mail:office@chubuesdcenter.jp



参加申込フォーム

写真「南アルプスの山岳景観」 提供：南アルプス(中央構造線エリア)ジオパーク協議会

主催：中部地方ESD活動支援センター(環境省EPO中部)
共催：南アルプス(中央構造線エリア)ジオパーク協議会(飯田市、伊那市、大鹿村)

南アルプス(中央構造線エリア)ジオパーク ESDダイアログ 2023
 ~ 自然を活用する人づくり ~

1日目 ESDダイアログ

11月18日(土) 13:30~16:30
 伊那市生涯学習センター* 5階 研修室

※〒396-0025 長野県伊那市荒井3500番地1 いなっせ5階 (JR伊那市駅から徒歩5分)
http://www.inacity.jp/shisetsu/kominkan_senter/shogaigakushuser/access/map.html

《プログラム》

挨拶 縄野正衛氏 環境省中部地方環境事務所課長補佐

挨拶 田本 忍氏 南アルプス(中央構造線エリア)ジオパーク協議会副会長/大鹿村教育長

第1部 基調講演 「国立公園とジオパーク ~自然の保全と活用の今」 石橋岳志氏 環境省伊那自然保護官事務所
 「自然資本を活かした地域創生とESD」 水谷瑞希氏 信州大学教育学部助教

第2部 活動報告 「地域で食を支える 過疎地の小規模校の挑戦」 伊那市立長谷中学校2年生のみなさん
 「遠山郷エコジオパークフィールドスタディ」 田開寛太郎氏 松本大学専任講師
 工藤太陽氏 田開研究室所属
 「南アルプスの大鹿歌舞伎」 佐合礼文氏 大鹿村教育委員会

第3部 中部地方ジオパークの紹介(4ジオパーク)~パネルディスカッション

パネリスト(予定): 一般社団法人立山黒部ジオパーク協会

白山手取川ジオパーク推進協議会

恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会

南アルプス(中央構造線エリア)ジオパーク協議会

石橋岳志氏 環境省伊那自然保護官事務所

コメンテーター: 水谷瑞希氏 信州大学教育学部 助教

コーディネーター: 原 理史 中部地方ESD活動支援センター

2日目 エクスカーション

南アルプス(中央構造線エリア)ジオパークサイトの見学 11月19日(日) 8:30~14:40

マイクロバスで移動。自家用車の利用も可能です。

《行程》

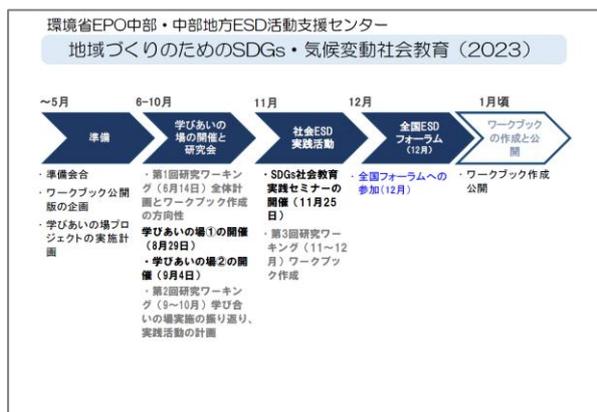
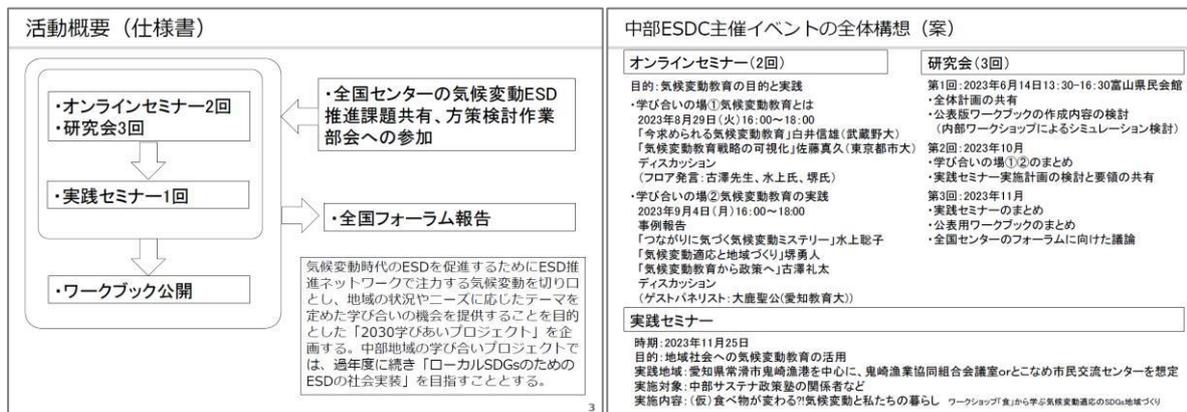
- 8:30 ○ 伊那市駅前 【集合 / 出発】
- 市場神社舞台 大鹿歌舞伎の舞台を見学
- 中央構造線河合鞍部 中央構造線の断層鞍部と断層丘陵を観察
- 中尾上部 地蔵峠方面の断層が侵食された谷と大西山崩壊地を遠望
- 大西公園 昼食* (天候によっては交流センター) ※ お弁当を実費にてご提供します。
- 大鹿村中央構造線博物館... 岩石園 露頭剥ぎ取り標本 1万分の1地形地質模型
- 14:40 ○ 伊那市駅前 【解散】

(5) 域内外の多様な主体の連携促進、交流機会の提供

ア 活動計画の作成

- 中部エリアの「ESD for 2030 学び合いプロジェクト」の企画にあたり、学び合いの場（全2回）、実践活動（全1回）についての「活動計画」を SDGs 社会教育研究会ワーキングにおいて検討のうえ作成した。

【作成した活動計画】



イ ノウハウの共有と推進に関する方策の検討

- 気候変動を切り口とした ESD を推進するため、全国センターが開催する作業部会に参加し、ノウハウや課題の共有、方策の検討を行った。
 - 前項「(3) 全国センターとの連携協力の推進等／(エ) 全国センター主催会議等への出席、資料提供等」の表中に、作業部会への出席についても記載。

ウ 交流者の参加募集

- 学び合いの場①、学び合いの場②、実践セミナーの参加者募集を行うにあたり、開催案内用の広報素材、チラシを作成して、地域 ESD 拠点への案内、ウェブサイト・SNS 等での広報展開を行った。

【作成した開催案内用素材】



【作成した開催案内チラシ】



ESD for 2030 学び合いプロジェクト

地域づくりのための気候変動社会教育

食べ物が変わる?!

気候変動と私たちの暮らし

地域づくりの担い手や次世代育成のための気候危機適応を、「食」の観点から「地域づくり」に活かすことをテーマにしたセミナーを開催します。
「食」を身近に感じるために漁港を訪問し、食材と自然の関わりについての話題を聞いた後、現場で海苔養殖の現状を体感します。また、気候変動と「食」にまつわるつながりを議論し、生活と地球環境について考えます。

2023年11月25日(土) 10:00~16:00
愛知県常滑市鬼崎漁港・鬼崎漁業協同組合会議室
愛知県常滑市蒲池町3-97 <https://www.onigyo.com/>

★ 参加方法：現地参加 または オンライン参加(第1部のみ)
現地参加の方は、当日10:00に鬼崎漁業協同組合会議室(3階)までお越しください。

第1部 話題提供 食の変化と気候変動 10:00~12:00

- 「森里川海からとれる食、気候変動でどう変わる?」
井上俊樹氏 農林水産省東海農政局企画調整室長
- 「伊勢湾三河湾の水産資源の移り変わり」
植村宗彦氏 愛知県水産試験場漁業生産研究所主任研究員
- 「水産業の現場から、鬼崎漁業協同組合」 平野正樹氏 鬼崎漁業協同組合参事
- 「気候変動影響と適応対策」 杉山範子氏 東海学園大学教授(オンライン)

第2部 昼食と現地視察 12:00~14:00
～海苔養殖関連施設等の見学、昼食(各自実費支払)～
コーディネーター：古澤礼太氏 中部ESD拠点・サステナ政策塾

第3部 ワークショップ 14:00~16:00
「食」から学ぶ気候変動適応のSDGs地域づくり
総合ファシリテーター：古澤礼太氏 中部ESD拠点・サステナ政策塾

▶ 参加申込フォーム → <https://forms.gle/GqBFAt7uHqaesm47>
※ 定員：現地参加30名 + オンライン参加70名
ウェブサイトからもお申し込みできます。
申込締切：11月17日(金)  参加申込フォーム

▶ 参加費：無料
※ ただし現地参加者の昼食は実費(800円)となります。

▶ お問い合わせ 中部地方ESD活動支援センター(環境省EPO中部) → office@chubuesdcenter.jp

主催：中部地方ESD活動支援センター(環境省EPO中部)
共催：中部ESD拠点協議会(事務局：中部大学)

「ESD for 2030 学び合いプロジェクト」について
全国8カ所の地方ESDセンターでプロジェクトを展開しています。
詳細はESD活動支援センターのwebページ <https://esdcenter.jp/> をご覧ください。

エ 学び合いの実施（「学び合いの場」「SDGs 社会教育研究会 WG」）

（ア） 学び合いの場①の開催

① イベント名

- <ESD for 2030 学び合いプロジェクト>地域づくりのための気候変動社会教育
学び合いの場①「気候変動教育とは」

② 日時

- 2023年8月29日（火）16:00～18:00

③ 開催方法

- オンライン（zoom）

④ 主催

- 中部地方 ESD 活動支援センター

⑤ 参加者

- 35 件（zoom 接続数／登壇者・事務局含む）

⑥ プログラム

○ごあいさつ

○講演「今求められる気候変動教育」

武蔵野大学工学部サステナビリティ学科 教授 白井 信雄 氏

○講演「気候変動教育戦略の構築と構造の可視化」

東京都市大学大学院環境情報学研究科 教授 佐藤 真久 氏

○ディスカッション

進行：中部地方 ESD 活動支援センター 原 理史



(イ) 学び合いの場②の開催

①イベント名

- <ESD for 2030 学び合いプロジェクト>地域づくりのための気候変動社会教育
学び合いの場②「気候変動教育の実践」

②日時

- 2023年9月4日(月) 16:00~18:00

③開催方法

- オンライン (zoom)

④主催等

- 主催：中部地方 ESD 活動支援センター

⑤参加者

- 33件 (zoom 接続数/登壇者・事務局含む)

⑥プログラム

- ごあいさつ
- 事例報告「流域圏 ESD と気候変動教育」
中部大学国際 ESD・SDGs センター 准教授 古澤 礼太 氏
- 事例報告「気候変動教育としての流域治水」
一般社団法人環境市民プラットフォームとやま(PEC とやま) 事務局長 堺 勇人 氏
- 事例報告「次世代につなぐ ESD の可能性ーその方法論」
アルマス・バイオコスモス研究所 代表 水上 聡子 氏
- ディスカッション
進行：中部地方 ESD 活動支援センター 原 理史
コメンテーター：愛知教育大学教育学部 教授 大鹿 聖公 氏



(ウ) 第1回 SDGs 社会教育研究会WG

①日時

- 2023年6月14日(水) 13:30~16:30

②会場

- 富山県民会館 608号室(富山県富山市)

③出席者

- 6名

古澤 礼太	中部大学国際ESD/SDGsセンター准教授、中部ESD拠点協議会事務局長
水上 聡子	EPO中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表
堺 勇人	EPO中部運営委員、一般社団法人環境市民プラットフォームとやま(PECとやま)事務局長
原 理史	中部地方ESD活動支援センター、中部大学国際ESD/SDGsセンター研究員(非常勤)
縄野 正衡	オブザーバー 環境省中部地方環境事務所環境対策課長補佐
清本 三郎	事務局 中部地方環境パートナーシップオフィス 統括

④協議項目

1. 昨年度成果と今年度計画
2. ワークブックニーズ検討のためのペルソナワークショップ
 - ・シナリオ1: 問題意識のある企業の担当者
 - ・シナリオ2: 地域の公共施設で住民へのアウトリーチを命じられた担当者
 - ・シナリオ3: 課題を抱えている自治会の役員
3. その他



(エ) 第2回 SDGs 社会教育研究会WG

①日時

- 2023年10月24日(火) 13:30~16:30

②会場

- 福井市地域交流プラザ 研修室 608 (福井県福井市)

③出席者

- 6名

古澤 礼太	中部大学国際 ESD/SDGs センター准教授、中部 ESD 拠点協議会事務局長
水上 聡子	EPO 中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表
堺 勇人	EPO 中部運営委員、一般社団法人環境市民プラットフォームとやま(PECとやま)事務局長
原 理史	中部地方 ESD 活動支援センター、中部大学国際 ESD/SDGs センター研究員(非常勤)
縄野 正衡	オブザーバー 環境省中部地方環境事務所環境対策課長補佐
清本 三郎	事務局 中部地方環境パートナーシップオフィス 統括

④協議項目

- ペルソナワークショップの結果、学び合いの場①と②の結果
- ワークブックのデザインと内容
- 実践セミナーの企画



(才) 第3回 SDGs 社会教育研究会WG

①日時

- 2023年11月24日(金) 12:30~15:00

②会場

- 中部大学中部高等学術研究所リサーチセンター共同利用共同研究室(愛知県春日井市)

③出席者

- 7名

古澤 礼太	中部大学国際ESD/SDGsセンター准教授、中部ESD拠点協議会事務局長
水上 聡子	EPO中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表
塚 勇人	EPO中部運営委員、一般社団法人環境市民プラットフォームとやま(PECとやま)事務局長
原 理史	中部地方ESD活動支援センター、中部大学国際ESD/SDGsセンター研究員(非常勤)
縄野 正衡	オブザーバー、環境省中部地方環境事務所 環境対策課長補佐
清本 三郎	事務局 中部地方環境パートナーシップオフィス 統括
富田 夏子	事務局

④協議項目

- これまでの実践状況・実績に関する質疑・議論
- ワークブックの議論
- 実践セミナーと全国フォーラム
- その他



オ 実践活動の開催

①イベント名

- 地域づくりのための気候変動社会教育
実践セミナー 食べ物が変わる?! 気候変動と私たちの暮らし

②日時

- 2023年11月25日(土) 10:00~16:00

③会場

- 鬼崎漁港・鬼崎漁業協同組合会議室(愛知県常滑市)

④主催等

- 主催: 中部地方ESD活動支援センター(環境省EPO中部)
- 共催: 中部ESD拠点協議会(事務局: 中部大学)

⑤参加者

- 43名(一般参加27名、登壇者・関係者・事務局16名)

⑥プログラム

○あいさつ

○話題提供: 「森里川海からとれる食、気候変動でどう変わる?」

農林水産省東海農政局企画調整室長 井上 俊樹 氏

○話題提供: 「伊勢湾三河湾の水産資源の移り変わり」

愛知県水産試験場漁業生産研究所 主任研究員 植村 宗彦 氏

○話題提供: 「水産業の現場から、鬼崎漁業協同組合」

鬼崎漁業協同組合 参事 平野 正樹 氏

○話題提供: 「気候変動影響と適応対策」

東海学園大学 教授 杉山 範子 氏

○昼食と現地視察 海苔養殖関連施設等

コーディネーター: 中部ESD拠点・サステナ政策塾 古澤 礼太 氏

○ワークショップ 「食」から学ぶ気候変動適応のSDGs地域づくり

総合ファシリテーター: 中部ESD拠点・サステナ政策塾 古澤 礼太 氏

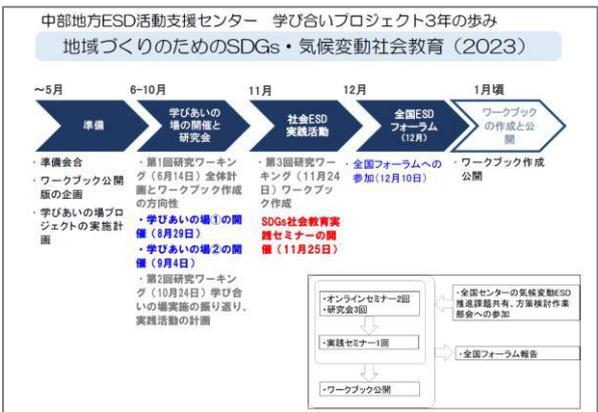
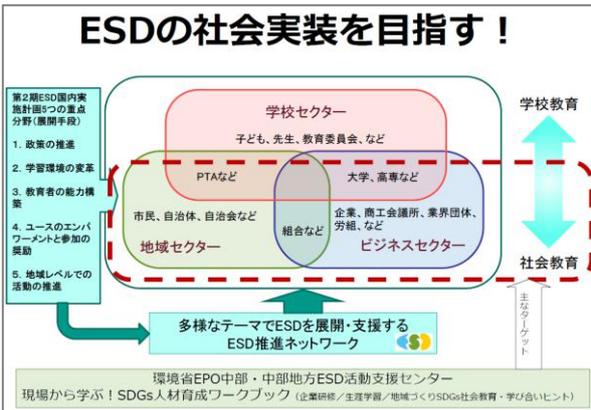


カ 報告（全国フォーラムでの活動結果報告）

- 12月9日開催「ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2023」に出席し、今年度実施した学び合いプロジェクトについての報告を行った。
- また、会場内にブース出展を行い、学び合いプロジェクトの3カ年度での実施内容や中部地方 ESD 活動支援センターによる ESD 支援業務についての紹介を行った。



【作成した全国フォーラム発表資料】



実践セミナー231125

中部地方ESD活動支援センター
学び合いプロジェクト2023

実践セミナー

愛知県常滑市鬼崎漁港
鬼崎漁業協同組合会議室
2023年11月25日(土)
10:00~16:00

第1部 話題提供 食の変化と気候変動 10:00-12:00

- 「森里川海からとれる食、気候変動でどう変わる?」
井上崇樹氏 農林水産省東海農政局企画調整室長
- 「伊勢湾三河湾の水産資源の移り変わり」
植村宗彦氏 愛知県水産試験場漁業生産研究所主任研究員
- 「農林水産業の現場から、鬼崎漁業組合」平野正樹氏 鬼崎漁業組合幹事
- 「気候変動影響と適応対策」杉山節子氏 東海学園大学教授(オンライン)

第2部 昼食と現地視察 12:00-14:00
～海苔養殖関連施設等の見学、昼食(各自実費支払)～
コーディネーター：古澤礼太氏 中部ESD拠点 サステナ政策塾

第3部 ワークショップ 14:00-16:00
「食」から学ぶ気候変動適応のSDGs地域づくり
総合ファシリテーター：古澤礼太氏 中部ESD拠点 サステナ政策塾

システム思考！ミステリーカードによる構造図の作成

ミステリーカード5種 (のり、あさり、しいたけ、あゆ、ぶどう)

ファクトカード全27枚のうち6例

実践セミナーの実施

サステナ政策塾の塾生や温暖化防止活動推進員、NPOの関係者なども参加しての充実した学びの場となりました。午前中の講演、昼食と視察、ワークショップでも熱心に参加いただき俯瞰的に関連付けて考える「システム思考」の向上に役立つ場となりました。また昼食は地元海産物の鍋と海苔のおにぎりをみんなで作り、とても楽しい食事会となりました。カニが美味しかったです！

(6) 「中部版 ESD ワークブック」の作成

- 中部地方のローカル SDGs を担う人材育成に役立つ ESD 情報ツールパッケージとして、「中部版 ESD ワークブック」を、昨年度までに作成した試行版ワークブックをもとに、SDGs 社会教育研究会WGで検討・協議のうえ作成した。
- 完成したワークブックは印刷し、冊子として関係者・イベントでの配布、EPO 中部施設内での配架を行ったほか、ウェブサイトで公開した。

①SDGs 社会教育研究会WGでの検討資料 (第1回・第2回 WG の資料より)

目標：公表用ワークブックの作成

- SDGs社会教育の学習目標
佐藤の「正解がない問いと共に生きる時代」への対応

生活している地域・社会・地球のために「問い」を常に持って学び合い行動する態度を身につける

- 生活して行動する場面とは
- 地域・社会・地球のための「問い」とは
- 問いを持ち行動に移すための学びとは

- 作成目標
学習イベントの企画者、実施者にとって自分のミッションを実現する手助けとなる冊子。

- 新しいタイトル案を考え直してみる (現行)

現場から学ぶ！SDGs人材育成ワークブック 企業研修/生涯学習/地域づくり SDGs社会教育・学び合いヒント

(案1) ウォッシュにならないためのSDGs学びのつくり方
(案2) 地域づくりは人づくり～学びから未来へ
(案3) あなたとまわりのなやみを同時に解決！問いが地球を救う

等々 20

目標：公表用ワークブックの作成

- ワークブックの要件の想定
学習イベントの企画者、実施者にとって自分のミッションを実現する手助けとなる冊子。
○手に取りめくってみる気になるタイトル。
○課題感に対する答えがある。
○答えにたどり着くステップを踏んでいる。
○まねできる方法の事例が載っている。

再構成の例	内容の例	これまでの最立て
○新しい未来でやりたい自分の事がた	「SDGs社会教育」の学習目標	1. ローカルSDGs実現のための人づくり「SDGs社会教育」が必要なわけ
○こんな楽しい学び方がある	体験ワークショップなど、楽しい部分の紹介ストーリー	2. 「SDGs社会教育」の学習目標～どんな人になりたいか
○やり方はバリエーションが豊富	SDGs社会教育事例、実施方法、実施体制	3. 実践方法を考える～中部地方の実例から①
○学ぶのは楽しい、学んでもらうのはもっと楽しい	SDGs社会教育事例、実施方法、実施体制	4. 実践方法をどのように構築するか～中部地方の実例から②
○先立つものは必要だ	資金調達、地域資源の利活用、制度、人材	5. 具体的に実施して～中部地方の実例から③
○さあ始めるぞ	企画と実施のステップ解説とチェックリスト	(1) 海洋ごみからSDGsを考える (2) 気候変動教育をまちづくりに活かす
○本場に役に立ったのか?	成果の考え方や評価方法	6. 実践効果をどう考えるか

21

目標：公表用ワークブックの作成

●手に取ってもらうワークブックをつくるために～ニーズを考え直してみる
(関係者の本音を想像してみる、例：本音ストーリー①～⑤)

- ①問題意識のある企業の担当者
 - ・CSRの担当を社長から命じられたのだが、何をすればいいのかが、社長が喜ぶことだとすると、うちはこんなことやっている素敵な会社なんだと周りに言いつつそれとなく営業することか。SDGsとかが流行りらしいが、あと、電気代が高くなりすぎて将来が心配だとこぼしていたな。。。
- ②家庭で家事や子育てを担当している例は主婦
 - ・だいたいうちの家族は家事の大変さを理解していないわよ。電気はつけっぱなしだし、休みはごろごろしているだけだし、外で少しは役に立つことできないのだから。清掃活動なんかの、ご近所づきあいはないでたことないし。最近流行りの「わたしのSDGs」でもすればいいのよ。。。
- ③地域の公共施設で住民へのアウトリーチを命じられた担当
 - ・予算もないのにやられていくのさ、あのぼんくら課長が。だいたい生涯学習講座なんて隣町すぎて誰も来ないわよ。うち施設を動かして言うけど、人が集まってこそでしょ。どうせなら意味のあることやりたいし。。。
- ④自治体まちづくり担当、環境担当など、市民の協力を得て施策を展開したい部署
 - ・そりゃ市長は簡単言うさ。「市民目線のまちづくりを」って、やるのは現場なんだけど。予算はないに等しいし、それをもって成果を出せと。そもそもどんな成果があるんだ？人を集めるだけじゃだめだよ。。。
- ⑤課題を抱えている自治会の役員
 - ・まったく最近の若い者は、会合に出てこようとせん。ごみルールの問題もあるし、通学路の安全指導会の件もあるし、問題は山積みだというに。昔はこの地域も住みやすかったものだが、将来どうなることか。なんか大学の先生とやらが会合をやりましょうよって言ったが、どうせしたいものじゃないだろうし。まあ、会長は会長のようにならねえし、暇つぶしにはなるか。。。

22

第1回研究ワーキング
ペルソナワークショップ結果の検討

7

SDGs社会教育ペルソナワークショップ

●より具体的に考えていくために～ユーザーの本音を踏まえて
SDGs社会教育のイベントの企画実施シミュレーションワークショップ
【概要】
ワークブックのニーズを検討するため各人が疑似ペルソナを持ち架空の打合せを行う

○配役と役割：4人で構成、A～Cの3人が議論、ファシリテーションと記録はDが担当
A：当事者、B：上役、C：当事者の同僚、あるいは関係者、D：コンサルタント

○シチュエーション
コンサルタント(D)を交えてSDGs社会教育のイベントの企画の打合せをする。

○コンサルタント(D)は以下の観点をもとにニーズを抽出して事業企画につなげるプレ-ンストリーミングを行う。

テーマ「学習イベント実施の問題点の洗い出し」

- ・学習イベント企画の課題感
- ・学習イベント目標の設定
- ・参加者のハードル
- ・学習イベント実施の問題(各種資源：こと、ひと、もの、かね)
- ・参加者の当事者都合
- ・事業の効果

8

ペルソナの設定方法

当事者(中心人物)のペルソナの作成

設定項目	設定方法
ペルソナ概要	「関係者の本音を想像してみる」より
つづき内容	「関係者の本音を想像してみる」より
名前(仮名)	Web上の疑似個人情報生成ツールで作成*
年齢・性別	Web上の疑似個人情報生成ツールで作成*
職業(立場)	ペルソナ概要から想像
役職・学歴・経歴	ペルソナ概要から想像
住所	Web上の疑似個人情報生成ツールで作成*
居住環境	ペルソナ概要と住所から想像
家族構成	ペルソナ概要とつづき内容から想像
性格(価値観・人生観)	ペルソナ概要とつづき内容から想像
当該組織等での人間関係	ペルソナ概要とつづき内容から想像
SDGs社会教育に関わる現在の課題	ペルソナ概要とつづき内容から抽出

*<https://hogehegoe.tk/personal/generator/>

9

ワークショップ時間割と配役

- 各シナリオ毎の時間配分(1シナリオ40分)
- ・各配役のペルソナの記入または修正(5分)、共有(5分)
- ・事業企画打合せのシミュレーション(20分)
- ・当事者側のニーズの抽出(10分)

配役(敬称略)	シナリオ1 問題意識のある企業の担当者	シナリオ2 地域の公共施設で住民へのアウトリーチを命じられた担当者	シナリオ3 課題を抱えている自治会の役員
A：当事者	堺(係長：榎本)	水上(担当：西野)	原(自治会役員：平田)
B：上役	原(上司の総務課長)	堺(上司の課長)	古澤(自治会長)
C：当事者の同僚、あるいは関係者	水上(榎本係長の部下、入社5年目)	古澤(当事者の先輩)	水上(女性部会長)
D：コンサルタント	古澤	原	堺

- 事前準備
- ・A,B,Cの配役に割り振られたメンバーは、事前にシナリオを確認
- ・様式(word)に対し、Aは必要に応じて追記、B,C担当は簡単なペルソナを記入

10

シナリオ1 問題意識のある企業の担当者

ペルソナ初期設定

シナリオ1	問題意識のある企業の担当者
つづき内容	CSRの担当を社長から命じられたのだが、何をすればいいのかが、社長が喜ぶことだとすると、うちはこんなことやっている素敵な会社なんだと周りに言いつつそれとなく営業することか。SDGsとかが流行りらしいが、あと、電気代が高くなりすぎて将来が心配だとこぼしていたな。。。
名前(仮名)	榎本哲也(エノモトテツヤ)
年齢・性別	45、男
職業(立場)	CSRの担当、新任、社長から特命
学歴・学歴・経歴	岐阜大学経済学部出身、地元密着の製造業勤務、総務課に所属(係長)
住所	岐阜県山県市
居住環境	実家の近くにマンションを購入している。
家族構成	専業主婦の妻と子ども二人(中一の娘、小4の息子)
性格(価値観・人生観)	実直で保守的、趣味はマラソンと写真。妻は教育熱心でPTAにも積極的に参加している。
当該組織等での人間関係	人間関係は良好、上司の課長(年齢55、男)は社長からの特命を少し迷惑に思っている、部下に入社5年目のネットに堪能な若手がいる
SDGs社会教育に関わる現在の課題	SDGsをよく聞くが会社とどういう関わりがあるか不明瞭。社長からは外に発信できる成果を求められている。会社に利益のある事業企画を立案したいと思っている。

11

シナリオ1 問題意識のある企業の担当者 結果の検討

配役(敬称略)	シナリオ1	「CSRの担当を社長から命じられたのだが、何をすればいいのかが、社長が喜ぶことだとすると、うちはこんなことやっている素敵な会社なんだと周りに言いつつそれとなく営業することか。SDGsとかが流行りらしいが、あと、電気代が高くなりすぎて将来が心配だとこぼしていたな。。。」
A：当事者	堺(係長：榎本)	
B：上役	原(上司の総務課長)	
C：当事者の同僚、あるいは関係者	水上(榎本係長の部下、入社5年目)	
D：コンサルタント	古澤	

シミュレーション後の議論の結果

- ・CSRの工場活動からの脱却を目指すのが企業としてのメリット
- ・企業の持続性＝社会の持続性を目指すという意義の再確認の結果
- ・SDGs取組の意義
 - ①本業や活動の見直しと紐付けによる事業価値の向上
 - ②経営のカバンスチェック
 - ③地域への貢献
- ・SDGs取組をストーリー化することでステークホルダー、新入社員への説明もしやすくなる
- ・ESDの取組で、年功序列的な圧力もなく、自由でフラットな議論の場を作る機能が期待できる

ESDの字(び) = SDGsによる企業経営の見直し

12

②完成した「中部版 ESD ワークブック」の原稿 (<https://www.epo-chubu.jp/tool/esdworkbook>)

あ と が き

環境省と文部科学省の事業であるESD推進ネットワークでは、さまざまな分野でのESD推進を支援しています。中部地方ESD活動支援センターでは社会におけるESD推進を目的とした支援活動を展開し、令和3～5年度には、「学びあいプロジェクト」を実施しました。

プロジェクトでは年に3回の研究会、公開オンラインセミナー2回、公開現地ワークショップ1回、全国ESD推進フォーラム分科会などを開催し、人づくりのための学びのあり方について検討を進めてきました。その結果を元に地域社会でのESDの現場でヒントとなるよう作成したのがこのワークブックです。企業研修、生涯学習、地域づくりなどの現場で、何か一つでも皆さまのお役に立つ内容があれば幸いです。

検討にあたり、現地の関係者やその他支援をいただいた皆さまをはじめ、ESD推進ネットワークの関係者の皆さまに感謝します。特に東京都市大学の佐藤真久先生には、学術的的背景をはじめとした専門的な助言に感謝いたします。

2023年12月 中部地方ESD活動支援センター
(環境省中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部))
SDGs社会教育研究会WG

●参考情報一覧(2023年12月現在)

事例1：海岸ごみからSDGsを考える
中部地方ESD活動支援センターホームページ(ESD for 2030 学びあいプロジェクト)実践セミナーを開催しました
<https://chubu.esdcenter.jp/2021/11/12/4105.html>

事例2：食から気候変動を考える体験学習
中部地方ESD活動支援センターホームページ、(ESD for 2030 学びあいプロジェクト)地域づくりのための気候変動社会教育～学び合いの場①の&実践セミナーを開催
https://chubu.esdcenter.jp/phot_topics/2023manabiai

方法1：気候変動ミステリーワークショップ
○福井県ホームページ、福井県気候変動教育プログラム事業
<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/kankyuu/ee/kikouhendou-kyouiku-program.html>
監修：福井県気候変動ワークショップ

方法2：脱炭素まちづくりシグソールワークショップ
○福井県ホームページ、福井県気候変動教育プログラム事業
<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/kankyuu/ee/kikouhendou-kyouiku-program.html>
応用編「課題解決ワークショップ」

方法3：グラレコを使ったSDGsトークカフェ
○一般社団法人環境市民プラットフォームとやま(PECとやま)ホームページ、【実施しました】SDGsトークカフェ①〇〇でも生きやすい〇〇からの富士のカタチ(全6回)
<https://www.pectoyama.org/post/event200912>

方法4：共通様式を使ってオンラインSDGs交流
○環境省中部環境パートナーシップオフィスホームページ、「SDGs学生サミット」のYouTube動画を公開中
<https://www.epo-chubu.jp/epo-news/17840.html>
プログラムと資料DL 第1回 団体発表

地球市民へ!

地域づくりは人づくり、 学びから未来へ

ESD

for SDGs

現場から学ぶ!

学び合いの場づくり ワークブック



地域づくり



企業研修



生涯学習



中部地方ESD活動支援センター
SDGs社会教育研究会WG



●SDGs社会教育研究会WG

古澤礼太	中部大学国際ESD・SDGsセンター准教授、中部ESD拠点協議会事務局長
水上聡子	EPO中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表
堺 勇人	EPO中部運営委員、一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま(PECとやま)事務局長
原 理史	中部地方ESD活動支援センター、中部大学国際ESD・SDGsセンター研究員
●オブザーバー	環境省中部地方環境事務所環境対策課
●事務局	中部地方ESD活動支援センター(環境省中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部))

2024年3月

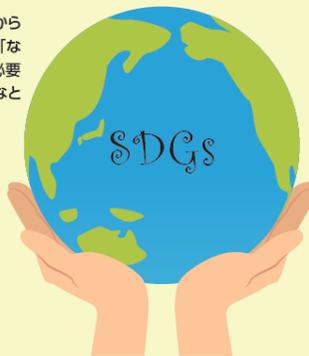
SDGsは待ったなし! 今大切な 未来のための人づくり

地元を良くしたいと考えている皆さん。地域づくりは人づくりから始まります。そのとき大切なキーワードが「ESD」と「SDGs」。「なんか昔ではやっていないSDGs。関係あるのかなあ。勉強会が必要かなあ。なんか教育現場でESDとも言っているなあ」——そんなとき、このワークブックはきっと役に立ちます。

ESDってなんだろう?
SDGsのための人づくりってなんだろう?

そんな基本的なことから、
何を目標にするんだ?
どんな分野があるんだ?
どんなやり方があるんだ?
どんな人を呼べばいいんだ?
実際に何をすればいい?
それで役に立つのか?

といった実践的なことまで、考えるヒントが満載です。



いろいろな場面で悩みはさまざまです

CSRの担当を社長から命じられたんだが、SDGsとかが流行らしい。何をすればいいのかわからない。社長が喜ぶことだとすると、うちはこのことをやっている素敵な会社なんだと周りに言いつつ、それとなく営業することか。

そういえば、経理が「電気代が高くなりすぎて将来が心配だ」とこぼしていたな……。

製造業総務部門勤務
覆本さん(45才、仮名)



学びの目的

SDGsから企業経営を見直し、地域への貢献のあり方を考える

予算もないのに何をやっていいのかわからない。だいたい生涯学習講座なんて誰も来ないわよ。うちの施設を活かして言うけど、人が集まってくれそう。どうせなら意味のあることやりたいし……。

福祉協議会勤務
西野さん(29才、仮名)



学びの目的

「わがごと、まるごと、の地域づくり」を高い視点から理解する

最近会合への集まりが悪くて困ったもんだ。ごみの出し方のルールの問題もあるし、通学路の安全指導会の件もあるし、問題は山積みだというのに。昔はこの地域も住みやすかったものだが、将来どうなることか。なんか大学の先生とやらが勉強会をやりましょうと言ったが、はて……。

農業・自治会役員
平田さん(72才、仮名)



学びの目的

立場や世代の違いを超えた地元への共感を育む

ESDとSDGs

ESD Education for Sustainable Development
(持続可能な開発のための教育)

SDGs Sustainable Development Goals
(持続可能な開発の到達目標)

ESDは、2002年の「持続可能な開発に関する世界首脳会議」で日本が提唱した考え方です。同じ年に「国連持続可能な開発のための教育の10年」が国連総会で採択されて以降、国際的に取組まれてきました。世界の人々が未永く幸せに暮らせる社会を作るための人づくりです。

SDGsは2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。

すなわち、住み続けられるよりよい地球社会の目標がSDGsであり、そうした地球社会を担う人づくりがESDということになります。

持続可能な社会に向けた(SDGs)、人づくり(ESD)という関係があるといえます。



CONTENTS

人づくりのためのヒント

P4

「学び合いの場」を作ろう!

P5

楽しいがいちばん!
企画の糸口を見つけよう!

自分たちが楽しむ!

外に出てみる!

話し合いから気づく!

ゲームで学びを遊ぶ!

P6

具体的な企画を考えてみよう!

テーマ、人さがし、
プログラム、人あつめ

P7

実際に始めるために

「人」「もの」「こと」「金」が必要
学び合いの場づくり 企画ワークシート

P8

“楽しい”学びの企画と実践

事例1 海岸ごみからSDGsを考える

事例2 食から気候変動を考える体験学習

P10

学びを盛り上げる素敵な方法

方法1 気候変動ミステリーワークショップ

方法2 脱炭素まちづくりジグソーワークショップ

方法3 グラレコを使ったSDGsトークカフェ

方法4 共通様式を使ってオンラインSDGs交流

P11

学習効果を測定するには

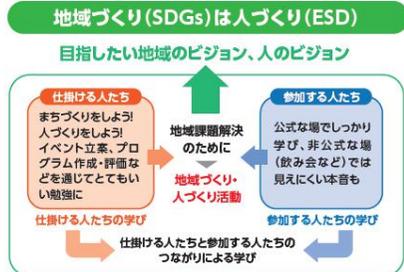
事例1

3

「学び合いの場」を作ろう!

地域を「つくる」ことは、人づくり、すなわちESDから始まります。地域づくりの活動(まちづくりイベントなど)はそれを仕掛ける人たちにとっても大きな学びの場となります。もちろん参加する人たちにとっても大きな学びの場であることはいうまでもありません。また、それだけでなく、仕掛ける人々と参加する人々との出会い、これらつながりによる特別な「学び合いの場」となるのです。

つまり、地域づくりの活動とは、関係者の特別な「学び合いの場」を作ることです。地域の課題を解決していくために、地域の「人」が磨かれるために、「学び合いの場」を作っていく必要があります。



地域づくりは人づくりから、すなわちSDGsはESDからです。そこでは地域づくり活動を仕掛ける人、参加する人、みんなが学び、学び合い、地域の課題解決に向けて「人」が磨かれていくことが大切です

楽しいがいちばん! 企画の糸口を見つけよう!

座って退屈な話を聞くことにあなたは耐えられますか? 人は「楽しい!」「おもしろい!」と思ったときに最も学びの力が高まります。自ら「おもしろい!」ことを求めていけるような組み立てが必要です。それは「対話」ができません。「観察」なのかもしれません。「調べること」や「議論」を組み込むことかもしれません。「ゲーム」だったいいんです。

自分たちが楽しむ!

仕掛ける人たちが楽しいと思うイベントを企画しましょう。そのためには参加者に「楽しい!」と思ってもらうことが何より大切です。楽しんで作り上げた「学び合いの場」で参加者に楽しんでもらえたら…絶対「楽しい!」



外に出てみる!

百聞は一見に如かず。学びの種は「まち」や「里山」、家の「近所」にもころがっています。草むしりやゴミ拾いにも新たな発見があります。たくさん歩いて、体を動かして、みんなとおしゃべりしたら…絶対「楽しい!」



話し合いから気づく!

受験勉強は一人だからつらいんです。あるテーマで他の人と話し合ったり一緒に何かを作ったりしたら、それだけで楽しいですよ。そしてある時、目から鱗が落ちることがある。話し合いから気づきが生まれる体験は…絶対「楽しい!」



ゲームで学びを遊ぶ!

イベントにゲームの要素を取り込むとテンションが上がります。大人も子どももゲームが大好き。スタンプラリー、クイズ、カードゲームなど、これらを通じて新たに知ったり、考えたり、遊びながら学べたら…絶対「楽しい!」



具体的な企画を考えてみよう!

さあ始めよう! テーマ、人さがし、プログラム、人あつめ

●最初に考えること●

学び合いの場づくりの目標は何ですか?
どんな人に参加してほしいですか?

企画を考える上で一番大切なのは、この二つです。予算や会場などの制約はありますが、イベントの目標と参加者を明確にすることが重要です(上司への説明のためにも)。

●企画を具現化するために●

学びの目標と参加者像が決まったら、テーマやプログラムを考え、それに必要な人を見つけていきます。

テーマ

分野はどこからでもSDGsですべてはつながる

イベントの題材は何を取り扱っても構いません。現代社会の課題を扱えば持続可能性の問題を避けて通ることはできないからです。SDGsの17のゴールがすべての分野をカバーしていることからわかります。できれば具体的なテーマから掘り下げたり広範囲の分野と関連させたりすると興味広がります。



人さがし

専門家を頼めますか?

研究者などの学識経験者をお願いする場合は紹介者を通じて行うのが一般的ですが、最近では大学などで学外連携拠点を設置しているケースもあります。また環境省中部地方環境事務所や環境パートナーシップオフィスなど公的機関に相談することもできます。いずれの場合も、日時や場所、何を話してほしいか、費用、条件などをできるだけ明確にして探ることが重要です。



プログラム

ストーリーで参加者をひきつける

いくつかの話題提供によるインプット、野外活動、ワークショップやディスカッションなどから構成する場合、全体の流れが参加者に見えるようなストーリーがあるとわかりやすくなります。参加者はそれぞれの活動にどんな心構えで参加すべきかわかるからです。



人あつめ

参加してほしい人に声をかける

どんな人に集まってほしいかを明確にしたら、その人たちに声をかけます。方法はさまざまで、直接一人ひとりにお願いする場合もあるでしょうし、広報誌やWebページで不特定多数に発信することもあるでしょう。イベント規模や対象属性によって効果的なアプローチのデザインが必要です。また、イベントはオンラインを活用したり、既存の会合に合わせて実施することも考えられます。



実際に始めるために

学びの場づくりには、「人」、「もの」、「こと」、「金」が必要です。いずれも「協働」のノウハウです。



誰が必要？ 人脈やネットワーク

学び合いの場を作るにあたっては、参加者にとって新たな知識や知見のインプットがかかせません。そうした情報をもっている専門的な人、情報を伝えることに秀でた人などが必要です。また、話し合いをうまく作り出せるファシリテーター、全体を効果的にまとめるコーディネーター、有効なコンテンツのデザイナーなど、必要に応じてお願いできる「つて」があると企画が広がります。



どんなものが必要？ 特徴ある開催場所やツール

まず参加者を集めてもらうための「場所」が必要です。大勢の人が集まるなら会議室や講堂など、広めの会場を準備しなければなりません。プロジェクターやパソコン、マイクなどの音響設備、机や椅子などの什器に加えて、ワークショップやゲームの道具類も準備する必要があるかもしれません。野外では衣類や作業・観察道具の他、安全にも心配りが必要です。お昼をまたぐようなら昼食も考えておきましょう。



どんなことが関係？ 効果・情報発信・つて

そのイベントは、なぜ、その時期に、その場所で、そのテーマで開催するのか、ということも考えておきましょう。他のイベント、町内の集まり、役所や学校の動きなど、関係している「こと」があるかもしれません。そうした「つて」をたどれば「人」、「もの」、「金」を融通してもらえらるかもしれません。



いくら必要？ 開催資金

人件費、消耗品、印刷費、広報費、講師謝金、交通費などのコストをまかなう方法が欠かせません。公的な予算や助成をいかに活用するかが大切です。そのためには十分な説明を権限者に行う必要があります。また企業への依頼も考えられます。「企業がやっているSDGsをお手伝いします」という説明のしかたもあるかもしれません。



学び合いの場で大切なことは、たくさんあります。最も重要なのは、一方向の講演や一過性のイベントにならないよう、一人ひとりが主体的に持続的に参加できるようにすることです。そのため、次の3つをプログラムに組み込んでみましょう！

- ①何を目的にどのような成果を目指すのか**趣旨とゴールを明確にし**、全員が理解してスタートします。
- ②年齢・性別・職業などに関係なく対等で互いを尊重しながら話し合いができるよう、**参加のルール**を皆で決めます。
- ③初めての人どうしても心を開き、和気あいあいと話せるよう**アイスブレイク**を取り入れます。



この様式はアイデアメモシートです。企画会議などで活用してください

学び合いの場づくり 企画ワークシート

必要な「人」「もの」「こと」「金」を想定しながら、イベント企画のアイデアをメモしてみよう。

学びの目標

何のために開くのか、どんな持ち帰りをしてもらうのか、イメージしよう
イベントを開くこと自体は、目標ではありません。

想定される参加者

だれに来てほしいのか、持ち帰った先も考えてイメージしよう

テーマ

目的や分野を表すキーワードをテーマに使ってみよう
キャッチーで短いタイトルを考えよう
サブタイトルも活用しよう

●企画内容

日時・場所

どんな時期がよいか、週末か平日か。場所のイメージは。

プログラム(人さがし)

どんな分野のどんな内容で行うか、具体的な内容を考えよう
○講演？
○話題提供？
○ディスカッション？
○ワークショップ？
組み合わせも重要
併せて登壇者もイメージしよう

主催と協力者(共催・後援)

単独で開催するのか、協働して行うのか、協力者はあるのかなどを考えておこう

人あつめ(参加者)

どんな方法で参加者を募るか、イメージをしよう

●必要なもの

●**もの** 場所は室内か、室外か。広さの規模もイメージしよう

●**こと** 他のイベントとの連携、時期やタイミングも考えよう

●**金** 会場費のことも頭の隅に置いておこう

●**人** 誰にお願いすればよいか。登壇者の人選から企画が始まることもある

●**こと** 時間枠や全体の流れをイメージしてみよう

●**もの** しつらえやワークショップの道具もアイデアがあれば考えておこう

●**金** 登壇者が遠方の方だったり、有名人だったりだとするとお金がかかる。ある程度考えておこう

●**人** 協力してもらえる組織はどこか？ 誰か相談できる人はいるか？ 思いついたらメモ

●**金** ただでは協力してもらえないこともある

●**人** 学校や町内会など、募集であてになる組織はあるか

●**こと** チラシを作ったり、Webに載せたりと、方法いろいろ

●**金** メディアにうまく取材してもらえばお金もかからない

ESD “楽しい”学びの企画と実践

事例1 海岸ごみからSDGsを考える

中部地方ESD活動支援センター主催
中部2021年度SDGs社会教育～実践セミナー

STEP 1 企画をする!

目標テーマなど

学びの目標 海岸ごみの体験からSDGs時代の担い手として
できることを考える。

想定される参加者 地域の若者、流域に位置する企業関係者

テーマ
ローカルSDGs気づきから
担い手づくりへ
～海ごみをまるっと考える～

企画内容と必要なもの

日時・場所 秋の土曜日、六渡寺海岸

こと金 海岸ごみ清掃を体験する、地元の活動と連携を検討し
地域の公民館は使えないか。

人 海岸ごみの専門家に話をしてもらう(地元大学についてあり)の
SDGs担い手の意味について解説していただく識者を
東京から呼びたい。

こと金 SDGsワークショップで円形シートを使うといいかもしれない
中心に選んだごみを置き、縁に貼ったSDGsタイトルをつないで
議論するなど。

こと金 東京から演者を呼ぶ場合は旅費等を算入すること。

主催と協力者(共催・後援)
地元活動団体に協力を依頼

こと金 地域ESD拠点到登録している「PECCとやま」に協力を
依頼、地元のネットワークを頼る。

人あつめ(参加者)
地元活動団体に協力を依頼

人 地域ESD拠点到登録しているPECCとやまに協力を依頼。

こと金 地元の新聞社に主催してもらうことを検討。

STEP 2 実践してみた!

- テーマ：海岸プラごみ清掃から流域のローカルSDGsの担い手づくりへ
- 日時：2021年10月30日(土) 11:00～16:30
- プログラム
- 11:00～ 現地視察(オンライン中継)
六渡寺海岸(富山県射水市)にて視察体験
●活動：徒歩で六渡寺海岸へ、視察、ごみ拾い体験
- 13:30～ ワークショップ(オンライン併用)
●はじめに…本セミナーの内容について説明
- インプット
プラスチックの功罪、海ごみからのSDGsと市民意識
楠井 隆史(富山大学名誉教授)
現地視察の振り返り、海岸のごみ清掃活動について
境 信吾(六渡寺自治会長)
- グループワークショップ
六渡寺海岸のプラごみ問題、どのようにつながっている?
コーディネーター 原 理史(中部地方ESD活動支援センター)
- 総括コメント
実践活動の学びを持続可能な社会に活かす地球市民
佐藤 真久(東京都大学教授)



<https://www.prof.toyama.jp/1706/krushi/kankyoushizen/kankyoku/mizuhosen2mamoru/grup23.html>

当日はお天気にも恵まれ、高校生や地元企業の職員も参加して海岸ごみを拾いました。肥料の散布用プラスチックカプセルの粒がたくさん打ち上げられていたのは驚きでした。

ワークショップもいろいろな議論ができて、オンラインでは海外からの参加もありました。佐藤先生からも素晴らしい総括をいただきました。

ワークショップでプラごみの問題を関連付け



事例2 食から気候変動を考える

中部地方ESD活動支援センター主催
2023年度SDGs社会教育～実践セミナー

STEP 1 企画をする!

目標テーマなど

学びの目標 気候危機適応を身近な食の観点から
SDGsの取組につなげる意識を養う。

想定される参加者 サステナ政策塾(中部ESD拠点協議会主催の
研修コース)の塾生を含む一般市民

テーマ
「食」から学ぶ気候危機適応
とSDGs地域づくり

企画内容と必要なもの

日時・場所 2023年11月25日(土)
伊勢湾、三河湾流域沿岸など

こと金 食と気候変動と言えば海産物、漁協さんに協力いただくこと
はできないか。会場は海岸近くの公民館などが考えられる。

プログラム(ささし)
・講演によるインプット
・現地視察
・気候変動
ミステリーワークショップ

人 地元の漁協さん、愛知県の水産試験場、東海農政局に頼
めないか。当てにしている気候変動適応の専門家は国際会
議に行っているかもしれない、オンライン管理を頼めるか。

こと金 昼ご飯は海苔など現地食材で
みんなで作ったらどうか。実費徴収が必要。

こと人 ワークショップは専門家の助言をもとにカード作成が
必要。

主催と協力者(共催・後援)
地元活動団体に協力を依頼

こと人 2団体共催で、講演とワークショップは中部地方ESD活動
支援センター、視察と塾生募集はサステナ政策塾で。

人あつめ(参加者)

こと人 サステナ政策塾の塾生、他、WebやSNSで広報、
付き合いのある地元の高校や大学を通じて声かけ。

STEP 2 実践してみた!

- テーマ：食べ物が変わる?! 気候変動と私たちの暮らし
- 日時：2023年11月25日(土) 10:00～16:00
- 場所：愛知県常滑市鬼崎漁港、鬼崎漁業協同組合会議室
- 参加方法：現地参加30名定員、オンライン(午前のみ)
- 費用：参加無料 ※現地参加者の昼食は実費負担
- プログラム
- 10:00～ 1. 話題提供「食の変化と気候変動」
●「森里川海からとれる食、気候変動でどう変わる?」
井上 俊樹(農林水産省東海農政局企画調整室長)
- 「伊勢湾三河湾の水産資源の移り変わり」
植村 宗彦(愛知県水産試験場漁業生産研究所主任研究員)
- 「農林水産業の現場から、鬼崎漁業組合」
平野 正樹(鬼崎漁業協同組合専事)
- 「気候変動影響と漁産物」
杉山 範子(東海学園大学教授) ※オンラインの予定が現地参加に
- 12:00～ 2. 昼食と現地視察―海苔養殖開運施設等の見学、昼食―
コーディネーター 古澤 礼太(中部ESD拠点・サステナ政策塾)
- 14:00～ 3. ワークショップ「食から学ぶ気候変動適応のSDGs地域づくり」
総合ファシリテーター 古澤 礼太(中部ESD拠点・サステナ政策塾)



サステナ政策塾の塾生や温暖化防止活動推進員、NPOの関係者なども参加して、充実した学びの場となりました。午前中の講演、昼食と視察、ワークショップにも熱心に参加いただき、積極的に関連付けて考える「システム思考」の向上に役立つ場となりました。

昼食は地元海産物の鰯と海苔のおにぎりをみんなで作り、とても楽しい食事会となりました。カニが美味しかったです!

学びを盛り上げる素敵な方法

学び合いの方法には、マンガを使った学び、ゲーム感覚で議論を行うワークショップ、オンラインを活用したネットワークフォーラムなど、さまざまな方法があります。

方法1 気候変動ミステリーワークショップ

2023年度SDGs社会教育～実践セミナー
最初に気候変動に関するミステリーのお題が出ます。例えば「最近稲の出来が悪くなっている。なぜだろう?」。そのミステリーを解くために、グループで議論しながら、「24枚1組のミステリーカードを論理的に関連付けて並べます。このグループワークを通じて、気候変動によりどんな現象が発生しているかを把握し、気候変動にはさまざまな事柄が複雑に絡み合っていることを学びます。



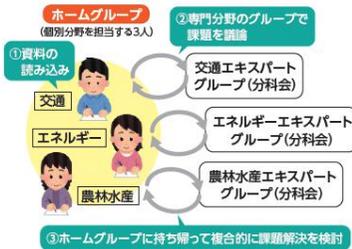
方法3 グラレコを使ったSDGsトークカフェ

SDGs OTERA Café (SDGsお寺カフェ)
地域のお寺とコラボし、身近な課題についてSDGsを通じて語り合う連続イベントを、助成金を得て開催。それぞれの課題に向き合う当事者や支援者・関係者から話を聞き、参加者同士でそこから感じたこと、これからしたかったことなどを対話を通じて緩やかに共有しました。会の様子を絵や文字で絵巻物のように記録する「グラフィックコーディング」を取り入れ、対話を深めました。完成したグラフィックは冊子化、Web掲載し、課題の内実や対話の様子を広く伝えることにも活用しました。



方法2 脱炭素まちづくりジグソーワークショップ

2022年度SDGs社会教育～実践セミナー
交通、エネルギー、農林水産など、異なる分野の担当者から成る3人のグループを作ります。はじめに気候変動や地域に関わる資料「統計データ集」を読み込み、各グループで議論をします。その後、専門分野別のグループに分かれ、それぞれの分野の現状を分析し、批評します。再び、元のグループにそれを持ち帰り、地域の理想とする将来像を考え、実現するために必要な課題解決策を検討します。



方法4 共通様式を使ってオンラインSDGs交流

SDGs学生サミット(2019年度～2023年度)
遠く離れていてもオンラインでなら交流できます。SDGs学生サミットと路打ち開催した交流会では、離れた別の大学の学生グループによるSDGsの取組発表、SDGs未来都市の職員による取組発表を元に、交流と議論を行いました。そのとき、共通の土台としてSDGsとの関連を図示する様式を用いることで、いろいろな観点から具体的な議論を深めることができました。



成果を次に生かす!

学習効果を測定するには

成果を活かすためには学習効果を考えることが必要です。目標は適切だったでしょうか。意図したきっかけ作りはできたでしょうか。意欲が高まったでしょうか。地域の未来を担うにふさわしい能力や態度に即して考える必要があります。効果を調べるには参加者のアンケートが有効です。

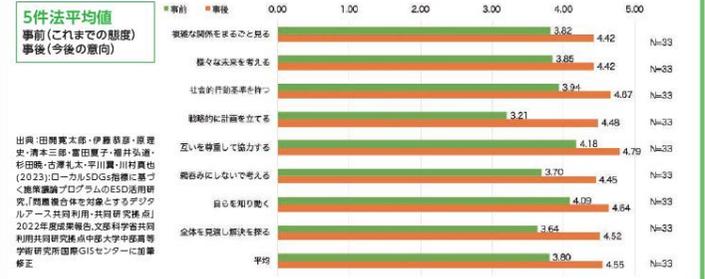
●ESDで身につけたい能力、態度

ユネスコではESDを通して身につけてもらいたい能力や態度について鍵となる8つの項目を挙げています。これらを元に、学習効果のアンケート項目を考えることができます。

能力・態度	ユネスコの項目	アンケート項目例(当てはまらない～当てはまる:5段階)
複雑な関係をまるごと見る	1)システム思考	1)複雑な問題の様々な要素の関わり合いを知ろうと思う。
様々な未来を考える	2)予測的	2)これからの持続可能な社会を考えて勉強しようと思う。
社会的行動基準を持つ	3)規範的	3)自分はどういう行動したらSDGsに合うか考えようと思う。
戦略的に計画を立てる	4)方略的(戦略的)	4)戦略的・計画的に考えようと思う。
互いを尊重して協力する	5)協働	5)他者の立場や意見を尊重し、協力するやり方を学ぼうと思う。
鵜呑みにしないで考える	6)批判的思考	6)問題について別の考え方や方法がないか考えようと思う。
自らを知りたく	7)自己認識	7)自分は何かができるか、[役割]を考えるようにしようと思う。
全体を見渡し解決を探る	8)統合的問題解決	8)関連する様々な課題を整理し、統合的な方法を考えようと思う。

●学習効果を測定した例(2022年度学生サミット)

オンライン交流会の事前と事後でアンケートを取り、5段階で点数化した平均値を比較しました。それぞれアンケートフォームを用いて回答してもらっています。事前の回答に比べて事後の回答の点数がすべての項目で高くなっており、「これからはそう考えていこう」という意向が形成されたことがわかります。交流会によってSDGs時代を担う人づくりの上での学習効果が現れたと考えられます。



(7) ESD 推進のための教育現場等の実態把握と連携強化

- 教育現場の専門家との連携を強化し、効果的にESD業務を展開するため、SDGsの取組、ESD実践の推進状況等について、専門家1名、教育現場の関係者2名、中小企業の経営者等2名を対象にしたヒアリングを実施した。

ア 専門家への包括ヒアリング

ヒアリング対象	金沢大学大学教員 人間社会研究域 学校教育系 加藤隆弘 准教授
実施日	2023年6月15日 12:00~14:00
ヒアリング結果	
<p>○専門領域における現在のESD/SDGsの取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ もともとは大学院の教育工学の分野で学校支援を行う中で巻き込まれる形でESDに関わった。総合学習や探究学習の支援において、学校現場の中だけでなく周りや地域とのつながりを大切にし、行き来する学習が重要との考えを持って関係している。個人的には宇宙教育から環境への興味をもちつつ、ESDに関わるという側面もあった。 ▪ 現在は北陸3県の「北陸ESD推進コンソーシアム」の事務局に関わっている。コンソーシアムでは数多くのESD推進コーディネーターが活躍しており、最終的な目標地点は富山、石川、福井のESDの相談交流コミュニティの構築である。そのために普及啓発、セミナー、情報発信、事例の収集、動画の作成配信等を行ってきた。 ▪ コロナ禍もあったが動画等によるeラーニング（Web等を活用したオンライン学習）教材を拡充してきたのは大きな成果だと考えている。 ▪ 環境基金の事業をきっかけに「北陸におけるSDGs達成に向けたESDプログラム開発」事業を推進している。ここではモデルプログラムの開発と実践、そしてその普及を意図した活動を行っている。 ▪ またSDGs・ESD実践ガイドブック（北陸版）を作成しており、様々な学校現場のESDの取組を解説するとともに、地域におけるつながりや期待される役割について紹介している。 <p>○ESD2030と「実施計画（第2期ESD国内実施計画）（案）」についての考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 2030というバックキャストの重要性はよくわかるが、予測不可能な世界の（ウクライナ侵攻のような）動きを見ているとすんなり計画が実現できるとは思えない。それでも目標は重要であり、その中から自分でできることを考えて少しでも実践していくことが大切。 ▪ 我々だからできること、すべきことを抽出して、現場で当たり前になるように活動していくことが必要と考えている。 ▪ その際に成果があがるよう、周りの人が納得できるよう、合意形成をしながら少しでも前進できるように動くことで、バックキャストとフォアキャストが合致してESD2030や実施計画に対応していくことになると考えている。 ▪ そのため仲立ちの役割として、より良い納得できる事例を紹介していきたい。 ▪ ESDに関連しての情報が学校現場にはなかなか降りてこない。 <p>○学習指導要領におけるESDとその推進についての考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ コンソーシアムのESDコーディネーターの肌感覚としてはそもそもESDの考え方やESDの言葉自体はなかなか現場に普及していない。 	

- 学習指導要領の前文に記載されたこと自体は大きい。ESD の言葉は入っていないが、概念が記載されたことで、現場の先生が考えるチャンスを得たと言える。ただし、この概念自体は ESD という言葉には結びついていないところがあり、もどかしい思いをしている。
- 一方で新しい教科書では SDGs の記載は取り入れられており、現場の先生方はこれを教材として使っている。しかしこの内容が ESD の概念に十分に連結しているとは言いがたい。本当はすべての教科にリンクして ESD の概念が埋め込まれる必要がある。

○我が国の ESD 推進全般についての現状の課題についての考え

- 教員が一度立ち止まって教育内容を見直す機会などがあれば SDGs と ESD がリンクするが、その余裕がないのが実情。例えば Well Being の言葉などいろいろな場所でばらばらで入ってくるので、消化する暇がない。
- 教員の学び直しの機会や、その体験などの機会があれば、自主的に言葉を概念とつないでいく正のフィードバックが期待できる。しかし、このような連鎖は、成功体験と納得感が無ければ難しく、やらされ感の研修では自主的な ESD 概念の構築と実践につながらない。
- 例えば地域と連携した学習はプログラムを作成するのは非常に大変だが、子どもたちが地域との連携授業で育っていく姿を見ると、学校の先生方は手間をかけよう、努力しようという気になる。
- 子どもが変わった瞬間を見るというのは教師の大きなモチベーション。そうした現場を見ることができると ESD の大きな入口となる。そのような身近な授業を見ることができればイメージをもつことができる。
- そうした場がなかなか作れないのが現時点での課題感。なので、せめて動画等を作成して、こういう授業でこんなに生徒が変わっているという情報発信をしていきたい。
- もう少し人手があって、メールの問い合わせや相談の対応、場合によってはモデル授業をやってもらうなどの対応があれば、もう一歩踏み出す先生方もでてくるのではないかと。

○今後の ESD 推進に向けて重視していることや展望

- ESD の実践の拡大はもちろんだが、できれば子どもの成長のエビデンスを集めていきたい。その客観的エビデンスは第一に子どもが「書ける」かどうかとなる。その before、after の変化が重要と考えている。観察という方法もあるが計測者のバイアスがかかるため、評価としては書いてあるものがやはり重要と考える。
- 例えば質問紙法など、定常的に実施している調査で、教育方法が ESD を取り入れるなどの変更があり、回答の内容に変化があれば効果があったということができる。
- ESD に関わる地域の活動がもっと増えないといけない。まだまだ足りない。さらに増やさなければいけない。
- また、そうした地域の方々が今後教育的観点で子どもに接して頂けるようになってほしい。例えば最初から答を言うのではなく、子どもと一緒に考えてもらうようお願いしていくことが重要。そうした点から外部の人、地域の人との支援の手法を変えていく必要も感じる。
- こうしたことを含めて、教育行政の中で、納得の上で教育長、教育委員にインプットすることは重要である。

イ 教育部局、教育委員会、現場の教員等を対象にしたヒアリング

ヒアリング対象	高山工業高等学校教諭
実施日	2023年10月28日9:00~11:00
ヒアリング結果	
<p>○学校の特色について</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 学生数は定員で全体 400 人弱、各学年 130 人程度の工業高校で、ものづくりを通して地域を支えている高等学校。工業高校として飛騨地域のものづくりを支える人材育成の現場を担っている。 ▪ グラデュエーション・ポリシーとしては地域を担うエンジニアリーダーの育成を目標としている。 <ul style="list-style-type: none"> ◇自信と誇りを身に付け、自分で考えて行動し、向上心を持って技術で地域社会を支える生徒 ◇他者を尊重し他者と協働して、良好な人間関係を築き、社会から信頼される生徒 ◇地元を愛し、積極的に課題解決に取り組み、地域や社会に貢献できる生徒 <p style="text-align: center;">『育てたい生徒像』（「岐阜県立高山工業高等学校スクール・ポリシー」令和4年3月策定より）</p> ▪ 7割がエンジニアとしての就職を目指し、3割がより高度なエンジニアを目指して進学している。また全体の3割が地元就職している。 ▪ 昭和19年設立、戦時中の岐阜県高山航空工業学校に始まり、終戦時に高山工業高校に新編、現在、機械工学科、電子機械工学科、電気工学科、建築インテリア工学科の4科から成り、社会と密接に関わりながら各科が編成されてきた。 ▪ 歴史的には農業科を含めた飛騨実業高校であった時期もあり（現在は農業高校と分かれている）地域のものづくりを支えるところから、ぶれないで地域の人材を供給する教育を行っている。 ▪ 建築インテリア工学科は木工なども含む。県外募集もしており、寮生活も準備している。 <p>○SDGs などについて教育現場で具体的に取り組んでいること</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 昨年度、道徳教育振興会議の研究指定校となったことがきっかけとなった。3年生の課題研究にSDGsの理念を入れた目標を定めて卒業研究を行うこととなった。 ▪ それに向けたSDGsセミナー、各科の授業でSDGsを取り入れている。 ▪ 課題研究は授業の中で3年生が4人グループで卒業までに作品を完成させるが、SDGsの理念を入れてものづくりを実施することとした。 ▪ 飛騨高山SDGsパートナー登録制度でのパートナー登録を行ったことも大きかった。学校としては初登録（地元有力企業100社前後）で、地元でSDGsを掲げた企業との協力連携がいくつか実現している（例、クラブ活動としてホテルアソシアでの間伐材を活用したクリスマスツリー作成協力、講演依頼など）。無理なく取り入れられるゴールとしてG4, G9, G11, G12, をメインターゲットとしている。 ▪ 工業科が中心となって活動している工業技術部（クラブ活動）でのSDGsとしてはサテライトキャンパスという活動があり、地域との連携で研究開発を行っている。朝市や家具フェアイベントで商品を売りながらニーズを把握し、マーケティングや企画開発を実施している。製作技術だけでなく、経済的なノウハウや効率化などのマネジメント教育にもつながっている。例えば、さるぼぼ防犯ブザー、飛行機木製モデル、間伐材製品などの成果が出ている。 ▪ 中学校、小学校の出前授業（プログラミングデバイスを用いた実践授業、小学生のものづくり体験）を行っている。この中では地域の持続可能性を意識していると考えられる。地域のものづくりの中で、すでにSDGsを実施していることで認識を新たにしている。 ▪ むらはん（古民家を用いたこどもたちのたまり場）の整備にクラブ活動で製作した家具など協力している。 	

○地域連携における教育の役割

- 工業科の様々な地域との連携活動はすでに地域の持続可能を意識していると言える。
- 全国総合文化祭のカウンタダウンボード製作を依頼されたり、文化財など炎の使えない場所での「あんどん」の LED 化（炎の揺らぎをプログラミング再現）を作成し、商品化に至っている。さらに高山まつりの屋台へ利用されている。
- 市の方からいろいろ頼まれるが、下請けにならないように、無理がないように、人材育成に資する目的が一致したものを対応している。
- いろいろな課題解決に引っ張りだこになっており、教育とのさじ加減を考慮する必要がある。能力のある集団として地域にとらえられている。しかし生徒の育成につながる事が最も重要。

○持続可能な社会の構築と教育

- 様々な地域連携活動は、これまではローカル SDGs と意識してはこなかったが、工業系の先生方などは特に SDGs がアピールポイントになることを意識するようになってきている。
- SDGs に当てはめて理解することが進んでいる。例えば木を使うなら間伐材を使ってみようかと考えるようになってきている。
- SDGs パートナーシップ登録を通じて人の繋がりが広がり相乗作用が期待できる（例、高山 SDGs ウィークなどで交流）。
- 無理に SDGs に寄せる必要もなく、今までやってきたことを位置づけ直し、意識化することで ESD が進んでいると考えられる。
- 工業高校は実社会と繋がりがながら学びがあるので、SDGs の土台がある。普通科では探究の授業のみ。実業系の学校は SDGs の意識化をしやすいのではないかと。農業高校も同じような環境にある。実業高校は無理なく SDGs の取組をしているということは言える。
- 現実社会と常に接しているため地域とも連携しているし、普通科よりも SDGs は取り組みやすいかもしれない。そうしたことを学業に影響なく無理なくお膳立てするのが実業高校の教員の役割と考えられる。
- 岐阜県は工業高校や農業高校を重要視している。こうした実業高校は事実上地域の持続可能性を構築する人材を育てているので SDGs の理念を体現していることになる。そういう意味で意識せず ESD を実施してきたとも考えられる。

○持続可能性の概念（ESD）が導入された新指導要領について

- 新指導要領の持続可能という言葉は「学ぶこと」を持続すると捉えていた。工業系でいうところの「開発」を持続的に行っていく、つまり学びを持続的に続けるという意味と考えてきた。本校で言えば「ものづくりが楽しい」生徒が増えていくことが重要と考えている。
- 指導要領からは読み取りづらいが、ESD では社会との繋がりが視野の広がりについて重要視されていると聞く。例えば探究学習では地域連携や様々なつながりを学ぶことを重要視されている。確かに探究活動は楽しいということはある、新指導要領で現場における自由度が具体化されたイメージはある。

○地域のセクターとしての役割

- 前述したようにサテライトキャンパス、出前講座など地域のセクターとして機能している。これらは基本的に市の教育委員会からの依頼による。
- こうした地域との連携活動では、生徒がどれだけ成長できるかということが一番重要となる。
- 小学生への出前講座は、地元へのアピール、進学対象の候補として種をまくという効果もある。

○ESD、SDGs を推進するに当たっての課題

- 実業高校では現場で新しいことをやるということではなく、きっかけがあれば ESD として見直すことはできると言えるが、それよりも地域の課題に対して教育現場としていかに貢献できるかが大きいと感じている。

- この学校がなかったら地域が廃れてしまう。地域の持続性がダイレクトに関係している。中学生が減って定員割れが始まったことに危機感を抱いている。地域の魅力を維持することが重要。
- 地域経営として持続可能性を維持することが大きな課題。そのために教育現場としてできることを考えていきたい。SDGs という時流に乗ることも一つの方法かもしれない。

ヒアリング対象	飯田女子高等学校教諭
実施日	2023年12月1日 9:00~11:00
ヒアリング結果	
<p>○学校の特色について</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 学校法人高松学園に属する女子高等学校（普通科）である。他に短期大学、高校 2 校、認定こども園等から法人は構成されている。 ▪ 本校は飯田下伊那地区で唯一の私立高校で、大きな特色として仏教浄土真宗の教えを根幹に置いていることがある。元々飯田市中心にある善勝寺の住職が始められた教育機関である。長野県の中でも仏教の教えを教育理念の根幹に置いているのは本校と姉妹校の伊那西高校のみとなる。 ▪ 最近女子校は減少しているが、女子教育に力を入れているところも大きな特色としてあげられる。 ▪ 仏教教育としての特徴は全学年週1回必ず仏教に関する授業があることで、3年間通して学んでいくことになる。また春（はなまつり、仏さまの誕生を祝う）秋（報恩講、親鸞の亡くなった日、大谷大学から講師招聘などで実施）の宗教行事、毎週金曜日宗教科教員による法話（全校放送）、さらに1年生秋には東本願寺研修（一泊二日）があり、仏教に触れる機会が創られている。 ▪ 仏教の教科内容としては、まず1年生では前々理事長の本を使った授業で、日常生活の中での様々なできごとに仏さまの教えが含まれているということ、例えば落ちていたゴミがなぜ拾えないのかを考え容認するなど、宗教学の前段階を理解するという内容から始まる。2年生では親鸞の一生を学び、3年生では歎異抄の勉強とやや専門的な内容を勉強するなど、普通の高校では触れることのない仏教学に触れることができる特徴がある。 ▪ 生徒本人たちは仏教教育に触れられて良かったと言っている。他の人のために頑張ろうという育ち方をしているかもしれない。なお生徒の家の宗派とは無関係である。 <p>○SDGs などについて教育現場で具体的に取組んでいること</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 明示的に学校全体で実施しているとは言えない。ただ探究学習で SDGs をテーマにする子たちはいる。 ▪ 明示的ではないものとしては、教育理念として「命を大事にする」があるので、自分中心ではなく社会的に目配りができるようにという形で教育が行われている。 ▪ 女子しかいないので、自動的にジェンダー平等になる。やらなければいけないことはやるようになる。共学よりも性差別感覚が生じないのではないか。 ▪ 17 ゴールに正確に合致しているわけではないが、根幹的な理念は仏教教育で行っていると考える。持続可能性という部分では、みんなで一緒に暮らしていくべきという教育がなされており、他者のためという規範を折に触れて訴えている。SDGs につながる規範教育を宗教教育で行っていると考えられ、ESD の基礎教育とも言えるのではないか。 <p>○持続可能な社会の構築における教育の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 持続可能性が維持できない可能性など、若さ故に社会を知らないことが問題と考えている。こどもたちの社会は狭いので、若く狭い個人の価値観と社会の価値観とのつながりが教育の役割で、学校がハブになるべきと考えられる。 ▪ こうしたハブは、本当はたくさんあった方がいいと考えている。教員だけでなく、いろんな人が教えてくれた方がよい。生徒にとっては「何を」教えてくれるかだけでなく、「誰が」教えてくれる 	

かが重要で、多くの人格とつなぐツールが教育の一つの役割と考える。そういった意味で学校として多様な人たちや価値観と生徒の間をつなげたい。

- こうしたことが持続可能な社会構築で重要なのではないか。ひとの立場を想像する、つまり共感性の涵養はESDの根幹だと思う。

○持続可能性の概念（ESD）が導入された新指導要領について

- いろいろ抽象的なことが書かれているが、何を求められているのか十分把握できていない。教科指導では、とりあえず共通テストで点数をとらすことがまず先になってしまう。
- 担当の社会科で言えば、たくさんしなければならぬことができ、歴史総合に加え、世界史探究、日本史探究もあるなど、科目数が増えて以前に比べて複雑化し時間数も増えて負担感がある。
- （社会科では）模試やテストの問題が変わってきている。模試や共通テストの対応をしようとする、これまで暗記至上主義だったのに比べて、文章や図表を読み取る力や表現力が重要となってきたことがわかる。
- こうした対応の中でだんだんわかってきたのは、教科書を教えていてもなかなかわからないが、試験を作成する人は学習指導要領をよく理解していて、理念に見合った問題を作成しているのだろうということである。
- 指導要領からや教科書から直接ではなく、試験対策などから求められる人づくりにおける能力を推察している状況にあると言える。

○ESD等を通じた連携

- （10月に実施した）中部大学と連携したデジタルアースを活用したESDプログラムの授業は大変意義があった。図表（統計グラフ、GISによる地図）をどう読み、どうつなげて理解し、表現するか、という能力を養うことになり、まさに新指導要領が求めている内容だったのではないか。
- 家庭科に力を入れているが保育園実習の連携を行っている。また飯田短大との連携授業で社会福祉協議会の体験授業なども実施している。
- 任意の生徒だが、学輪IIDAの夏のプログラム参加もしている。
- 探究学習選択（Eクラス、今年は8人）の生徒は企業や行政、他の高校中学などの繋がりを作って（個人探究）探究学習を行っている。大学の卒業研究に近く、個人探究として実施している。3年間通して探究している。
- （参考）コース構成：総合コース、進学コース（Sクラス：クラブ活動選択、Eクラス：探究学習選択、少人数）

○今後ESDを推進するに当たっての課題

- 私立高校は、何ができるかという問題の中で、理念を考えるには現場に余裕がない。学力を上げることがとりあえず問題となる。
- ESDにたどり着けるかどうかがあやふやで、現場と乖離している。指導要領を読んでもわかりにくい。要求されているカリキュラムと指導要領の理念の整合性がわかりにくい。

ウ 中小企業経営者等を対象にしたヒアリング

ヒアリング対象	アドバンスト・ロジスティックス・ソリューションズ株式会社
実施日	2023年6月28日 13:00~14:00
ヒアリング結果	
○現在のSDGsの取組について	
<ul style="list-style-type: none"> ▪ 明示的にはこれまでSDGsの取組はなかった。 ▪ 新入社員研修に昨年度からSDGsの講座を導入するようになった。 	

○そのきっかけや理由について
<ul style="list-style-type: none"> ▪ 学校ではSDGsについて習っているのに自分の会社が何をやっているかと問い直した。SDGsがわかって将来働いてもらいたいとも思った。このように大人が働く現場でSDGsがわからないのは今後問題になると個人的に考えたことから、担当している新入社員研修に導入しようと提案したことがきっかけ。
○取組による変化や成果
<ul style="list-style-type: none"> ▪ 新入社員研修を通じて、関係する社員がSDGsの取組について意義を感じたり興味をもったこと。ただなかなか広がらないので、会社でのSDGsの取組の立ち位置を確認することが必要と考えている。
○取組で今後期待されること
<ul style="list-style-type: none"> ▪ 自分で考えて、お金を稼ぐだけでなく自分でSDGsを感じて仕事ができることが理想だと思う。研修を通じて、会社の事業とSDGsの関係性を議論して、社内に広がるのが今後期待していることである。これからSDGsの取組の基盤づくりをしたい。
○SDGsを推進するにあたって社内教育のESDの必要性について
<ul style="list-style-type: none"> ▪ 中堅社員研修、監督職研修があるので、新入社員研修で取り上げたSDGs講座を広げていきたい。できればワークショップの形で定着させたい。
○SDGs/ESDの取組の課題
<ul style="list-style-type: none"> ▪ 会社として地域や社会に貢献するSDGs取組を展開し活動が見えるようにしたい。会社にとってのメリットが見えにくいのが課題。愛知県の登録制度もあるが、興味のある人しか見ないのではないかな。一方で学生の就職活動PRには効果があるかもしれない。体制構築に社内で積極的協力があるとは言えない（もっとも、やりたくないわけではなく、抵抗があるわけでもない）。
○SDGs/ESDの取組の支援
<ul style="list-style-type: none"> ▪ 会社として名前も出るので社会に対してアプローチしたい。そのため今後イベント活動するときに、地域との連携について広報やマッチングなどの支援、ネットワークへの参加や構築の支援、活動結果の報告の場の設定の支援などがあるといい。 ▪ 他の会社の取組についても知りたい。勉強会などがあるといい。オンラインでもいいと思う（会社としてはハードルが低い）。ノウハウの共有があるとありがたい。
○SDGs/ESDの取組の今後の期待
<ul style="list-style-type: none"> ▪ 今後、社会的にSDGs/ESD取組が推進されていくことが、社会をよくすることにつながると思う。
○その他
<ul style="list-style-type: none"> ▪ SDGsカードゲームを活用したい。本音を聞き出すために採用活動に利用することも考えられる。

ヒアリング対象	株式会社おとうふ工房いしかわ
実施日	2023年7月25日 13:30~15:00
ヒアリング結果	
○現在のSDGsの取組について	
<ul style="list-style-type: none"> ▪ 元々行ってきた企業理念（環境、農業、地域、食文化）にあとからSDGsが乗っかってきたという印象。特別なことをしているつもりはない。Web上に掲載している取組は愛知県登録をしたもので、特にこれでアピールするつもりで載せたものではない。 ▪ 豆腐という基礎食品を売っていることから、お母さん方がお客であり、安心安全な商品を適正価格で提供することが求められた。そこで現会社の創業時から地元産、国産の大豆を使って、安心できるお豆腐を供給することにしたのが原点。 ▪ 国内産の大豆で豆腐をつくるには、地元の農家を回って地域の大豆を調達しなければならない。地元では米、麦、大豆の3毛作が2年間で行われており、大豆を作ってもらおうとすると麦が売れなければならない。そこで麦を用いたお菓子やビールなどの製造に展開していった。 	

- こうした地元農家との face to face の関係性がネットワークとなり関係業者を含めて事業コミュニティが成立している。その、いわば「田舎のコミュニケーションネットワーク（聞き取り者の呼称）」は将来的な持続可能性に少しずつ貢献していると考ええる。
- 協力企業が 30 社ほど集まって親睦会を行っているが、そこで我が社の企業指針の発表を行っている。それに従ってほしいとかではなく、こんな会社なので仲良くしてほしいというコンセプト。コミュニケーションネットワークに一役買っている。
- CSR ではなくて CSV として事業自体が食を通じて地域社会や環境に貢献するのが当たり前だと思っている。そのため食育や障害者対応などの本業とは言えない活動もやっていくことにしている。
- 昔の日本の商家の規範であった、目立たず地域のために仕事して食べていく、「三方良し」の理念を実現することが企業としての方針と言っていい。

○SDGs/ESD の取組の課題

- SDGs のバッジの円形マークは違うと思っている。その 17 のうちどれかに取り組みればいいというものではない。ウェディングケーキモデルのように基礎に環境があってその上に社会、経済があるというのが本来だと思う。そしてパートナーシップが一番上に書いてある、その形が重要なのではないか。
- SDGs で持続可能性の重要性が世界で共有されたことは評価に値するが、企業で SDGs の取組をするということが上滑りしていると思う。17 のゴールのうちこれとこれをやって、残りはこれとこれというアプローチは持続可能性の理念に一致していない（筆者解釈：SDGs ウォッシュ）。最も重要な G17 パートナーシップがおろそかにされている。
- ゴールというのは本当か、ずっと続けていく必要があるし、そこに到達しておしまいという感じがする。自分ができることは何かをわかって行うことが重要で、できることを続けていくことで社会がそのように変わっていくというのが理想なのではないか（筆者呼称：究極のフォアキャストイング主義）。課題は全部解決されるということではなくて、次々出てきた課題を解決し続けるのが社会の営みではないか。

○SDGs を推進するにあたっての ESD の必要性について

- SDGs の目標を覚えるのではなくて、誰一人取り残されず持続可能な社会をつくるという理念が大切である。しかし子供のうちに「いたわり」など人間が本来持たなければいけない資質を育む「徳育」がおろそかになっていると考える。そのためには大人が時間をかけなければいけないのではないか。
- 当社の地域活動で重視している「食育」では、地域、企業、子供が一緒になって学ぶということを行っている。障害者、お年寄り、子供たちなど、社会的弱者を交えて、様々な人々が「結びつく」ことができるようになるということがここでの教育（ESD）の本質ではないか。

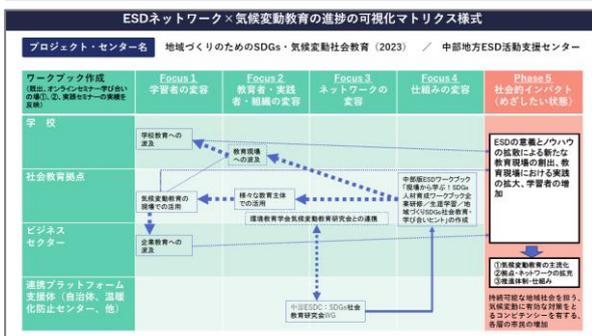
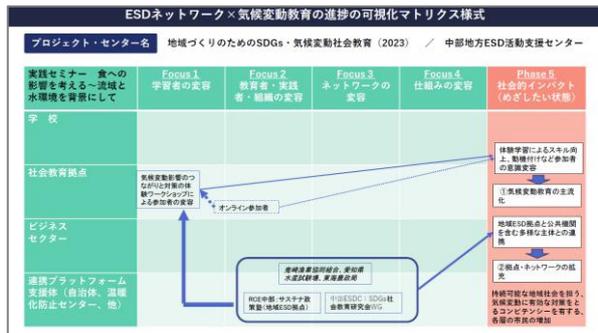
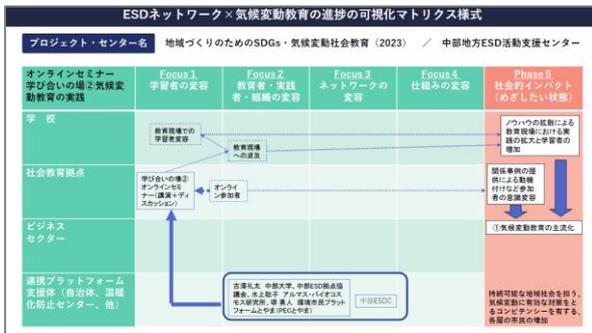
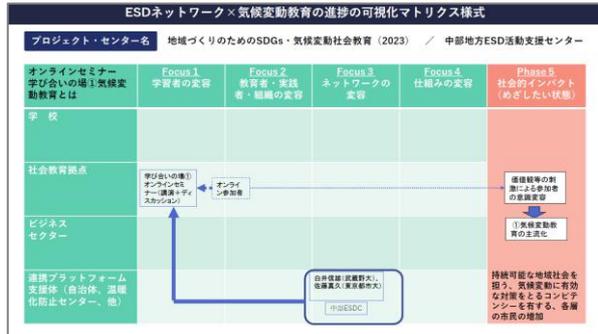
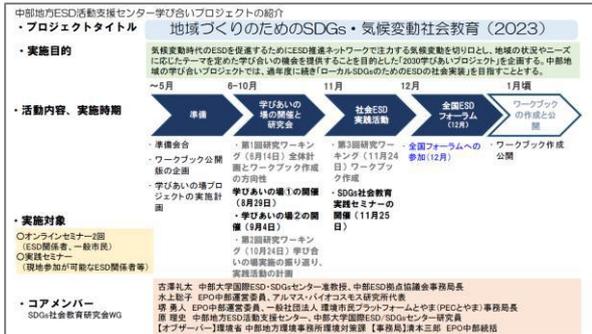
○SDGs/ESD の取組であつたらよい支援について

- 一つは本当の SDGs の理念（アジェンダの理念）をしっかりと情報発信するとともに、全員参加ができるフラットに意見交換できる場づくりが必要と考える。
- 子供から老人まで、どんな人でも腑に落ちるような SDGs 理念の訳語を作って貰えると、持続可能な社会の重要性を説明しやすくなる。

(8) 地域循環共生圏への協力、全国センターとの連携協力

- ESD 業務を実施するにあたっては、「地域循環共生圏」を実現する人づくりの促進にも資することを考慮しつつ取り組んだ。
- 全国センターの実施する会議に出席すると共に、必要な情報提供、資料作成等に協力し、ESD 推進ネットワークの活動状況調査等にも協力・対応した。
- また、関係会議に出席する際には、必要な情報提供、資料作成等に協力し、ESD 推進ネットワークの活動状況調査等にも協力・対応した。

【第2回 ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会への提示資料】



7 ESD/EPO の行事を通じた行動の変容の把握

(1) 代表的な行事後の行動変容の把握

- EPO・ESD 業務における代表的な行事後に、開催にあたり連携・協力した団体、登壇者等に簡易ヒアリングを実施し、業務の成果（関係者や参加者等の行動変容、地域側の反応等）についてとりまとめた。

1	ヒアリング	行事名	2024年1月16日開催 環境へのアプローチを活かした鳥羽の観光創発ミーティング
		対象	鳥羽市役所観光商工課観光係 北橋氏、鳥羽市温泉振興会 山下氏
		方法	メールヒアリング
	内容・結果	<ul style="list-style-type: none"> ● さっそく参加された方からは、現地で事業者同士の交流が生まれ、今後の鳥羽市における観光創発に向けたプロジェクトを始動したいという意見が出ています。 <p>【山下氏がとりまとめた参加者の声（一部を抜粋）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 他施設の皆様の発表内容は当社として非常に興味深く、早速に社内で共有して今後に生かせればと考えております。 ● 最後のまとめでも発表させていただきましたが、連携は必須ですね。これからも近隣施設さまと協力をしながら鳥羽の発展ができればと考えます。 ● 皆さんの取り組みをお聞きして、改めて鳥羽市は業界の垣根を超えた関係づくりからつながる資源の保護、一歩先を進んでいると感じました。自分のいる地域のことを見つめ直すきっかけになりそうです。 	
2	ヒアリング	行事名	2024年1月13日開催 食育と農による持続可能な地域づくりを考えるワールドカフェ
		対象	長野県NPOセンター 山室氏、阿部氏、吉田氏
		方法	面談によるヒアリング
	内容・結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 様々な活動団体が出会うきっかけとなった。イベントで初めてお互いの活動がわかる交流会となった。 ● 催しの案内が2団体から共有され（味噌づくり、すいとんづくり）、それぞれに参加することで交流の輪が広がった。 ● 交流会で耕作放棄地をいませんかという呼びかけも行われ、具体的な交渉が始まっている。 ● 気候変動で付加価値が落ちているリンゴ農家が付加価値の高いブドウへの転換を模索しているところに作業所と連携を模索するなど、農福連携の動きも見られる。 ● キッチンから畑に、というテーブル to ファーム・ファーム to テーブルのプラットフォームとして課題解決ネットワークが動きはじめており、長野県NPOセンターがお手伝いをしている状況となっている。 	
3	ヒアリング	行事名	2023年11月18日～19日開催 南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク ESD ダイアログ 2023
		対象	伊那市商工観光部観光課エコパーク・ジオパーク推進係 酒井氏、小澤氏
		方法	電話ヒアリング
	内容・結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 参加したジオガイドは ESD という言葉を初めて知ったと聞いている。ジオパークを案内する上で ESD の要素があることがわかったことで、例えば来年度伊豆で行われる全国大会で ESD がテーマになるときに南アルプスジオパークの話ができる下地ができたと思われる。 	

		<ul style="list-style-type: none"> ● 事務局として、ジオパークエリアに関係する他の市町村などで行われている ESD の様子がよく分かった。今後松本大学が飯田市で連携している事業と協働したり、伊那市内でも長谷中学校と連絡を取るようになったので連携した事業を検討したい。 ● イベントの周知を教育関係者に広く行ったことから、イベントに参加できなかった教育関係者に対しても ESD の観点からジオパークの活用について話しやすくなったと考えられる。今後連携していく芽が作れたのではないかな。 	
4	行事名	2023年8月29日、9月4日開催 地域づくりのための気候変動社会教育～学び合いの場①、②	
	対象	中部大学国際 ESD・SDGs センター准教授、中部 ESD 拠点協議会事務局長 古澤先生 アルマス・バイオコスモス研究所代表 水上氏 一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま事務局長 堺氏	
	方法	オンライン及び面談（個別ヒアリング）	
	ヒアリング	内容・結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 白井先生の気候変動教育の話は広い視野で現実的な提案だったと思う。行政が変わるチャンスだと思われた。（古澤先生） ● 参加した福井県坂井市の市民協働の担当からは、非常に興味深かったと聞いている。特に行政の社会教育、地域の社会教育、学校教育などが一体になって推進されることがいかに重要か再認識したとのこと。こうした連携を土台にして厚みを持った人材育成を市行政として展開したいと、モチベーションが得られたようであった。（水上氏） ● 福井県坂井市の取組の内容が非常に刺激的だった。やりっぱなしにしない社会 ESD として、目的を見失わないように今後の活動企画に活かしたい。（堺氏）
5	行事名	2023年11月25日開催 実践セミナー 食べ物が変わる?!気候変動と私たちの暮らし	
	対象	中部大学国際 ESD・SDGs センター准教授、中部 ESD 拠点協議会事務局長 古澤先生 アルマス・バイオコスモス研究所代表 水上氏 一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま事務局長 堺氏	
	方法	オンライン及び面談（個別ヒアリング）	
	ヒアリング	内容・結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 一般市民、行政、漁協など違う立場の参加者が同じ場で交流・議論したことは大きな成果だった。いつもは同じセクター内に議論に終始してしまうのが違うセクターがどんな考えを持っているかを理解することができた。 ● 漁協の人の理解が深まったように見受けられた。一次産業と持続可能性とのつながりに気づかれたように思う。 ● 参加した高校生が興味をもったようで、それ以後中部 ESD 拠点（共催団体）のイベントに参加するようになった。 ● 参加した市民と漁協とのコラボが生まれ、新たな教材づくりが始まっている。（古澤先生） ● プログラムの流れが大変良かった。食をテーマにした午前中のインプット、お昼の関係性を学びながらの昼食と見学、そして午後のミステリーワークショップという内容は、福井県坂井市の担当者に内容紹介したところ、ぜひ参考にしたいとのことだった。 ● お昼の地元食材を使った昼食会は参加者にとって非常に有効に作用した。午後のワークショップの下準備の一環としてのインプットの他、その場の交流で場が和み拡大版のアイスブレイクとしても機能した。 ● 食をテーマで、さらに伊勢三河湾地域に絞ったミステリーワークショップツールの開発は大きな成果で、これからも地域レベルのツールが作られるきっかけになったと考える。（水上氏）

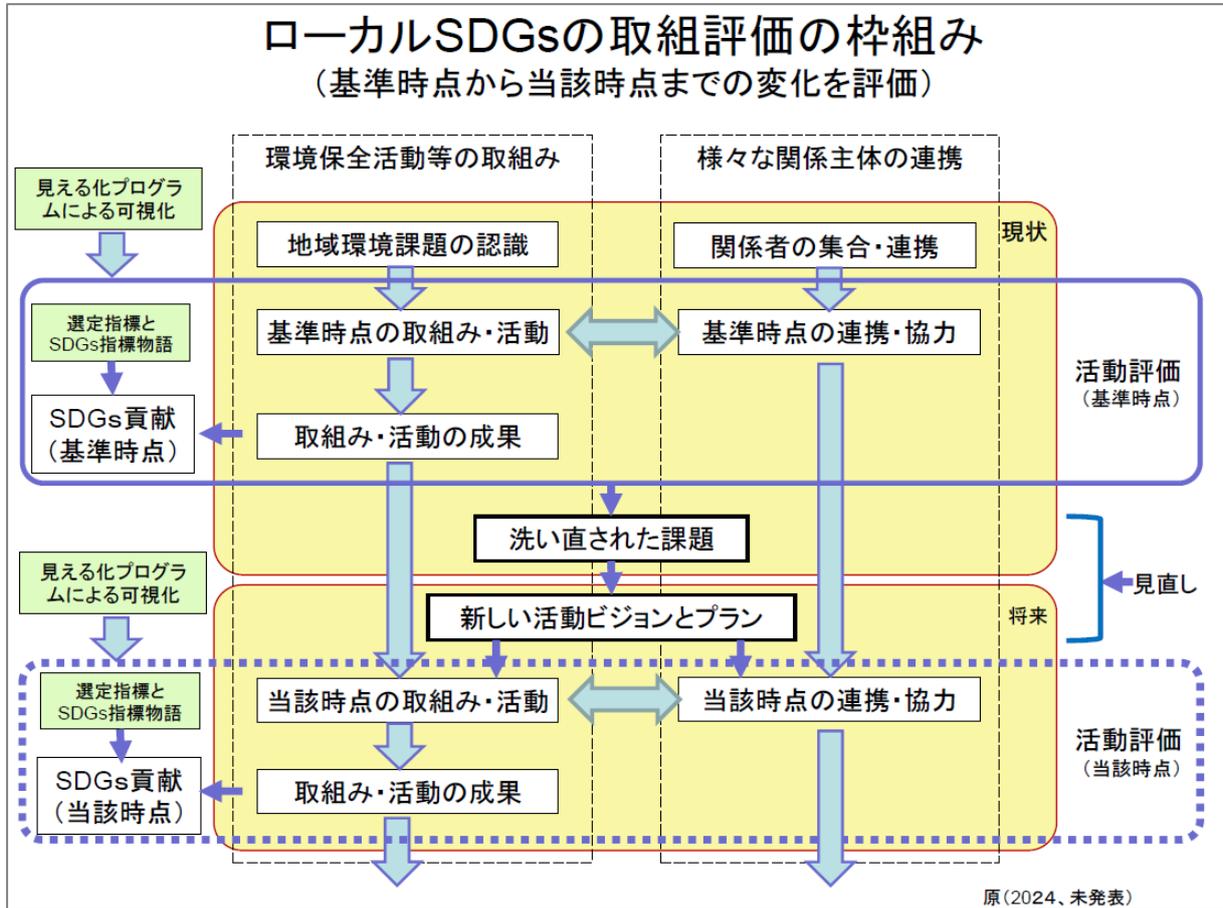
		<ul style="list-style-type: none"> ● 海苔養殖と水質保全による貧栄養の話題は環境の「つながり」という点で大きなインパクトがある。今後事例として使っていきたい。(堺氏)
6	行事名	SDGs 社会教育研究ワーキング第1回 2023年6月14日開催、第2回 2023年10月24日開催、第3回 2023年11月24日開催、及びESD ワークブック作成
	対象	中部大学国際ESD・SDGsセンター准教授中部ESD拠点協議会事務局長 古澤先生 アルマス・バイオコスモス研究所代表 水上氏 一般社団法人環境市民プラットフォームとやま事務局長 堺氏
	方法	オンライン及び面談(個別ヒアリング)
	内容・結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 第1回研究会のペルソナワークショップはワークブックのニーズを検討するためのものだったが、相手の立場を感じる新たな視点の手法として非常に有用だと感じた。違う立場で考えるという方法はESDの深化にとって重要なのではないか。(古澤先生) ● 研究会の開催により作成されたワークブックには大変期待している。構成が良い組立となっており、地元で行っている課題解決型の取組に活用したい。活用機会は多いと思う。(水上氏) ● 学び合いの場が課題解決の行動につながり、そこがまた学び合いの場となるスパイラル構造が社会ESDであることの意識が深まった。そのベクトルの中でワークブックを自分の取組の中で活用したい。(堺氏)
7	行事名	2024年2月16日開催 地域循環共生圏フォーラム in HOKUSEI「北勢エリアで“循環”の輪を広げよう！」
	対象	一般社団法人ネクストステップ研究会 寺田氏
	方法	メールヒアリング
	内容・結果	<p>ネクストステップ研究会の各チームからのコメント(※一部抜粋)</p> <p>《ESDチーム》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 問題をいかに自分ごととして捉えることができるか。ESDのお手本になる方々(勉強させていただきました)の集まりだったと感じます。 ● 地域の取り組み紹介、ワークショップ後の発表で必ず出てきたキーワードが『人とのつながりがあつての地域循環』でした。 ● “持続可能な社会を目指して行動できる人を増やす教育”重要課題だと改めて感じます。今回のフォーラムは傍観者から当事者への意識作りがわかりやすかったので、同じ内容で参加者未成年限定フォーラムも開催できれば新しい発見ができそうです。 <p>《里山チーム》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● まずは、ネクストステップ研究会が共催という立場で今回のフォーラムを開催出来たことは、ネクストの活動全体の大きな第一歩であり、ネクストのプレゼンスを高めるためにも大変意義のあることだと思う。 ● 今後のネクストの重要な取り組みとしては、今回のフォーラムをきっかけとして、今回参加の方々と関係者、更にはその先に繋がっておられる方々の中から今後地域循環の協働が出来るパートナー発掘や北勢エリアでの循環と循環の繋がりへと広げて行くことである。 ● 里山チームとしても、具体的に竹林整備を基にした地域経済循環の構築を計画し、地域社会課題及び地域環境課題の同時解決も目指し、ネクストのひとつのビジネスモデルとなるよう積極的に活動していきたい。 <p>《アサリチーム》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● アサリチームは、アサリという地域資源を活用してローカルSDGs事業を生み出そうとする活動であり、今回のフォーラムのテーマに合致している。豊かな海の実現と

			<p>いう環境面と経済面の取組みが、市民が集う浜づくりといった社会面や経済面の更なる改善につながる好循環を生めば、地域の持続可能性が高まる。まだ空想の世界のようにも思えるが、私たち市民活動団体にとっても経済面、具体的にはソーシャルビジネス化や事業者との協働に向けての課題に目を向ける重要性が増している。ただ今回のワークショップで共有された情報を見ると、経済面の課題はまだ断片的のように思えた。環境、社会、経済課題を同時解決するためには、私たち自身が経済面も意識した取組みを必要としているのではないか、このことを改めて再認識させられたワークショップで、とても有意義であった。</p>
--	--	--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(2) 地域循環共生圏及びローカル SDGs 実践状況等の評価

ア 「SDGs 指標物語」によるローカル SDGs の取組評価の枠組み

- ローカル SDGs 実践状況等の評価指標ツールの作成業務として、昨年度から EPO 中部は下記の枠組みによる「SDGs 指標物語」の構築に取り組んだ。



イ 試行的な実践（2事例）

(ア) PF 丹南：ローカル SD クリエーションによる里山整備副産物を利用した海洋資源保全に関するコンソーシアムの構築（福井県丹南エリア）

① 評価指標の選定と SDGs 指標物語

評価指標の選定とSDGs指標物語 活動1、2、3（2024年1月選定修正）

	活動1	活動2	活動3	
名称	里山の保全活動	里海の保全活動	活動効果の検証と事業化	
活動内容	竹林整備体験、竹で地元のお米を炊いて試食、アウトドアクッキングの石窯整備、提供サービスメニューの開発	竹林整備で出た竹で漁礁の作成、作成した漁礁の設置、スノーケリングによる漁礁の観察会の開催	効果的な漁礁の開発・制作、魚礁の効果の検証、じゃらん（リクルート）での予約体制整備、Facebookグループポータルサイトの開設	
地域循環共生圏貢献	【環境】	【環境】	【社会】	【経済】
採用指標	侵入竹林境界整備延長 (m)	漁礁の設置数 (箇所)	体験プログラムの参加者数 (人)	観察会等収益事業プログラム運用売上 (円)
貢献SDGs指標	6.6.1、15.1.1			8.9.1
貢献SDGsターゲット	6.6、15.1	14.2	4.7	8.9
貢献SDGsゴール	G6、G15	G14	G4	G8

1

活動別評価指標の検討（活動1）

活動名	里山の保全活動		
活動課題	モウソウチク林の拡大による里山の荒廃		
活動内容	竹林整備体験、竹で地元のお米を炊いて試食		
活動成果予想	荒廃した竹林の環境向上、自然環境教育の普及・啓発、竹の利用価値の再認識、収益プログラムとしての運用		
地域循環共生圏貢献	【環境への貢献】	【社会への貢献】	【経済への貢献】
	荒廃した里山の保全 里山資源利用の再認識	環境教育の普及啓発 地元農産物（米）などの地産地消のPR	活動団体の自立的資金調達 活動団体の活動持続性の確保 グリーンツーリズムの活性化
評価指標1	指標案	侵入竹林境界整備延長 (m)	竹林整備、お米試食体験者数 (人)
評価指標2	指標案		イベント消費地元産食品量 (kg)
評価指標3	指標案		
採用指標 (案)		侵入竹林境界整備延長 (m)	竹林整備、お米試食体験者数 (人)
			竹林整備、お米試食体験売上 (円)

2

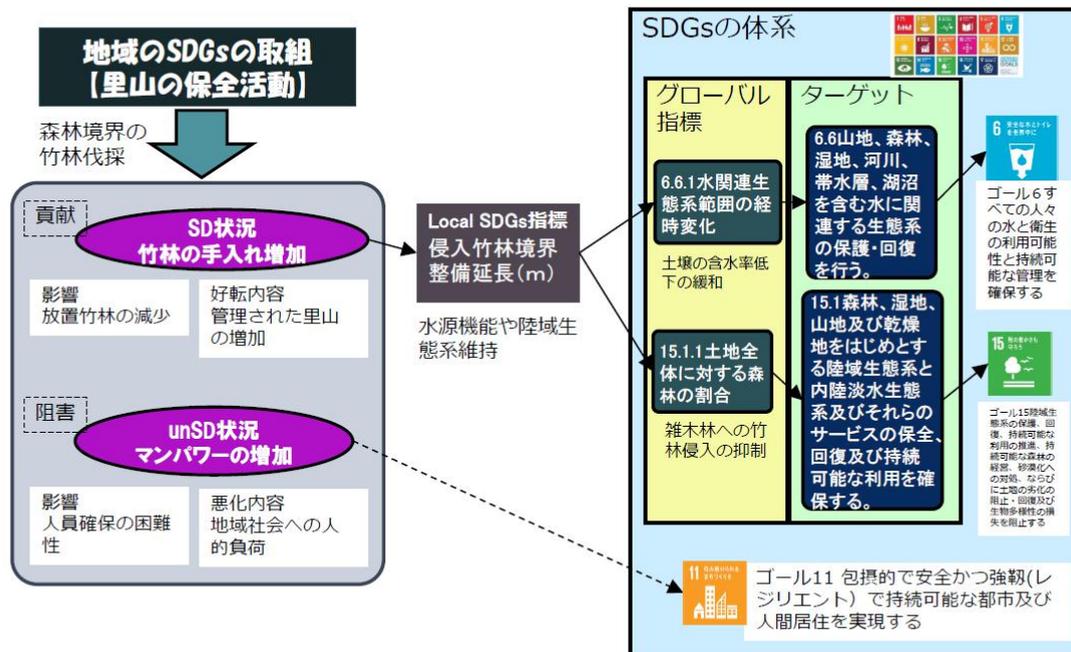
SDGs指標物語：活動1 侵入竹林境界整備延長（m）の指標の作成結果

活動1	里山の保全活動
貢献分野	環境
選定指標	侵入竹林境界整備延長（m）
Local SDGs指標の概説	侵入竹林境界整備延長（m）「ゴール6すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する15陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する」の達成に寄与する地域活動を反映するLocal SDGs指標として選定した。整備竹林面積（ha）は地域の「水源機能や陸域生態系維持」への貢献を表す。
SDGsへの関連性	侵入竹林境界整備延長（m）が増加すると、「土壌の含水率低下の緩和」という関連性から、【指標6.6.1水関連生態系範囲の経時変化】に影響があり、【ターゲット6.6山地、森林、湿地、河川、帯水層、湖沼を含む水に関連する生態系の保護・回復を行う。】の達成に貢献する。また、「雑木林への竹林侵入の抑制」という関連性から、【指標15.1.1土地全体に対する森林の割合】に影響があり、【ターゲット15.1森林、湿地、山地及び乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系及びそれらのサービスの保全、回復及び持続可能な利用を確保する。】の達成に貢献する。
地域の取組との関連性	侵入竹林境界整備延長（m）のために『里山の保全活動』を行えば、『竹林の手入れ増加』という持続可能性に貢献するSD状況が発生し、『放置竹林の減少』の影響により『管理された里山の増加』につながる。一方、「マンパワーの増加」という持続可能性を阻害するunSD状況が発生する可能性が考えられ、「人員確保の困難性」の影響により「地域社会への人的負荷」につながることで、「ゴール11 包摂的で安全かつ強靭(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する」に対する阻害要因となり得るため、対策が必要となる。

3

SDGs指標物語*チャート：侵入竹林境界整備延長（m）

出典：原理史・平川眞・川村眞也・杉田暁・伊藤恭彦(2023)：地域活動推進のためのSDGs指標物語、環境共生,Vol139, No.1, pp.66-76



協力：中部大学 国際GISセンター 問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点

4

活動別評価指標の検討（活動2）

活動名	里海の保全活動		
活動課題	里海の水産資源の生息場の減少		
活動内容	竹林整備で出た竹で漁礁の作成、作成した漁礁の設置		
活動成果予想	海洋生物の生息場や産卵床の創出、自然環境教育の普及・啓発、竹の利用価値の再認識		
地域循環共生圏貢献	【環境への貢献】	【社会への貢献】	【経済への貢献】
	竹林整備で出た竹による海洋生物の生息場や産卵場の創出による海洋生態系の保全	地元漁協やダイビングショップとの連携構築 里山と里海保全のつながりの創出	
評価指標 1	指標案	漁礁の設置数（箇所）	
評価指標 2	指標案		
評価指標 3	指標案		
採用指標（案）		漁礁の設置数（箇所）	

5

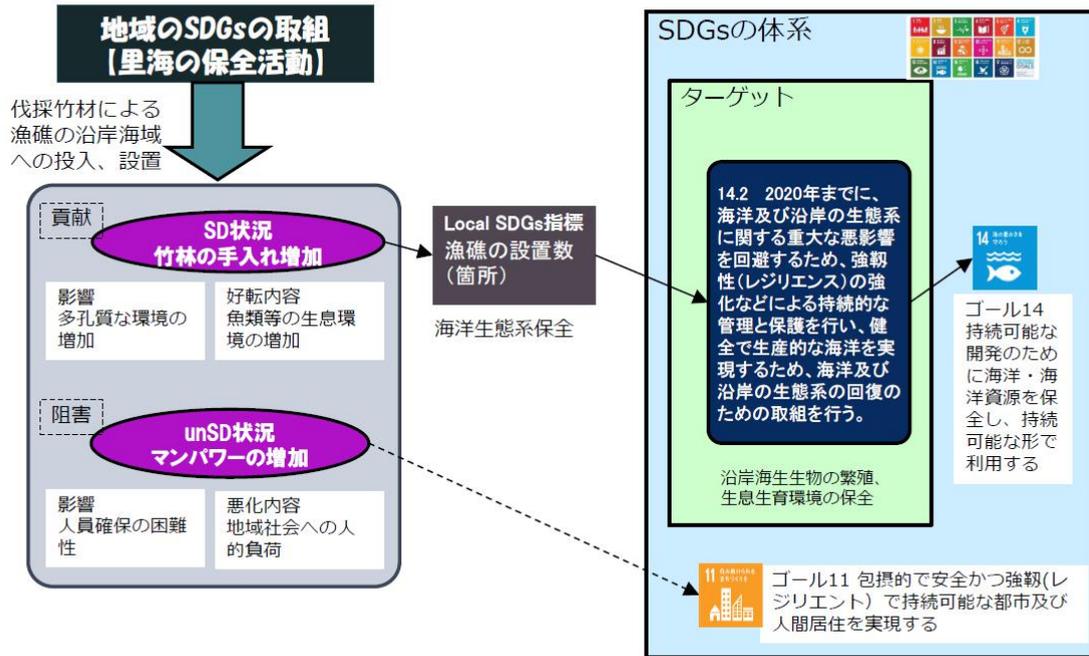
SDGs指標物語：活動2 漁礁の設置数（箇所）の指標の作成結果

活動2	里海の保全活動
貢献分野	環境
選定指標	漁礁の設置数（箇所）
Local SDGs指標の概説	漁礁の設置数(箇所)は「ゴール14 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する」の達成に寄与する地域活動を反映するLocal SDGs指標として選定した。漁礁の設置数(箇所)は地域の「海洋生態系保全」への貢献を表す。
SDGsへの関連性	漁礁の設置数(箇所)が増加すると、「沿岸海生生物の繁殖、生息生育環境の保全」という関連性から、【ターゲット14.2 2020年までに、海洋及び沿岸の生態系に関する重大な悪影響を回避するため、強靱性(レジリエンス)の強化などによる持続的な管理と保護を行い、健全で生産的な海洋を実現するため、海洋及び沿岸の生態系の回復のための取組を行う。】の達成に貢献する。
地域の取組との関連性	漁礁の設置数(箇所)のために『伐採竹材による漁礁の沿岸海域への投入、設置』を行えば、『伐採竹材漁礁の定置』という持続可能性に貢献するSD状況が発生し、『多孔質な環境の増加』の影響により『魚類等の生息環境の増加』につながる。一方、「マンパワーの増加」という持続可能性を阻害するunSD状況が発生する可能性が考えられ、「人員確保の困難性」の影響により「地域社会への人的負荷」につながることで、「ゴール11 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する」に対する阻害要因となり得るため、対策が必要となる。

6

SDGs指標物語*チャート：漁礁の設置数（箇所）

出典：原理史・平川翼・川村真也・杉田暁・伊藤恭彦(2023)：地域活動推進のためのSDGs指標物語，環境共生,Vol.39, No.1, pp.66-76



協力：中部大学 国際GISセンター 問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点

活動別評価指標の検討（活動3）

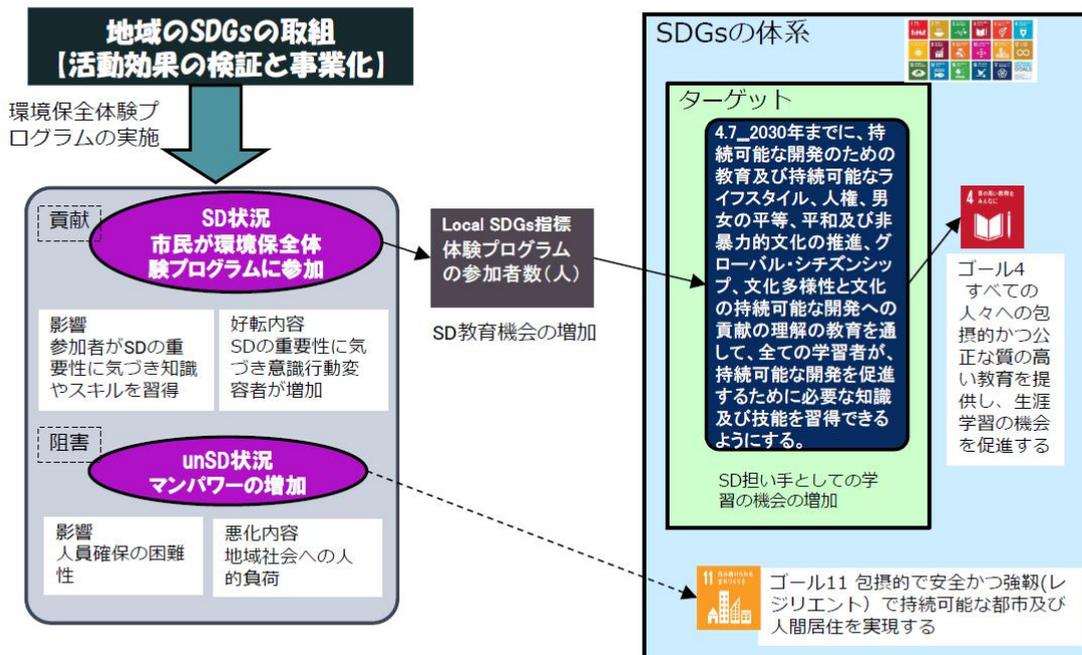
活動名	活動効果の検証と事業化		
活動課題	竹の漁礁としての効果の検証 体験プログラムの開発		
活動内容	効果的な漁礁の開発・制作、魚礁の効果の検証、じゃらん（リクルート）での予約体制整備、Facebookグループポータルサイトの開設		
活動成果予想	里山資源のワズユース、水産資源の増加、流域連携保全の構築、収益事業としての運用、観光産業の活性化		
地域循環共生圏貢献	【環境への貢献】	【社会への貢献】	【経済への貢献】
	里山の副産物を資源として里海保全に利用することによる資源循環	里海の自然環境教育の普及・啓発 流域連携保全の構築	収益事業のプログラム運営による地元観光業への経済効果 グリーンツーリズムの活性化
評価指標 1	指標案	体験プログラムの参加者数（人）	観察会等収益事業プログラム運用売上（円）
評価指標 2	指標案	連携団体数（団体）	
評価指標 3	指標案		
採用指標（案）		体験プログラムの参加者数（人）	観察会等収益事業プログラム運用売上（円）

SDGs指標物語：活動3 体験プログラムの参加者数（人）の指標の作成結果

活動3	活動効果の検証と事業化
貢献分野	社会
選定指標	体験プログラムの参加者数（人）
Local SDGs指標の概説	体験プログラムの参加者数(人)は「ゴール4 すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」の達成に寄与する地域活動を反映するLocal SDGs指標として選定した。体験プログラムの参加者数(人)は地域の「SD教育機会の増加」への貢献を表す。
SDGsへの関連性	体験プログラムの参加者数(人)が増加すると、「SD担い手としての学習の機会の増加」という関連性から、【ターゲット4.7.2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。】の達成に貢献する。
地域の取組との関連性	体験プログラムの参加者数(人)のために『環境保全体験プログラムの実施』を行えば、『市民が環境保全体験プログラムに参加』という持続可能性に貢献するSD状況が発生し、『参加者がSDの重要性に気づき知識やスキルを習得』の影響により『SDの重要性に気づき意識行動変容者が増加』につながる。一方、「マンパワーの増加」という持続可能性を阻害するunSD状況が発生する可能性が考えられ、「人員確保の困難性」の影響により「地域社会への人的負荷」につながることで、「ゴール11 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する」に対する阻害要因となり得るため、対策が必要となる。

SDGs指標物語*チャート：体験プログラムの参加者数（人）

出典：原理史・平川眞・川村真也・杉田暁・伊藤恭彦(2023)：地域活動推進のためのSDGs指標物語、環境共生,Vol.139, No.1, pp.66-76



協力：中部大学 国際GISセンター 問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点

SDGs指標物語：活動3 観覧会等収益事業プログラム運用売上（円）の指標の作成結果

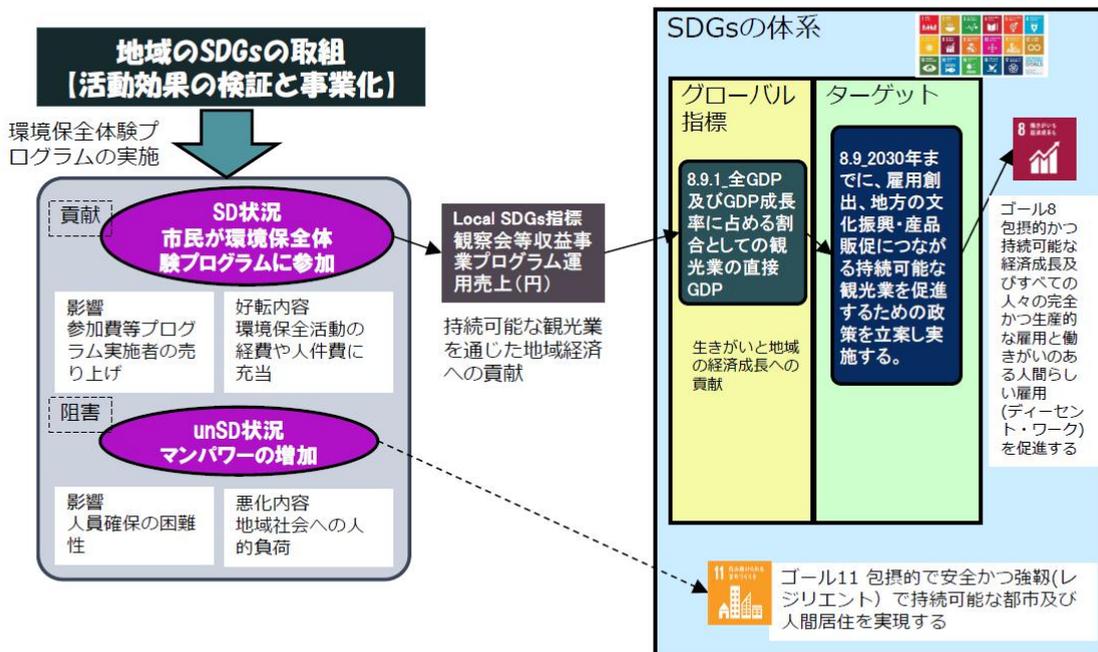
活動3	活動効果の検証と事業化
貢献分野	社会
選定指標	観覧会等収益事業プログラム運用売上（円）
Local SDGs指標の概説	観覧会等収益事業プログラム運用売上（円）は「ゴール8包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する」の達成に寄与する地域活動を反映するLocal SDGs指標として選定した。観覧会等収益事業プログラム運用売上（円）は地域の「持続可能な観光業を通じた地域経済への貢献」への貢献を表す。
SDGsへの関連性	観覧会等収益事業プログラム運用売上（円）が増加すると、「生きがいと地域の経済成長への貢献」という関連性から、【指標8.9.1全GDP及びGDP成長率に占める割合としての観光業の直接GDP】に影響があり、【ターゲット8.9.2030年までに、雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業を促進するための政策を立案し実施する。】の達成に貢献する。
地域の取組との関連性	観覧会等収益事業プログラム運用売上（円）のために『環境保全体験プログラムの実施』を行えば、『市民が環境保全体験プログラムに参加』という持続可能性に貢献するSD状況が発生し、『参加費等がプログラム実施者の売り上げ』の影響により『環境保全活動の経費や人件費に充当』につながる。一方、「マンパワーの増加」という持続可能性を阻害するunSD状況が発生する可能性が考えられ、「人員確保の困難性」の影響により「地域社会への人的負荷」につながることで、「ゴール11包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する」に対する阻害要因となり得るため、対策が必要となる。

11

SDGs指標物語*チャート：観覧会等収益事業プログラム運用売上（円）



出典：原理史・平川眞・川村真也・杉田暁・伊藤恭彦(2023)：地域活動推進のためのSDGs指標物語，環境共生,Vol.39, No.1, pp.66-76



協力：中部大学 国際GISセンター 問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点

12

②活動評価

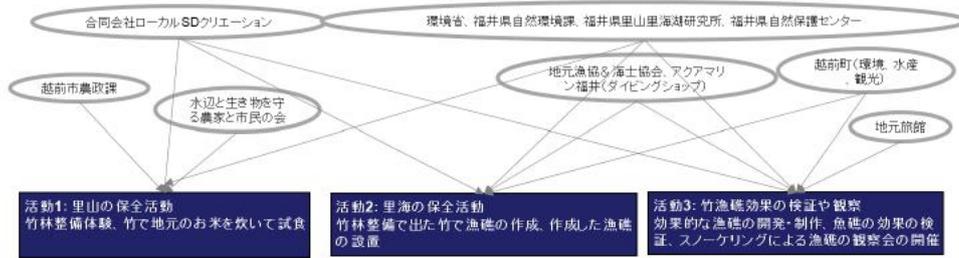
里山整備副産物を利用した海洋資源保全に関するコンソーシアムの構築

活動評価 2022年3月～2024年2月

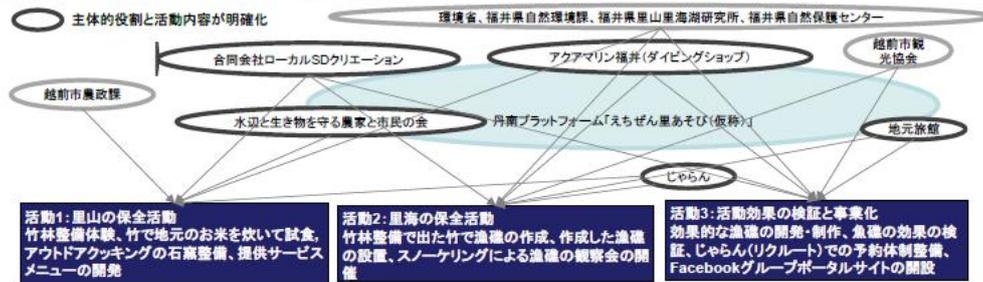
環境省 EPO 中部 2024年2月29日

評価の視点1：関係主体の変遷による協働と活動の推進

【2022年3月時点のもくろみ】思い描いていた段階であり、具体的な役割は明確ではなかった。



【2024年2月時点の状況】当所 비해、誰が何をするのかははっきりし、活動内容が充実化、明確化してきている。丹南プラットフォーム「えちぜん里遊び(仮称)」のビジョンが共有され各々の活動主体が連携しながら具体的な活動に取り組む状況となってきた。



評価の視点2：選定指標による評価

小規模とはいえ、各指標とも順調に増加している。

	活動1	活動2	活動3	
名称	里山の保全活動	里海の保全活動	活動効果の検証と事業化	
活動内容	竹林整備体験、竹で地元のお米を炊いて試食、アウトドアクッキングの石窯整備、提供サービスメニューの開発	竹林整備で出た竹で漁礁の作成、作成した漁礁の設置、スノーケリングによる漁礁の観察会の開催	効果的な漁礁の開発・制作、魚礁の効果の検証、じゃらん(リクルート)での予約体制整備、Facebookグループポータルサイトの開設	
貢献分野	【環境】	【環境】	【社会】	【経済】
採用指標	侵入竹林境界整備延長(m)	漁礁の設置数(箇所)	体験プログラムの参加者数(人)	観察会等収益事業プログラム運用売上(円)
SDGs 貢献	指標	6.6.1、15.1.1		8.9.1
	ターゲット	6.6、15.1	14.2	4.7
	ゴール	G6、G15	G14	G4
基準 2022年3月	0m	5基	0人	0円
評価 2024年2月	総延長 120m	計 23 基(2022 年度 10 基、2023 年度 13 基)	計 33 人(2022 年度 15 人、2023 年度 18 人)	合計 43,500 円(地元旅館 32,000 円、水辺の会 11,500 円)修学旅行参加を除く

評価の視点2：選定指標による評価（詳細表）

	活動1	活動2	活動3	
名称	里山の保全活動	里海の保全活動	活動効果の検証と事業化	
活動課題	モウソウチク林の拡大による里山の荒廃	里海の水産資源の生息場の減少	竹の漁礁としての効果の検証 体験プログラムの開発	
活動内容	竹林整備体験、竹で地元のお米を炊いて試食（モニタープログラムの実施）、アウトドアクッキングの石窯整備、提供サービスメニューの開発	竹林整備で出た竹で漁礁の作成、作成した漁礁の設置、スノーケリングによる漁礁の観察会の開催	効果的な漁礁の開発・制作、魚礁の効果の検証、じゃらん(リクルート)での予約体制整備、Facebook グループポータルサイトの開設	
地域循環共生圏貢献	【環境への貢献】	【環境への貢献】	【社会への貢献】	【経済への貢献】
地域循環共生圏貢献内容	荒廃した里山の保全 里山資源利用の再認識	竹林整備で出た竹による海洋生物の生息場や産卵場の創出による海洋生態系の保全	里海の自然環境教育の普及・啓発 流域連携保全の構築	収益事業のプログラム運営による地元観光業への経済効果 グリーンツーリズムの活性化
採用指標	侵入竹林境界整備延長(m)	漁礁の設置数(箇所)	体験プログラムの参加者数(人)	観察会等収益事業プログラム運用売上(円)
貢献 SDGs 指標	6.6.1 水関連生態系範囲の経時変化 15.1.1 土地全体に対する森林の割合			8.9.1 全 GDP 及び GDP 成長率に占める割合としての観光業の直接 GDP
貢献 SDGs ターゲット	6.6 山地、森林、湿地、河川、帯水層、湖沼を含む水に関連する生態系の保護・回復を行う。 15.1 森林、湿地、山地及び乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系及びそれらのサービスの保全、回復及び持続可能な利用を確保する。	14.2 2020 年までに、海洋及び沿岸の生態系に関する重大な悪影響を回避するため、強靱性(レジリエンス)の強化などによる持続的な管理と保護を行い、健全で生産的な海洋を実現するため、海洋及び沿岸の生態系の回復のための取組を行う。	4.7 2030 年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、(略)持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。	8.9 2030 年までに、雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業を促進するための政策を立案し実施する。
貢献 SDGs ゴール	G6: すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する G15: 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する	G14 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する	G4 すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する	G8 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する
基準 2022 年 3 月	0m	5 基	0 人	0 円
評価 2024 年 2 月	総延長 120m	計 23 基(2022 年度 10 基、2023 年度 13 基)	計 33 人(2022 年度 15 人、2023 年度 18 人)	合計 43,500 円(地元旅館 32,000 円、水辺の会 11,500 円)修学旅行参加を除く

(イ) 長野県 NPO センター、芋井地区住民自治協議会による「いもいりピングらぼ」の活動（長野県長野市芋井地区集落）

①評価指標の選定と SDGs 指標物語

評価指標の選定とSDGs指標物語 活動 1、2、3（2023年1月選定2024年2月修正）

	活動1	活動2		活動3		
名称	情報共有の場、学びの場の設営	実験の場の設営①再エネ活用		実験の場の設営②草刈りバスターズ		
活動内容	参加者の声掛け、お互いを知るワークショップ、持続可能な芋井地区に関する講座の開催	持続可能な地域づくりにつながるオフグリッド再エネ活用の実験的プロジェクトの推進		持続可能な地域づくりにつながる草刈り講座やネットワークシステムの実験的プロジェクトの推進		
地域循環共生圏貢献	【社会】	【環境】	【社会】	【環境】	【社会】	【経済】
採用指標	情報共有や学びの場の参加人数（人）、課題解決の地域活動実験的プロジェクト提案数（件）	再エネ実験設置数（ヶ所）、活用した再エネ量（kWh）	実験関係者数（人）、波及個人数（ヶ所）	実験プロジェクト推進による草刈り面積（平方m）	草刈りバスターズ受講者数（人）、イベント参加者数（人）	アクティビティ化による関連サービス提供売上（円）
貢献SDGs指標		7.2.1				8.9.1
貢献SDGsターゲット	4.4、11.3、17.2	7.2、13.3	4.4、11.3、17.2	15.1	4.4、11.3、17.2	8.9
貢献SDGsゴール	4、11、17	7、13	4、11、17	15	4、11、17	8

1

活動別評価指標（活動1）

活動名	情報共有の場、学びの場の設営		
活動課題	行政頼みの地域運営ではなく、自分たちの地域を自分たちで運営する仕組みへの転換。「私たちが住み続けたい地域とは？」「そのために自分ができることは？」など自分ごととして関わる仲間を増やす。		
活動内容	参加者の声掛け、お互いを知るワークショップ、持続可能な芋井地区に関する講座の開催		
活動成果予想	関係人口の増加と人的ネットワークの構築 参加者の資質の向上、課題と将来ビジョンの共有・我がこと化、実験プロジェクトの提案		
地域循環共生圏貢献	【環境への貢献】	【社会への貢献】	【経済への貢献】
		地域のつながりが強化、関係者のネットワークが拡大 参加者の資質の向上、課題と将来ビジョンの共有・我がこと化、地域活動の提案	
評価指標 1	指標案	参加者数	
評価指標 2	指標案	課題解決の地域活動実験的プロジェクト提案数	
評価指標 3	指標案		
採用指標（案）	情報共有や学びの場の参加人数（人）、課題解決の地域活動実験的プロジェクト提案数（件）		

2

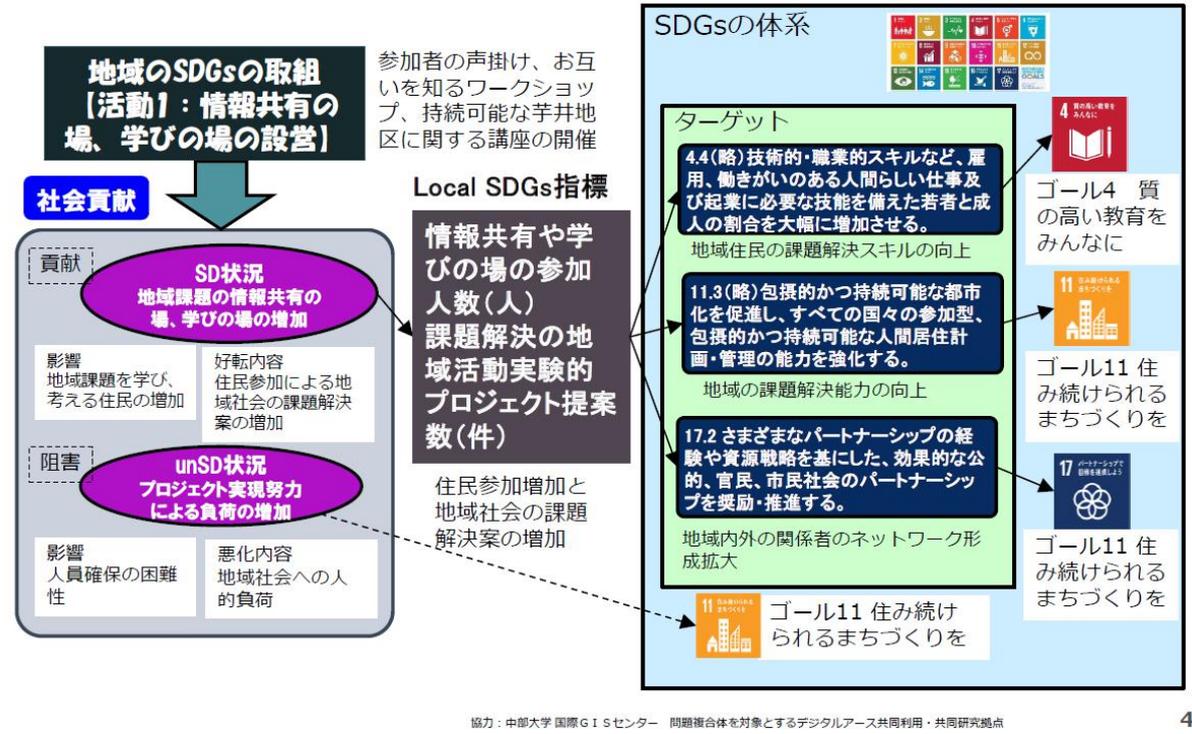
「活動1 情報共有の場、学びの場の設営」の評価指標のSDGs指標物語

活動1	情報共有の場、学びの場の設営
貢献分野	社会
選定指標	情報共有や学びの場の参加人数（人）、課題解決の地域活動実験的プロジェクト提案数（件）
Local SDGs指標の概説	情報共有や学びの場の参加人数（人）、課題解決の地域活動実験的プロジェクト提案数（件）は「ゴール4 質の高い教育をみんなに、11住み続けられるまちづくりを、17パートナーシップで目標を達成しよう」の達成に寄与する地域活動を反映するLocal SDGs指標として選定した。情報共有や学びの場の参加人数（人）、課題解決の地域活動実験的プロジェクト提案数（件）は地域の「住民参加増加と地域社会の課題解決案の増加」への貢献度を表す。
SDGsへの関連性	情報共有や学びの場の参加人数（人）、課題解決の地域活動実験的プロジェクト提案数（件）が増加すると、「地域住民の課題解決スキルの向上」により、【ターゲット4.4（略）技術的・職業的スキルなど、雇用の機会がある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。】の達成に貢献する。また、「地域の課題解決能力の向上」により、【ターゲット11.3（略）包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、すべての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。】の達成に貢献する。また、「地域内外の関係者のネットワーク形成拡大」により、【ターゲット17.2 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。】の達成に貢献する。
地域の取組との関連性	情報共有や学びの場の参加人数（人）、課題解決の地域活動実験的プロジェクト提案数（件）のために『情報共有の場、学びの場の設営』を行えば、『地域課題の情報共有の場、学びの場の増加』という持続可能性に貢献するSD状況が発生し、『地域課題を学び、考える住民の増加』の影響により『住民参加による地域社会の課題解決案の増加』につながる。一方、「プロジェクト実現努力による負荷の増加」という持続可能性を阻害するunSD状況が発生する可能性が考えられ、「人員確保の困難性」の影響により「地域社会への人的負荷」につながることで、「ゴール11 住み続けられるまちづくりを」に対する阻害要因となり得るため、対策が必要となる。

3

SDGs指標物語*チャート 「活動1 情報共有の場、学びの場の設営」の選定指標

*「ローカルSDGs取組のための基礎自治体指標データベースの構築」第24回日本環境共生学会学術大会論文集



4

活動別評価指標（活動2）

活動名	実験の場の設営①再エネ活用			
活動課題	家庭での化石燃料由来のエネルギーに頼る生活スタイル（自動車での移動、系統電力の利用など）が気候変動の原因ともなっている。芋井地区から太陽光やバイオマスなど再生可能エネルギーを活用したオフグリッド生活をすこずつ取り入れる家庭を増やす			
活動内容	持続可能な地域づくりにつながるオフグリッド再エネ活用の実験的プロジェクトの推進			
活動成果予想	導入可能なオフグリッド再エネシステム講座、設置実験、効果及び導入可能性評価、活用実績			
地域循環共生圏貢献	【環境への貢献】	【社会への貢献】	【経済への貢献】	
	再エネの実験的導入による創エネ	オフグリッド再エネ活用による防災力の強化、再エネ実験に伴う専門家や地区外の関係人口のネットワーク拡大	プロジェクト推進に伴う外資（補助金）の導入、再エネによる域外エネルギー費流出防止	
評価指標 1	指標案	再エネ実験数、設置数	再エネ実験関係者数	導入外資（補助金）額
評価指標 2	指標案	活用した創エネエネルギー量 (kWh)	関係者への再エネ設置の波及数	創エネエネルギー費（代替による換算）
評価指標 3	指標案	二酸化炭素削減量 (CO2-kg)		
採用指標（案）		再エネ実験設置数（ヶ所）、活用した再エネ量（kWh）	実験関係者数（人）、波及箇所数（ヶ所）	

5

SDGs指標物語の作成結果：活動2 実験の場の設営①再エネ活用
再エネ実験設置数（ヶ所）、活用した再エネ量（kWh）



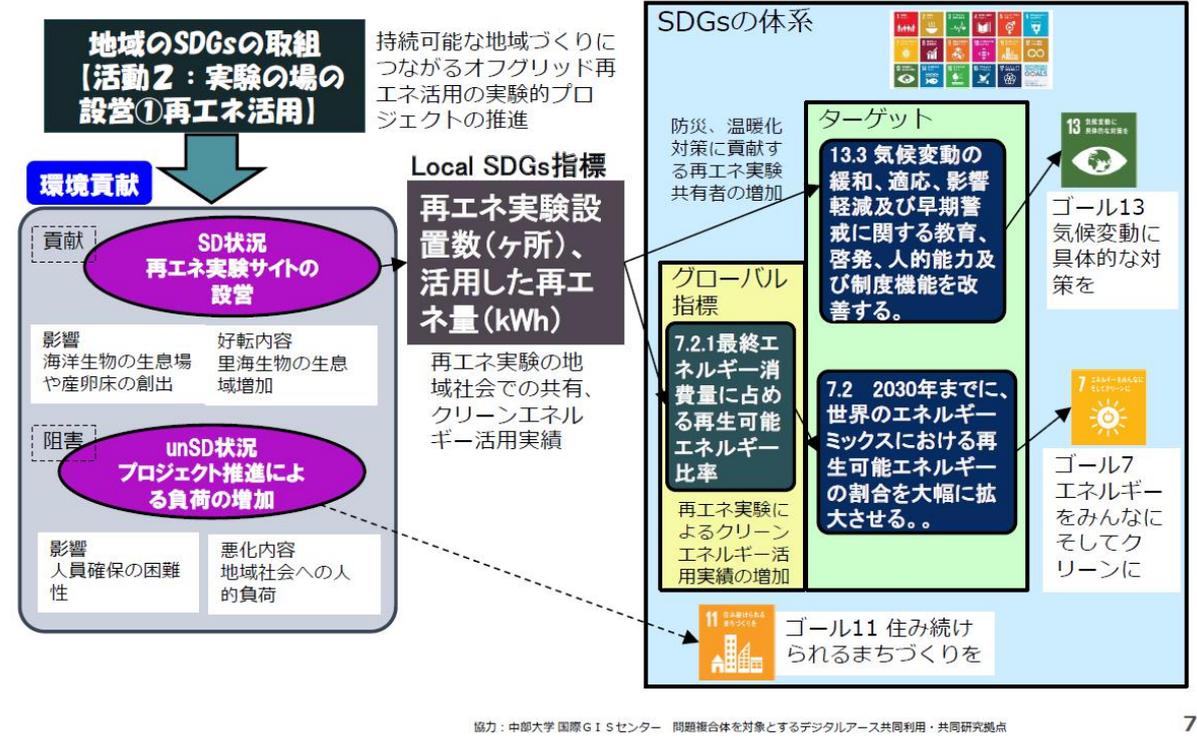
「活動2 実験の場の設営①再エネ活用」の評価指標のSDGs指標物語-1

活動1	実験の場の設営①再エネ活用
貢献分野	環境
選定指標	再エネ実験設置数（ヶ所）、活用した再エネ量（kWh）
Local SDGs指標の概説	再エネ実験設置数（ヶ所）、活用した再エネ量（kWh）は「ゴール13気候変動に具体的な対策を、7エネルギーをみんなにそしてクリーンに、」の達成に寄与する地域活動を反映するLocal SDGs指標として選定した。再エネ実験設置数（ヶ所）、活用した再エネ量（kWh）は地域の「再エネ実験の地域社会での共有、クリーンエネルギー活用実績」への貢献度を表す。
SDGsへの関連性	再エネ実験設置数（ヶ所）、活用した再エネ量（kWh）が増加すると、「防災、温暖化対策に貢献する再エネ実験共有者の増加」により、【ターゲット13.3気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。】の達成に貢献する。また、「再エネ実験によるクリーンエネルギー活用実績の増加」から、【指標7.2.1最終エネルギー消費量に占める再生可能エネルギー比率】に影響があり、【ターゲット7.2（略）再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。】の達成に貢献する。
地域の取組との関連性	再エネ実験設置数（ヶ所）、活用した再エネ量（kWh）のために『実験の場の設営①再エネ活用』を行えば、『再エネ実験サイトの設営』という持続可能性に貢献するSD状況が発生し、『再エネ実験実績の増加』の影響により『地域での再エネ実績共有とエネルギー活用実績の増加』につながる。一方、「プロジェクト推進による負荷の増加」という持続可能性を阻害するunSD状況が発生する可能性が考えられ、「人員確保の困難性」の影響により「地域社会への人的負荷」につながることで、「ゴール11 住み続けられるまちづくりを」に対する阻害要因となり得るため、対策が必要となる。

6

SDGs指標物語*チャート「活動2：実験の場の設営①再エネ活用」の選定指標-1

*「ローカルSDGs取組のための基礎自治体指標データベースの構築」第24回日本環境共生学会学術大会論文集

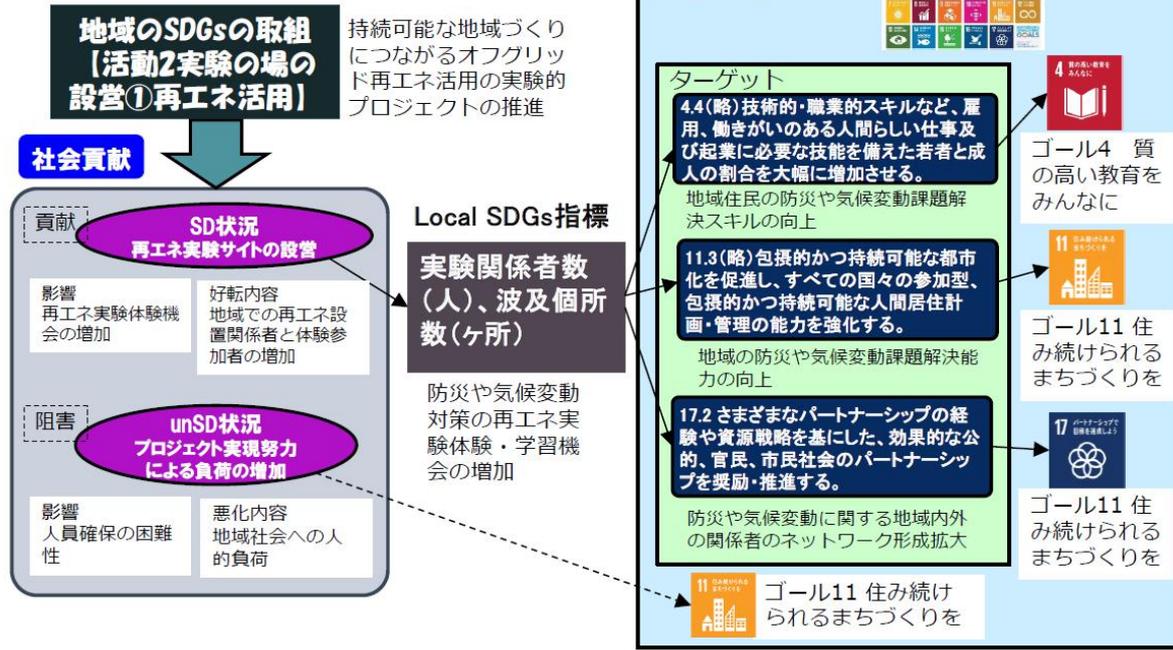


協力：中部大学 国際GISセンター 問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点

SDGs指標物語の作成結果：活動2 実験の場の設営①再エネ活用 実験関係者数(人)、波及個所数(ヶ所)

「活動2 実験の場の設営①再エネ活用」の評価指標のSDGs指標物語-2

活動1	実験の場の設営①再エネ活用
貢献分野	社会
選定指標	実験関係者数(人)、波及個所数(ヶ所)
Local SDGs指標の概説	実験関係者数(人)、波及個所数(ヶ所)は「ゴール4質の高い教育をみんなに、11住み続けられるまちづくりを、17パートナーシップで目標を達成しよう」の達成に寄与する地域活動を反映するLocal SDGs指標として選定した。実験関係者数(人)、波及個所数(ヶ所)は地域の「防災や気候変動対策の再エネ実験体験・学習機会の増加」への貢献度を表す。
SDGsへの関連性	実験関係者数(人)、波及個所数(ヶ所)が増加すると、「地域住民の防災や気候変動課題解決スキルの向上」から、【指標】に影響があり、【ターゲット4.4(前略)技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。】の達成に貢献する。また、「地域の防災や気候変動課題解決能力の向上」から、【指標】に影響があり、【ターゲット11.3(前略)包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、すべての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。】の達成に貢献する。また、「防災や気候変動に関する地域内外の関係者のネットワーク形成拡大」から、【指標】に影響があり、【ターゲット17.2 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。】の達成に貢献する。
地域の取組との関連性	実験関係者数(人)、波及個所数(ヶ所)のために『実験の場の設営①再エネ活用』を行えば、『再エネ実験サイトの設営』という持続可能性に貢献するSD状況が発生し、『再エネ実験体験機会の増加』の影響により『地域での再エネ設置関係者と体験参加者の増加』につながる。一方、「プロジェクト実現努力による負荷の増加」という持続可能性を阻害するunSD状況が発生する可能性が考えられ、「人員確保の困難性」の影響により「地域社会への人的負荷」につながることで、「ゴール11 住み続けられるまちづくりを」に対する阻害要因となり得るため、対策が必要となる。



協力：中部大学 国際GISセンター 問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点

活動別評価指標（活動3）

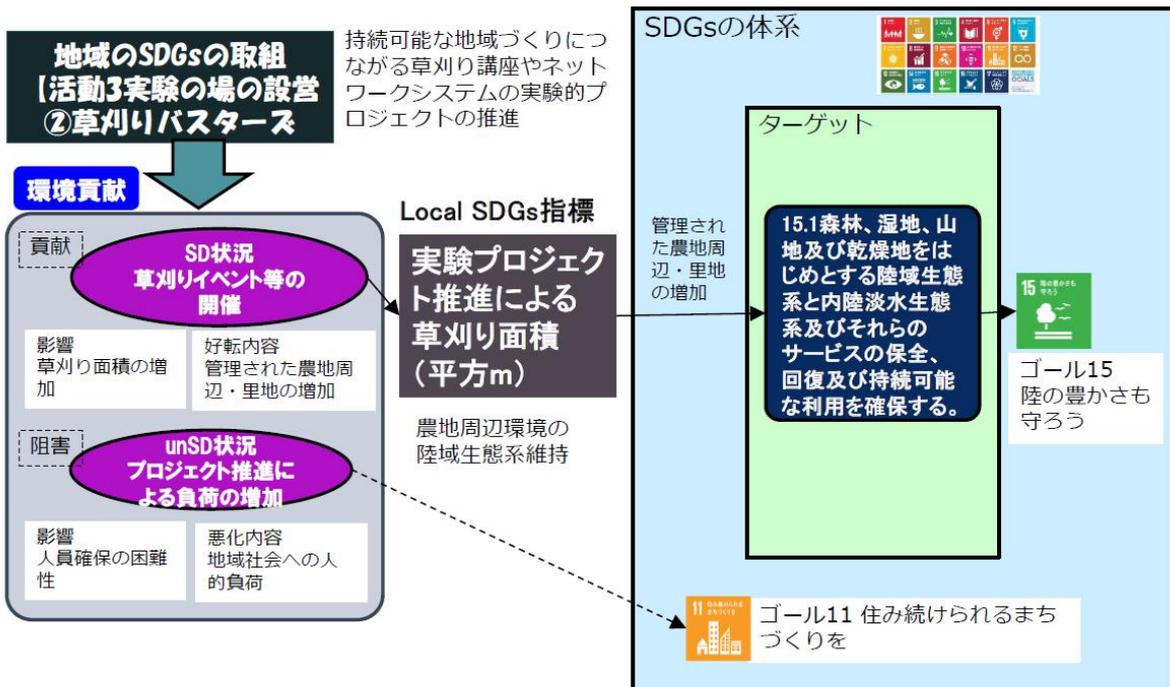
活動名	実験の場の設営②草刈りバスターズ		
活動課題	人口減少や高齢化が進み、公道や公園などの動力刈払機による草刈り作業の担い手を少なくなっており、生活や地区環境に支障をきたしつつある。地区外の関係人口を増やして、担い手不足を解決とすると同時に、地区外との交流増により地区に活力を取り戻す		
活動内容	持続可能な地域づくりにつながる草刈り講座やネットワークシステムの実験的プロジェクトの推進		
活動成果予想	草刈りネットワークシステムの構築と実験的運用、及び実験的草刈り実績		
地域循環共生圏貢献	【環境への貢献】	【社会への貢献】	【経済への貢献】
	草刈り実績による里山の持続性強化	草刈りネットワークシステム構築と運用による関係者の増加と域外ネットワークの拡大	プロジェクト推進に伴う外資（補助金）の導入 アクティビティ化による外来者へのサービス提供
評価指標 1	指標案	実験プロジェクト推進による草刈り面積	草刈りバスターズ受講者数
評価指標 2	指標案		導入外資（補助金）額
評価指標 3	指標案		草刈りイベント参加者数
採用指標（案）	指標案	実験プロジェクト推進による草刈り面積（平方m）	草刈りバスターズ受講者数（人）、イベント参加者数（人）
			アクティビティ化による関連サービス提供売上（円）

「活動3 実験の場の設営②草刈りバスターズ」の評価指標のSDGs指標物語-1

活動1	実験の場の設営②草刈りバスターズ
貢献分野	環境
選定指標	実験プロジェクト推進による草刈り面積（平方m）
Local SDGs指標の概説	実験プロジェクト推進による草刈り面積（平方m）は「ゴール15陸の豊かさを守ろう、」の達成に寄与する地域活動を反映するLocal SDGs指標として選定した。実験プロジェクト推進による草刈り面積（平方m）は地域の「農地周辺環境の陸域生態系維持」への貢献度を表す。
SDGsへの関連性	実験プロジェクト推進による草刈り面積（平方m）が増加すると、「管理された農地周辺・里地の増加」により、【ターゲット15.1森林、湿地、山地及び乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系及びそれらのサービスの保全、回復及び持続可能な利用を確保する。】の達成に貢献する。
地域の取組との関連性	実験プロジェクト推進による草刈り面積（平方m）のために『実験の場の設営②草刈りバスターズ』を行えば、『草刈りイベント等の開催』という持続可能性に貢献するSD状況が発生し、『草刈り面積の増加』の影響により『管理された農地周辺・里地の増加』につながる。一方、「プロジェクト推進による負荷の増加」という持続可能性を阻害するunSD状況が発生する可能性が考えられ、「人員確保の困難性」の影響により「地域社会への人的負荷」につながることで、「ゴール11 住み続けられるまちづくりを」に対する阻害要因となり得るため、対策が必要となる。

SDGs指標物語*チャート

*「ローカルSDGs取組のための基礎自治体指標データベースの構築」第24回日本環境共生学会学術大会論文集

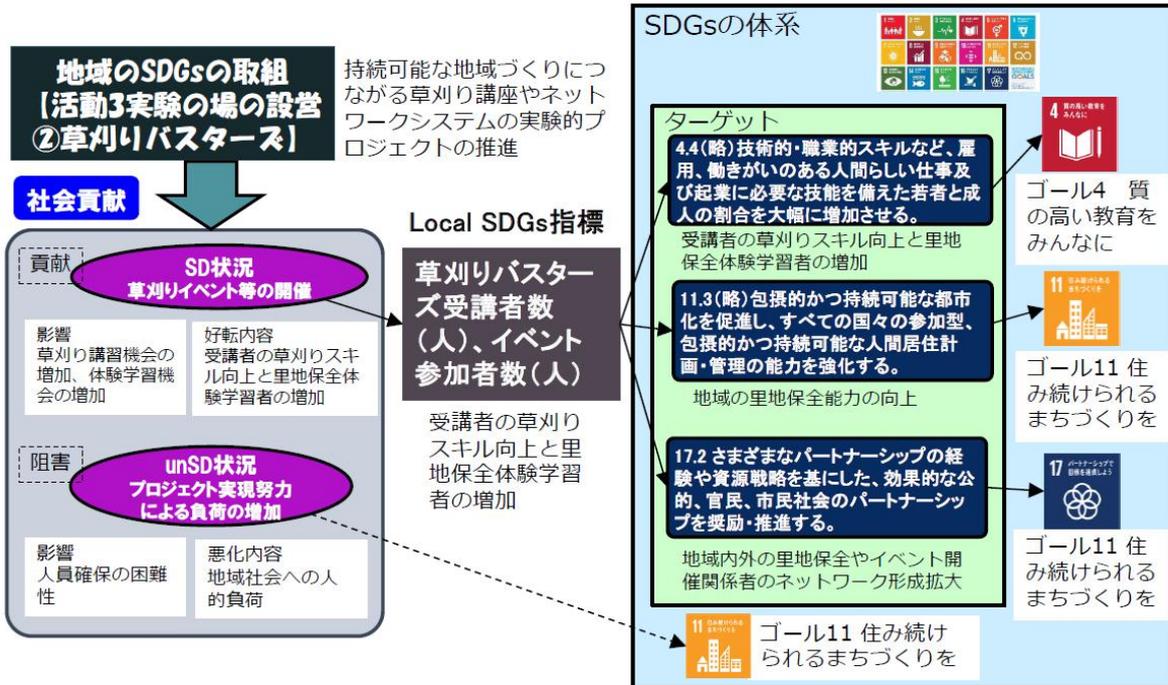


「活動3 実験の場の設営②草刈りバスターズ」の評価指標のSDGs指標物語-2

活動1	実験の場の設営②草刈りバスターズ
貢献分野	社会
選定指標	草刈りバスターズ受講者数（人）、イベント参加者数（人）
Local SDGs指標の概説	草刈りバスターズ受講者数（人）、イベント参加者数（人）は「ゴール4質の高い教育をみんなに、11住み続けられるまちづくりを、17パートナーシップで目標を達成しよう」の達成に寄与する地域活動を反映するLocal SDGs指標として選定した。草刈りバスターズ受講者数（人）、イベント参加者数（人）は地域の「受講者の草刈りスキル向上と里地保全体験学習者の増加」への貢献度を表す。
SDGsへの関連性	草刈りバスターズ受講者数（人）、イベント参加者数（人）が増加すると、「受講者の草刈りスキル向上と里地保全体験学習者の増加」により、【ターゲット4.4（前略）技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。】の達成に貢献する。また、「地域の里地保全能力の向上」により、【ターゲット11.3（前略）包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、すべての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。】の達成に貢献する。また、「地域内外の里地保全やイベント開催関係者のネットワーク形成拡大」により、【ターゲット17.2 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。】の達成に貢献する。
地域の取組との関連性	草刈りバスターズ受講者数（人）、イベント参加者数（人）のために『実験の場の設営②草刈りバスターズ』を行えば、『草刈りイベント等の開催』という持続可能性に貢献するSD状況が発生し、『草刈り講習機会の増加、体験学習機会の増加』の影響により『受講者の草刈りスキル向上と里地保全体験学習者の増加』につながる。一方、「プロジェクト実現努力による負荷の増加」という持続可能性を阻害するunSD状況が発生する可能性が考えられ、「人員確保の困難性」の影響により「地域社会への人的負荷」につながることで、「ゴール11 住み続けられるまちづくりを」に対する阻害要因となり得るため、対策が必要となる。

SDGs指標物語*チャート 「活動2：実験の場の設営①再エネ活用」の選定指標-2

*「ローカルSDGs取組のための基礎自治体指標データベースの構築」第24回日本環境共生学会学術大会論文集

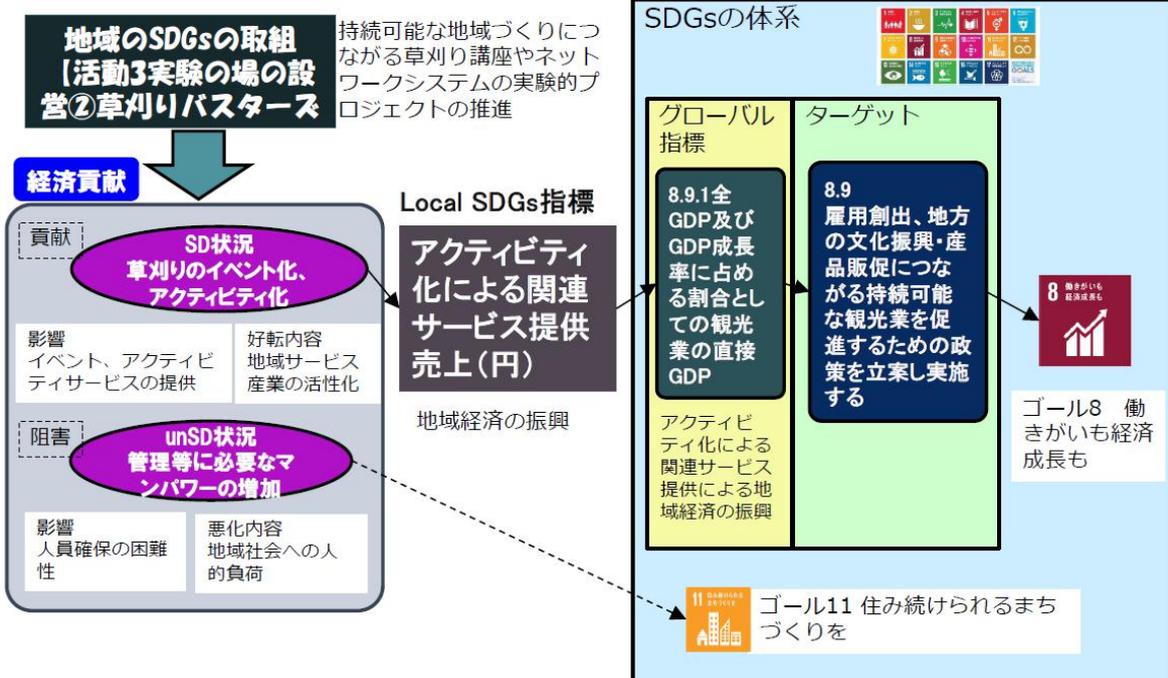


「活動3 実験の場の設営②草刈りバスターズ」の評価指標のSDGs指標物語-3

活動1	実験の場の設営②草刈りバスターズ
貢献分野	経済
選定指標	アクティビティ化による関連サービス提供売上（円）
Local SDGs指標の概説	アクティビティ化による関連サービス提供売上（円）は「ゴール8働きがいも経済成長も、」の達成に寄与する地域活動を反映するLocal SDGs指標として選定した。アクティビティ化による関連サービス提供売上（円）は地域の「地域経済の振興」への貢献度を表す。
SDGsへの関連性	アクティビティ化による関連サービス提供売上（円）が増加すると、「アクティビティ化による関連サービス提供による地域経済の振興」から、【指標8.9.1全GDP及びGDP成長率に占める割合としての観光業の直接GDP】に影響があり、【ターゲット8.9雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業を促進するための政策を立案し実施する】の達成に貢献する。
地域の取組との関連性	アクティビティ化による関連サービス提供売上（円）のために『実験の場の設営②草刈りバスターズ』を行えば、『草刈りのイベント化、アクティビティ化』という持続可能性に貢献するSD状況が発生し、『イベント、アクティビティサービスの提供』の影響により『地域サービス産業の活性化』につながる。一方、「管理等に必要なマンパワーの増加」という持続可能性を阻害するunSD状況が発生する可能性が考えられ、「人員確保の困難性」の影響により「地域社会への人的負荷」につながることで、「ゴール11 住み続けられるまちづくりを」に対する阻害要因となり得るため、対策が必要となる。

SDGs指標物語*チャート

*「ローカルSDGs取組のための基礎自治体指標データベースの構築」第24回日本環境共生学会学術大会論文集



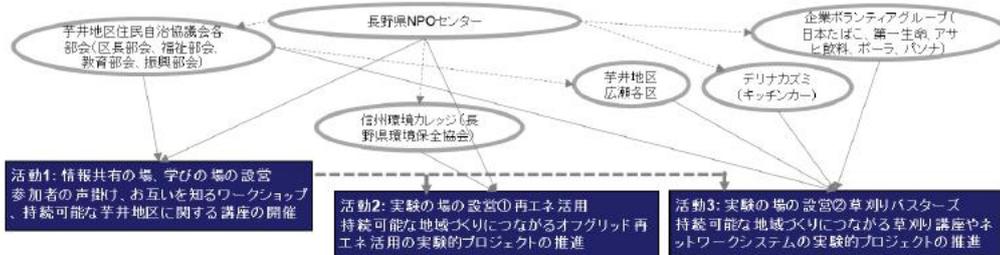
②活動評価

いもいリビングラボの活動 活動評価案 2022年10月～2024年2月

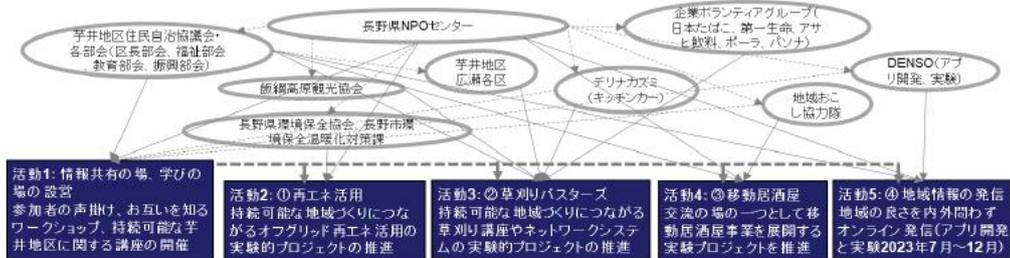
案作成：環境省 EPO 中部 2024年2月5日

評価の視点1：関係主体の変遷による協働の推進

【2022年10月時点の状況】「いもいリビングラボ」が立ち上がり二つの実験プロジェクトが始動した。



【2024年2月時点の状況】当初の二つの実験プロジェクトの関係団体が拡大明確化し取組が推進されるとともに、新たに二つの実験プロジェクトが立ち上がり始動した。



評価の視点2：選定指標（活動1、2、3（2023年1月選定））による評価

活動2①再エネ活用は2023年度は中断したが、リビングラボでの実験プロジェクトは2件増加した。

また活動3②草刈りバスターズは活動が拡大し、受講料は日当などの経済効果も認められる。

名称	活動1	活動2		活動3				
	情報共有の場、学びの場の設営	実験の場の設営①再エネ活用	【環境】	【社会】	実験の場の設営②草刈りバスターズ	【環境】	【社会】	【経済】
活動内容	参加者の声掛け、お互いを知るワークショップ、持続可能な芋井地区に関する講座の開催	持続可能な地域づくりにつながるオフグリッド再エネ活用の実験的プロジェクトの推進			持続可能な地域づくりにつながる草刈り講座やネットワークシステムの実験的プロジェクトの推進			
貢献分野	【社会】	【環境】	【社会】	【環境】	【社会】	【環境】	【社会】	【経済】
採用指標	情報共有や学びの場の参加人数(人)、課題解決の地域活動実験的プロジェクト提案数(件)	再エネ実験設置数(ヶ所)、活用した再エネ量(kWh)	実験関係者数(人)、波及個所数(ヶ所)	実験プロジェクト推進による草刈り面積(平方m)	草刈りバスターズ受講者数(人)、イベント参加者数(人)			アクティビティ化による関連サービス提供売上(円)
貢献指標		7.2.1						8.9.1
貢献ターゲット	4.4、11.3、17.2	7.2、13.3	4.4、11.3、17.2	15.1	4.4、11.3、17.2			8.9
貢献ゴール	4、11、17	7、13	4、11、17	15	4、11、17			8
2022年10月まで	参加者数 60人 実験プロジェクト 2件	3ヶ所	66人	約 200㎡	受講者数 17人 イベント参加者数 22人			受講料 22,500円 日当 51,000円
上記から2024年2月まで	参加者数 40人 実験プロジェクト 4件	中断	中断	約 600㎡	受講者数 9人 イベント参加者数 28人			受講料 13,500円 日当 84,000円 補助金 1,618,000円

いもいりビングラボの活動 評価一覧表

240205

	活動1	活動2	活動3
名称	情報共有の場、学びの場の設置	実験の場の設置①再生エネ活用	実験の場の設置②草刈りバスターズ
活動課題	行政頼みの地域運営ではなく、自分たちの地域を自分たちで運営する仕組みへの転換。「私たちが住み続けたい地域とは?」「そのために自分ができることは?」など自分ごととして関わる仲間を増やす。	家庭での化石燃料由来のエネルギーに頼る生活スタイル(自動車での移動、系統電力の利用など)が気候変動の原因となっている。草井地区から太陽光やバイオマスなど再生可能エネルギーを活用したオフグリッド生活をすこしずつ取り入れる家庭を増やす	人口減少や高齢化が進み、公道や公園などの動力刈払機による草刈り作業の担い手を少なくなっており、生活や地区環境に支障をきたしつつある。地区外の関係人口を増やして、担い手不足を解決すると同時に、地区外との交流増により地区に活気を取り戻す
活動内容	参加者の声掛け、お互いを知るワークショップ、持続可能な草井地区に関する講座の開催	持続可能な地域づくりにつながるオフグリッド再生エネ活用の実験的プロジェクトの推進	持続可能な地域づくりにつながる草刈り講座やネットワークシステムの実験的プロジェクトの推進
地域循環共生圏貢献	【社会への貢献】	【環境への貢献】	【環境への貢献】
地域循環共生圏貢献内容	地域とのつながりが強化、関係者のネットワークが拡大 参加者の資質の向上、課題と将来ビジョンの共有・我がこと化、地域活動の提案	再生エネの実験的導入による創エネ	草刈り実績による里山の持続性強化
採用指標	情報共有や学びの場の参加人数(人)、課題解決の地域活動実験的プロジェクト提案数(件)	再生エネ実験設置数(ヶ所)、活用した再生エネ量(kWh)	実験プロジェクト推進による草刈り面積(平方m)
貢献SDGs指標		7.2.1最終エネルギー消費量に占める再生可能エネルギー比率	
貢献SDGsターゲット	4.4(略)技術的・職業的スキルなど、雇用の機会がある人らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる 11.3(略)包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、すべての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する 17.2 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する	7.2 2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる 13.3 気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。	4.4(略)技術的・職業的スキルなど、雇用の機会がある人らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる 11.3(略)包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、すべての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する 17.2 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する
貢献SDGsゴール	4 すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する 11 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する 17 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化	7 すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する 13 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる	15 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
2022年10月まで	参加者数60人 実験プロジェクト2件	3ヶ所	66人 約200㎡
上記から2024年2月まで	参加者数40人 実験プロジェクト4件	中断	中断 約600㎡
			受講者数17人 イベント参加者数22人 受講料22,500円 日当51,000円
			受講者数9人 イベント参加者数28人 受講料13,500円 日当84,000円 補助金1,618,000円

8 関係主体との連携及び協働に関する業務

(1) 中部地方環境事務所との情報共有及び意見交換

ア 定期打合せと日々の業務報告の提出

(ア) 定期打合せ

- 中部地方環境事務所の担当官との定期的な打合せを月 1 回頻度で実施し、業務の進捗状況、方向性などについて協議を行った。

	実施日	主な打合せ協議事項
第1回	4月11日	1. 「令和5年度業務実施計画」案について 2. イベント・会合関係の実施内容と、関係者への連絡・調整について 3. ESD/EPO 運営委員会について 4. PF 事業2団体とのヒアリング・打合せについて
第2回	4月17日	1. 「令和5年度業務実施計画」案について 2. イベント・会合関係の実施内容と、関係者への連絡・調整について 3. ESD/EPO 運営委員会について 4. PF 事業に関わる予定等について
第3回	5月11日	1. ESD/EPO 運営委員会について 2. イベント・会合関係の実施内容と、関係者への連絡・調整について 3. PF 事業に関わる予定等について
第4回	6月6日	1. ESD/EPO 運営委員会について 2. イベント・会合関係の実施内容と、関係者への連絡・調整について 3. PF 事業に関わる予定等について
第5回	7月11日	1. イベント・会合関係について 2. PF 事業に関わる予定等について 3. 第1四半期報告書について
第6回	8月25日	1. イベント・会合関係について 2. PF 事業に関わる予定等について
第7回	9月25日	1. イベント・会合関係について 2. PF 事業関連について
第8回	10月11日	1. イベント・会合関係について 2. PF 事業関連について 3. 第2四半期報告書について
第9回	11月21日	1. イベント・会合関係について 2. PF 事業関連について 3. 第6期概要報告書について
第10回	12月12日	1. 業務全体の実施状況確認 2. イベント・会合関係について 3. PF 事業関連について 4. 第2回運営委員会 5. 第6期概要報告書の原稿確認
第11回	1月18日	1. 業務全体の実施状況確認 ⇒ 第3四半期報告書で確認 2. イベント・会合関係について 3. PF 事業関連について 4. 第2回運営委員会 5. 第3四半期報告書の原稿確認
第12回	2月20日	1. 業務全体の実施状況確認 2. イベント・会合関係について 3. PF 事業関連について
第13回	3月14日	・年間報告書(及び概要版)について

(イ) 日々の業務報告提出

- 日々の業務についての「月次報告書」を作成し、業務内容等を記入したものを毎月（月初めに）、中部地方環境事務所へ提出した。

イ 中部地方環境事務所が主催する外部評価委員会への対応等

- 自己評価シートを作成し、中部地方環境事務所へ提出した。

ウ 環境白書を読む会への企画協力

①イベント名

- 令和5年版 環境白書を読む会

②日時

- 2023年7月1日（土）10：00～11：00

③開催方法・会場

- 開催方法：ハイブリッド
 - オンライン：Webex、YouTube ライブ配信
 - 会場：東海学園大学名古屋キャンパス

④主催

- 主催：環境省中部地方環境事務所、中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）

⑤参加者

- オンライン 121 件（接続数／登壇者・事務局含む）
 - webex55 件（登壇者・事務局・関係者含む）
 - YouTube 視聴 66 件（ライブ配信のユニーク視聴者数）
- そのほか東海学園大学の学生が会場参加（人数把握なし）

⑥プログラム

第1部：令和5年版環境白書を読む会

- あいさつ
- 令和5年版の環境白書執筆に携わった環境省の担当者による白書解説
- 質疑応答

第2部：中部地方環境事務所と東海学園大学学生の意見交換

- グループごとの発表
- 中部地方環境事務所の回答
- 閉会



エ 全国ユース環境活動発表大会への参画

- 全国ユース環境活動発表大会実行委員会（環境省／独立行政法人環境再生保全機構／国連大学サステナビリティ高等研究所）が主催する「全国ユース環境活動発表大会」中部大会の審査委員として、EPO 中部から ESD/EPO 運営委員である杉浦真理子氏（株式会社アクト 代表取締役）を推薦した。
- 12月10日に開催された中部大会には、EPO 中部スタッフがオブザーバー参加した。

オ 記者発表等のメディア対応

- 12月19日開催・信州の森・里山フォーラムの開催にあたり、中部地方環境事務所から長野県政記者クラブへのリリース投げ込みを行っていただいた。

【リリース資料】

<p style="text-align: center;">長野県政記者クラブ ← 環境省中部地方環境事務所</p> <p style="text-align: center;">令和5年12月13日(水)</p> <hr/> <p style="text-align: center;">信州の森・里山フォーラム「地域資源としての森林・里山の価値向上について考える」の開催について</p> <hr/> <p>環境省中部地方環境事務所では、林野庁中部森林管理局との共催で令和5年12月19日(火)に長野市生涯学習センターにおいて、信州の森・里山フォーラム「地域資源としての森林・里山の価値向上について考える」を開催(会場及びオンラインによるハイブリット開催)します。 当日は、各登壇者の発表後、パネルディスカッションを実施し、森林の利活用推進方策をはじめ、森林・里山の価値向上のあり方などについて議論します。</p> <p>フォーラム概要</p> <p>(1) 背景と目的 第5次環境基本計画で位置付けられた「地域循環共生圏」の概念は、地域資源を活用して環境・経済・社会の好循環を創出することで地域課題を解決し自立した地域をつくるもので、森里川海のつながりからもたらされる自然資源を維持・回復していくことを前提としています。森林は国土の保全、水源涵養、地球温暖化の防止、生物多様性の保全等の公益的機能に加え、木材等の林産物供給など多面的な機能を有し、国民生活に様々な恩恵をもたらしており、森林を適正に管理しつつ林業等の持続性を高めながら成長発展させることで、社会経済や生活の向上、2050年カーボンニュートラルに寄与する成長の実現を目指すこととしています。</p> <p>今回のフォーラムでは、圏域の8割を森林が占め、森林を中心とした貴重な地域資源である「森林・里山」の利活用の推進が望まれている長野県において、この地域の森林エリアでの具体的な取組を展開している事業者、団体等をゲストスピーカーにお迎えし、今後の信州における森林経営や森林サービスのあり方や、森・里山などの地域資源としての価値向上のあり方などをテーマにした情報・意見交換を行います。</p> <p>(2) 開催日 令和5年12月19日(火) 13:30~16:00</p> <p>(3) 開催方法等 会場とオンライン会議(ZOOM)により開催。YouTubeでも同時配信します。 会場：長野市生涯学習センター 第1・第2学習室(トイゴウエスト3階) (長野市大字鶴賀問御所町1271番地3)</p>	<p>(4) プログラム</p> <p>○挨拶 環境省中部地方環境事務所信越自然環境事務所長 酒向貴子 氏</p> <p>○国・自治体からの情報提供 環境省中部地方環境事務所環境対策課 課長 曾山信雄 氏 林野庁中部森林管理局長 今泉裕治 氏 長野県林務部信州の本活用課 課長 千代登 氏</p> <p>○民間事業者の取組紹介 東急リゾート&ステイ株式会社 資産企画統括部 徳田圭太 氏 株式会社トビムシ 飯泉浩二 氏 フォレストデザイン 代表 余須友康 氏 中部電力株式会社 経営戦略本部地域インフラ事業推進室 川口雅哉 氏</p> <p>○ディスカッション ファシリテート 環境省中部地方環境事務所統括環境保全企画官 林俊宏 氏</p> <p>(5) フォーラムへの参加申込方法 本フォーラムへの参加は、事務局の中部環境パートナーシップオフィスのホームページより申し込みをお願いします。参加費は無料です。 https://www.epo-chubu.jp/epo-news/21552.html</p> <p>(6) 取材について 報道関係者の方も、上記中部環境パートナーシップオフィスのホームページより申し込み(その際、ご所属先を明記)ください。当日は13時15分までにお越し願います。 なお、取材は進行の妨げにならないようお願いします。撮影については場所を指定させていただきます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><問合せ先> 環境省中部地方環境事務所環境対策課 直 通：052-955-2134 課 長：曾山 信雄 課長補佐：梶野 正樹</p> </div>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(2) 全国ネットワークの活用及び連携の確保・強化

- 全国の地方 EPO・GEOC・ESD 活動支援センター等のネットワーク活用と連携の確保・強化を図るため、GEOC、全国 ESD センターが実施する会議等に全て参加した。具体的には、次表の会議等へ出席した。

※ 下記のほか、地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業に関連する会合、及び ESD 業務の関連会合についてはそれぞれ該当する各章・各項目に記載。

(ア) 全国事業に関わる業務

会合	開催日	方法/場所	実施内容等
PSタスクフォース	8月4日	GEOC	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協働取組がもたらす効果 ・ 協働取組が求められる地域の現状 ・ 協働取組を進める上での課題
全国 EPO 連絡会議	第1回 5月30日	ハイブリッド 東京	【議題1】EPO プロジェクト業務ごとの方向性 【議題2】R6年度以降に向けた共生圏 PF 後継事業の方向性 【議題3】今年度の EPO ネット会合の方向性 【議題4】今年度の外部連携の方向性 【情報共有】今年度の本省計画 分科会(受託者会議)
	第2回 10月18日-19日	北海道 網走市	【議題1】EPO ネットとしてこれまで果たしてきた機能について 【議題2】社会的ニーズに対して EPO がこれから果たすべき機能について 【議題3】共生圏 PF 後継事業の設計について EPO 受託者会議
	第3回 1月23日-24日	GEOC	【議題1】今年度のまとめ、来年度への展望 【議題2】令和6年度事業の予定 【議題3】今後の地球環境基金との連携 EPO 受託者会議

【その他会合／催事等】

ERCA 連絡会議	7月21日	ハイブリッド 神奈川県 川崎市	(1)2023 年度全国ユース環境活動発表大会について (2)2024 年度地球環境基金助成金の募集、説明会実施について (3)2023 年度ステークホルダーミーティングの実施について (4)地球環境基金 30 周年事業について (5)その他
地域脱炭素ネットワークイベント	8月31日	東京	※マッチングでのファシリテーターとして参加 <ul style="list-style-type: none"> ・ イベントのグランドルール説明 ・ 地方公共団体プレゼンテーション ・ 地方公共団体と企業のマッチング ・ 名刺交換等交流会・企業によるピッチ/ブース出展

(イ) 地方 EPO ネットワークとの情報交換会

会合	開催日	方法/場所	実施内容等
情報交換会	12月22日	オンライン	話題提供:石井雅章(神田外語大学 グローバル・リベラルアーツ学部教授) <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域でサーキュラーエコノミーを実現するとは ・ サーキュラーエコノミー実現に向けた地域の課題 ・ 地域課題の解決に向けて EPO の果たすべき機能 話題提供: 上垣喜寛(自伐型林業推進協会 事務局長) <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然共生サイト登録地(橋本山林)の現状 ・ 地域課題の同時解決に向けた自然共生サイトの活用可能性 ・ 自然共生サイトの活用に向けた地域での課題

9 外部資金を活用した事業

ア 地球環境基金

- 年間予算：300,000 円

①地球環境基金 EPO 連絡会への出席

- 第1回全国 EPO 連絡会（5月30日開催）において、環境再生保全機構及び全国の地方 EPO を交えた今年度の業務についての協議・確認を行う会合が併催され、EPO 中部も出席した。
- 7月21日に開催された環境再生保全機構・EPO 連絡会議に出席し、今年度の連携業務の内容について協議・確認を行った。

②地球環境基金の次年度募集に関わる説明会等の開催

- 来期（2024年度）募集分の地球環境基金の中部説明会を、主催：環境再生保全機構、協力：EPO 中部により10月31日に開催した。
- 説明会の終了後、実施報告書を作成し、環境再生保全機構へ提出した。

【提出した地球環境基金説明会の実施報告書】

<h3>実施報告書</h3> <p>令和5年12月11日</p> <p>独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部長 様</p> <p>一般社団法人 環境創造研究センター 理事長 福井 弘道 名古屋市中区東桜 2-4-1 第3コジマビル4階 TEL:052-934-7295 FAX:052-932-7296</p> <p>下記の行事について、実施報告を致します。</p> <p>記</p> <p>1 行事の名称 2024年度地球環境基金助成金説明会 in 中部</p> <p>2 行事の趣旨、目的 中部エリアにおいて、2024年度地球環境基金助成金に係る説明会を開催し、地球環境基金助成に係る周知・広報の強化を図ることを目的とする。</p> <p>3 周知方法 ホームページ、メールニュース、チラシ（別紙4「広報用チラシ」参照）、SNS 等での情報発信を行った。</p> <p>4 行事の実施日時 令和5年10月31日（火）18:00~19:30</p> <p>5 行事の概要 開会・挨拶 [18:00~] 第1部 セミナーと地域の活動事例紹介 (1)テーマ別セミナー OESD 活用のための地域情報の可視化手法 講師:原 理史(はら まさし)氏 中部大学中部高等学術研究所</p>	<p>(2)中部地域における助成先団体の活動事例紹介 [2020年度・2021年度・2022年度/ひろげる助成] ○自然エネルギー100%を目指す「持続可能まちづくり」、電気・熱・交通での省エネ/シェア/削エネ 講師:浅輪 剛博(あさわ たかひろ)氏 一般社団法人自然エネルギー共同設置推進機構 (NECO) 第2部 地球環境基金助成金要望の募集について [18:50~] (1)地球環境基金助成金について (2)要望書の書き方講座 (3)質疑応答</p> <p>6 行事の実施場所(実施方法) オンライン開催</p> <p>7 参加者 25名(zoom接続数/登壇者・事務局含む) ※参加申込者13名</p> <p>8 主催 独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金部</p> <p>9 協力 環境省中部環境パートナーシップオフィス (EPO 中部)</p> <p>10 その他特記事項 下記資料を別紙の通り添付いたします。 ・別紙1 2024年度地球環境基金助成金説明会(2023年度開催)概要 ・別紙2 アンケート集計結果 ・別紙3 アンケート入力データ ・別紙4 広報用チラシ</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2024年度地球環境基金助成金説明会(2023年度開催)

概要

行事名 地球環境基金助成金説明会 in 中部
 日時 2023年10月31日(火) 18:00~19:30
 実施方法 オンライン開催
 参加者 25名(zoom接続数/登壇者・事務局含む)
 内容

挨拶 沼尻 菜央 氏(独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部)
 第1部 セミナーと地域の活動事例紹介
 (1)テーマ別セミナー【テーマ:持続可能なまちづくり】
 OESD活用のための地域情報の可視化手法
 講師:原 理史(はら まさし)氏 中部大学中部高等学術研究所
 —ESDコンテンツ(教材)では地域の環境情報を「可視化」することが重要であるが、「可視化」の定義・手法・分析事例について、EPO 中部で作成した「活動見える化プログラム」及び「SDGs 指標物語」を手法のひとつとして紹介した。
 (2)中部地域における助成先団体の活動事例紹介
 [2020年度・2021年度・2022年度/ひろげる助成]
 ○自然エネルギー100%を目指す「持続可能なまちづくり」、電気・熱・交通での省エネ/シェア/創エネ
 講師:浅輪 剛博(あさわ たかひろ)氏 一般社団法人自然エネルギー共同設置推進機構(NECO)
 —3年間助成を受けた成果を活動の3本柱(①熱の省エネ ②交通の省エネ ③まち全体に関わる脱炭素まちづくり)それぞれについて紹介した。助成を受けたことによるメリットとして、専門家の助言が得られることを挙げ、アドバイスを活かし、行政で出来ないことを代わりに実施し、地域のあらゆる主体(市民・事業者など)との協働が実現し大きな成果につながったことに触れた。

第2部 2024年度地球環境基金助成金の説明
 (1)地球環境基金助成金について
 説明:沼尻 菜央 氏(独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部)
 —今年で30周年を迎える地球環境基金助成金について、2024年度の助成概要(仕組み、特徴、メニュー、応募要件、対象費用、留意事項、2023年度からの変更点、応募方法)を中心に、中部ブロック(岐阜・福井)の助成団体の事例紹介を交えて説明した。
 (2)要望書の書き方講座
 説明:西岡 玲子 氏(独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部)
 —要望書の書き方について、審査の際に重要なロジックモデルの組み立て方やその構成要素(上位目標、アウトカム、アウトプット)の設定ポイント、また、ロジックモデル作成後の確認・見直し方法について重点的に説明した。
 (3)質疑応答一特になし(沼尻氏から個別相談の日程・申込方法について再度ご案内)
 *参加申込者には事前にweb ページに掲載されている説明資料・説明動画を閲覧・視聴のうえ参加いただくよう依頼した。

【説明会の様子】



4テーマ別セミナー「ESD活用のための地域情報の可視化手法」



4中部地域の助成先団体の活動事例紹介「自然エネルギー100%を目指す「持続可能なまちづくり」、電気・熱・交通での省エネ/シェア/創エネ」



4地球環境基金助成金について



4要望書の書き方講座

【地球環境基金説明会の開催案内チラシ】

**2024年度
地球環境基金助成金説明会
in 中部**

2023年10月31日(火) 18:00~19:30 オンラインZOOM

中部地域以外の方もご参加いただけます。
地球環境基金WEBページから動画を事前視聴のうえご参加ください。

地球環境基金は、民間団体(NGO・NPO)による環境保全活動を幅広く支援(資金の補助等)を行うことを目的に、独立行政法人環境再生保全機構によって運営されている基金です。実施2024年度の助成金交付先の募集を開始するにあたり、全国8地域・テーマで説明会を開催します。説明会では、テーマ別セミナーや各地域における助成先団体の活動事例を紹介するほか、要望書記入についての留意点や作成のポイントを説明し、事前に受け付けた質問等に地球環境基金の担当者が回答します。全国の説明会の日程やテーマは、webページからご確認ください。

プログラム

第1部
18:00~

セミナーと地域の活動事例紹介
 ①テーマ別セミナー
 ESD活用のための地域情報の可視化手法
 講師:原 理史(はら まさし)氏
 中部大学中部高等学術研究所
 ②中部地域における助成先団体の活動事例紹介
 [2020年度・2021年度・2022年度/ひろげる助成]
 自然エネルギー100%を目指す「持続可能なまちづくり」、
 電気・熱・交通での省エネ/シェア/創エネ
 講師:浅輪 剛博(あさわ たかひろ)氏
 一般社団法人自然エネルギー共同設置推進機構(NECO)

第2部
18:50~

地球環境基金助成金要望書の募集について
 ① 地球環境基金助成金について
 ② 要望書の書き方講座
 ③ 質疑応答 * 申込時に受け付けた質問にお答えします。

個別相談会

地球環境基金の担当者がオンラインでご相談を承ります(1団体15分以内)。

日程 10月26日(木)・31日(火)、
11月6日(月)・9日(木)・10日(金)

時間 午前部▶ 10:00~12:00
午後部▶ 14:00~16:00
夜間部▶ 18:00~20:00

申込 地球環境基金webページ内
申込フォームから webページ

締切 各開催日の
2営業日前まで

個別相談会の問合せ
 独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金部
 TEL: 044-520-9505
 E-mail: kikin_youbou@erca.go.jp

助成金説明会の申込み&問合せ

※参加申込フォーム
説明会の参加申込フォームからお申し込みください。募集締切日までにZOOMの参加URLをお送りします。

講師者 中部環境パートナーシップオフィス (EPO中部)
TEL: 029-218-8690 (電話による申込は受け付けておりません)

主催: 独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金部
協力: 講師者 中部環境パートナーシップオフィス (EPO中部)

申込締切: 10月27日(金)

イ 愛知県コーディネート業務

- 年間予算：902,000円（※当初予算／精算変更あり）
- 環境学習に関する愛知県内の学校・企業等からの相談、講師等の照会・紹介依頼等についての相談業務8件、コーディネート業務7件を実施した。
- なお、受託仕様書では相談業務10件、コーディネート業務7件を実施する内容となっていたため、業務費が減額変更となった。

No.	受付日	依頼先区分	分野	依頼内容	相談業務	コーディネート業務	
						実施日	講師等
1	4月3日	民間	SDGs、地球温暖化、エネルギー	ガスエネルギー館で行う環境学習講座の講師の紹介		① 6月18日	村瀬政彦氏(地球温暖化防止活動推進員)
2	4月6日	民間	ごみ・資源循環、3R、環境全般、SDGs	環境講座の講師としての登録希望	①		
3	4月11日	行政	地球温暖化、消費生活・衣食住、ごみ・資源循環3R	地球温暖化に関するクイズを行う環境講座の講師の紹介		② 5月13日	村瀬政彦氏(地球温暖化防止活動推進員)
4	4月17日	行政	地球温暖化、大気・大気汚染、自然への愛着	地球温暖化に関するクイズやゲームを行う環境講座の講師の紹介		③ 9月16日	村瀬政彦氏(地球温暖化防止活動推進員)
5	4月18日	行政	地球温暖化、エネルギー、自然への愛着	緑のカーテン教室の講師の紹介		④ 6月5日	堀田英夫氏(地球温暖化防止活動推進員)
6	6月16日	民間	ごみ・資源循環、3R、廃プラスチック問題	内海海岸の清掃活動(社内イベント)前に行う海のごみに関する講義の講師の紹介		⑤ 9月10日	橋本寿朗氏((一社)環境創造研究センター)
7	7月13日	行政	ごみ・資源循環・3R、山林に係る環境問題、都市に係る環境問題、リサイクルと環境問題、自分たちでできる環境問題	高齢者を対象とした「あいちシルバーカレッジ専門コース」の講師の紹介	②		
8	7月19日	小学校	生態系・生物多様性、自然への愛着、生命	環境学習(身近な生き物)の講師の紹介		⑥ 11月29日	長谷川明子氏(ビオトップ・ネットワーク中部 会長)
9	7月20日	小学校	ごみ・資源循環、3R、生態系・生物多様性、水	環境学習の企画内容と講師の紹介	③		
10	8月17日	高校	大気・大気汚染、産業、健康	環境学習(グループワークを含む)の講師の紹介		⑦ 11月27日	原 理史氏(中部大学中部高等学術研究所)
11	9月13日	行政	環境について楽しく学べるワークショップ	環境フェスティバルへの出展者の紹介	④		
12	9月15日	行政	ごみ・資源循環、3R、地球温暖化、消費生活・衣食住	環境学習講座の講師の紹介	⑤		
13	10月11日	民間	地球温暖化、エネルギー、SDGs	ガスエネルギー館で行う環境学習講座の講師の紹介	⑥		
14	2月27日	民間	自然への愛着、生態系・生物多様性、SDGs、生命、公害	テクノ中部で開催している環境教育プログラムの紹介	⑦		
15	2月28日	中学校	ごみ・資源循環、3R、自然への愛着、消費生活・衣食住	環境学習の講師の紹介	⑧		
合 計					8	7	

10 第6期業務実施概要報告書／今後に向けて

ア 第6期業務実施概要報告書の作成・提出

- 本年度が EPO 中部運營業務の第6期3年目にあたることから、3カ年度の業務実施内容を取りまとめ、来期に向けた総括の整理等を行った「第6期業務実施概要報告書」を作成し、中部地方環境事務所へ2023年12月に（仕様書記載の提出期日までに）提出した。

【作成した第6期概要報告書】

環境省 中部環境パートナーシップオフィス運營業務
第6期(2021～2023年度)業務概要報告書

令和5年(2023年)12月
一般社団法人 環境創造研究センター

1

目次

環境省 中部環境パートナーシップオフィス運營業務
第6期(2021～2023年度)業務概要報告書

1. 第6期EPO中部の「目標」と「方針」
2. 第6期業務における主な取組
 - 【方針1-①】地域循環共生圏づくりやSDGs推進の支援の個別対応
 - 【方針1-②】地域循環共生圏づくりやSDGs推進の支援の汎用化
 - 【方針2】独自の地域SDGs評価機能の構築
 - 【方針3-i】EPO機能の強化：金融機関や経済団体等との関係構築
 - 【方針3-ii】EPO機能の強化：協働コーディネーターとの関係強化
 - 【方針3-iii】EPO機能の強化：取り残されがちな中小企業・自治体等への支援その他の取組
3. 第6期業務の総括
 - ① 第6期の取組の成果と評価
 - ② 今後に向けて

2

1. 第6期EPO中部の目標と方針

3

第6期運営着手にあたり設定した3カ年の「目標」と「方針」

■目標

アフター・コロナ、地域循環共生圏づくり・SDGs活用が進みつつある中部エリアにおいて新フェーズに対応し、地域が必要とする協働・ESD・SDGsの実装・実践のための支援と、誰も取り残されないターゲット設定、EPO機能強化の関係構築に取り組みます。

■方針

1. 地域循環共生圏づくりやSDGs推進の支援にあたり、細やかな個別対応と、他の取組支援等への汎用化を行います。
 - ① 【個別対応】地域／取組が必要とする支援を細やかに汲み上げると共に、これまでの協働取組への支援の経験やツールを活用するなどして、事例ごとに個別に対応した支援を展開します。
 - ② 【汎用化】EPO中部が展開してきた支援内容の整理を行い、地域循環共生圏づくりやSDGs推進のためのプログラム化とその実装・実践に取り組みます。
2. SDGs推進・活用の取組において今後重要となる「目標設定」と「評価」について、第5期の作成ツール（活動見える化プログラム、SDGsチェックリスト等）や、外部団体によるSDGs指標ツール等を活用するなどして、独自の地域SDGs評価（SDGsの取組の現状等を評価する）機能の構築に取り組みます。
3. 上の1、2の支援や多様なステークホルダーの巻き込みにおいて、第5期の運営会議等での指摘事項や抽出された課題等に留意し、次のEPO機能の強化に取り組みます。
 - i. 資金調達に関わる主体（特に金融機関や経済団体等）との関係構築
 - ii. 地域実践者であるEPO中部・協働コーディネーターとの関係強化と新たなネットワークづくり
 - iii. 取り残されがちと指摘される中小の事業者・自治体等をターゲット設定した支援のあり方検討

4

2. 第6期業務における主な取組

※以下、「地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業」を「PF事業」と表記。
※集計結果や数値、取組状況等はいずれも2023年11月末時点で整理。

5

2. 第6期における主な取組

【方針1-①】地域循環共生圏づくりやSDGs推進の支援の個別対応

6

2. 第6期における主な取組

【方針1-②】地域循環共生圏づくりやSDGs推進の支援の汎用化

11

主催イベントで独自ツール「SDGsチェックリスト」を実践活用

環境省中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)主催
ローカルSDGs/地域循環共生圏セミナー@中部

SDGs17ゴールの紐づきの先へ あなた・地域・社会の変容に向けて

開催日時:2022年12月15日(木)13:30~16:30
zoom開催/参加費無料

参加申込フォーム
https://forms.gle/96634uADeXTP6MA
開催日の前日、申込登録したメールへzoomの参加URLをお送りします。

▶メールで参加申込の場合
電話:0575-953421
①氏名(ふりがな)②受渡格差(メールアドレスか電話番号)③ご所属先(名称)④お名前
【署名:12/15(木)13:30~16:30】に必ずご記入ください。

ONLINE SEMINAR & WORKSHOP

- はじめに
ご挨拶/受講者からのお知らせ
環境省中部地方環境事務所環境対策課
EPO中部とは、本セミナーの趣旨
EPO中部
- 基調講演
ソーシャル・プロジェクトを成功に導く教訓と技法
~SDGsの本質に对应し、「国連・ESDの10年」の経験を活かす
東京都市大学大学院環境情報学研究所 教授 佐藤 真久 氏
- 総論講演
SDGsの我がごと化とSDGsの指図について考えてみる
中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部) ESD責任者 原 理史
- ワークショップ
「SDGsチェックリスト」を活用したローカルSDGsの我がごと化ワーキング

※「SDGsチェックリスト」について
「SDGsチェックリスト」は、事業や活動をSDGs17ゴールに関連づけて実行できる。チェックリストや実施シートなど、環境省が作成したセミナー(90分)が独自に作成したツールです。
・本セミナー参加の際にはぜひ「SDGsチェックリスト」をお手元にご準備ください。
・なお、「SDGsチェックリスト」は、参加申込フォーム等に記載の氏名を必ずご記入ください。
・EPO中部ウェブサイトでも公開しており、QRコードから参加いただけます。

SDGsチェックリスト(簡易版)

SDGs	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
サブテーマを記入する																	
貢献しているSDGs目標にはOを、足を引っ張っているSDGs目標には△をつける																	

自分の考えでチェックしてみよう
どのように関連しているか考える

- 独自ツール「SDGsチェックリスト」についても、ワークショップ等で使用しやすい新バージョンを2021年度に作成し、WEBサイト等で公開。

- この新バージョン「SDGsチェックリスト」を活用し、2022年12月開催のオンラインセミナーでSDGs我がごと化ワーキングを実施した。

【実施結果】

- SDGsチェックリストについては、公開後、毎年数件ではあるが、「使用したい」「活用方法は？」などの問合せをいただいている。
- セミナー参加者からも、これからSDGsに取り組む人向けに継続して開催してほしい、SDGsとの関係性文章化が参考になったなどの感想をいただいた。
- その後、参加した自治体職員からチェックリストを活用していると連絡があり、記入済みシートを事例として提供いただいた。

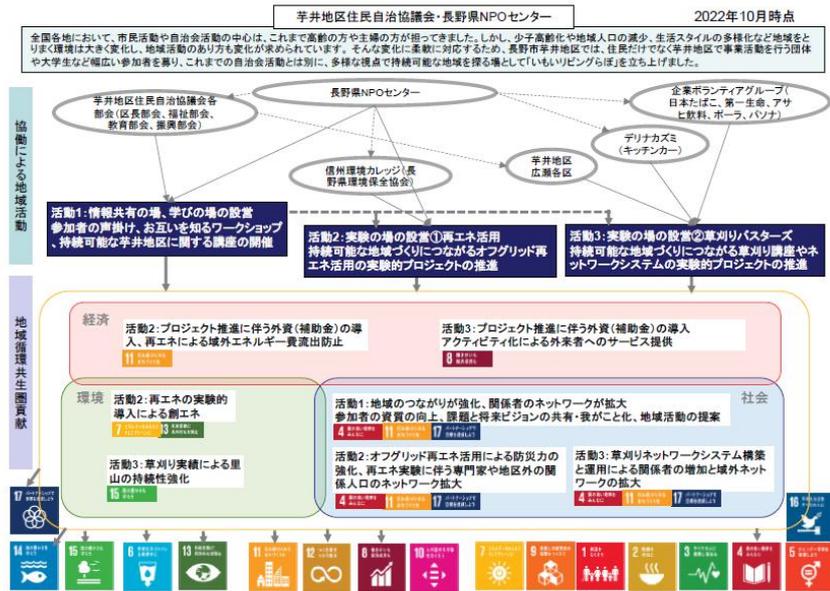
12

その他) 前期・第5期構築の活動見える化プログラム事例も継続して作成・公開

長野県長野市芋井地区
「芋井リビングラボ」

- 取組分析の共有
- 活動指標の選定

2月開催の芋井地区勉強会にて活用



活動1 情報共有の場、学びの場の設営	→	情報共有や学びの場の参加人数(人)
活動2 実験の場の設営①再エネ活用	→	課題解決の地域活動実験的プロジェクト提案数(件) 再エネ実験設置数(ヶ所)、活用した再エネ量(kWh)
活動3 実験の場の設営②草刈りバスターズ	→	実験関係者数(人)、波及個所数(ヶ所)

15

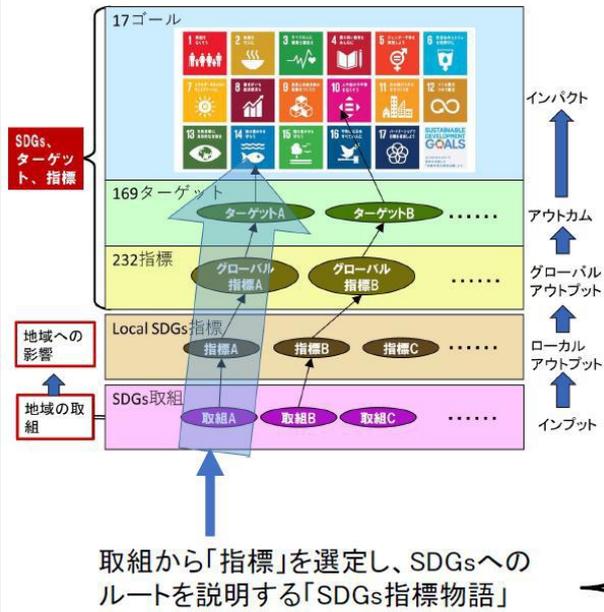
2. 第6期における主な取組

【方針2】独自の地域SDGs評価機能の構築

16

SDGs指標物語を構築：試行2事例のチャートを作成

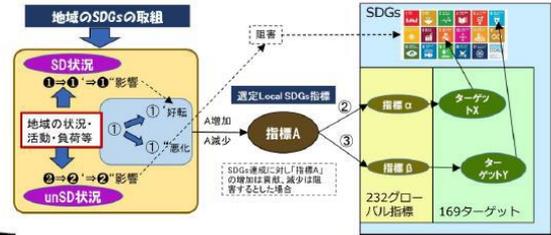
地域の取組からボトムアップ的に指標とSDGsとの関連を考える



取組から「指標」を選定し、SDGsへのルートを示す「SDGs指標物語」

「地域の取組」と「指標A」のSDGs指標物語(例)

指標AはゴールNo.〇、〇、〇の達成に寄与するLocal SDGs指標として選定した。Aは①の貢献度を表す。
 指標Aが増加するとグローバル指標αと指標βに②、③から影響しターゲットXとターゲットYの達成に貢献する。
 指標Aの増加のための地域のSDGs取組は、①という持続可能性に貢献するSD状況が発生し、①の影響により①につながる。一方②の持続可能性を阻害するunSD状況が発生する可能性が考えられ、②の影響により②につながり、ゴールNo.〇について阻害が起こる可能性があるため、そうならない取組が必要となる。

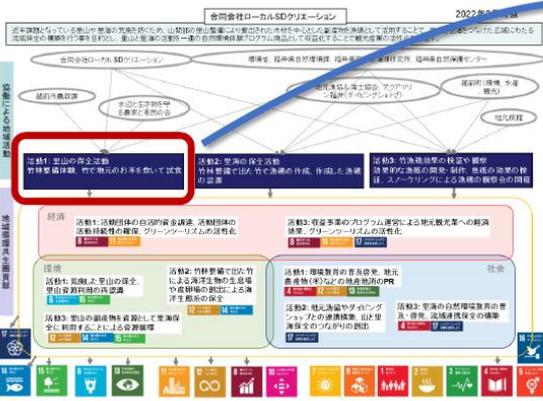


活動見える化プログラムに接続するSDGs指標物語



● 活動見える化PとSDGs指標物語*：活動の分析内容を考慮して指標を選定

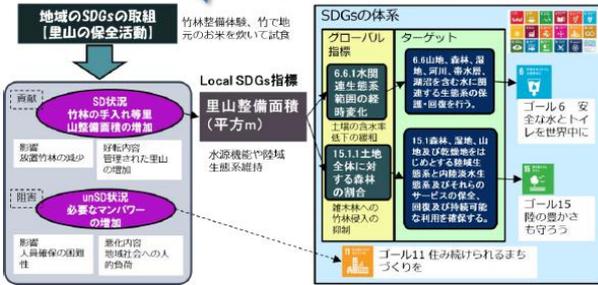
「活動見える化プログラム」で活動内容を可視化



活動ごとに「指標」を選定

活動名称	活動1 里山の保全活動	活動2 里海の保全活動	活動3 竹漁礁効果検証や観察会など体験プログラム化
選定指標	里山整備面積 (平方m)	漁礁の設置数 (箇所)	観察会等収益事業プログラム運用売上(円)

選定した「指標」ごとにSDGsとの関わりを示す指標物語を作成



*引用 原理史, 平川翼, 川村真也, 杉田暁, 伊藤彦彦 (2023) : 地域活動推進のためのSDGs指標物語, 環境共生, 39巻1号, p.66-76 (中部大学問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究IDEAS202014助成)

主催セミナーで「SDGs指標物語」等独自ツールを紹介

自治体職員向けローカルSDGs/地域循環共生圏セミナー

ローカルSDGsの指標と達成度評価

～活用可能なサイト/ツールの紹介とトライアル(試してみよう!)～

日時: 11月6日(月)13:30～16:30
会場: ウィンクあいら 12階・会議室1201
(東京都中央区新富4丁目4-6、東京都庁が徒歩5分) <https://www.e-po.or.jp/seminar/>

対象: 自治体職員 定員: 50人 (参加無料)

参加方法: 参加申込フォーム: 下記URLへ <https://form.jiryo.jp/form/164184>
※このセミナーには参加費はかかりません。
※ウェブサイト@EPO事務局で検索からも申込できます。

第1章
・ごあいさつ、情報提供
 環境省中部地方環境事務所環境対策課
・EPO中部の紹介と本日の進捗について
 EPO中部
・【加藤氏】ローカルSDGsの概念とその進展に向けたアクションを推進するオンラインプラットフォーム
 ローカルSDGsプラットフォーム <https://local-sdgs.jp/>
 プラットフォームのローカル <https://www.e-po.or.jp/seminar/>
 法政大学デザイン工学部教授 川久保 健 氏
・【加藤氏】自治体SDGsモニタリングツールと達成度評価(2015-2022)
 自治体SDGsモニタリングツール <https://www.e-po.or.jp/seminar/>
 国際総合地理情報センター 研究員 瀧上 崇々 氏
・【加藤氏】EPO中部による「SDGs指標物語」と「活動見える化プログラム」
 EPO中部 課長 栗原 史
第2章
・質疑ディスカッション(SDGsの活用・実践に対する疑問、今回の紹介サイト/ツールの活用アイデア、川久保先生による講評 など)

主催: 環境省 中部環境パートナーシップオフィス (EPO中部)

【事例を見る化】
EPO中部による「SDGs指標物語」と「活動見える化プログラム」

2023年11月6日



環境省EPO中部・中部地方SDGs活動支援センター
中部大学中部地域共生研究センター
協 賛: 池田 幸弘 氏

地域の取組からボトムアップ的に指標とSDGsとの関連を考える

「SDGs指標物語」の意義
SDGsの取組における評価や現状把握に際し、「SDGs指標物語」は「指標」から見た取組のSDGsにおける意義を説明する有効な「種組み」となり得る。地域づくりにおいて評価の指標の内容や意義を共有する際の説明と理解に有用。

「SDGs指標物語」の課題
SDGs指標物語の作成における課題
・作成に手間がかかる
・SDGsの知識を元にした関連性を発掘するため、ある程度の熟練が必要
SDGs指標物語の活用における課題
・複雑に内容についての理解しやすい説明方法の確立

「SDGs指標物語」の展望
○「SDGs」とは異なる様々な目標についての「指標物語」の活用
○既存の指標についての特長・可能性の観点から使い道への活用
○活動の振り返りを持ち寄り、相互評価を行う営みである「評価活動」への活用

- 2023年11月開催のSDGs指標と達成度をテーマにした自治体職員向けセミナーで、事例の見える化ツールとして「SDGs指標物語」と「活動見える化プログラム」を紹介した。

【実施結果】

- 基調講演者や参加者から、地域単位のSDGs指標・達成度に対し、プロジェクト単位の指標の捉え方の重要性を認識することができた、ほかの見える化チャートも見てみたいなどの声が寄せられた。



2. 第6期における主な取組

【方針3-i】EPO機能の強化：金融機関や経済団体等との関係構築

地域循環共生圏PS基盤強化会合：2022年度三重県尾鷲市開催

- 2023年1月に、三重県尾鷲市で、令和4年度おわせSEA モデル説明交流会「企業・金融機関等とのパートナーシップによる尾鷲市ローカルSDGs実現に向けて」を開催。
- PF事業2019-2020採択団体・おわせSEAモデル協議会の関連プロジェクトと企業・金融機関等との意見交換を実施。
- 企業・金融機関等63社、参加者数128名が参加した。

【実施結果】

- 想定を上回る企業・金融機関が参加し、国・県の関係部署全てからの出席があり、プロジェクトへの注目度をはかることができた。
- その後、プロジェクトの変更等もあり、具体的なマッチング報告はないが、新しい地域産業創出の第一歩につながるはずとの期待の声を尾鷲市側からいただいた。



プログラム 1/2

1. ごあいさつ
 - 尾鷲市長 加藤 千速
 - 環境省地域政策課 地域循環共生圏推進室長 佐々木 真二郎
2. おわせSEAプロジェクトについて (15分)
 - 尾鷲市政策調整課 調整監 濱田一多朗
3. 協力機関からの応援メッセージ (10分)
 - 財務省 東海財務局 津財務事務所長 斎藤 誉 氏
 - 国土交通省 中部地方整備局 四日市港湾事務所長 日置 幸司 氏

04

おわせSEAモデル協議会

プログラム 2/2

4. プロジェクト・セッション (各プロジェクト5分)
 - セッションの進め方 説明：EPO中部
 - ① 尾鷲青色の森キャンプ場(仮)について
 - 株式会社インフィニティ52代表取締役 浜野 五十二 氏
 - ② 親子3世代が憩う総合公園整備について
 - 尾鷲市生涯学習課長 平山 始 氏
 - ③ 環境にやさしい陸上養殖について
 - 尾鷲商工会議所プロジェクト室長 山本 浩之 氏
 - ④ 尾鷲市における製材工場立地の可能性について
 - 速水林業代表 速水 亨 氏
 - 質疑応答 (60分) 進行：EPO中部
5. フリートークタイム (プロジェクト担当者との情報交換)
6. 閉会 (16:30予定)

05

おわせSEAモデル協議会

21

地域循環共生圏PS基盤強化会合：2022年度福井県丹南エリア開催

プログラム案

- 白山さんちランチ会合(会費制/自由参加) 12:00~13:00
中部環境パートナーシップ(EPO中部)による会合の趣旨説明
- 13:30~情報交換会 ※時間配分…プログラム1~5:各15分(計75分)+プログラム6:80分+休憩15分=計150分
- 1. はじめに/「地域循環共生圏」(PF事業)についての概説
環境省中部地方環境事務所環境対策課
- 2. PF事業による取組紹介①:産官学金コンソーシアム「ななおSDGsスイッチ」による創業支援等の取組(仮)
ななおSDGsスイッチ 入口 翔 氏【確定】
(七尾商工会議所SDGsプロジェクト推進室室長 兼 のと共栄信用金庫ふるさと創生部次長)
- 3. PF事業による取組紹介②:丹南における里山整備副産物を利用した海洋資源保全(仮)
合同会社ローカルSDクリエイション代表 三田村 佳政 氏【確定】
- 4. 地域ビジネス創出を目指す取組紹介:日本政策金融公庫のソーシャルビジネス支援(仮)
日本政策金融公庫
- 5. 地域の取組紹介:地域資源を活用した農家レストランやエコツアー(仮)
農家レストラン・白山さんち 森 和恵 氏(※別の方になる可能性あり)
(休憩/アライタイム)
- 6. 意見交換・情報交換など



- 2023年2月に、PF丹南を含む、福井県丹南地区の活動団体と経済団体・金融機関の交流・情報交換会「里山里海ワイズユース×地域ビジネス情報交換会」を、地域活動団体が経営する農家レストラン「白山さんち」を会場にして開催。
- 地域活動者や、地域ビジネスの創業支援を展開するPF七尾、ソーシャルビジネス支援を展開している日本政策金融公庫武生支店、武生商工会議所などが参加し、ローカルSDGsビジネスについてのディスカッションを実施した。

【実施結果】

- 取組発表とディスカッションにより、環境活動をビジネスとして展開するにあたっての課題感を共有することができた。
- また、出席いただいた金融機関・商工会議所から、経済的分野からの指摘や、これまで知らなかった制度・事例の存在など、今までにはなかった助言を得ることができた。
- 出席した地域団体側からも、なぜ地域ビジネスとしての展開が重要なのか初めて理解できたとのコメントをいただいた。

22

自然資本活用会合：2023年度信州の森・里山フォーラム（開催予定）

信州の森・里山フォーラム

地域資源としての
森林・里山の価値向上について考える

2023年12月19日(火) 13:30~16:00

プログラム(予定)

■ 情報提供 本フォーラムの趣旨について 講師 信 中 部 地 方 農 業 振 興 所
信州における森林経営、森林サービスの現状と今後の展開への期待について(仮)
※野村 中部森林監理官
森林の利活用と交通人口の増加を目指して 講師 森 塚 孝 信 州 の 木 活 用 課

■ 森づくり・里山保全等の取組紹介
東京リポートタウン豊科のもりぐらし 森づくりを推進する民間企業 講師 本 太 氏
地産物産 福野台社と共した森林価値を高める多角な事業 株式会社トビムシ 講師 渡 二 氏
森林・里山の課題の解決と新たな価値創出 フェリス・アグリン 代表 余 謙 友 謙 氏
循環型社会・持続型社会の実現に向けた、「木」にかかわる新たなチャレンジ
中部電力株式会社 新設創設本部 環境インフラ事業推進室 川 口 純 哉 氏

■ ディスカッション
森林・里山の利活用と価値の向上について 進行： 渡 謙 信 中 部 地 方 農 業 振 興 所

参加方法

参加方法はこちらの QRコードを QRコードから読み取ってください。

① 会場参加 長野市生涯学習センター第1・第2学習室 (1階・3階) 会場
※当日は会場参加者専用アプリをダウンロードしてください。参加者専用アプリは以下のURLからダウンロードしてください。
Google Play: <https://play.google.com/store/apps/details?id=jp.epo2023>

② ZOOM参加 詳細情報は以下の QRコードからご確認ください。
ZOOM参加者専用リンク: <https://zoom.us/j/9251189966666>

③ YouTube視聴

主 催： 信 州 中 部 地 方 農 業 振 興 所・中 部 地 方 農 業 振 興 所 共 同
共 催： 信 州 中 部 地 方 農 業 振 興 所

- 2023年12月に信州の森・里山フォーラム「地域資源としての森林・里山の価値向上について考える」を開催予定である。
- 森・里山づくりから地域づくりを考えるフォーラムとして、林業者ではないが森づくりに関わっている事業者等が登壇し、取組発表やディスカッションを行う予定である。
- 登壇者との事前打合せ等では、それぞれの森・里山の価値向上を地域の付加価値創出につなげる話題提供等があり、非常に示唆に富んだフォーラムになるものと期待をしている。

23

2. 第6期における主な取組

【方針3-ii】EPO機能の強化：協働コーディネーターとの関係強化

24

協働コーディネーターとの連携実践活動：長野県長野市

信州ローカルSDGs 勉強会
災害に強い地域づくり

ジモトをいつまでも暮らしやすい地域にするために！

【日時】 11月5日(土) 13:00~15:00
【会場】 長野市立芋井小学校体育館 (長野市桜600)

参加費無料
先着30名様
(オンライン参加あり)

災害に強い地域をつくるため、楽しく取り組む防災・減災活動と太陽光やバイオマスなど、身近な再生エネルギーを平時から暮らしに取り入れるライフスタイルについて、参加者みんなで考えます。

【事例発表】

- アクティビティから防災を学ぶ
- 被災経験からの防災キャンプ ～ 豊野地区住民自治協議会
- こどもたち自身が身を守るように～真鳥だんごむしカフェ
- オフグリッドを生活に取り入れる
- 里山での小さな実践～ 芋井地区住民自治協議会

グループでのディスカッションもあり今日からできるアクションを考えます

主催：環境省中部環境パートナーシップオフィス (特非)長野県NPOセンター
協力：長野市立芋井小学校 (特非)長野県NPOセンター
TEL 026-269-0015 MAIL info@npo-nagano.org

参加申込フォーム
問い合わせ先
QRコード

- 2022年11月に長野県長野市で、協働コーディネーター・山室氏が所属する長野県NPOセンターとの共催で、信州ローカルSDGs勉強会「災害に強い地域づくり」を開催。
- ローカルSDGsと災害・防災・減災の地域づくりをテーマにした勉強会を実施し、35名の会場参加があった。

【開催結果】

- 参加者からは、座学のみでなく、実践的なアクティビティも取り入れたプログラムで学びが多かったとの声が寄せられた。
- 災害対策をテーマにしつつ、地域による備えが防災のみにとどまらず、再エネの導入・活用にもつながることの学びが得られ、ローカルSDGsの同時解決、統合的な取組を実感する機会となっていた。



25

協働コーディネーター情報交換会 2023年9月実施

実施内容の詳細

プログラム	時間	協働コーディネーターの活動紹介等
13:30~16:00 (150分)		
改めて自己紹介と近況報告	40分 (5分×8人)	● 【全員】自己紹介・近況報告 ※ 作成いただいたパワポ資料「自己紹介と近況報告」はEPOウェブサイトの「協働コーディネーター」ページに掲載させていただきます。
《話題提供1》 中部地方環境事務所から : 情報提供・共有等	15分	● 中部地方環境事務所環境対策課長補佐 網野さんより
《話題提供2》 協働コーディネーターから : EPO連携事業の紹介	20分 (5分×3人)	● 【三田村さん】地域循環共生圏づくりPF構築事業の活動紹介 ● 【山室さん】協働促進業務(信州地域SDGs講座等)の紹介 ⇒ 代理、EPO説明 ● 【塚さん】ESD学び合いプロジェクトの紹介
《話題提供3》EPO中部から : 見える化P、SDGs指標物語等紹介	15分	● EPO中部 原より
休憩	10分	
5 質疑応答と意見交換	50分	
16:00~16:45 (予備/撤収45分)		
延長戦フリートークで意見交換のつづき(交流タイム予備時間)/事務局は後片付け等(17時施設鑑守)		
16:45頃には懇親会会場へ移動		
17:00~19:00 (約120分) 懇親会		



- 2023年9月に、EPO中部・協働コーディネーター6名が出席して情報交換会を開催した。
- 近況報告のほか、それぞれの地域活動の取組状況と課題を共有したうえで、関係省庁や自治体など行政機関との連携・協力のあり方に焦点をあてた意見・情報交換が行われた。

【開催結果】

- 各コーディネーターの現状や今後の意向(特に環境省事業への応募の意向等)を把握することができた。
- 特に意見交換では、中部地方環境事務所担当官を交えて、行政機関との付き合い方のディスカッション/アドバイスが参考になった、刺激になったとの感想をいただいている。
- また、各コーディネーターがそれぞれの地域活動でどのような中間支援機能を果たしているか把握することができた。

26

参考) 第6期における協働コーディネーターとの主な連携展開

連携した協働コーディネーター	年度	連携業務の内容
■ 山室秀俊氏(長野県NPOセンター事務局長)	2021 2022 2023	<ul style="list-style-type: none"> 長野県長野市等で地域循環共生圏づくりの普及啓発事業
■ 中嶋阿児氏(NPO法人 WACおぼま理事長)	2021	<ul style="list-style-type: none"> 福井県小浜市におけるSDGs・地域循環共生圏の推進活動 小浜市の地域活動を題材に、ソーシャルビジネスの勉強会
■ 三田村佳政氏(合同会社ローカルSDGsクリエーション社長)	2021	<ul style="list-style-type: none"> 福井県越前市で地域循環共生圏フォーラム
	2022 2023	<ul style="list-style-type: none"> PF事業に採択 福井県丹南エリアで地域ビジネス情報交換会(2022年度)
■ 堺勇人氏(環境市民プラットフォームとやま)	2021 2022 2023	<ul style="list-style-type: none"> SDGs社会教育(社会ESD)研究会業務に参画 同業務の実践活動で六渡寺海岸(富山県射水市)の漂着ゴミ拾い体験イベントを実施(2021年度) SDGs学生サミットでファシリテーター
■ 山田勇氏(NPOわおん)	2022	<ul style="list-style-type: none"> 環境NPOネットワークとの意見交換
■ 寺田卓二氏(一般社団法人ネクストステップ研究会 代表)	2023	<ul style="list-style-type: none"> 地域循環共生圏フォーラムの共催を検討中(2023年11月末現在)
■ コーディネーター全員	2021 2022	<ul style="list-style-type: none"> EPOの業務や主催イベントに対するニーズ調査ヒアリングへの協力

27

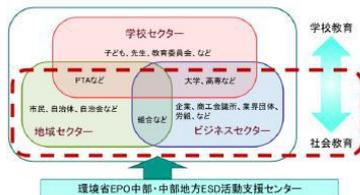
2. 第6期における主な取組

【方針3-iii】EPO機能の強化：取り残されがちな中小企業・自治体等への支援

28

学び合いプロジェクト：社会へのESDの実装を目指した実践と展開

ESDの社会実装を目指す！



2022年度8月開催オンラインセミナー
講師：江守 正多先生、木原 浩貴先生



2022年度11月
福井県大野市での
実践セミナー
ミステリーワーク
ショップとジグソー法

①24枚のカードを使った
ミステリーワークショップ

福井県版気候変動ミステリー
ワークショップでは...

24枚のカードを使って、福井県や全国、世界で起きている現象の謎解きをします。様々な要因が複雑に絡まり合っていることを理解し、システム思考の力を養います。

②ジグソー法による
課題解決ワークショップ

課題解決ワークショップでは...

福井県や大野市のデータをもとに、ジグソー法を用いて持続可能な県や市の未来像や実現のための方法を考えます。ジグソーパズルのように、様々な分野を組み合わせた未来像を描き、実行のための方法を考えながら、未来予測、批判的思考、統合的問題解決の力を養います。



- 2021・2022・2023年度に、地域づくりの担い手や次世代育成のための気候危機対策と地域づくり・人づくりをテーマにしたオンラインセミナー（各年度2回）と、実践セミナー／ワークショップ（各年度1回）を開催。
- 2021年度は、11月に富山県射水市六渡寺海岸で実践セミナーを開催し、海岸ごみからSDGsを考えるワークショップを実施した。
- 2022年度は、11月に福井県大野市で実践セミナーを開催し、気候危機をテーマにしたミステリーワークショップ、ジグソー法ワークショップを実施した。
- 2022年度は、11月に愛知県常滑市鬼崎漁港で「食」から気候変動を考えるミステリーワークショップを実施した。

【実施結果】

- 効果的なワークショップのため、専門家による講演や地元活動者の話題提供に加え、体験や視察など工夫を凝らした参加者へのインプットを実施した。
- 構造的に可視化するワークショップで参加者のシステム思考が養われた。

29

SDGs社会教育実践ツール「中部版ESDワークブック」の作成



- 3か年度に渡り展開したESD学び合いプロジェクトの成果として有識者のWGの検討をもとに冊子「ESDワークブック」を2023年度に作成している。
- ミステリーワークショップ、ジグソー法ワークショップをはじめ、実践セミナーで実施したワーキングの方法などを掲載している。

【実施結果】

- 有識者で構成するWGを年3回開催。2023年度のWGでは企業、行政、市民団体でのESD普及のハードルを下げるためにペルソナワークショップ検討を実施。
- 外部の学識者の提言を受け、地域づくり＝人づくりの観点から、「地域」を意識したESD展開を構成。
- 持続可能な社会のための人づくりのビジョンを示すためユネスコのキーコンピテンシーの概念を導入。
- ESD実践を具体的に手助けするため「人」、「こと」、「もの」、「金」の観点を導入した企画用ワークシートを掲載。
- 2023年12月9日全国フォーラムのパネル展示で見本を展示、好評を得る。

30

2. 第6期における主な取組

そのほかの業務

31

森里川海生態系ネットワーク形成会合：OECMフォーラムの開催



生物多様性主流化フォーラム in 中部

OECMを通じた 企業の生物多様性保全活動

2023年1月25日(水) 13:30～16:30
オンライン開催 **参加無料**

2022年12月に開催された生物多様性条約の締約国会合において、「2030年までに陸と海の30%以上を保全する」という世界目標(30 by 30目標)が決定されました。

この30 by 30目標の達成に向けた重要な手段がOECM(オーナーシップ)です。OECMとは、法律などにより保護地域に指定されていない場所で、企業やNGO等の取組により生物多様性保全に貢献している場所(企業用地、農地、山地、都市緑地など)を指します。国境等では、OECMの推進に向けて、企業等の取組により生物多様性の保全が図られている場所を認定する仕組み(自然共生サイト(仮称))の構築を進めています。

このフォーラムでは、今後、中部地域でOECMを推やしていく方を検討するため、OECMに取り組み意義やメリットなどについて深堀します。

プログラムは裏面をご覧ください

申込方法

ZOOM参加は定員に達しましたので、YouTubeライブ配信による視聴参加を推奨しています。

- 参加申込フォーム <https://forms.gle/WSWSYCL7J7M2i646>
開催日の前日、申込登録したメールへYouTubeの視聴URLをお送りします。
EPO本部ウェブサイト (<https://www.epo-chubu.jp/>) から申し込みできます。 **申込受付**
- メールで申込の場合 宛先: info@epo-chubu.jp
①氏名(ふりがな)、②連絡先(メールアドレスか電話番号)、③住所(氏名を記載のうえ、件名「O125フォーラム」で1月20日までに返信願います。

30 by 30及びOECMにご関心のある方は、どなたでもお気軽にご参加いただけます。特に、生物多様性保全の取組を展開している、またはご関心のある企業、活動団体、自治体のみなさまのご参加をお待ちしております。

参考 環境省ウェブサイト「生物多様性のための30by30アライアンス」
<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance>

主 催：環境省中部環境パートナーシップオフィス (EPO中部)

- 2023年1月にOECMの普及啓発を目的にしたフォーラムを開催。
- 共生サイトに試行採択された事業者3者のサイト紹介、環境関連事業への関心が高い企業団体EPOC等による取組紹介などを実施。

【実施結果】

- 参加者数等は268(zoom62件、YouTubeライブ配信視聴(ユニーク数)206件)となり、COP15閉幕の(報道がされていた)タイミングで本格的な参加募集広報を展開できたため、定員を大幅に超過する参加を得た。
- 全国から多数の企業・自治体が聴講参加し、OECM、環境省の自然共生サイトに対する理解を深めたとのアンケート結果を得られた。



32

SDGs学生サミット ユースと自治体によるSDGsオンラインフォーラム「中部地方SDGs学生サミット」

中部地方ESD/SDGs推進ネットワーク地域フォーラム

SDGs学生サミット

2023年2月4日(土)開催
13:00~17:00・オンライン

プログラム

第1部 団体発表
若者にとってのSDGs
～学習活動等の取組紹介や展望～
中部地方に所在する
大学等の学生・ユースグループが
SDGsの取組・活動について発表を行います。

第2部 話題提供
地域のSDGsの取組
～自治体のSDGsの取組について～
中部地方のSDGs未来都市に選定されている
基礎自治体の担当者などから
地味や取組をご紹介いただきます。

第3部 ディスカッション
ローカルSDGs達成のためにすべきこと、できること！
進行 原 理史 (中部地方ESD活動支援センター)
紹介 伊藤 恭徳氏 (名古屋国立大学副学長、ESD/EPO運営委員会 准員)

一般参加 申込不要

- YouTubeライブ配信をご視聴いただけます。
- 視聴URLはWebページに掲載いたします。

Webページ

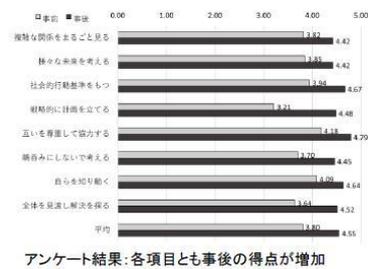
ハブとなる中部大学中部高等学術研究所
デジタルスーム

主催 ▶ 中部地方ESD活動支援センター (環境省EPO中部)
協力 ▶ 中部大学中部高等学術研究所、国際GISセンター関連機関を対象とするデジタルアース共創利用・共同研究拠点

- 2020年度から毎年2月に開催。
- コア参加として各回4~7団体の学生グループ、3つのSDGs未来都市基礎自治体が取組発表及びディスカッション。
- YouTubeによる一般視聴者への同時配信。

【実施結果】

- SDGs未来都市基礎自治体の取組を「活動見える化プログラム」の分析結果、学生の取組内容のSDGsワークシートの可視化結果を共有。
- 事前事後で参加学生にアンケートを実施。ユネスコ提唱のキーコンピテンシーにかかわる取組態度の強化を確認。



ユネスコジオパークをフィールドとしたESDダイアログ

自然資本を活かした人づくり・地域づくり
立山黒部ジオパークESDダイアログ2021
～暮らしの学びからどんな力を養うか～
開催日時:2021年11月20日(土)～21日(日)
会場:立山黒部ジオパーク(富山県黒部市)

恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク
ESDダイアログ2022
～自然を活かした暮らしの学び～
開催日時:2022年11月20日(土)～21日(日)
会場:恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク

南アルプス(中央構造線)ジオパーク ESDダイアログ2023
～自然を活用する人づくり～
開催日時:2023年11月18日(土)～19日(日) 会場:南アルプス(中央構造線)ジオパーク

- 中部地方のユネスコジオパークに焦点をあてつつ、国立公園などの自然資産を活用したESDの在り方をディスカッションするダイアログを開催。
- 2021年度より順次、立山黒部ジオパーク、恐竜渓谷勝山ふくいジオパーク、南アルプス中央構造線エリアジオパークで開催。

【実施結果】

- 地元の教育関係者、ジオガイド、ESD関係者に加え、学校で取り組む子どもも参加し、修士記者の監修のもと取組紹介とディスカッションを実施。
- 各回、中部地方のジオパーク担当者を中心に関係者の交流が行われた。
- 二日目にはジオサイトや取組を現地で見学するエクスカージョンが行われた。



中部地方ESD推進ネットワーク地域フォーラム

- 2022年度より地域ESD拠点とともに、基調講演とディスカッションをオンライン公開するESDネットワークの交流を深めるフォーラムを開催。
- 様々なセクターと学校教育現場をつなぐ場として設置した。

【実施結果】

- 中部地方で登録している地域ESD拠点10程度が参加し、交流を深めた。
- 2022年度は愛知教育大学教育学部の大鹿先生、2023年度は金沢大学教育実践研究科の加藤先生の基調講演をいただき、学校と社会との連携についての議論を深めた。



その他) 第6期EPO中部/中部ESD活動支援センターのリーフレット

- 2021年11月に完成・発行。
- 催事参加者や招聘された地域行事等で、約300部を毎年度配布している。

3. 第6期業務の総括

37

第6期の「目標」と「方針」(p.4参照)の達成可否等についての総括

● 「目標」について

- ・ 第6期に主催した行事で、オンライン活用が定着すると共に、企画目的・意図に応じたオンラインとリアルの使い分けを行うなどして、協働・ESD・SDGs実装・実践の支援に向けた新フェーズ対応の取組を展開できた。
- ・ 誰も取り残されないターゲット設定、EPO機能強化の関係構築については、さらなる強化・向上の余地もあるが、当初目標で想定していた取組・企画についてはすべて遂行し、達成できたものと考えている。

● 「方針」について

- ・ 「方針」全般について、仕様書項目が一部変更になった業務、及び2023年度業務のこれから開催する行事を除くと、当初想定・企画していた業務は全て実施し、企画目的を達成できたと考えている。
- ・ 「方針1-①・②」については、地域への支援の【個別対応】として、各年度で特定地域・テーマへの支援を目的とした催事を開催した。また、【汎用化】を目的とした業務として、地域支援に用いたEPO中部独自プログラムをウェブサイトに公開すると共に、ほかの地域・テーマでの支援にも応用・活用するなど、汎用化も実践できたものと考えている。
- ・ 「方針2」については、第5期から構築・作成している独自ツールを第6期でも活用しつつ、新たな独自ツールとして、地域SDGs評価に関わる『SDGs指標物語』を構築することができた。
- ・ 「方針3-i・ii」については、PF事業支援や主催催事等を通して、新たな関係構築、ネットワークづくりを遂行できたが、関係性の更なる強化・向上については今後も課題になるものと考えている。
- ・ また、「方針3-iii」については、「学び合いプロジェクト」で取り残されがちな中小事業者や自治体を対象にしたほか、「ESDワークブック」を新たに作成・公開し、当初想定していた以上に同セグメントを対象にした支援を実践できたものと考えている。

38

第6期業務の成果と評価

業務	第6期事業計画作成時に設定した目標	実施結果 ※開催時間はすべて達成	成果、自己評価等
協働コーディネーターの地元ネットワークを活用した環境教育の推進	【2021年度】 地域循環共生圏づくりの特定テーマ(再エネ、脱炭素、資金調達等/地域側と協議して決定)についての勉強会開催1回・3時間・参加者30名程度	・テーマ: 里山里海保全活動の収益化で、フォーラムを開催。地元活動者23人が参加した。	・地域的事件のため、参加者は少数だった。 ・フォーラム参加者をSHIにして、次年度PF事業に応募し、採択された。 ・数値目標は達成不可だったが、企画目的は達成できた。
	【2022年度】 地域循環共生圏づくりのEPO中部による支援プログラムの実践 全3回講座・各1~2時間・参加者30名程度	・EPO企画WSプログラムを実施するフォーラムを長野県諏訪市で開催。58人が参加。	・WSプログラム「なりたい地域の未来づくり」が参加者に好評で、WEB公開後も問合せがあった。 ・目標を2倍近く上回る参加者数があり、参加者数、支援プログラム実践という当初の目標を達成した。
	【2023年度】 中部エリアの自治体職員及び協働コーディネーター等を対象にして環境施策に関わる実践的勉強会等の実施 東海エリア等で1回開催・3時間・参加者50名程度	・ローカルSDGsの指標、達成度をテーマにしたセミナーを名古屋市内で開催。19人が参加。 ※三重県内で2月にフォーラム開催予定あり。	・参加者アンケートの結果は非常に好評だったが、愛知県以外からの参加者が少なく、目標の参加者数は達成できなかった。
遠隔地(北陸・信越)と連携した実践的取組の実施	【2021年度】 「学び」と「協働」による地域循環共生圏づくり(各地域への協働実践支援) 地域循環共生圏づくり実践に向けた普及啓発(地域のやる気の掘り起し) 北陸2回、信州2回(計4回)開催、各回3時間・参加者30名	・長野県長野市でローカルSDGsを学ぶ連続講座を開催(初回・最終回をEPO主催で実施)。計79人が参加。 ・福井県小浜市で地域循環共生圏をテーマにしたワークショップを全2回実施。計51人が参加。	・行政、市民団体、企業、自治組織など多数の多様な主体が参加。地域課題WSの学びや気づきが今後の地域づくりで生かせるとの感想をいただいた。 ・地域循環共生圏づくりの実践を目指したが、地域側にあった消極姿勢も浮き彫りとなった。 ・目標とする参加者数に届かなかった催事もあるが、計4回の参加者数の合計(130人)は目標を達成した。
	【2022年度】 地域循環共生圏づくりやSDGs推進の支援プログラム、地域SDGs評価メニュー/プログラム等の実践活用 2エリアで各2回(計4回)開催、各回3時間・参加者30名	・仕様書上、1エリアのみでの実施となった。 ・前年度に続き、長野市等でテーマを絞ったローカルSDGs勉強会を全2回開催。計50人が参加。	・関連する地域活動で「見える化」を作成し、勉強会の中で概説活用。チャートはWEBでも公開。参加者に『見える化』の重要性を再認識いただいた。 ・企画目標は達成できたが、参加者数は目標を達成できなかった。
	【2023年度】 地域循環共生圏づくりやSDGs推進の支援プログラム、地域SDGs評価メニュー/プログラム等の実践活用 2エリアで各2回(計4回)開催、各回3時間・参加者30名	・仕様書上、1エリアのみでの実施となった。 ※協働コーディネーターのご事情等あり、1月、2月に計2回開催予定。	

第6期業務の成果と評価

業務	第6期事業計画作成時に設定した目標	実施結果	成果、自己評価等
ESD活動支援	①「(仮称)中部版ESDワークブック～学生・社会人のための地域社会SDGs実践」作成1年目プロトタイプ作成、2年目完成公開、3年目活用実践	・年3回の有識者の研究会に基づき2022年度にプロトタイプ版を作成公開済み。 ・3年目において活用実践を目的とした12ページのパンフレットタイプを作成。	・幅広くESDが実践できるようハードルを下げる工夫を凝らしたワークブックパンフレット原稿を作成し、全国ESDフォーラムでの紹介も高い評価を受けた。 ・2023年12月現在、公開に至っていないが、2024年2月に依頼された愛知県市町村環境教育職員研修で活用予定である。 ・以上から当初の目標を達成した。
	②相談対応及び支援/情報の受発信/ Webサイト運用 第5期を上回る実績	・相談対応件数: 2021年度40件、2022年度52件(EPO対応を含む) ・Webサイト更新: 2021年度206件、2022年度216件/ウェブアクセス数: 2021年度13,575件、2022年度10,738件	・いずれの指標も第5期と同等程度、もしくは上回る件数となった。 ・講師やファンリなど職員派遣による支援も増え、大人数相手の講演(2022年度・2023年度実績例、高校授業、学年全クラス230人)など、実質的支援/発信量は増加傾向となっている。 ・以上から目標は達成されたと考えられる。
	③ESD/SDGs推進ネットワーク地域フォーラムの開催(各年度1回) コア参加20名、一般参加30名程度	・2021年度(⑤と同時開催) ・2022年度参加者26名 ・2023年度参加者38名	・2021年(⑤と)の同時開催であった。全体では110名を超える参加となった。2022、2023年は地域ESD拠点に対象を絞り30名程度の参加を得て濃密な議論を行った。 ・以上から目標は達成した。
	④自然資産を活かした地域づくりESDダイアログの開催(各年度1回) コア参加10名、一般参加30名程度	・2021年度参加者1日目45名、2日目15名 ・2022年度参加者1日目53名、2日目16名 ・2023年度参加者1日目41名、2日目19名	・ジオパークダイアログでの参加者に加え、各回2日目のエクスカーションでも自然資産を活用したESDディスカッションと交流が行われた。 ・参加者数は目標を上回り、有意義な内容を含め目標は達成された。
	⑤中小企業・自治体のESD/SDGs取組の促進、ユースと社会のESD/SDGs連携 交流者10名程度、実践者30名程度	・2021年度参加者コア参加52名、視聴59名 ・2022年度参加者コア参加76名、視聴40名 ・2023年度(2024年2月実施予定)	・学生のSDGs取組と自治体のSDGs取組の交流が実質的に進み会合となった。また各回100名以上が参加するなど広範囲な効果も認められた。イベントの事前事後のアンケートでは、学生のキーコンピテンシーの向上が認められた。 ・以上から目標を大きく上回る成果となった
	⑥包括的専門家ヒヤリング(各年度1回)、現場ヒヤリング(各年度適宜) 専門家(各年度1回)、現場ヒヤリング2名程度	・2021年度: 専門家1名、教職員等2名 ・2022年度: 専門家1名、教職員2名 ・2023年度: 専門家1名、教職員2名、事業者2名	・有識者から俯瞰的なESDの諸課題について見識のある示唆が得られた。 ・教職員からは学校現場の具体的な課題が、また事業者からは社会におけるSDGs達成のためのESDの役割や課題に関わる多くの示唆が得られた。 ・以上から有意義な知見を含め目標は達成された。

40

※第6期業務概要報告書を作成した2023年11月末現在の内容となっている。

第6期業務の成果と評価

業務	第6期事業計画作成時に設定した目標	実施結果 ※開催時間はすべて達成	成果、自己評価等
森里川海推進ネットワーク形成会合の開催	【2021年度】 ユネスコエコパーク白山BR及び白山国立公園(場合によっては勝山ジオパーク、白山手取川ジオパーク等含む)で、「白山ブランド」向上をテーマに開催 1エリアで2回開催、各回3時間・参加者30名	・ 白山ジオパーク&BRで計2回の情報交換会を開催し、計52人が参加。 ・ 地域側との協議により、「地域の未来像づくり」「地域の魅力向上の取組アイデア」を話し合うWSを実施。	・ 白山ジオ&BRでこのように関係者が集う会合は初めてであり、白山ジオ&BRのあり方を深掘りし、各関係者の認識を共有する良い機会になったとの感想をいただいた。 ・ 企画目標は達成できたが、参加者数はわずかに目標を下回った。
	【2022年度】 南アルプスBR、志賀高原BRで、「持続可能な地域づくりのためのゴール(SDGs)と観光(サステナブルツーリズム)」をテーマに開催 1エリアで2回開催、各回3時間・参加者30名	・ 2022年度の本業務では、全EPOがOECMをテーマに会合等を開催することになった。 ・ 中部7県担当で情報交換を行うクローズド会合1回、オンラインフォーラム1回を開催し、フォーラムでは企業を中心に268人が参加。	・ 定員を大幅に超過した参加希望があり、急遽YouTube配信を増設するなど、参加者数は目標を大きく上回る結果となった。 ・ 参加企業等からは、OECM等への理解、自然共生サイトの認知が得られ、翌年度は愛知を中心に中部エリアから多数の企業が自然共生サイトへの認定申請があった。
	【2023年度】 ジオパーク、ユネスコエコパーク等を活用したESD業務(ESDダイアログ開催)との連携・連動による開催など 1エリアで2回開催、各回3時間・参加者30名	・ 継続して本業務において全EPOがOECMをテーマに会合等を開催することになった。 ※ 信州の森林・里山フォーラム、EPOC協力による企業の生物多様性勉強会を12月、1月に開催予定。	・ 2023年11月現在、未開催であるが、登壇者や協力企業・団体と、今後の地域循環共生圏づくり/ネイチャーポジティブ支援に活かせるつながり構築につながっている。
地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化	【2021-2022年度】 地域のパートナーシップ構築支援: 具体のプラットフォーム構築事業の採択団体への支援となる会合またはイベントの開催(2カ年度) 各年度2エリアで各1回開催、各回2時間、30名程度	・ 2カ年度で8エリア/回の会合・イベントを実施し、うち4回をPF事業採択団体への支援を目的に実施(PF郡上、PF七尾、PF丹南、PF尾鷲)。4会合で計180人が参加した。	・ 4会合の合計参加者数は、目標数120名(30名×4回)を大きく上回り、達成できた。 ・ 会合・イベントにより、各団体関係者である参加者の気付き、新たな関係性構築などがあり、各団体がその後の取組展開で、地域の現状・課題感に即した新たなシナリオを描くことにつながった。
	【2021-2022年度】 特定のテーマでの会合(脱炭素ロードマップ等)(2カ年度) 各年度で会合1回実施、各回2時間、30名程度	・ 2カ年度のうち2022年度に東海、北陸の2エリアで地域脱炭素をテーマにしたセミナーを開催。3セミナーで計205人が参加した。	・ 財務省・経産省との共催により、多数の金融機関、企業の参加を得られ、参加者数は目標数60名(30名×2回)を大きく上回る結果を得られた。 ・ EPO自身も登壇企業等との新しい関係構築につながった。
	【2023年度】 環境×経済に関わる特定テーマで情報共有、マッチング会合を実施 協議と会合各1回実施、各回2時間、30名程度	・ 2023年度からは、全EPOがSH連携促進事業としての会合等を実施することになった。 ※ 鳥羽観光創発会合、北陸脱炭素セミナーなど計4会合・イベントを1月に以降に実施予定。	—

41

参考) 実施した主催イベント一覧 (及び参加者数)

* 記載イベント名は略称

年度	協働	参加※	地域循環共生圏		ESD	
			参加※			参加※
2021年度	・ 越前の地域循環共生圏フォーラム	23	・ PS基盤強化: 飯山会合	22	・ 学び合いの場①	65
	・ 地域循環共生圏セミナー in 中部	40	・ PS基盤強化: 郡上会合	15	・ 学び合いの場②	38
	・ 小浜市地域循環共生圏ワークショップ①	15	・ PS基盤強化: 小浜会合	22	・ SDGs社会教育～実践セミナー	47
	・ 小浜市地域循環共生圏ワークショップ②	36	・ PS基盤強化: ななおフォーラム	26	・ ESDダイアログ in 立山黒部	45
	・ ローカルSDGsスタートアップフォーラム	49	・ 森里川海: 白山ジオ&BR情報交換会①	25	・ SDGs学生サミット(ESD推進ネットワーク地域フォーラム)	115
	・ ローカルSDGs テイクオフセミナー	30	・ 森里川海: 白山ジオ&BR情報交換会②	27		
2022年度	・ 地域循環共生圏フォーラム in SUWA	58	・ PS基盤強化: おわせ意見交換会	128	・ 学び合いの場①	60
	・ ローカルSDGs/地域循環共生圏セミナー	17	・ PS基盤強化: 丹南会合	11	・ 学び合いの場②	61
	・ 長野市芋井地区「災害に強い地域づくり」	35	・ PS基盤強化: 脱炭素セミナー(東海開催)	116	・ 実践セミナー: 脱炭素のまち・人づくりWS	51
	・ 信州ローカルSDGs勉強会「学校×地域」	15	・ PS基盤強化: 脱炭素セミナー(信州開催)	84	・ ふくい勝山ジオパークESDダイアログ	53
2023年度 予定含む			・ 森里川海: OECMIに関する情報交換会	55	・ ESD推進ネットワーク地域フォーラム	26
			・ 森里川海: 生物多様性主流化フォーラム	268	・ SDGs学生サミット	116
	・ ローカルSDGsセミナー	19	・ 自然資本: 信州の森林・里山フォーラム	12/16開催	・ 学び合いの場①	35
	・ 地域循環共生圏フォーラム in 北勢	2/16開催	・ 自然資本: 企業の生物多様性保全勉強会	1/26開催	・ 学び合いの場②	33
	・ 持続可能な地域づくりワールドカフェ	1/13開催	・ SH連携: 鳥羽の観光創発ミーティング	1/16開催	・ 実践セミナー: 食べ物が変わる?!	43
	・ 長野市芋井地区 ローカルSDGs勉強会(仮)	2/4開催	・ SH連携: 北陸脱炭素セミナー	2/7開催	・ 南アルプスジオパークESDダイアログ	41
		・ SH連携: サークュラーエコノミー会合(仮)	2/下開催	・ ESD推進ネットワーク地域フォーラム	38	
		・ SH連携: 奥三河会合(仮)	2/14開催	・ SDGs学生サミット	2/10開催	

42

※第6期業務概要報告書を作成した2023年11月末現在の内容となっている。

参考) 相談問合せ件数と対応状況 (上表) とウェブサイトアクセス数 (下表)

相談問合せ件数と対応状況

区分	ア 照会・相談対応						イ 対話の体制の構築 (ア)会議・セミナー等 地域活動への招聘	の構築 (イ)その他 主体との打合せや意見交換等	ア+イ 対応件数 総計	
	事例件数※1	①相談に対し 支援対応等を行った案件の 件数	照会・相談 対応等の延 べ件数 (左記①含む)	来館件数※2	②相談・ 照会、資 料配架依 頼等	会議利用				延べ件数※2 (広報依頼等) 話による相談
2021年度 4月～3月・12ヵ月間	52	242	94	17	30	148	42	84	368	
2022年度 4月～3月・12ヵ月間	40	276	76	43	33	200	62	99	437	
2023年度 4月～11月・8ヵ月間	27	172	61	34	27	111	14	80	266	
合計	119	690	231	94	90	459	118	263	1,071	

※1) 事例件数: 最初の連絡から対応終了までの(その間の連絡・打合せ等を含めた)案件ごとにカウントした数となっている。

※2) 延べ件数: 同じ案件・用件での来館、メール・電話等であっても、個別に回数をカウントした数となっている。

ウェブサイトアクセス数

	URL	第5期			第6期		
		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度※
EPO中部Web サイト	http://www. epo-chubu.jp	参考値 279,316 件 別ソフト解析集計	参考値 810,836 件 別ソフト解析集計	参考値 501,670 件 別ソフト解析集計	32,185 件	31,134 件	18,143 件
中部地方ESD活 動支援センター Webサイト	https://chubu .esdcenter.jp	10,612 件	11,521 件	13,132 件	13,575 件	10,948 件	8,383 件

参考値以外はGoogleアナリティスによる解析・集計/2023年度は2023年4月～11月末の集計

43

今後に向けて

● 新しいネットワークの構築とその活用

- ・ 協働コーディネーターに加えて、イベント登壇者、開催協力主体、PF事業採択団体等との継続的な関係性構築が重要であり、新たなネットワークづくりとそれを活用するための方策と体制が必要になっている。

● EPO機能やEPOのあり方を明示する広報の展開

- わかりにくいと言われがちなEPOの機能及び中間支援機能、EPOが誰に何をしているかを第三者へ見える化しておく必要がある。
- 特にこれまで手薄になりがちだったワークショップ、ディスカッション等の実施事例や、相談対応や地域側からの招聘事例の実事例、独自ツールの活用事例等をウェブサイト等で公開・紹介するなど、《EPO中部を明示する広報》が必要とされている。

● EPOとESDセンターの連携強化と3分野+1への関わり方の提示

- EPO業務・ESD業務ともに年間を通して仕様書業務の遂行のみに注力しがちであり、EPOの地域づくりとESDセンターの人づくりを連携させつつ、今後の環境省の重要施策となるカーボンニュートラル、ネイチャーポジティブ、サーキュラーエコノミー、及び、それらを包括する地域循環共生圏づくりに、どのような支援や関わり方ができるか提示・実践していくことが重要と考える。

44

※第6期業務概要報告書を作成した2023年11月末現在の内容となっている。

イ 総括と今後に向けて（※第6期業務概要報告書より再掲）

（ア）第6期の「目標」と「方針」の達成可否等についての総括

①「目標」について

- 第6期に主催した行事で、オンライン活用が定着すると共に、企画目的・意図に応じたオンラインとリアルを使い分けを行うなどして、協働・ESD・SDGs 実装・実践の支援に向けた新フェーズ対応の取組を展開できた。
- 誰も取り残されないターゲット設定、EPO 機能強化の関係構築については、さらなる強化・向上の余地もあるが、当初目標で想定していた取組・企画についてはすべて遂行し、達成できたものと考えている。

②「方針」について

- 「方針」全般について、当初想定・企画していた業務は全て実施し、企画目的を達成できたと考えている。
- 「方針 1-①・②」については、地域への支援の【個別対応】として、各年度で特定地域・テーマへの支援を目的とした催事を開催した。また、【汎用化】を目的とした業務として、地域支援に用いた EPO 中部独自プログラムをウェブサイトに公開すると共に、ほかの地域・テーマでの支援にも応用・活用するなど、汎用化も実践できたものと考えている。
- 「方針 2」については、第5期から構築・作成している独自ツールを第6期でも活用しつつ、新たな独自ツールとして、地域 SDGs 評価に関わる『SDGs 指標物語』を構築することができた。
- 「方針 3-i・ii」については、PF 事業支援や主催催事等を通して、新たな関係構築、ネットワークづくりを遂行できたが、関係性の更なる強化・向上については今後も課題になるものと考えている。
- また、「方針 3-iii」については、「学び合いプロジェクト」で取り残されがちな中小事業者や自治体を対象にしたほか、「ESD ワークブック」を新たに作成・公開し、当初想定していた以上に同セグメントを対象にした支援を実践できたものと考えている。

（イ）今後に向けて

①新しいネットワークの構築とその活用

- 協働コーディネーターに加えて、イベント登壇者、開催協力主体、PF 事業採択団体等との継続的な関係性構築が重要であり、新たなネットワークづくりとそれを活用するための方策と体制が必要になっている。

②EPO 機能や EPO のあり方を明示する広報の展開

- わかりにくいと言われがちな EPO の機能及び中間支援機能、EPO が誰に何をしているかを第三者へ見える化しておく必要がある。
- 特にワークショップ、ディスカッション等の実施事例や、相談対応や地域側からの招聘事例の事例、独自ツールの活用事例等をウェブサイト等で公開・紹介するなど、これまでは手薄になりがちだった《EPO 中部を明示する広報》が必要とされている。

③EPO と ESD センターの連携強化と 3分野+1 への関わり方の提示

- EPO 業務・ESD 業務ともに年間を通して仕様書業務の遂行のみに注力しがちであり、EPO の地域づくりと ESD センターの人づくりを連携させつつ、今後の環境省の重要施策となるカーボンニュートラル、ネイチャーポジティブ、サーキュラーエコノミー、及び、それらを包括する地域循環共生圏づくりに、どのような支援や関わり方ができるか提示・実践していくことが重要と考える。

ウ 2023 年度主催イベントの参加者アンケート結果より

- EPO 中部及び中部地方 ESD 活動支援センターが主催したイベントにおいて、参加者を一般公募した全てのイベントで参加者アンケートを実施した。
- なお、一部のイベント等はアンケート回答者数が少なかったことから、割合 (%) の算定は行っていない。
- 集計結果をみると、全体的にどのイベントも 5 段階評価で 5 (選択肢「たいへん良かった」) または 4 (選択肢「良かった」) が多くなっており、役立つ情報・事例があったか否かの設問でも「あった」の回答が多く、参加者 (回答者) から好評を得られている。

		● 今回の催事はいかがでしたか (5段階評価)					
		5/5段階	4/5段階	3/5段階	2/5段階	1/5段階	無回答
EPO 業務	240214北勢フォーラム (n=33)	25	7	1	0	0	0
	231106ローカルSDGsセミナー(n=11)	11	0	0	0	0	0
	231219信州の森フォーラム(n=16)	5	10	1	0	0	0
	240213中部カンファレンス(n=40)	19	19	2	0	0	0
	230701白書を読む会(n=105)	29	44	24	2	6	0
ESD 業務	230921NWフォーラム(n=10)	7	2	0	0	0	1
	231118ESDダイアログ(n=16)	9	6	0	0	1	0
	230829学び合い①(n=11)	4	6	0	0	1	0
	230904学び合い②(n=6)	2	3	0	1	0	0
	231125実践セミナー(n=4)	3	1	0	0	0	0
EPO業務・計(n=205)		89	80	28	2	6	0
ESD業務・計(n=47)		25	18	0	1	2	1
全体(n=252)		114	98	28	3	8	1

		● 今後のあなたの活動や取組で役立つ情報や事例などがありましたか			
		あった	なかった	どちらともいえない	無回答
EPO 業務	240214北勢フォーラム(n=33)	32	0	1	0
	231106ローカルSDGsセミナー(n=11)	11	0	0	0
	231219信州の森フォーラム(n=16)	12	0	4	0
	240213中部カンファレンス(n=40)	35	0	5	0
	230701白書を読む会(n=105)	49	2	54	0
ESD 業務	230921NWフォーラム(n=10)	9	0	1	0
	231118ESDダイアログ(n=16)	10	0	6	0
	230829学び合い①(n=11)	10	0	1	0
	230904学び合い②(n=6)	5	0	1	0
	231125実践セミナー(n=4)	4	0	0	0
EPO業務・計(n=205)		139	2	64	0
ESD業務・計(n=47)		38	0	9	0
全体(n=252)		177	2	73	0

【具体的に役立つ情報・事例の内容とは】 ※原文のまま掲載。

240214 北勢 フォーラム	・廃(統合)小学校の利用策を地下と共に「地域力」を活用して。・みずほの国の基本をあらためて認識させられた。(農と食とコミュニケーション)
	MEGURURUSTATION キュー
	アマタさんの取組など
	うつべ農園さん、アマタ(株)の事例
	ゴミステーションの話
	これからの居場所づくりは他世代がいつでも集える所、人も物も大切な資源、子どもたちと地域で分別ごみの取り組み
	ネクストステップ当の取組み
	ワークショップでより四日市の大事にしていることが知れました。
	ワークショップで他の方の考えが聞けた事
	話をしているとアイデアが出てくるのを実感
	課題を考えることで実はそれが資源化にもっともつながりのあることという気づき
	各人の取組みが違うけれどやはり四日市をよくしていこうという考え方が分かった
	各団体、企業の取組み
	各地域の取組が聞けた。MEGURUSTATIONの事例がすごく良かった。
	環境に取り組む団体を知ることができた
	共通の課題や想いを共有し、具体的な案まで話しあえました
	業務に活用できるような情報を得ることができました
	四日市の課題について深く知ることができた
	事例の紹介(各企業例)
	色んな取り組みを知ることができました
	新しい視点が知れました
	多くの人、団体の存在の存在していることが分かった
	知らなかった情報をたくさん聞けた。
地域のつながりの重要性や、皆さんの意識・考えが大変勉強になりました。	
二番目の話が興味があった	
231106 ローカル SDGs セミナー	オンラインプラットフォーム
	ターゲットの認識
	ツール等の存在と活用法について
	ローカルSDGsの指標と達成度評価について活用可能なサイト、ツール
	ローカルSDGsの指標と達成度評価について活用可能なサイト・ツール
	川久保先生のクローバーに、地域課題検討のWSの情報を載せたいと思いました。
	川久保先生の発表にあった情報収集等に使えるツール
	他自治体のSDGsに関する情報の共有
	他自治体の状況を知れたこと。
	様々なプラットフォーム
231219 信州の 森フォーラム	・地域に根差した取り組みの具体例
	①余頃先生の地域に根差した活動や、地域の中で活動しているからこそ話すことのできる生の声。②飯泉さんの地域に入り、事業を展開するまでのプロセス
	行政としての役割。地域林業として重要なこと
	森林・里山の課題の解決と新たな価値創出フォレストデザイン 代表 余頃 友康 氏
	森林・里山の利活用と価値の向上に関する環境省・林野庁の問題意識・取り組み方針を伺うことができた
	森林サービス産業を推進する上で、どのような業種とつながりを構築すればいいのか
	について参考になりました。少しずつでも始めることが大事だと再認識しました。
	森林の利用について、民間での取り組みと行政側の取り組みの双方を知れたのは大変勉強になりました。
	地域の中での、社会、企業、団体との連携の重要性
	東急さんの取り組みなど。現在、地域の取り組みで山を管理している市町村も多いと思いますが、限界があると感じていました。仕事に繋げていく?!ことは必要だろうと感じました。
里山は地域と一体であり、里山をどうしていくかということは、地域をどうしていくかということという話は、強い説得力を感じました。	
240213 中部カンファレンス	・愛知県の水素プロジェクト ・日本郵船のアンモニア船
	・船舶燃料としてアンモニアの利用は拡大する。(IEA)
	CNPの現状と第三者検証による評価がなされること等
	CNP取組について
	アンモニア混燃、専燃にむけた取り組み状況。
いままで断片的に見聞きしていた国・中部圏水素・アンモニア社会実装推進会議の動向を系統立ててご説明いただいた	

	愛知県さまの水素利活用PJ等具体的に推進されている情報
	各関係者の最新の動向が把握できよかった
	各社の取り組みや最新の状況を把握することができた。特に行政の取り組みについて理解でき、連携を深めていきたいと感じた。
	官民それぞれの取り組みの具体的な方向性や時間軸があり参考になった
	環境省、経産省などが本気で脱炭素を進める上での支援内容が理解できた
	環境省の水素に関する取組が良く理解出来た。
	企業の取組について理解を深めることができた
	県や市の取組み状況とビジョンが理解できた事。また、事例はその進捗状況として説得力を感じられた。
	産官それぞれの足元取組と今後方針が個別具体的に聞けたこと。中部圏の取組・立ち位置がふかんに理解できた。
	支援制度の内容について
	自分の所属する海運業界の他他業界などの立場からの意見等
	水素、NH3に関する官民の方向性が合致している事が非常に良く解りました。(各省庁の考え方についても同様です。)
	水素・アンモニアに関する、考え方、ロードマップ、状況を確認できた。
	水素・アンモニア等の具体的なロードマップを示していただいた。
	水素・アンモニア利用の実証推進状況がよくわかった
	水素とあわせてアンモニアの活用に関する情報
	水素の利活用について、官民が前向きに取り組んでいることが感じられた
	水素基本戦略改定 支援制度(水素・アンモニアの価格差・拠点整備)
	水素発電
	船舶関係の燃料転換についての情報。
	現在は重油を供給しているが、今後需要が減ることを見込んでの対応が必要と感じた。
	船用燃料としてのアンモニア利用
	中部圏の水素・アンモニア社会実装の概要
	日本郵船やJERAのアンモニア利用について考え方が判ったから。
	幅広い業界と官の皆様より最新技術を共有頂きました
	民間の報告内容
	様々な国や県の取り組みや支援
230701 白書を読む会	30by30の項目にある健全な動物の保護、保護地域の拡大
	3R、循環型社会の促進について。
	3Rの詳しい取り組みについて深く理解できた。
	CO2は家庭からの排出が60%と分かり、いかに個人個人の努力が必要かがわかった。
	なじみの少ない白書について、項目とその概要を説明していただいたので、興味のある所をもう少し詳しく読む機会になると思うので、これだけでも効果がある。
	ネイチャーポジティブ経済について
	ネイチャーポジティブ経済移行戦略を今年度で策定するということは知らなかったの。
	ヒアリについての対策知りたかったのよかったです。
	プラスチックゴミの件
	我が国の温室効果ガス排出量を消費ベースで見ると、全体の約6割が家計によるものであるということ
	我が国の物質フローなど、過去の状態と現在の状態の比較があるものは、取り組んできたことの成果などが分かってとても有益でした。
	外来種の扱いが分かった
	外来種の対策
	外来種生物の問題でした。
	外来生物のヒアリが国内に定着してしまう直前の段階に来てしまっている事、それら外来生物の輸入等を厳格に規制することで対策を講じている事など、外来生物の情報を得ることが出来ました。
	環境のこれからについてわかった
	環境保全についての取り組みについてしれた
	環境保全や社会、経済についてわかりました。
	気候変動と生物多様性というところ
	具体的な環境についての話が聞けた点、少し身近に感じた。
	現在の国における動きが解った。
	地域にて活動している人間との温度差が大きいことを感じた。
	現状での二酸化炭素の量など詳しい情報を知ることが出来た。
	思っていたより地球温暖化による影響が大きかった。自分も地球温暖化の対策をするよう努力しようと思った。
	自然環境の外来種などの部分
	自然共生サイト
	自分には何が出来るのかがわかりました。

	<p>循環型社会に関する情報</p> <p>循環型社会形成推進基本計画について</p> <p>世界の環境施策の動向と日本の動きの関連性が理解できた。</p> <p>政府が出している白書の大項目を把握できた</p> <p>生物を飼うためには審査がある生物があるということがわかりました。</p> <p>生物多様性について詳しく知ることができた</p> <p>生物多様性国家戦略の国際的な動きと国内での動きを理解しました。</p> <p>全体の俯瞰ができた。</p> <p>第3章持続可能な地域と暮らしの実現</p> <p>地球温暖化と資源循環</p> <p>地熱発電が少ない理由や、海外のゴミの分別について、生物を守るために国土交通省・農林水産省・環境省が協力していること、など</p> <p>特定外来生物の話が前々からとても気になっていたので勉強になりました。</p> <p>名古屋生物多様性COPの進捗状況について</p>
230921 ESD ネットワーク フォーラム	<p>いろいろな立場の方が地域・学校をつなぐESDについて考えてる内容が知れたことがためになった。いろんなアイデアもある、実践もある。あとは持続すること。これこそ課題だと痛感した。</p> <p>なおSDGsスイッチの取組</p> <p>加藤先生の基調講演、学校現場の事例紹介</p> <p>緒川小の考える最適化に基づくカリキュラムデザイン</p> <p>緒川小学校の話聞いて、学校は地域やまわりの人々に支えられて成り立っていることを改めて実感でき、多くの人とつながっていくことが大切だと思いました。個性化教育が主体的な学びに直結すると感じたので、ぜひ勉強していきたいと思いました。</p> <p>地域とのつながり方についての今後の方向性を考えることができた。取組における課題については、共通する部分が多く、自分の考え方に間違いがないこともわかった。</p> <p>中部地方の実践の様子がたいへんよくわかった。</p> <p>連携の重要性を感じ「動画」をネットワーク化すればいいと思いました。小川小の(各地域での)校長先生が素晴らしかった！</p>
231118 ESDダイ アログ	<p>ESDダイアログについてほとんど理解していなかったが、今回は大変に勉強になった。</p> <p>各ジオパークの特色がわかった</p> <p>勝山市、大鹿歌舞伎、遠山郷エコジオパークフィールドスタディの取組</p> <p>他地区でのESDの活動の様子を知ることが出来てよかった</p> <p>大鹿村の無形文化財継承の取組、南アルプスの大鹿歌舞伎で自分たちと同じ中学生が無形文化財を通して地域を盛り上げていることが参考になりおどろきました。</p> <p>地域活動は地域の方と一緒にやってこそ成立するものだと思います。田舎に住む人は「何も無い」というけれど、その「何もない」と思い込んでいる生活や文化こそ尊く守りたいものだと思います。</p> <p>地元の南アルプスジオパーク協議会の取り組みのみならず北陸地方のジオパークの取り組みも参考になりました。</p> <p>長谷の太陽はパニラアイスに合うらしい。大鹿中学校は歌舞伎の練習にとっても熱心な中学生がいて村民もとても協力的など。</p> <p>長谷中学校の唐辛子の事例や大鹿歌舞伎の事例から地域とつながりを持ちながら活動することの重要性を学んだ</p> <p>南アルプスの全体 自然の保全と活用が役に立つ。ジオパーク・エコパークの対応について知ることができた。ESD-ジオパーク-観光面よりも教育面で役立って。</p>
230829 学 び 合 い①	<p>我々は地方のフロントランナーになる必要があると再確認した。</p> <p>学術的なアプローチから市民活動の在り方と行動変容を探ることができた。</p> <p>緩和と適応だけを取り出して組み立てようとすると失敗するリスクが大きくなること。これまでの公教育が、VUCAの時代には、いかに役に立たないものかを公教育を担っている教師の皆さんにご理解いただくことが不可避ではないでしょうか？</p> <p>気候変動教育についての理論的背景</p> <p>気候変動教育の取り組み方についての考え方「社会を変える、社会が変わる」が参考になりました。</p> <p>気候変動教育の現在の状況や位置</p> <p>気候変動対応には緩和策に加えて適応策が必要である事、変えるから変わるという発想</p> <p>合意形成、共感、データと哲学</p>
230904 学 び 合 い②	<p>気候変動から発生する地域課題について、大人、子供を問わず課題解決を議論し学び合いしていくことが気候変動教育の重要な側面であることを、実践例を通じて理解できたこと、ESDとSDGsの関係を登山に例えていただいたこと</p> <p>水上先生のお話にあった坂井市の取り組み</p> <p>水上先生の実践報告がとても参考になりました。</p> <p>まずはESDについてほぼ知らなかったので、知ることからできました。そして私達が生活している中で、子どもが地域の中で感じる課題に触れる際に気候変動とつなげやすいと感じました。</p>

231125 実践セミナー	<p>ご飯が美味しかった。講演とワークショップも学びがあった。</p> <p>温暖化の農業への影響、伊勢湾の水産資源、鬼崎漁協の歴史と取組内容 若い世代が気候の変化を実感していない、ということ →未来の子ども達のために、というフレーズを思着せがましく使うのは止めて、自分たちの身勝手に温暖化という厳しい環境をつくってしまったことを真摯に反省し、今の自分の不快感・不都合を自分が生きている間に、少なくとも悪くしないこと、できれば改善することのために努力したいと思う。思着せがましく、誰かのためじゃなく自分のために。</p> <p>海水温の上昇、漁業の現状などの情報を知ることができた。海苔養殖の工程や課題を学べた。</p> <p>森里川海からとれる食がすべて気候変動とつながりがある点</p>
------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

- 各催事のテーマや今後の取組、関心等への積極性が喚起されたか否かの設問でも、ほとんどが肯定的な回答となっている。
➤ 注：イベント（のテーマ）によって設問・選択肢の一部文言を変更している。

		●催事テーマに今後も積極的に取り組む必要がある／理解を深めたいと感じさせる内容でしたか ※一部催事で設問設定なし					
		もっと積極的に取り組みたい／理解を深めたいと感じられる内容だった	これまでの取組で充分と思える内容／既に充分理解している内容だった	取り組む必要性を感じられない内容だった／理解が深まったと感じなかった	よくわからない	設問なし※	無回答
EPO 業務	240214北勢フォーラム (n=33)	32	0	0	1		0
	231106ローカルSDGsセミナー(n=11)	11	0	0	0		0
	231219信州の森フォーラム(n=16)	15	0	0	1		0
	240213中部カンファレンス(n=40)	36	2	1	1		0
	230701白書を読む会(n=105)	66	26	5	8		0
ESD 業務	230921NWフォーラム(n=10)	0	0	0	0	10	0
	231118ESDダイアログ(n=16)	14	1	0	0		1
	230829学び合い①(n=11)	10	0	0	1		0
	230904学び合い②(n=6)	6	0	0	0		0
	231125実践セミナー(n=4)	4	0	0	0		0
EPO業務・計(n=205)		160	28	6	11		0
ESD業務・計(n=37)		34	1	0	1		1
全体(n=242)		194	29	6	12		1

【今後参加してみたいイベント】 ※原文のまま掲載。

240214 北勢フォーラム	<p>ゴミ問題</p> <p>もっと地域を、地域の歴史を知れるもの</p> <p>安全安心の循環の地域で</p> <p>集まる場所の作り方</p> <p>森林について</p> <p>水質についての問題</p> <p>地域コミュニティの課題と改善策について</p>
231106 ローカルSDGsセミナー	<p>SDGsに関する取り組みの失敗事例</p> <p>SDGsを通じたステークホルダー間の連携</p> <p>モニタリングの実践講座</p> <p>他都市の方々や悩みを共有し、解決策を考えるのは心折れそうになりながらSDGsを進めている身としてはありがたいです。(悩みフォーラム・・・?)世界のSDGs状況が分かるセミナーなどがあると嬉しいです。</p>
231219 信州の	<p>ボイラーなど、森林のエネルギー利用に関して優良事例や国際的な動向を示すことに特化したフォーラムがあると、行政、民間含めて、非常に役立つ内容になるのではないかと存じます。</p>

森フォーラム	人(特に住民)を森林に入れていく取り組みの紹介 里山の維持管理について、自治体や地域での具体的な取り組みの事例発表の開催をお願いしたいです。 例えば東急リゾートさんが行っている森林サービスについて、企画作成から実施までの段階を知りたい。
240213 中部カンファレンス	3R・サーキュラーエコノミーまたはゼロエミッション CN技術の社会実装に向けた 企業連携 産学官連携 国際連携などの推進について Jクレジットの創出事例に関するフォーラムに参加してみたいと思っています。 サプライチェーン連携したカーボンニュートラル事例 引続きカーボンニュートラル関連 自然エネルギー利用の水素製造に関するセミナーをしてほしい 水素・アンモニアの第2弾。CO2回収や再利用に関する取組や技術動向(e-methane/e-fuel)含む 水素やアンモニアの功罪について、特に罪の方です。水素なんかは良いことしか言っていないように感じますが、その実は大きな落とし穴でもあるんでないかと心配です。(例えば出来た当初は安定で夢の熱媒体と言われたフロンが実はオゾン層を破壊したような話にならないと良いなあ、と思っています。)良いことばかりじゃない、とは思いませんか？ 水素関連技術の最新情報や取扱いに関する留意事項など 脱炭素、再生可能エネルギーに関連したセミナー 脱炭素燃料に関するルール・法改正など
230701 白書を 読む会	IPCC第6次報告書、プラごみの世界的規制状況 SDGsの掘りこんだ話が知りたいです。 TNFDを学ぶ カーボンニュートラルに向けた企業の具体的な取り組みに対するインセンティブについて サステナブル・ファッションの実現に向けて私たちができることは何か ジェンダー社会 すでに定着してしまった外来種への対応 一般市民が環境問題に対してどのような行動を取ることが必要かについて詳しくお聞きしたいです。 海の環境やマイクロプラスチックの問題対策について 海洋のプラスチック問題 外来種について、沢山の種類の生物をこの目で見ることができたり、危険性などをよりよく知れる機会があるとぜひ参加してみたいと思いました。 外来生物の種類、それらの及ぼす被害、対策等をより深くする事ができるセミナー等を開催していただきたいです。 学校現場で持続可能な社会を実現するために少しでもできること 個人でできる取り組みについて 国立公園の現状の動向と問題点のセミナー 今日は全体の概要を説明されたので、それぞれ優先順位をつけるなどして、重要なこと、日常生活に密着していることを切り出してより詳細に解説し、活動につなげるようにして活性化してほしい。 産業廃棄物処理やリサイクル等、対象を絞りその解説や動向を計画的にセミナーしていただきたい。 持続可能なライフスタイル、自然環境を維持するために何ができ変化しなければならないのか知りたい 色んなところでやって欲しい 生物的多様性 脱プラスチック 3R等の詳細等、 地域循環共生圏の事例報告 都市と周辺地域との連携事例 地球温暖化の知識習得。 地方創生とのコラボや行動変容への実践的な取り組みが必要だと感じています。是非そうした事例紹介のセミナーや意見交換会などを開催して頂きたいと思います。
230921 ネットワーク フォーラム	「お金・資産」の問題をもっと話し合いたかった！ 気候変動教育、ローカルとグローバルを結ぶ授業 今回の話題に上がった、教師の専門的能力の育成については興味があります。
231118 ESDダイ アログ	開催してほしいセミナーやフォーラムのテーマは「絶めつ危惧種など野生動物の生態とそれに関わる課題」などというテーマでセミナーやフォーラムを開催してほしい。 開催してほしいのは芸術などの有名な絵や文化などのセミナーを開催してほしい 森林鉄道は過去のものではなく、過去と未来をつなぐレールという言葉は非常によかったです。 地域おこしをテーマにしてみたいです。
230829 学び合 い①	ESDについて研究者、行政機関、企業、教員、学生参加によるセミナーやワークショップ 企業としてのESDへの取組み 気候変動対策における緩和策と適応策に関する評価手法の開発について 太陽光、風力発電等新エネルギーの製造～運用～廃棄にいたるまでのエネルギー収支 理系と文系の分断対策

230904 学び合 い②	ビジネスセクターにおける気候変動教育・ESDの取組み(考え方や実践例)
231125 実践セ ミナー	気候危機適応への対応として、自分の生活の中で、具体的に何をするかを決断し、実行するために必要なことをかかんがえられるような内容。

【末尾・自由記入欄の感想など】 ※原文のまま掲載。

240214 北 勢 フォー ラム	いろんな立場の方とお話するつながる機会になりました
	これからも活動に参加して、循環共生の活動が活性化すれば幸いです。
	ご準備運営お疲れ様でした！！すばらしい内容でした！！
	とても勉強になりました
	ワークショップの時間がもっとあればなー
	参加されていたみなさまの熱意を感じられる有意義な時間でした
231106 ロ ー カ ル SDGs セミナー	廃止統合の幼稚園を「地域共生型交流拠点」として活用することを行政と交渉力であり、大いに参考になった。
	ありがとうございました。数値として見ることが出来るツールがあることが知れて良かったです。上司への説明や困ったときのアイデアをいただくために活用させていただきます。
	楽しかったです。原先生の見える化シートの他の種類も紹介してほしいなあと思いました。皆さんに知ってほしい！！
	今後自治体のみでなく地域全体での機運醸成のために教えていただいたツールもしっかりと活用していきたいと思いました。
	少しかけ足でしたが、たくさんの情報を得られてよかったです。
大変有益でした。	
231219 信 州 の 森フォー ラム	そのまま活用とはいきませんが、面白い試みをしている人がいることが分かったことが収穫になりました。
	どうすることもできないと持ち主が思っている山々があります。よそ者に売りたいくない思いもあります。でも、同じような山でよくなった事例があれば、少しは考えようとしてくれるのだと思います。その最初の一步は、焦っても急いでもいけない。ディスカッションでもあった通り、まずは信頼してもらうことなのだと思います。楽しいフォーラムでした。ありがとうございました。
	自治体の脱炭素化計画策定の支援コンサルをしています。柱の一つが森林施策ですが、職員の方から「間伐するのが精いっぱい。主伐はできない」と聞いています。本日のお話を聞き、森林を一括りにせず、経営に適した森林をゾーニングして、施策に盛り込む必要があると分かりました。
	小職、工学エンジニア出身で農学・林業には馴染みがなかったが、現在、個人的興味・関心事は「森林の価値化資産化・都市農地の油田化創エネ」。自分の出来ることから始めるとして、政策・施策への織込み、進め方など機会あればご相談に伺いたく。よろしく願います。
	担当している業務とは関連もなく、過去にも携わった内容でも無く、直接的な感想は述べられないが、伊那市として50年の森ビジョンがある中で、考えさせられる内容でありました。
	本日のフォーラムを聴講し、信州地区の皆様強い熱意を感じました。ありがとうございました。私の住む新潟県では、休眠状態の生産森林組合も多く、適期を迎えた人工林も主伐をされないまま、放置琳となっています。地球温暖化が進行する中、二酸化炭素を多く排出する高齢琳が増え、新たな植林もされず増々 心配です。
	様々な事例や考えを聞くことができ、よかったです。また、自分の考えの答え合わせのような時間にもなりました。取り組みとして、何が出来るかまだわからないですが、地域にとってよい森づくりに貢献できるとよいと思います。
	里山の持続的な管理は、思った以上に課題が多いことに驚きました。
	里山の保全が大切だとは思いますが、個人的には関わっていない。関われる機会が欲しい。一方、今回はあまりふれなかったが、これから国・自治体とそれに倣った財産区や民有林で進めようとしている主伐・再造林方式は、メリットよりデメリットが大きいと思う。
	皆伐という言葉は使ってはいないが、伐採の面積が大きすぎるため、長期間裸地になり、土砂流出、下の水源に影響する。実際に財産区の下流の住民が心配している。また、人手不足のためと、作業の時期が春から夏のため、植林作業と数年間にわたる下草刈り作業、つまり再造林は実際上、不可能と言えるのではないかとこの話を林業従事者から聞いている。
手はかかっても、択伐方式にするのが、日本の豊かな自然を守ることになるのではないのでしょうか。経済よりも、森林の多面的機能を優先してほしいです。	
240213 中 部 カ ンファレ	アンモニアの情報について大変参考となりました
	オンライン視聴でしたが、音声が悪く聞き取りにくかったので、マイクの音声を直接配信するなどした方が良いと感じた。

<p>ンス</p>	<p>パネリストの方の企業名や個人の名前は正しく言うべきではないでしょうか。今回特に気になったのが日本郵船(にっぽんゆうせん)様のことを(にほんゆうせん)様と言っている方が多くみられました。特に司会の方は間違えてはいけないと思うのですが。現地で質問する方は仕方がないにしても司会の方やパネリストの方々の手元には企業名、個人の名前のふりがなをふった名簿リストを用意するのが良いと考えます。それが会場の壁にでも大きく印刷したふりがな入り名簿リストを貼っておくとか。間違えられた方はいい気がしないと思いますので。</p> <p>官民の実務者による講演は聞きごたえがありますね。</p> <p>環境省、経産省、国交省、地元の愛知県といった水素社会実装に関連する方々からの講演を聴講でき、とてもよかったです。リモート環境が良くなかったところはありましたが予定通りの時間で終了でき、事務局の方々にも感謝申し上げます。</p> <p>関係する機関・企業の情報が共有される機会は非常に貴重で継続すると良いと思います</p> <p>貴重な機会を提供いただきましてありがとうございました。水素・アンモニアの拡大・実装に向けて、取り組んでいきたいと思っておりますし、また官民の連携が必要不可欠と考えていますので引き続きこのような機会をご検討いただければと思います。</p> <p>国や企業の取り組み内容について、現在の情報を聞くことができて良かった。</p> <p>参加して非常に良かったです。水素の話をもとに参加しましたが、アンモニアの取組み推進が理解でき新たな気付きとなりました。ありがとうございました。</p> <p>参加する機会があって良かったと思います。</p> <p>上に書かせていただきました。</p> <p>水素・アンモニアの導入に関しての理解が深まりました。</p> <p>水素やアンモニア等の実装が着実に進んでいると感じました。</p> <p>登壇者の顔ぶれが的確。今後、低炭素/脱炭素燃料の利用者・需要家の取組も聞いてみたい。</p> <p>当社で取組む脱炭素事業を進める上で、今後は個別にコンタクトし相談させて頂きたいと存じます。</p> <p>日本の中での水素・アンモニアが重視されていることが理解できた</p> <p>良かった</p>
<p>230701 白書を読む会</p>	<p>「温室効果ガスの排出は全体の約6割が家計によるものでありカーボンニュートラル達成のためには、今までの慣れ親しんだライフスタイルを変える必要がある」という考え方は本当に大事で、今後の人間の課題であると思った。誰もが今日から始められる対策としては、節電をすることであると思う。例えば、テレビをつけっぱなしにしない、お風呂でシャワーを出しっぱなしにしないなどがあげられる。こういったことを一人一人が少しずつでも気をつけることが、生物の生きる時間を少しでも長くし、未来を大きく変えていくことに繋がるので、今すぐ実行していくことが大切だと思う。今すぐにはなくても変えていけるとよい対策は、ガソリン車に乗るのをやめて、プラグインハイブリッド車や燃料電池自動車などの電動自動車へと変えていくことが大切だと思う。車は今すぐに変えることができないので明日からは難しいかもしれないが、数十年後の未来には電動自動車が当たり前になっている世界になってほしいと思う。</p> <p>また、線形経済から循環経済への移行についての話で、ファッションの大量廃棄についてがあげられたことが強く印象に残っている。現代は多くのファッションが流行っており、服を買う人も多くなっているなかで、大量廃棄の問題があげられることにはとても納得した。最近よく言われる「サステナブル・ファッション」の実現について調べたとき、長く着られる仕組みづくりをしていることがわかった。それを見て、ファッション関連企業だけでなく、買う側も長く着ていくことを意識していくことが「サステナブル・ファッション」の実現に近づいていく方法ではないかと思う。</p> <p>ESDの授業を学んでいることで、生物多様性について、よく知ることができた。</p> <p>PDFで見ただけでは分かりずらかった環境白書をわかりやすく説明しながら解説していただけてよかったですと思いました。</p> <p>ZOOM環境で、チャット機能を使用して質問をできなかったのが残念です。また、質疑応答時間を余裕を持たせてほしい</p> <p>ありがとうございました</p> <p>こういった環境についてのイベントに参加するのは初めてです。授業で習ったことや知らなかったことなどの発見が見られて面白かったです。</p> <p>このような取り組みがあるのを、今年初めて知りました。環境省で気候変動探偵局 生き物大移住計画を調査せよ！中部7県広域ミッション2023というのも行われているようなのも今年知りました。地球温暖化防止活動推進員として、環境省様の動きを子供たちや地域の人たちに知ってもらうためにもっと知らねばと思っています。</p> <p>これら全てを自分なりに理解することは非常に難しい課題が多いと感じた。</p> <p>コンパクトに白書がまとめられていて、飽きずに聞けるのが良かった</p> <p>すごく良い経験になりました。</p> <p>ためになった</p> <p>ためになりました</p> <p>ちょっと難しかったけど、地球のためになるなおもえる講義がった</p> <p>とてもわかりやすく細かい説明です理解できた。</p> <p>とてもわかりやすく、勉強になりました。これからの活動に活かしていきたいと思っております。</p> <p>とても面白い内容だった。</p> <p>ネイチャーポジティブ経済移行戦略の公表を楽しみにしています。</p>

ヒアリについて最近ニュースになっていなかったが定着寸前になっているのには驚いた
ユーチューブでも公開しているとのことで、後日一定時間でよいから再録してほしい
愛知県の「観光まちづくり」でSDGsな旅がテーマになってます。本日の白書を参考にどんな事ができるのか、企画を完成させたいと考えてます。
遠くにあった環境白書が、身近になる機会を作っていただき感謝します。
何も知らなかった基盤に芽が生えたような気持ちです。そこからどんどの知識を大学生活の中で蓄えていきたいと思えます
各白書のエッセンスを知ることができました。ありがとうございました。
環境について深く考えたことがなかったので、様々な活動を知ることができてよかった。
環境再生・資源循環局の大井様の説明が大変分かりやすかったです。理解を深めるため、今後も知識習得に励みたいと思いました。また、個人で意識して取り組める3Rについては、徹底して取り組んで参ります。本日は誠にありがとうございました。
環境省が生物多様性も共生のことについてちゃんと考えていてすごいと思った。大雨や熱中症など地球温暖化が原因でいろんなことが起こってしまっている中でなんとかその気候変化を遅らせられないかと考えているのはとてもすごいと思った。
環境省の方からお話を聞ける機会がなかなかなく自分自身を成長できる知識があったのでとても貴重な体験をさせていただいたと思いました。
環境白書について少し理解することが出来て良かった。
環境白書について詳しく学ぶことが出来て良かったです。環境問題についてはまだまだたくさんの課題があることがわかったので問題を解決していけるように努力していきたいです
環境保全のために様々な取り組みが行われていると知れて楽しかった
貴重なお話をありがとうございました。
知らないお話が多く少し混乱してしまったりもりましたが、現状何をすればいいのが見えてきました。
貴重な機会を設けて頂きまして有り難うございました。資料などを順番に読み上げるのも大事ですが、もう少し各シートで一番言いたい事などを強調して頂けると、さらに良かったかもしれません。生意気な意見で申し訳ございません。感謝です。
貴重な時間をありがとうございました。
教科書などではない内容を聞いて尚且つ質問をする場を設けていて貴重な1時間になりました。また私は質問をできなかったのでまだ知識不足だなと感じる会になりました。
現在や、未来の国の取り組みが良くわかって有意義だった。
言葉が難しいことが多かったのもっと噛み砕いた説明だったら誰しもが理解しやすいと思った。
高校の時クリエイト部に参加していたので自然環境に興味があったので色々しれてよかった。
国内の環境の現状、課題、対策、それらを通した未来の目標を細かく知ることが出来ました。より環境について調べ、個人でできる環境課題への対策をしていきたいと思われました。
今まで聞いた事ない内容を聞く事ができてとても良かったです。
今回は満足のいく形での参加ではなかった為また機会があれば、参加してみたいと感じた。
今後もこの様な企画お願い致します。
今後もこの様な企画をお願い致します。
私は地球環境、特に地球温暖化に興味があるので、とても面白かったです。
お父さんも興味あるので家帰ったからお話しました！！貴重な経験をありがとうございました。
自分ではわからない内容を沢山学べ、普段調べないような細やかなことを知れてよかった。
自分の興味ある分野の深いところまで学べた。
自分の視野では見られなかった観点からSDGIについてしることができて良かったです。ありがとうございました。
自分の知らなかった事を知れていい経験を学校でしてもらえました。
自分の調べた事では知らない事が今回の担当者の方々から詳しく聞けたよい機会だと思いました。
質問に対する回答が抽象的と感じた。具体的事例で返答された方が良い。
少ない時間ながら、全体を俯瞰できました。大変ありがとうございました。質問もさせて頂きましたが、都市部への野生動物侵入などのアーバン・アニマル問題は深刻な状況にあり、それが生物多様性保全に対してのネガティブな要因にならないよう、施策が必要ではないかと考えております。また、本来の保全が活動は自然に対して積極的に人の手が入ることを想定しているため、野生動物の行動も変わる可能性があります。そうした方面での科学的知見の集積も急務であると感じております。今後の動向を注視して参りたいと思えます。
凄く新たな発見が多かったです。ためになる貴重な時間をありがとうございました。
大学の講義だけでは分からなかったことが環境白書執筆に携わった方から詳しいお話を伺うことができてよかった
知らないことが多く、授業で習っているものはもんの一部に過ぎなかったんだと感じました。
内容がまだ理解しきれずで自分の知識が足りないと感じました。
内容が豊富なため開催時間を長くしていただければと思います。
日常的に聞くことができないような単語や情報を聞いて難しいなと感じましたがとても有意義な情報を聞けたりできたのでとてもためになりました。

	<p>年々、地球温暖化や気候変動が増加しているように感じる。それにより、各地域で雨による災害が多くなっていると思う。どうしたら地球温暖化などを改善していけるかを考えていきたい。</p> <p>白書を読む会は、pdfに書いてあることのみでの説明で補足や具体例などがほとんど無いような状態だったのでわかりづらく、想像しづらかった</p> <p>普通に過ごしていたらあまりみる機会のないものをわかりやすく説明していただきありがとうございました。</p> <p>分かりやすい説明でありがたかった</p> <p>勉強不足な部分が多々あったので、今回の資料にもう一度目を通し復習しつつ、環境について考えていきたいとします。ありがとうございました。</p> <p>本日の会において、普段あまり聞くことの無いバイオマスにおいても目標が掲げられており、国に頼りきりではなく、私たちの日常生活も環境に適応した生活にする必要があるのだなと感じました。</p> <p>本日はありがとうございました。</p> <p>思っていたより地球温暖化が深刻なことがわかりました。いずれみんなで一丸となって地球温暖化を止められたらなと思いました。</p> <p>本日は貴重なお話をしていただきありがとうございました。環境に対する新たな取り組みを知ることができ、非常に有意義な時間となりました。</p>
230921 ESD ネットワーク フォーラム	<p>ESDについて多方面からの発表があり、とても勉強になりました。ありがとうございました。</p> <p>ありがとうございました。どこの学校でも総合的な学習は実践しているのに、なぜESDが広まらないかということについては、私も疑問に感じているところでした。教員の異動による取組の衰えということも話題に上がっていましたが、取組だけではなく、教員の異動のたびにESDの考え方から始めなくてはならないジレンマを感じています。</p> <p>クラウドファンディング、興味高めました。SDGs・ESDについてもっと学ばなければ…VS働き方改革 行政・現場・企業など今後よりよい社会になるために意見を交わし話を聞くのはたのしかったです。</p> <p>各講師からのお話は想像以上の素晴らしい取り組みが紹介され大変良かったと思います。</p> <p>学校・行政・企業等がつながっていくことでESDをより深く広く推進していけると感じました。たくさんつながりをもって現場での活動を支援していきたいと思いました。ありがとうございました。</p> <p>学校だけでなく、地域の団体や企業の取組も知ることができてよかったです。</p> <p>学校に対して学習材やコンテンツを提供する団体側の交流という観点で、期待される効果があったと思います。後は文科省側の参加もあれば、より議論が深まるかと思っています。</p> <p>九州地方との共通の課題感覚が多数あることがわかり、意見交換のパートでも同様の感覚を持ちました。地域の実践者の皆様のご活躍を祈念いたします。</p> <p>生徒・子どもの主体性を活かしてSDGsを自分事にして、地域の人たちを巻き込んだ実践例・事例の紹介が感銘しました。特に企業の実践は目を見張るものでした。最後の拠点での話し合いがみなさんの本音も出て内容が濃く面白く思いました。拠点でない外部の人の意見が新鮮で内部の人の意識が変わることがあるように思えた。</p> <p>本音トークの時間の設定が良かった。</p> <p>これからに有効に必要な学術的な知見が浮かびあがる工夫</p>
231118 ESDダイ アログ	<p>ESDはいままで聞いたこともない単語だったけど今回の講演でSDGsとはまた違う重要性やそのESDや自分たちの地域と自然との向き合い方を他人事ではなく自分事として学べることが良かったです。他にも私がまだ知らない遠山郷エコジオパークフィールドスタジアムの魅力や身近であまりわかっていたジオパークや他県・周りのジオパークのおもしろさを知れてとても有意義な時間になりました。この講演を通して知ってそうで知らなかった長谷の地域的な重要性や大鹿村の大鹿歌舞伎など地域の人々が一丸となって盛り上げていく心にこの話がたくさんありました。ありがとうございました。</p> <p>たくさんの地域の事例を知れて有意義な時間だった</p> <p>遠山郷エコジオパークフィールドスタジアムでは天文学の「隕石は宇宙からの手紙」というのがすごくきになるのでこういうのにも積極的に参加したいです。あと中学3年生のやっていたかぶきのようなものは私すきなつづけてほしいと思いました。</p> <p>今日色々な人の発表を聞いて色々な事を知れて良かったです。僕たちの発表はとうがらしのことを話しましたが緊張しなくても気軽に発表できてとてもうれしく思います。</p> <p>自分はジオパークは意識したことがなかったので、これから意識していきたいです。活動報告では地域によっていろいろな文化があり、文化で地域を盛り上げるとことは参考になりました。南アルプスの山はたくさんの山があり、山を守るための活動を大切にしていることが分かりやすかったです。</p> <p>自分自身ずっと長野県に住んでいるのですが、全然知らなかった事や長野県がこんなにSDGsに取り組んでいることを知りました。まだまだ知らないことがたくさんあると思うので、どんどんこのような会に参加していこうと思いました。</p> <p>色々な方々の発表を聞いて新たな考えを感じられました。</p> <p>中学生や大学生の取り組みとその成果の報告にたいへん感動した。</p>
230829 学 び 合 い①	<p>お二方からの現在進行形の知見をいただき、刺激と学びの機会を得ることができました。</p> <p>開催前に先生の発表資料を公開していただけたらと、内容をより理解しやすいと思います。</p> <p>合意形成は大変な事を改めて認識した</p> <p>若手にフロントランナーになりたいと考えている人が見あたらないのが心配</p>

	初めて気候変動教育という言葉を知ることになりました。内容が気候変動問題に留まらない、社会課題あるいはSDGsそのものであると認識しました。そういう意味でチャットで気候変動教育の名称が適切かと投稿しました。無知な者が勝手なことを言ってしまったのですが、社会に広まっていくにはネーミングも大切だと思います。講演終了後に佐藤先生座長の資料を勉強させていただきました。
	理論的な背景をたくさんお話いただき、実践の参考になりました。情報量が多かったので、後程いただいた資料も参照しながらふりかえりたいと思います。
	話にしっかりついて行けず、消化しきれっていません。特に佐藤先生は早口だったので。
230904 学び合 い②	今回の気候変動だけに限らず、学校教育が社会に開かれて連動していける場となり未来を語りあえると素晴らしいことが伝わり希望が持てました。(元教員)
	今回初めてこのプログラムに参加しました。 私は子どもが自分らしく豊かに育つことを目的にNPO活動をしており、子ども達が住むまちや環境についても大切に考えています。それを子どもと話せる時間があるといいなとも考えております。実践編でとても有意義なお話でした。感謝申し上げます。

《参考》回答者の属性の集計結果

		●年齢 ※一部催事で設問設定なし								
		10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	設問なし※	不明
EPO 業務	240214北勢フォーラム (n=33)	1	3	1	7	6	8	5		2
	231106ローカルSDGsセミ ナー(n=11)	0	3	2	5	1	0	0		0
	231219信州の森フォー ム(n=16)	0	2	0	6	3	3	2		0
	240213中部カンファレン ス(n=40)	0	3	8	8	16	4	1		0
	230701白書を読む会 (n=105)	0	0	0	0	0	0	0	105	0
ESD 業務	230921NWフォーラム (n=10)	0	0	0	0	0	0	0	10	0
	231118ESDダイアログ (n=16)	6	2	0	1	2	2	2		1
	230829学び合い① (n=11)	0	0	1	2	3	2	2		1
	230904学び合い② (n=6)	0	0	0	0	3	2	1		0
	231125実践セミナー (n=4)	0	0	1	0	1	1	1		0
EPO業務・計(n=100)		1	11	11	26	26	15	8		2
ESD業務・計(n=37)		6	2	2	3	9	7	6		2
全体(n=137)		7	13	13	29	35	22	14		4

		●所属先 ※一部催事で設問設定なし							設問なし※	不明
		NPO・NGO・ 任意団体	企業・事業 者	行政機関	学校・教育 関係	学生	その他			
EPO 業務	240214北勢フォーラム (n=33)	7	7	6	0	1	10		2	
	231106ローカルSDGsセミ ナー(n=11)	0	0	11	0	0	0		0	
	231219信州の森フォー ム(n=16)	2	5	6	1	0	2		0	
	240213中部カンファレン ス(n=40)	1	29	6	0	2	1		1	
	230701白書を読む会 (n=105)	0	0	0	0	0	0	105	0	
ESD 業務	230921NWフォーラム (n=10)	0	0	0	0	0	0	10	0	
	231118ESDダイアログ (n=16)	1	1	4	1	7	2		0	
	230829学び合い① (n=11)	1	3	0	2	0	4		1	
	230904学び合い② (n=6)	2	1	1	0	0	2		0	
	231125実践セミナー (n=4)	0	0	0	2	0	2		0	
EPO業務・計(n=100)		10	41	29	1	3	13		3	
ESD業務・計(n=37)		4	5	5	5	7	10		1	
全体(n=137)		14	46	34	6	10	23		4	

		●活動分野のSDGs ※一部催事で設問設定なし									
		1. 貧困をなくそう	2. 飢餓をゼロに	3. すべての人に健康と福祉を	4. 質の高い教育をみんなに	5. ジェンダー平等を実現しよう	6. 安全な水とトイレを世界中に	7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに	8. 働きがいも経済成長も	9. 産業と技術革新の基礎をつくろう	10. 人や国の不平等をなくそう
EPO 業務	240214北勢フォーラム (n=33)	4	2	4	6	5	4	7	5	5	8
	231106ローカルSDGsセミナー (n=11)	4	4	5	6	4	4	8	5	5	5
	231219信州の森フォーラム (n=16)	0	1	4	2	2	3	9	4	3	3
	240213中部カンファレンス (n=40)	2	0	2	3	5	5	26	11	13	3
	230701白書を読む会 (n=105)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ESD 業務	230921NWフォーラム (n=10)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	231118ESDダイアログ (n=16)	0	0	1	4	0	1	0	0	0	1
	230829学び合い① (n=11)	0	0	3	6	0	1	5	0	2	0
	230904学び合い② (n=6)	0	2	2	3	3	0	3	1	1	1
	231125実践セミナー (n=4)	1	0	1	2	1	0	1	1	0	1
EPO業務・計(n=100)		10	7	15	17	16	16	50	25	26	19
ESD業務・計(n=37)		1	2	7	15	4	2	9	2	3	3
全体(n=137)		11	9	22	32	20	18	59	27	29	22

		11. 住み続けられるまちづくりを	12. つくる責任、つかう責任	13. 気候変動に具体的な対策を	14. 海の豊かさを守ろう	15. 陸の豊かさを守ろう	16. 平和を公正をすべての人に	17. パートナーシップで目標を達成しよう	設問なし※	無回答
EPO 業務	240214北勢フォーラム (n=33)	12	8	13	12	10	3	10	11	
	231106ローカルSDGsセミナー (n=11)	8	8	9	6	8	4	7	1	
	231219信州の森フォーラム (n=16)	10	2	10	5	10	2	4	0	
	240213中部カンファレンス (n=40)	10	9	26	17	13	1	7	3	
	230701白書を読む会 (n=105)	0	0	0	0	0	0	0	105	0
ESD 業務	230921NWフォーラム (n=10)	0	0	0	0	0	0	0	10	0
	231118ESDダイアログ (n=16)	8	5	5	2	7	0	2	4	
	230829学び合い① (n=11)	4	5	6	4	5	0	4	1	
	230904学び合い② (n=6)	2	4	3	4	4	2	3	0	
	231125実践セミナー (n=4)	2	1	2	0	0	0	1	1	
EPO業務・計(n=100)		40	27	58	40	41	10	28	15	
ESD業務・計(n=37)		16	15	16	10	16	2	10	6	
全体(n=137)		56	42	74	50	57	12	38	21	

令和5（2023）年度
中部環境パートナーシップオフィス運営業務
年間報告書

2024年3月

発行：環境省中部地方環境事務所

〒460-0001 名古屋市中区三の丸 2-5-2
TEL：052-955-2134／FAX：052-951-8889
URL：<http://chubu.env.go.jp>

作成：中部環境パートナーシップオフィス

（運営受託：一般社団法人環境創造研究センター）

〒460-0003 名古屋市中区錦 2-4-3 錦パークビル 4階
TEL：052-218-8605／FAX：052-218-8606
URL：<http://www.epo-chubu.jp>

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準に従い、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料 [Aランク] のみを用いて作製しています。